

9509 | space
Design

スペースデザイン ISSN 0563-0991
第372号 1995年9月1日発行
毎月1回1日発行
昭和40年2月5日 第三種郵便物許可

SD

丹下健三
Kenzo Tange Associates



Monthly Journal of Art and Architecture

KANDENKO



快適な環境をお届けするのも
—— 関電工の技術です。

個別のビル・工場・住宅の空調から地域冷暖房まで



生活の場、生産の場、ビジネスの場、憩いの場…
…。人々の営みの場で、いま求められているのが、
省エネルギー、省資源を追求した快適環境です。
その施設の構築とメンテナンスで関電工の技術が
活躍しています。割安な夜間電力や都市廃熱・河
川水等を利用した「蓄熱式ヒートポンプシステム」、
発電の際に発生するエネルギーを有効利用する
「コージェネレーションシステム」、複数の建物のエ
ネルギーを集中的に取り扱う「地域冷暖房システ
ム」などの技術で、関電工はお客様に経済的で快
適な環境の場をお届けしています。

 **関電工**

お問い合わせは/環境設備部

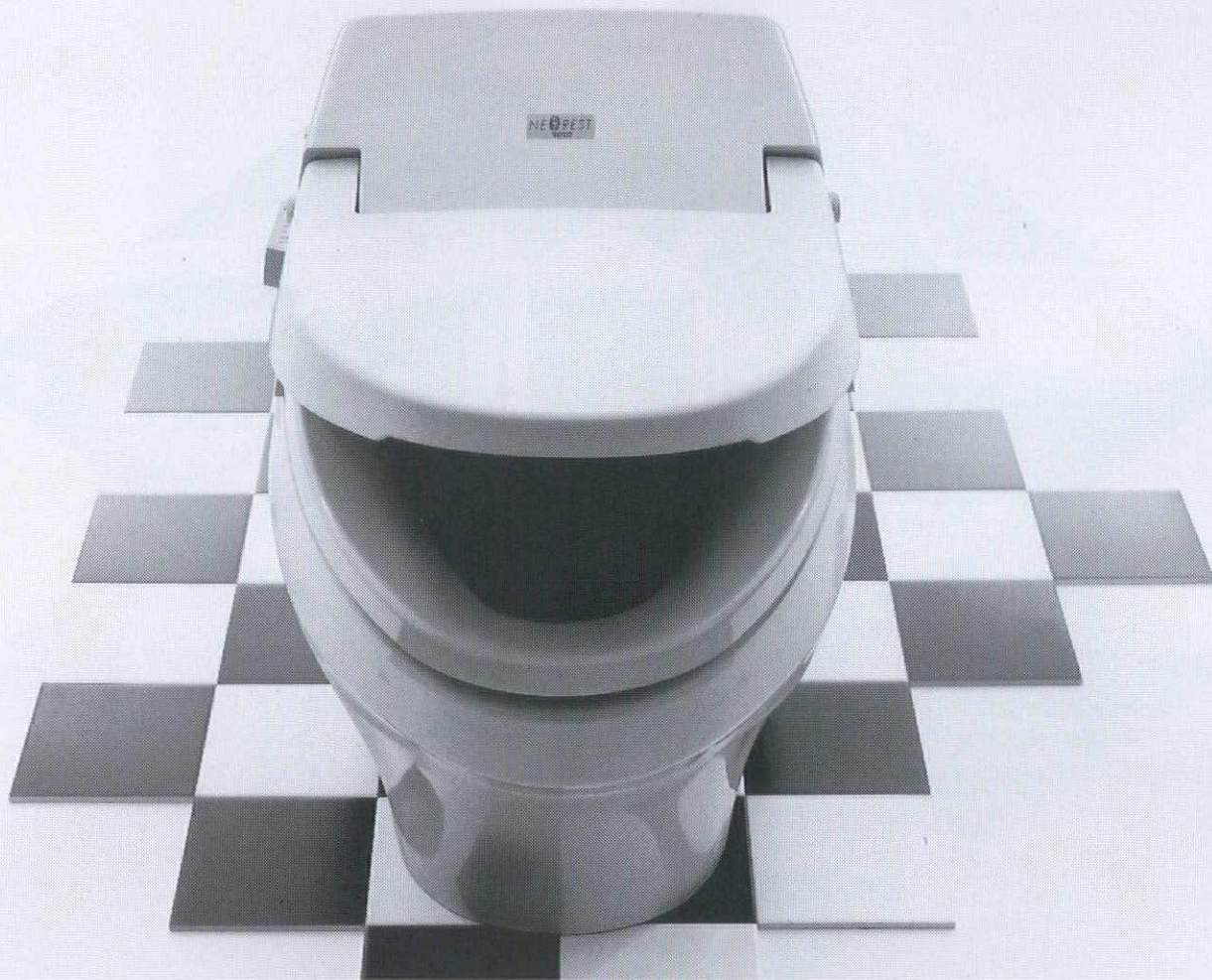
本社：〒108 東京都港区芝浦4丁目8番33号

☎：NTT 03(5476)2111 TTNNet (4431)2111

TOTO

「一等賞の便器」

と注文されたら、わたしたちTOTOの中では、このネオレストEXをおすすめします。



一等賞の理由

- ①タンクのいない水道直結タンクレス便器。
「新洗浄方式(シーケンシャルバルブ方式)」の開発で、水道管と便器を直接つなげることに成功。タンクに水を貯める必要がないので連続して流せるうえに、給水管もなく静か。1度に使う水の量も、40%程節水できます。
- ②トイレ空間を広く使えるローシルエット便器。
タンクがない分、トイレはスッキリ。収納や窓が広く、大きく、タップリととれる訳です。
- ③使い勝手がとてもいい多機能一体型便器。
ウォシュレット機能をはじめ、オゾン脱臭や室内暖房機能も装備。操作はじつに簡単です。

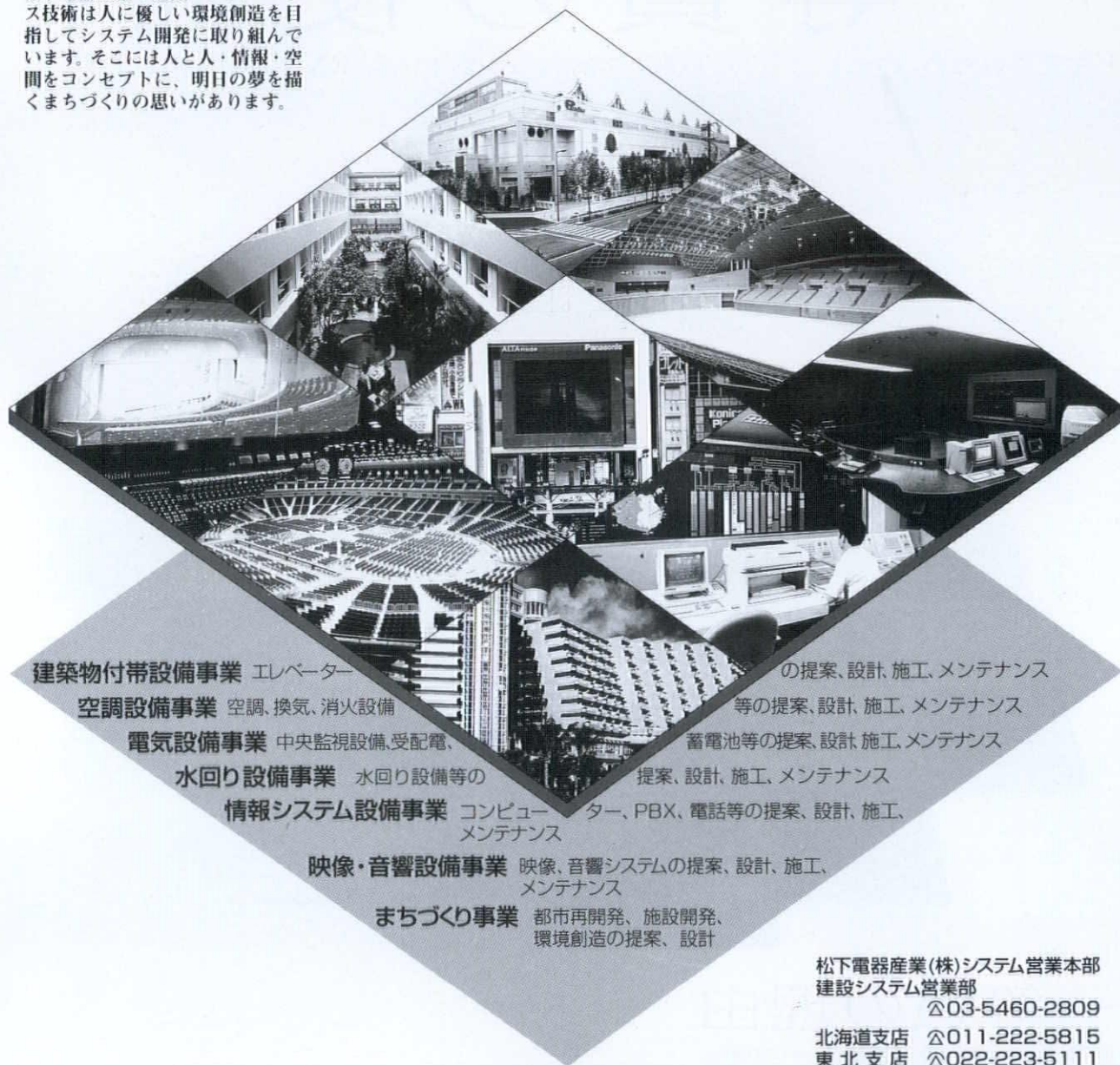
※カタログご希望の方は、〒107 東京都港区赤坂7-3-37 東陶機器株式会社 広告宣伝部「EX-1」係まで住所・氏名・電話番号を記入の上ご請求下さい。

NEOREST
(ネオレストEX)

National/Panasonic

私たちは快適をシステムにしてお届けします。

松下電器産業の建設エレクトロニクス技術は人に優しい環境創造を目指してシステム開発に取り組んでいます。そこには人と人・情報・空間をコンセプトに、明日の夢を描くまちづくりの思いがあります。



建築物付帯設備事業 エレベーター

空調設備事業 空調、換気、消火設備

電気設備事業 中央監視設備、受配電、

水回り設備事業 水回り設備等の

情報システム設備事業 コンピューター、PBX、電話等の提案、設計、施工、メンテナンス

映像・音響設備事業 映像、音響システムの提案、設計、施工、メンテナンス

まちづくり事業 都市再開発、施設開発、環境創造の提案、設計

の提案、設計、施工、メンテナンス

等の提案、設計、施工、メンテナンス

蓄電池等の提案、設計、施工、メンテナンス

提案、設計、施工、メンテナンス

松下電器産業(株)システム営業本部
建設システム営業部

☎03-5460-2809

北海道支店 ☎011-222-5815

東北支店 ☎022-223-5111

首都圏建設システム支店 ☎03-3436-5045

神奈川支店 ☎045-682-3701

中部支店 ☎052-951-6010

関西支店 ☎06-949-2251

中国支店 ☎082-247-5272

四国支店 ☎0678-21-3133

九州支店 ☎092-431-1100

沖縄支店 ☎0988-53-2826

FLAPS、羽ばたくという意味をもつ新キーワード「AV & CC FLAPS」は映像・音響・情報通信システム・食品流通・照明・空調・水管理・搬送とさまざまな設備システムの融合により真の快適環境を求め夢の実現へと願いをこめて事業展開を進めていきます。



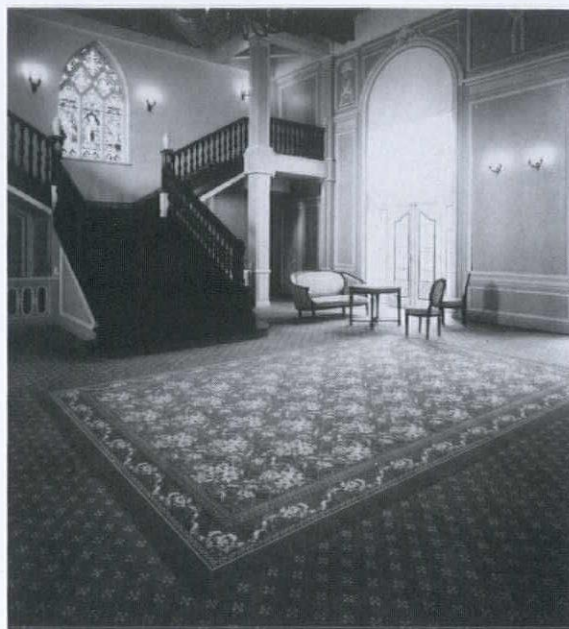
AV & CC FLAPS

AUDIO VISUAL COMMUNICATION COMPUTER FOOD LIGHT AIR&AQUA PASSAGE SOFTWARE&SYSTEM

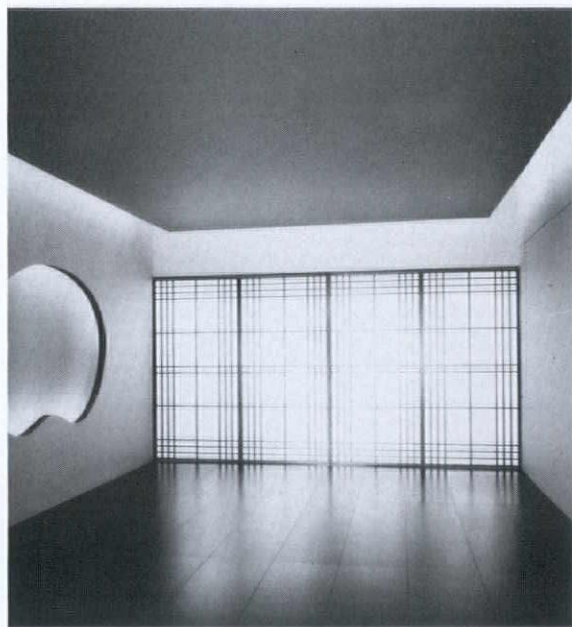
インテリアをトータルに提案する。



タイルカーペット (GA100)



カーペット ハルザールW



壁装材 茶美会コレクション (WM1331・32・34)



カーテン ビューコレクション (KT3007)



東リ株式会社

■東日本営業開発部 〒105 東京都港区虎ノ門1-13-3 虎ノ門東洋共同ビル TEL.03(3503)6961
 ■東京ショールーム 〒141 東京都品川区東五反田5-25-19 東京デザインセンター4F TEL.03(5421)3711



新宿パークタワー(東京都) 東京ガス都市開発 設計:丹下健三・都市・建築設計研究所 施工:鹿島(JV)



今日もどこかで
あなたとふれ合っています。

カ 鹿島

KAJIMA CORPORATION

本社：〒107 東京都港区元赤坂1-2-7

四季宴会

KARUIZAWA
MEETING
& PARTY



軽井沢
ホテル鹿島/森
ホテルオークラチェーン

ご予約お問い合わせ:
ホテル鹿島/森予約係
☎03(3478)6220
現地☎0267(42)3535(代)
FAX:0267(42)5335

大興物産の海外建材シリーズ

No.4 ガラス



埼玉・バイオニア鶴ヶ島総合研究所

大興物産では、米国・ガーティアン社の製品をはじめガラスの国際調達を推進しています。

この製品のお問い合わせは、大興物産株式会社・海外建材事業本部へどうぞ
〒107 東京都港区元赤坂1-3-4 TEL.03-3423-2511 FAX.03-5474-6386

建設資機材の総合商社

鹿島グループ

大興物産株式会社

本店 〒107 東京都港区元赤坂1-6-4 安全ビル

本店 ☎(03)3423-2511 FAX(03)5474-6076
東京支店 ☎(03)3423-2511 FAX(03)3423-1915
横浜支店 ☎(045)212-3925 FAX(045)212-3996
名古屋支店 ☎(052)961-6171 FAX(052)961-6179
大阪支店 ☎(06) 762-5661 FAX(06) 762-1074

札幌営業所 ☎(011)231-6841 FAX(011)222-4074
東北営業所 ☎(022)219-6861 FAX(022)219-6867
関東営業所 ☎(048)668-0861 FAX(048)668-0863
関東営業所 ☎(03)5632-6717 FAX(03)5632-6719
(東京事務所)

北陸営業所 ☎(025)247-2286 FAX(025)243-5248
広島営業所 ☎(082)249-9221 FAX(082)249-9270
四国営業所 ☎(0878)39-3191 FAX(0878)35-4722
九州営業所 ☎(092)441-2624 FAX(092)471-7996
シンガポール支店 ☎65-3440590 FAX65-3446714



ロビーラウンジ

ようこそ、クラシカル・エレガントな世界へ。

19世紀初頭のヨーロッパ様式で統一された本格的都市型ホテル。

すべてのファシリティに調度品に、そしてきめ細やかなおもてなしに漂う欧州の美意識。

ドアマンに迎えられホテルに一步脚を踏み込めば、
あなたの新しい物語がはじまります。

(客室&施設)

●ビジネス向き、女性向き、観光、ファミリー、個人滞在用と、目的に応じて選べる全404室。
(シングル¥15,000～ ツイン¥25,000～) ●ジャグジー、ヒーティングルームなどを付帯した
2,000㎡の“ガーデンパール”。●クラシカルなインテリアや絵画で統一された趣のあるロビー。
●個性的なステンドグラス、パイプオルガンを配したチャペル(3F)。ガーデンパールの一角
に設けられたガーデンチャペル(5F屋外)。厳肅な神殿(八幡殿=やひろでん)(3F)。●最
大800名様まで可能な大宴会場(永代)。中、小、さまざまな8つの宴会場。●最新設備を完
備したビジネスセンター。●心身の健康管理と増進、心の交流を目的とした新しいタイプの
ヘルスクラブ“ジ・イースト”。●都内初のホテル直結型多目的ホール“イースト21ホール”。

(レストラン&バー)

●フランス料理を主としたコンチネンタル料理……………【プラスリー ハーモニー(2F)】
●本格的広東料理……………【中国料理 桃園(2F)】
●アフリカンムードのメインバー……………【バー エレファント(2F)】
●旬の素材が織りなす食の芸術……………【日本料理 さざんか(21F)】
●四季折々の味覚…【鉄板焼 木場(21F)】●心に残る夜景…【カクテルラウンジ パノラマ(21F)】



大宴会場 永代



地下鉄東西線「東陽町駅」より徒歩7分。
東陽町駅～ホテル間、ホテル専用シャトルバス運行。

株式会社 鹿島ホテルエンタプライズ
KAJIMA HOTEL ENTERPRISES, LTD.

ホテル イースト21東京

〒135 東京都江東区東陽6-3-3
TEL 03(5683)5683(代) FAX 03(5683)5775



Technology & Craftsmanship

人と空間とのコミュニケーション。

〈田島〉は、創業以来75年。日本の建築金属製品の先駆として、数かずの建築に歴史を刻みつけてまいりました。カーテンウォールからインテリアまで建築の各分野で有用な金属製品。そして、モニュメントやレリーフなど建築を取りまく環境造形など。いつの時代にも、時代のテクノロジーを先取りして、高品質の製品をお届けしております。



新宿パークタワー
エントランス

タジマロンドアオート(特注):ステンレスヘアライン仕上



新宿パークタワー
インテリア

IFアルミ丸柱・腰パネル:アルミ発色、一部塗装仕上 手摺:ステンレスヘアライン仕上

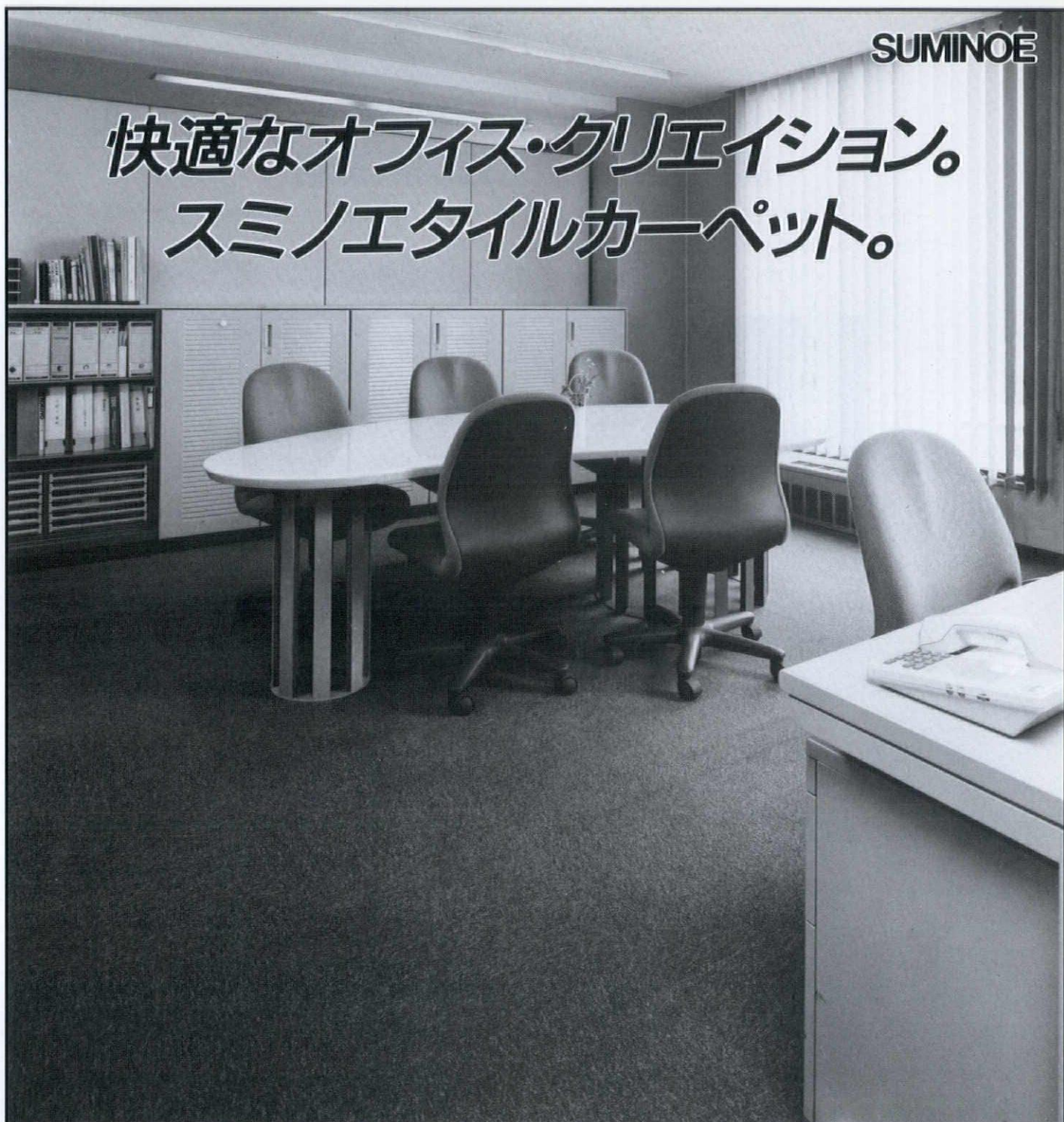
Curtain Wall
Entrance
Ceiling & Interior Metals
Grillwork & Railing
Ornamental Metal
Artwork

株式会社 田島順三製作所

本社 〒100 東京都千代田区永田町2-14-3 赤坂東急ビル ☎(03)3581-6296

●東京(03)3581-6291 ●大阪(06)203-4151 ●仙台(022)225-5844 ●横浜(045)212-3281 ●名古屋(052)571-5231 ●福岡(092)771-7461 ●四国(0878)62-9541 ●神戸(078)321-2561 ●デザイン室(03)5689-0878
●特販事業部(03)3260-9021 ●海外部(03)3580-0021 ●大阪南港ショールーム(06)615-5246 ●海外事業所:ロサンゼルス・タイペイ・ホンコン・シンガポール・クアラルンプール・マニラ・ソウル

快適なオフィス・クリエイション。 スミノエタイルカーペット。



シーザー LP-2000

- 3色ヘザー糸使用 ●特殊3層構造
- ダブル防汚加工 ●ワイドな使用範囲

組成 ●ナイロン(BCF)100% バイル長 ●3%(レベルループ)
全厚 ●6.5% 色数 ●33色 寸法 ●50cm×50cm
価格 ●¥8,200/㎡(税抜き) 防炎・防汚・制電

スミトロン80

- 優れた防汚性能を発揮します。
- 染色堅牢度は抜群です。
- 36色の豊富なカラーを取り揃えております。

組成 ●ポリエステル(スミトロン)100% バイル長 ●3%(レベルループ)
全厚 ●6.5% 色数 ●36色 寸法 ●50cm×50cm
価格 ●¥6,200/㎡(税抜き) 防炎・防汚・制電



スミノエ  ゆたかなインテリアライフをお届けする信頼のブランド

住江織物株式会社

東京支店 東京都港区三田3-13-16第43森ビル8F TEL.03(3456)1175

■本社 / 大阪市中央区南船場3-11-20 TEL.06(251)0698 ■大阪支店 / 大阪市中央区南船場3-11-20 TEL.06(251)0082
■営業所 / 札幌 / 仙台 / 新潟 / 大宮 / 千葉 / 多摩 / 横浜 / 長野 / 静岡 / 金沢 / 名古屋 / 京都 / 神戸 / 岡山 / 広島 / 松山 / 福岡 ■連絡所 / 盛岡 / 茨城 / 高崎 / 三島 / 鹿児島



日本アス仕様

カスタムEE

ベストロン

NS防水

防水仕様をすべて濃縮!!

それぞれの味を生かし

メルタン21

NPシート

カナート



総合防水メーカー

日新工業株式会社

営業本部 103/東京都中央区日本橋久松町9-2 ☎03(5644)7211(代表)

東京 ☎03(5644)7221 (代表)	福井 ☎092(451)1095 (代表)
千葉 ☎043(245)0201 (代表)	札幌 ☎011(281)6328 (代表)
横浜 ☎045(316)7885 (代表)	仙台 ☎022(263)0315 (代表)
大阪 ☎048(642)5811 (代表)	神奈川 ☎082(294)6006 (代表)
名古屋 ☎06 (533)3191 (代表)	新潟 ☎0878(34)0336 (代表)
福岡 ☎052(933)4761 (代表)	金沢 ☎0762(22)3321 (代表)

広告についてのお問合せの際は<SDを見て>と御明記願います

● ホール設計に生きるシャッターの開閉技術 ●

シャッターを製造し40年。シャッターのもつ特性と技術は、ジャンルを超えた新しい分野でも活用されています。文化シャッターの〈動かす〉ための技術開発が、ホール設計に生かされたオリジナル設計施工の一端をご紹介します。

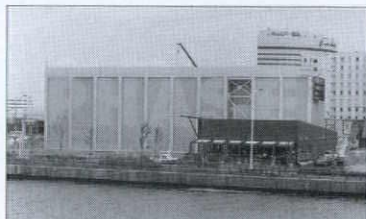
● 残響可変装置



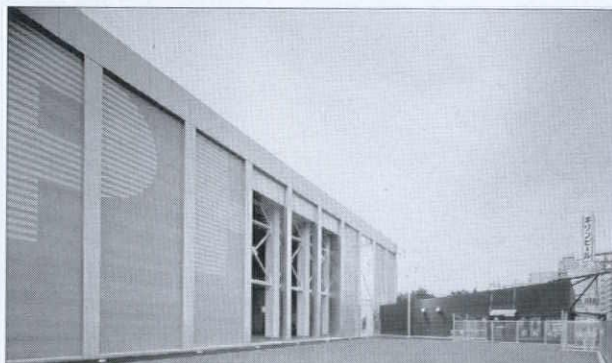
(長野県松本文化会館)

最高の音響効果を追求した大型ホール用の残響可変装置。演目に応じた、望ましい残響時間を保つことができます。

● 多目的シャッター

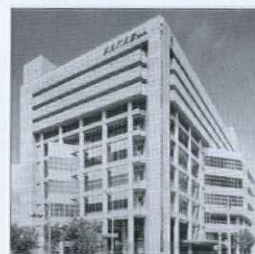


(新鷗フェイズ)



外壁全面をシャッターで構成。イベント内容に合わせたフレキシブルなスペースが実現できます。

● 舞台用防火扉



(大阪郵便貯金会館メルパルクOSAKA)

10×18mの大型開口部をカバーするプロセニウム防火扉。大重量パネルが火災時に作動します。



文化シャッター

東京都板橋区志村3-26-4 ☎03(3968)6666 営業企画部(ダイヤルイン)

…床を科学する…

(ゆか)



オフィス・フローリング・コンセプト

①システム・アプローチ

「インテリジェント・オフィス」といわれるように、情報発信基地としてのオフィス機能の向上が求められています。フリー・アクセス・システムなど最新の機能床を創造します。

②コンピューテーション・アプローチ

規格サイズのカーペット・タイルを、建築物にあてはめるだけでなく、建築モジュールにベスト・フィットするユニットとしてのカーペット・タイル・サイズを創造します。

③ハイタッチ・アプローチ

高効率ワーク・ステーションとしてのオフィスだからこそ、ヒューマンな感情が必要です。サイコロジカル・アプローチによってオフィス・アメニティを創造します。

三菱バーリントン株式会社

本社 〒103 東京都中央区日本橋浜町2丁目52番6号
(品川不動産ビル9F)
TEL.(03)3662-5631(代)

大阪支店 〒530 大阪市北区中之島2丁目3-18(新朝日ビル11F)
TEL.(06)202-4081 FAX.(06)202-4085

名古屋営業所 〒450 名古屋市中村区名駅3丁目28-12(大名古屋ビル)
TEL.(052)561-6724 FAX.(052)561-6739

未来をみつめる目

生活環境の改善から
ハイテク時代に対応した新技術の開発まで
大成温調は最適な空間づくりを追求しております。

●空気調和・給排水衛生設備



人の呼吸にもっと優しく

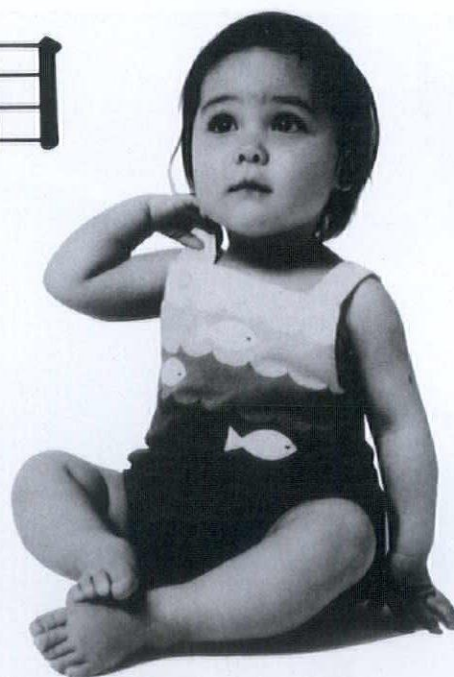
大成温調株式会社

〒140 東京都品川区大井1丁目47番1号 TEL.03-3774-1111 (大代)

支店・営業所 青森・八戸・盛岡・秋田・山形・仙台・郡山・いわき・水戸・宇都宮・前橋・大宮・千葉・川崎・横浜・
甲府・新潟・長岡・金沢・静岡・名古屋・京都・大阪・神戸・広島・高松・福岡・長崎・鹿児島・那覇

技術研究所 〒134 東京都江戸川区東葛西2-3-4
横浜技術センター 〒226 神奈川県横浜市緑区川向町806

TEL.03-3877-3770
TEL.045-471-1801



ニチベいのロールスクリーンとローマンシェードが新しくなりました。新発売



ロールスクリーン **ソフィー**

1. ソフィーのブランドがリニューアル
2. 新柄122柄を加え全330柄。機能生地も充実
 - 無地のカラー数が大幅に増加 ●生地に穴あけ加工など最先端のデザインシリーズが充実 ●ウォッシュアブルタイプに準遮光生地をラインナップ
 - お求め易い価格のコットンライク生地新発売 ●芳香加工、SEK抗菌加工などの機能生地の充実 ●コントラクト向け商品の充実
3. 豊富な新機種、モデルチェンジ。オプションも充実。

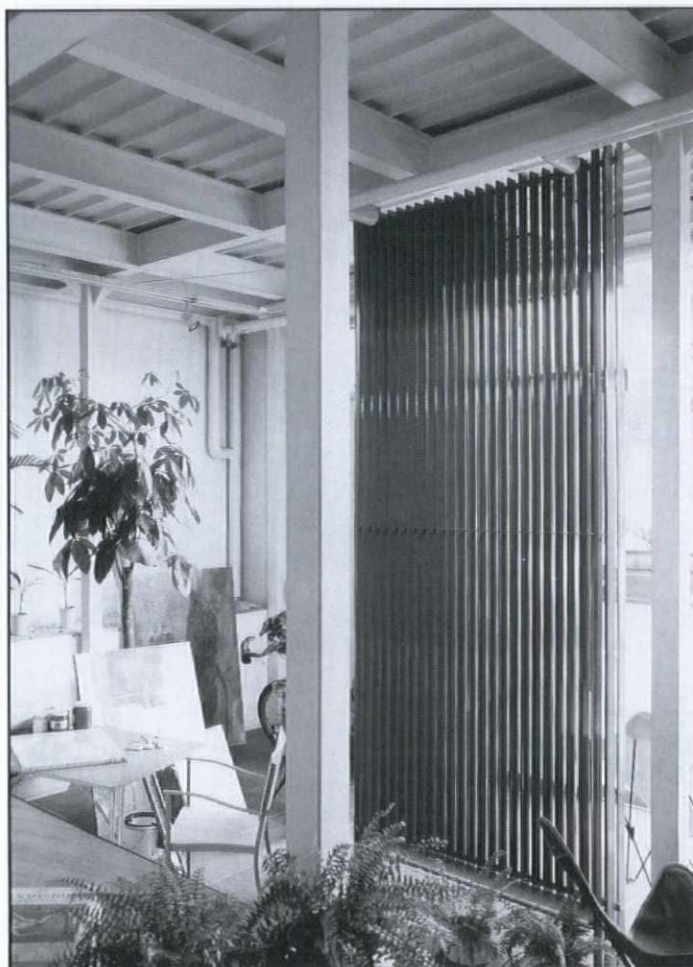


ローマンシェード **ラデュース**

1. ラデュースがドラマチックに一新
2. 新機種の登場、モデルチェンジも多彩
 - お求め易い価格のコード式、上下左右に開閉できる左右開閉式、よりスムーズに昇降するドラム式の3操作方式 ●標準タイプ、出窓タイプに加えアーチ窓タイプ、カーブ窓タイプと充実 ●大型窓に対応するコントラクト向けも新登場
3. 華やかに全11スタイル、155柄
4. オプションの充実
5. オリジナルのラデュースを作る「マイプランシステム」の充実

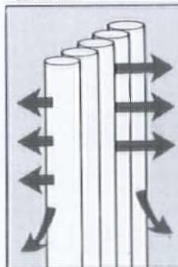
◆ ソフィーとラデュースの共通柄をご用意。コーディネートがグーンと広がります。 ◆

N 株式会社ニチベイ 本社/〒103 東京都中央区日本橋3-15-4 TEL.(03)3272-2011

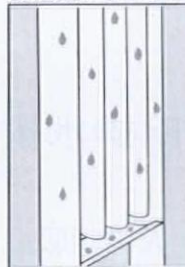


インテリアのように HR-C ～放射冷暖房+除湿～

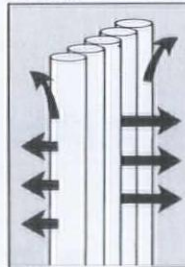
夏は涼



除湿効果もあって



冬は暖



一年中緩やかで自然なアメニティー空間をお届けします。

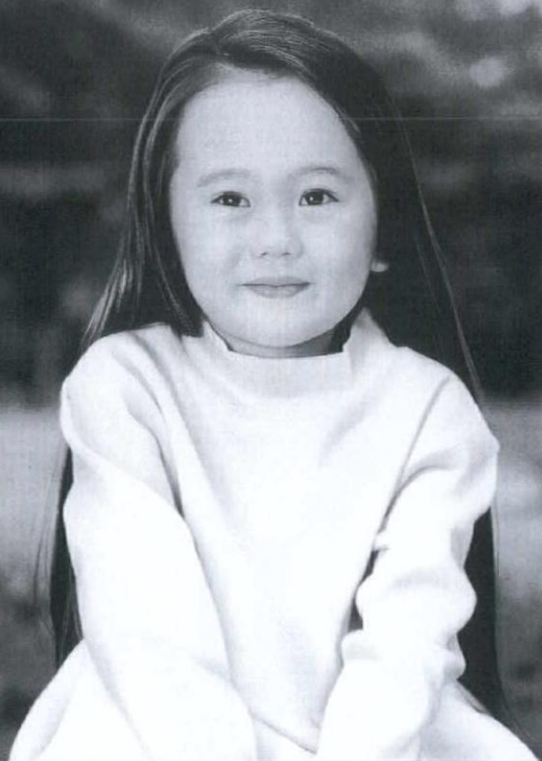
PS ピーエス株式会社

〈お問い合わせ先〉

札幌 TEL.011-231-7201
仙台 TEL.0196-53-3780
盛岡 TEL.022-211-5431
長野 TEL.0262-28-4334
新潟 TEL.025-230-6393

東京 TEL.03-3335-3773
大阪 TEL.06-338-7151
名古屋 TEL.052-775-7621
福岡 TEL.092-281-9200

自然より自然に、
あなたを包みたい。



あなたの、いちばん心地良い場所はどこですか。

きっと、多くの方が、

大自然の中をイメージされることでしょう。

私たちは、そんな快適さをあらゆる建物の内に

創造していきたいと考えています。

人間は、あくまでも自然の一部。その事実を大切に、

新しい最適環境を創造していきたい。

もっとナチュラルに、

いつもあなたのそばに、ダイダンです。

Always With You.



建築設備の一役を担う

電気設備工事

最新の技術と信頼される施工



大栄電気株式会社

代表取締役社長 伊藤 赳

本社 東京都中央区銀座3-7-10 TEL 03(3562)0311(大代表)

支店営業所 大阪、名古屋、北海道、東北、北関東、東関東、神奈川、
浜松、神戸、四国、中国、九州、沖縄

Kinden
CORPORATION



都市の鼓動が、
聴こえますか。



現代社会の知力である「情報」。都市の動脈ともいふべき「エネルギー」。そして人が快適に暮らし、働くための「環境」。都市はいまやそのどれ一つが欠けても機能しないと言えるでしょう。私たち〈きんでん〉が柱として取り組んでいる分野は、まさにこうした都市に生命を吹き込むもの。たとえば、光通信やCATVなど、マルチメディア社会を実現する情報通信ネットワークシステムの構築。住まいやオフィスの快適性を向上し、心を豊かにしてくれる環境づくり…これらは、これからの都市づくりに欠かせないものです。現代の都市をいきいきと息づかせるために。未来の都市がさらに豊かで創造的なものであるために。私たち〈きんでん〉は総合設備エンジニアリングをさらに発展させたいと考えています。人・都市・地球のためにできること。〈きんでん〉は、あなたのそばで考えます。

都市に生命を吹き込む技術——きんでん

株式会社 **きんでん**

本店 大阪市北区本庄東2丁目3番41号 〒531
東京本社 東京都品川区東五反田5丁目25番12号 〒141

鹿島出版会
東京都港区赤坂6-5-13
電話:03-5561-2111 (代)
振替:00160-2-180883

年間定期購読料
25,000円 (特別定価号+送料込み)

S Dバックナンバー常備店
[東京]
八重洲ブックセンター
03-3281-8203
三省堂本店(神田)
03-3233-3314
書泉ブックマート
03-3294-0011
紀伊国屋本店 03-3354-0131
大盛堂書店 03-3463-0511
[大阪]
旭屋書店本店

柳々堂 06-443-0167
[札幌]
旭屋書店 011-241-3007
[横浜]
有隣堂本店 045-261-1231
[京都]
大龍堂書店 075-231-3036
[大学生協内書店]
東北工業大学 東京工業大学
法政大学工学部 早稲田大学
理工学部 関東学院大学

9309 ソットサス・アソシエイツの建築1950円

カザ・チェ、カザ・メレウ、コロラドの家、ERGガソリンスタンド、キング・オブ・アフリカ展会場構成、ラヴェンナ現代家具博物館、他。
[ニーム現代美術館・図書館] ノーマン・フォスター

9310 リカルド・ボフィール3000円

スペインやパリに建てられた新作を中心に、テクノロジーと古典主義スタイルの融合した新しい建築空間を紹介する。作品:バルセロナ空港ターミナルビル、マドリッド・コングレス・パレス、他

9311 アンソニー・ラムズデン/DMJMの新作 1950円

アメリカの大組織事務所DMJMの新作を紹介。細江勲夫の新作。ブルーノ・タウト再発見。ウィトゲンシュタインのストンボロー邸。田窪恭治/サン・ヴィゴール・ソ・ミュール礼拝堂プロジェクト1

9312 SDレビュー19932400円

第12回SDレビュー誌上発表。クライン・ダイサム・アーキテクト、和田克明、計画意匠研究所/片木篤十有馬一郎、吉本剛/吉本剛建築研究室、他。関西国際空港旅客ターミナルビル

9401 原 広司3500円

地球外建築、空中都市、梅田スカイビル、JR京都駅、原邸、グラーツ・影のロボット、ヤマトインターナショナル、他。論文:原広司、B.ボグナー、三宅理一、他。写真:宮本隆司、大野繁

9402 台湾現今設計観察1950円

建築と都市を中心とした台湾現代デザインを紹介。台湾建築:李祖原、吳瑞崇、潘翼、陳瑞憲、他。グラフィック:劉開、陳龍宏。写真:陳春祿。取材:監修:村松伸、小嶋一浩

9403 バイオクライマティックタワー1950円

自然環境との適合を課題とした高層建築を模索するマレーシアの建築家ハムザ&ヤング。文:池田武邦、ケン・ヤング、他。[都市を考える—The Cell Cityの提案] 大都市を複数の細胞に区分する新提案

9404 堂夢の時感/木島安史の世界3000円

作品:寿屋庵、孤風院、YAS居、球家洞森林館、折尾スポーツセンター、設計競技作品、他。文:木島安史、桐敷貴次郎、木村俊彦、高橋青光一、橋本文隆、他。略年譜、作品データ、執筆一覧

9405 東ドイツの近代建築1950円

旧東ドイツの近代を原巻した表現主義建築を、35都市にわたる調査をもとに紹介。クリンゲンベルクのダム (H. ヘルツィヒ)、アインシュタイン塔 (メンデルゾーン)、他。文+写真:長谷川章

9406 アートがつくるワークプレイス2500円

「働く人々のための空間とアート」に着目し、海外の事例を紹介。文:南條史生、D. F. ハンセン。アーティスト:アンドレア・ブラム、他。企業等:IBM、ブリティッシュ・カウンシル、他

9407 ピーター・ウォーカーの世界2200円

アメリカ・ランドスケープ・アーキテクトとしての彼の初期から現在にいたるまでの主要作品を紹介。東京海上東日本研修センター、IBMクレアレイク、バーネット・パーク、ロングエーカー公園、他

9408 マッシミリアーノ・フクスス1950円

フランスを中心に展開する近作を紹介。ロアンのヨーロッパ建築研究所、他。文:D. マンドレリ、堀池秀人、他。[異界の僧院—モルドバのルーマニア正教会堂] 写真:平岡、文:山崎揚史



9409

思考と建築・都市/アメリカ東海岸の新たな動向
B. シャーデル&キブニス、マイケル・ツォーキン、他。文:松畑強、他。
[「手法」から「縁起」へ/吉川油脂寄宿舎] TAO ARCHITECTS/野田俊太郎、写真:堀内広治
1950円

9410

トロハの遺した構造と空間
鉄筋コンクリートで自在に使い、表現の素材として追求した、エドアルド・トロハの遺作を紹介。[芸術都市への蘇生/イタリア・ジベリーナの試み] 地震で全壊した同市の復興プロジェクト
1950円

9411

シティ・ターミナルの空港建築
世界22の空港を挙げ、ターミナル・ビルの技術的、デザインの可能性を探る。シャルル・ド・ゴール、スキポール、ヒースロー、ソウル・メトロポリタン、関西国際空港、他。文:ディヤン・スジック、他
3500円

9412

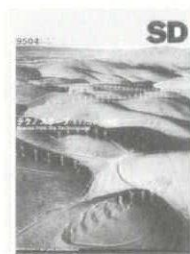
SDレビュー1994
第13回SDレビュー誌上発表。荒木正彦、J. ビザル+P. ルーグ、吉松秀樹、石黒由紀+田堀繁、遠藤秀平、城戸崎和佐、中村勇大、他。
[国際競争プロジェクト/オシヴィエンチム孤児院]
1950円

9501

山本理顕
作品:緑園都市、岩出山町立総合中学校、痴呆性老人デイケアセンター、鎌倉の住宅、保田窪第一団地、他。写真:北嶋俊治、大野繁。論文:山本理顕、宇野求、T. ヘネガン。黒鉄:横文彦+植田実+山本理顕
3000円

9502

南イタリアのバロック建築
地中海の島シチリアとプーリア地方サレント半島のレッツェを中心に、南部イタリアのバロック建築を紹介。掲載都市:パレルモ、シクリ、他。写真:小野一郎。文:竹山博英、長谷川正允、岡田哲史
1950円



9503

集合住宅の現風景
近年、集合住宅を多く手掛けてきた建築家たちの代表作・近作を紹介する。文+作品:荒木正彦、遠藤剛生、大野秀敏、富永謙、松永安光、元倉眞琴。座談会:植田実+室伏次郎+宇野求。東京湾岸マップ
1950円

9504

テクノスケープ
テクノロジーが作り上げた造形や景観を通して、建築・都市デザインへの新たな視線を提示する。文:宇野求、岡河貢、永瀬唯、A. ロジェ、他。座談会:中村良夫+三谷徹十+宇野求。東京湾岸マップ
3000円

9505

メガ・アーキテクチャ
巨大建築を数多く手掛けてきたポール・アンドルーの新作を紹介。シャルル・ド・ゴール空港TGV-RER駅、他。対談:安藤忠雄+P. アンドルー。[神戸外国人居留地の形成とその展開] 文+構成:坂本陽比古
1950円

9506

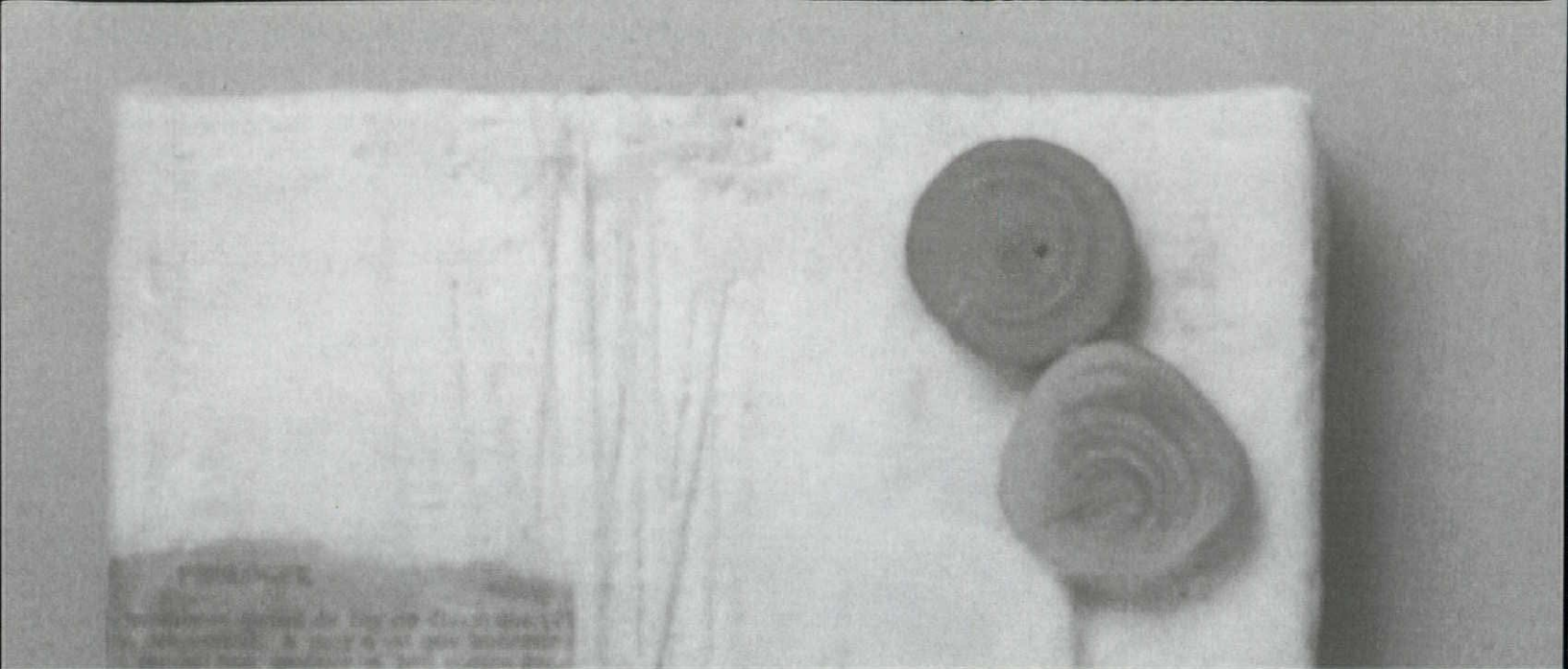
デジタル・アーキテクチャの可能性
インタビュー:原広司、伊東豊雄、N.M. ディナーリ、他。CAD研究室:将来の可能性:笹田研究室、両角・位寄研究室、他。[自然と共存する家具] 写真:浅川敏
1950円

9507

柳澤孝彦/美術館の空間とディテール
作品:東京都現代美術館、富岡市立美術館、郡山市立美術館、他。文:鈴木博之、内藤真、青木淳、大野秀敏。座談会:宇佐美圭司+柏木博+柳澤孝彦。写真:村井修
2700円

9508

まちのパブリックスペース
人々の日常生活と密着した公共施設である交番・公衆トイレ・駐車場・橋・公園などを、アトリエ作家の近作からみる。作品:21点。文:中川理、仙田満。オンライン座談会:青木淳+中川理+花田佳明
1950円



SDレビュー1995

第14回建築・環境・インテリアのドローイングと模型の入選展

SD Review 1995

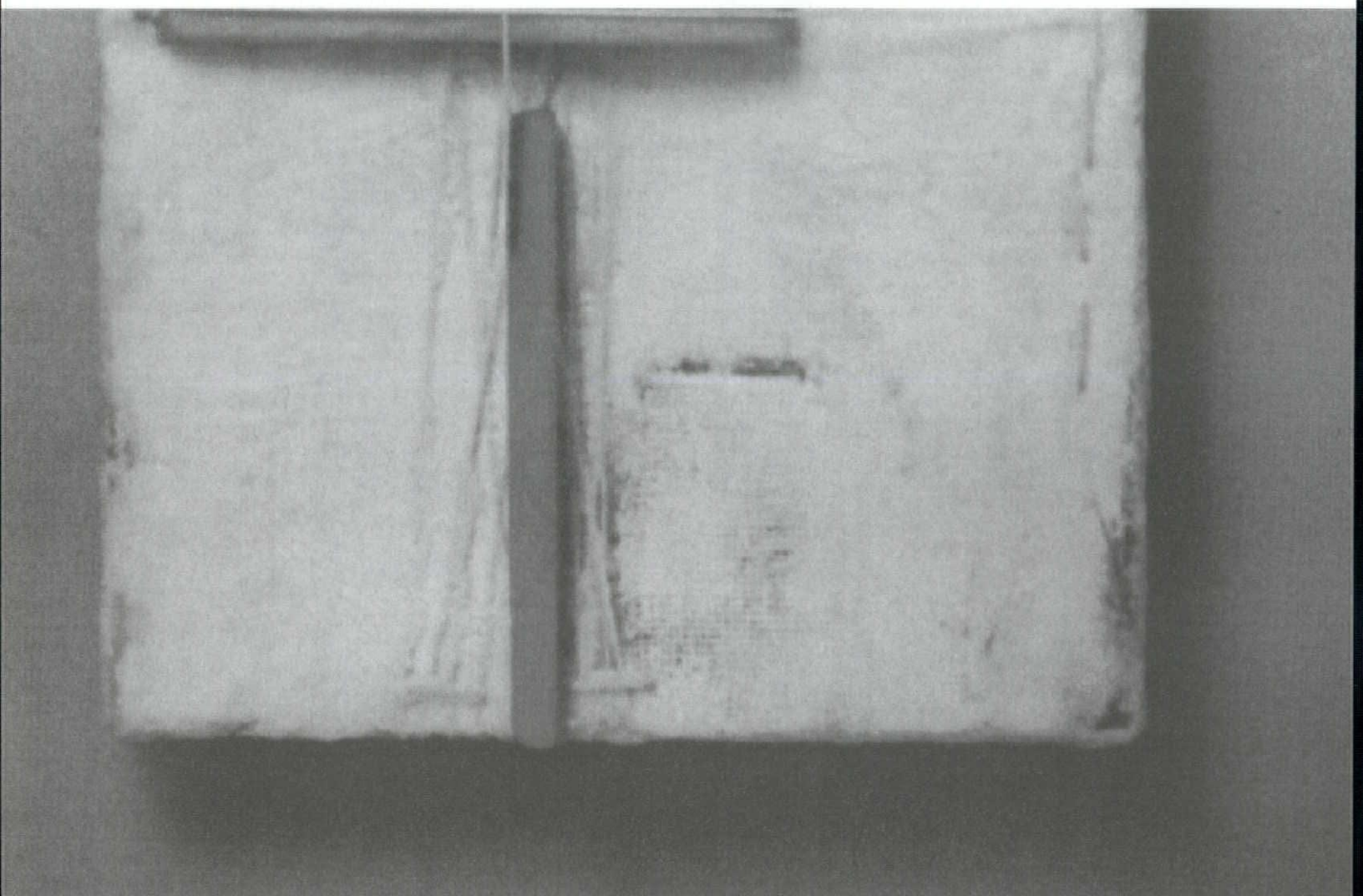
The 14th Exhibition of Winning Architectural Models and Drawings

[東京展]

会期：1995年9月20日〈水〉—10月1日〈日〉
12:00—19:00

会場：東京都渋谷区猿楽町18-8
ヒルサイドテラスF棟
ヒルサイドフォーラム

● 詳細はp.178を御覧下さい。



特集

丹下健三 丹下健三・都市・建築設計研究所

編集長：相川幸二
副編集長：浜地三千世
編集スタッフ：寺田真理子
高木伸哉 高木秀之
山田良 大野由美
アドバイザー：伊藤公文発行人：河相全次郎
編集人：長谷川愛子

- | | |
|-----|------------------------------|
| 6 | 新宿パークタワー |
| 28 | 国際連合大学本部施設 |
| 38 | 幕張プリンスホテル |
| 46 | ベイ・スクエア・よこすか |
| 52 | 広島平和記念公園 |
| 56 | 日光東照宮 宮殿・社務所 |
| 64 | 山口県立萩美術館 |
| 68 | 香川県新庁舎 |
| 72 | 東京ファッションタウン |
| 48 | FCGビルディング |
| 88 | グラン・テクラン (パリ・イタリア広場) |
| 98 | パリ・セーヌ左岸計画 |
| 104 | ナポリ市新都心計画 |
| 108 | BMWイタリア本社ビル |
| 110 | サイゴン・サウス・プロジェクト |
| 114 | 台中市干城商業地区マスタープラン |
| 120 | UEスクエア (ユナイテッド・エンジニア) |
| 122 | テレテック・パーク |
| 124 | UOB (ユナイテッド・オーバーシーズ・バンク) プラザ |

発行所：鹿島出版会
〒107 東京都港区
赤坂6丁目5番13号
電話：
(03) 5561-2551 営業
(03) 5561-2555 編集
FAX：
(03) 5561-2561 営業
(03) 5561-2565 編集
TELEX：
02422467 KAJIMA J
振替00160-2-180883番印刷・製本：
凸版印刷株式会社
〒174 東京都板橋区
志村1丁目11番1号
電話：
(03) 3968-5111 案内取次店：トーハン・日販・
大阪屋・大洋社・
栗田出版販売・誠光堂・
鈴木書店・西村書店・中央社特別定価：3,800円
[本体3,689円]年間直接購読料：25,000円
特別定価号+送料込み表紙：UOBプラザ
表紙写真：村井修
表紙デザイン：小泉均

149 近代建築の50年と新時代への提言 丹下健三

- | | |
|-----|------------|
| 161 | 作品年表・作品データ |
| 172 | 経歴 |

- | | | |
|-----|---|-----------|
| 185 | 連載：時分の花(最終回) プリコラージュ 3題
ディテール写真館 12 大野教会堂、聖福寺瓦塀、日本26聖人殉教記念施設 | 写真+文=下村純一 |
| 178 | SDレビュー 1995 | |
| 181 | ニュース：
細江勲夫の新作プロダクト | |
| 191 | 展覧会レポート：
拮抗と鼓舞 インスタレーションの挑戦 | 洪澤和彦 |
| 197 | レポート：
環境芸術大賞'95 | |
| 210 | 展覧会レポート：
有機的デジタル 山口英夫展「織の記憶」 | |
| 203 | 新刊紹介 | |
| 204 | 書評 | |
| 206 | お知らせ | |
| 213 | 海外建築情報リミックス：ビルディングタイプ
その3「公共建築」 | |

Special
Feature:

Kenzo Tange Associates

Kenzo Tange

Chief Editor: Koji Aikawa
Editor: Michiyo Hamaji
Associate Editors:
Mariko Terada
Shinya Takagi
Hideyuki Takagi
Ryo Yamada
Yumi Ohno
Adviser: Kobun Ito

Publisher: Zenjiro Kawai
Executive Director:
Aiko Hasegawa

Published by
Kajima Institute Publishing
Co., Ltd.
6-5-13 Akasaka,
Minato-ku, Tokyo 107,
Japan
TEL:
03.5561.2551 (Management)
03.5561.2555 (Editing)
FAX:
03.5561.2561 (Management)
03.5561.2565 (Editing)
TELEX:
02422467 KAJIMA J

Printed in Japan

This Copy: ¥3,800
¥30,000 a year
¥50,000 two years

Order Form: Page 232

Cover: UBO Plaza
Cover Photograph:
Osamu Murai
Cover Design:
Hitoshi Koizumi/NID

- | | |
|-----|--|
| 6 | Shinjuku Park Tower |
| 28 | United Nations University Headquarters and Trust Buildings |
| 38 | Makuhari Prince Hotel |
| 46 | Bay Square Yokosuka |
| 52 | Hiroshima Peace Center Complex |
| 56 | Nikko Toudou Shrine Reception Hall and New Shrine Office |
| 64 | Yamaguchi Prefectural Museum in Hagi |
| 68 | Kagawa Prefectural Government Office Building |
| 72 | Tokyo Fashion Town |
| 78 | FCG (Fuji-Sankei Communications Group) Building |
| 88 | Gran Ecran (Place d'Italie) |
| 98 | Redevelopment Plan for the Seine River Left Bank |
| 104 | Master Plan and Design for Napoli Administration Center |
| 108 | BMW Italia Headquarters Building |
| 110 | Saigon South New City Center |
| 114 | Gan-Chen Commercial District Master Plan |
| 120 | UE (United Engineers) Square |
| 122 | TeleTech Park |
| 124 | UOB (United Overseas Bank) Plaza |

155	50 Years of Modern Architecture and A Proposal for the New Century	Kenzo Tange
------------	---	--------------------

- | | |
|-----|-----------------------------------|
| 161 | Chronological List of Major Works |
| 170 | Personal History |

- | | | |
|-----|--|--|
| 185 | Series: (end of series) Bricolage
Detail Photo Gallery 12 Ohno Church, Shofukuji Temple, Twenty six Martyrs Shrine | photographs and text:
Junichi Shimomura |
| 178 | SD Review 1995 | |
| 181 | News:
New Products by Isao Hosoe | |
| 191 | Exhibition Report:
From the Exhibition of Anthony Caro | Kazuhiko Shibusawa |
| 197 | Report:
Environment Arts Prize 1995 | |
| 210 | Exhibition Report:
From the Exhibition of Hideo Yamaguchi | |
| 103 | Book Information | |
| 204 | Book Review | |
| 206 | Announcements | |
| 213 | Eminent Works Abroad: Building Type 3
Public Architecture | |

特集=

丹下健三

丹下健三・都市・建築設計研究所

Special Feature=

KENZO TANGE

KENZO TANGE ASSOCIATES



photo : Koichi Saito

撮影=村井 修, 他 Photographs by Osamu Murai, etc.

Shinjuku Park Tower

Tokyo, Japan 1986-1994

新宿パークタワー





The Shinjuku Park Tower complex, constructed in the southwest corner of the Shinjuku New City Center area, serves as the terminus of an axis running north - south created by the long, narrow Chuo Park. This axis determines the building's orientation and the characteristic configuration of its skyline. The building is a multi-purpose super high-rise equipped with a number of intelligent functions and landscaped as an extension of Chuo Park.

The building is 235 meters high and consists of 52 floors above ground and 5 floors underground with a total of 264,000 square meters of floor area. The large mass of the building has been articulated as a three tower configuration to minimize its presence on the surrounding area and reduce the noon shadow cast onto the park. Continuity is achieved with the surrounding business district by matching the orientation of the new city town area including the Tokyo City Hall Complex.

The Park Tower complex is composed of the Tokyo Gas Shinjuku District Heating and Cooling Center connected by a large atrium to the tower building. The rich greenery of Shinjuku Chuo Park is absorbed into the building through the lush plantings of the grand atrium. A glass roof, 18 meters above the ground, offers abundant natural light to the atrium that provides access to the offices, showrooms, and hotel.

The lower levels of the building contain a series of showrooms known as the "Ozone" living design center and the multi-purpose "Park Tower Hall". The middle portion of the tower, with a typical floor plate size of about 4,500 square meters (which translates into an effective area of about 3,500 square meters) is dedicated to flexible office space. The elimination of columns in the office space, a 2.7 meter high ceiling, and a raised access panel floor system create an unconstrained working environment that is very responsive to the needs of the tenants.

A hotel of innovative design has been situated at the very top of the tower. A shuttle elevator system connects the hotel's second floor entrance hall with the 41st floor sky lobby designed so that arriving guests are greeted with a splendid view of the city.













新宿新都心の一角に位置する〈新宿パークタワー〉の敷地は、既に形成されている新都心ビル群による「ビジネスゾーン」、北に向かって延びる新宿中央公園の「グリーンゾーン」、さらには新国立劇場方向に向かって想定される〈文化ゾーン〉の交わるエリアにある。

高さ235m、地上52階、地下5階、延床面積264,000㎡をもつこの建物は、主要部分であるオフィススペースを中心として、低層部には住空間のためのショールーム＝リビングデザインセンター〈OZONE〉や多目的ホール〈パークタワーホール〉を配し、高層部には、客室数を絞ってゆとりをもたせた新しいかたちのホテルを設けた、インテリジェント機能とアメニティとを兼ね備えた複合用途の超高層ビルとなっている。新宿中央公園の緑を確保し、さらにアトリウムによって緑を建築内部にまで取り込んでいる。

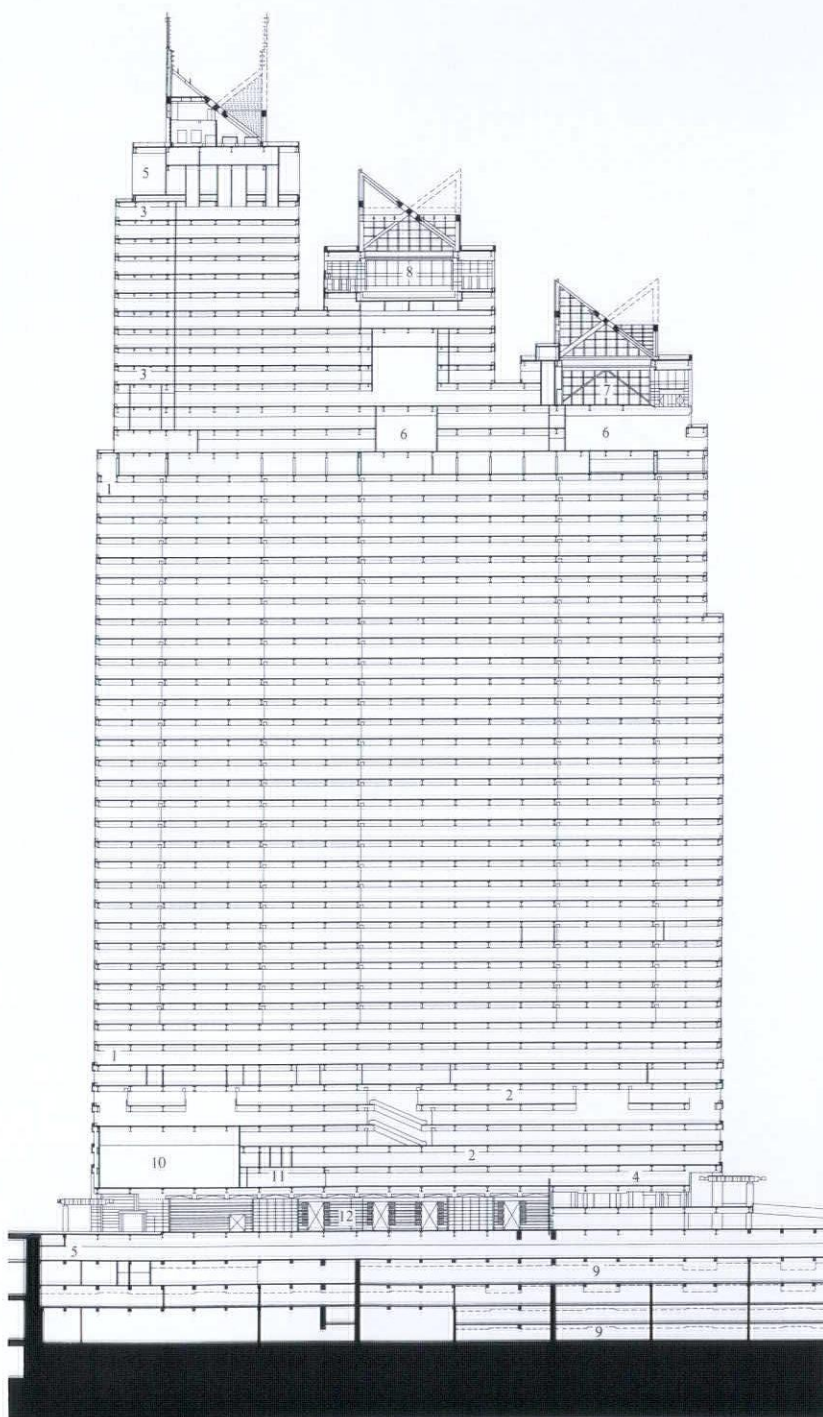
タワー部分は、南北方向に細長い新宿中央公園の軸線を受け止める位置にあり、この軸を基本として、建物の方向性や特徴的なスカイラインの形態を決定している。〈東京都庁舎〉を含む新都心街区に壁面の方向性を合わせることで、周囲の建物や新宿中央公園との連続性をもたせている。また3つの塔状の形態にすることで巨大なマッサによる周囲への圧迫感を減少させ、平面を雁行させることによって不整形な敷地に対応している。

新宿中央公園から続くメインエントランス部分に、高さ約18mのガラス屋根から自然光が降り注ぐ、植栽を配した約1,600㎡のアトリウムを設置した。アトリウムからはオフィス、ショールーム、ホテルなどへのアプローチが可能となっている。

中層部に位置するオフィスは、ゆとりあるスペースを確保するため、基準階床面積は約4,500㎡（有効面積約3,500㎡）として計画されている。天井高を2,700mmとし、執務スペースから柱を排除し、開放感のあるオフィス空間としている。床はフリーアクセスフロアとし、テナントからの要求にフレキシブルな対応を可能にした。

高層部に位置するホテルでは、アプローチを容易にするため、2階のエントランスホールと41階のスカイロビーをシャトルエレベータで連結し、超高層の優れた眺望によって来訪者を最初に出迎える計画としている。大屋根によるアトリウム空間のスカイロビーには、新宿中央公園の緑を内部に持ち込むような植栽が設けられ、全体のイメージに沿った演出をしている。

- 1 Office
- 2 Show Room
- 3 Guest Room
- 5 Restaurant
- 6 Banquet Hall
- 7 Sky Lobby
- 8 Swimming Pool
- 9 Parking
- 10 Hall
- 11 Foyer
- 12 Office Lobby

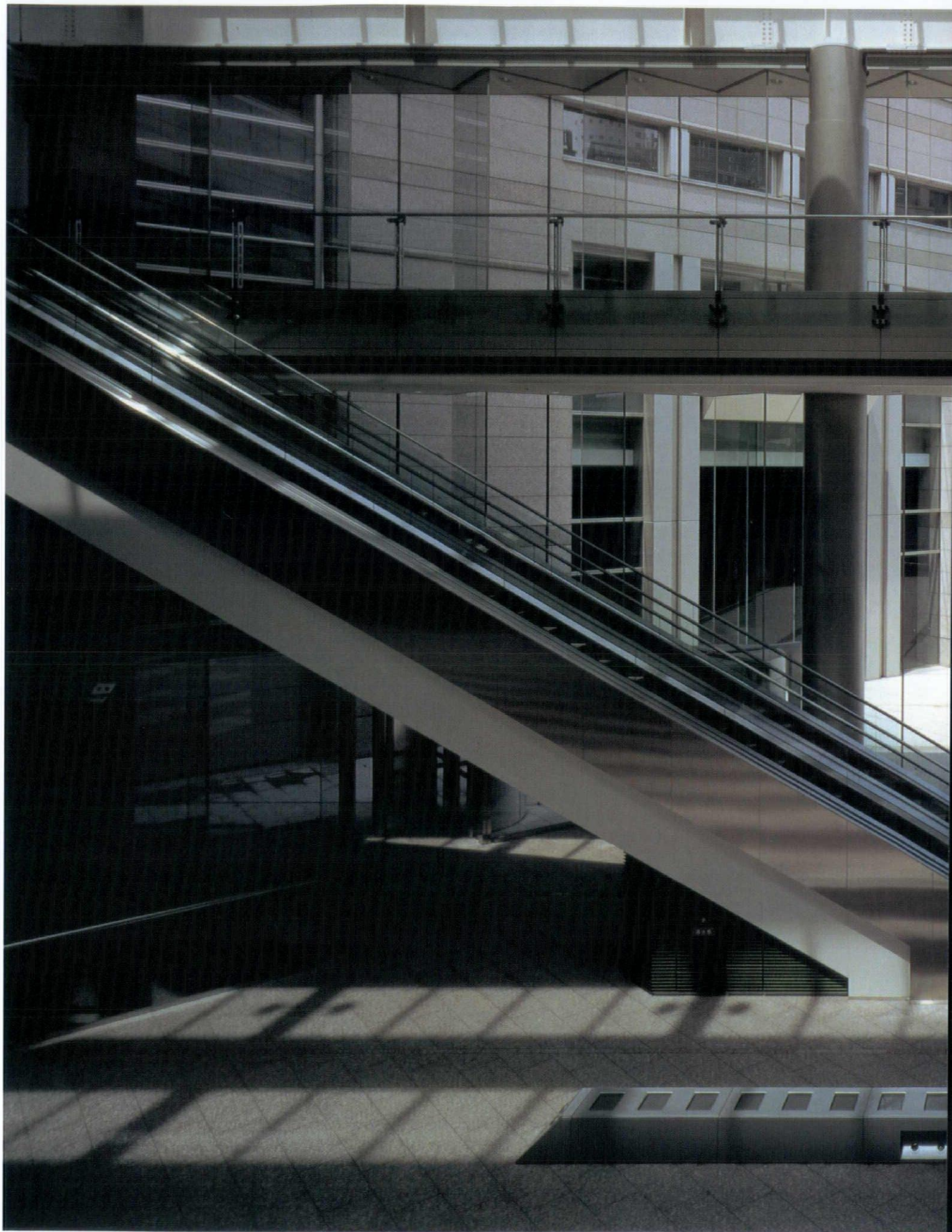


Section 1:1500

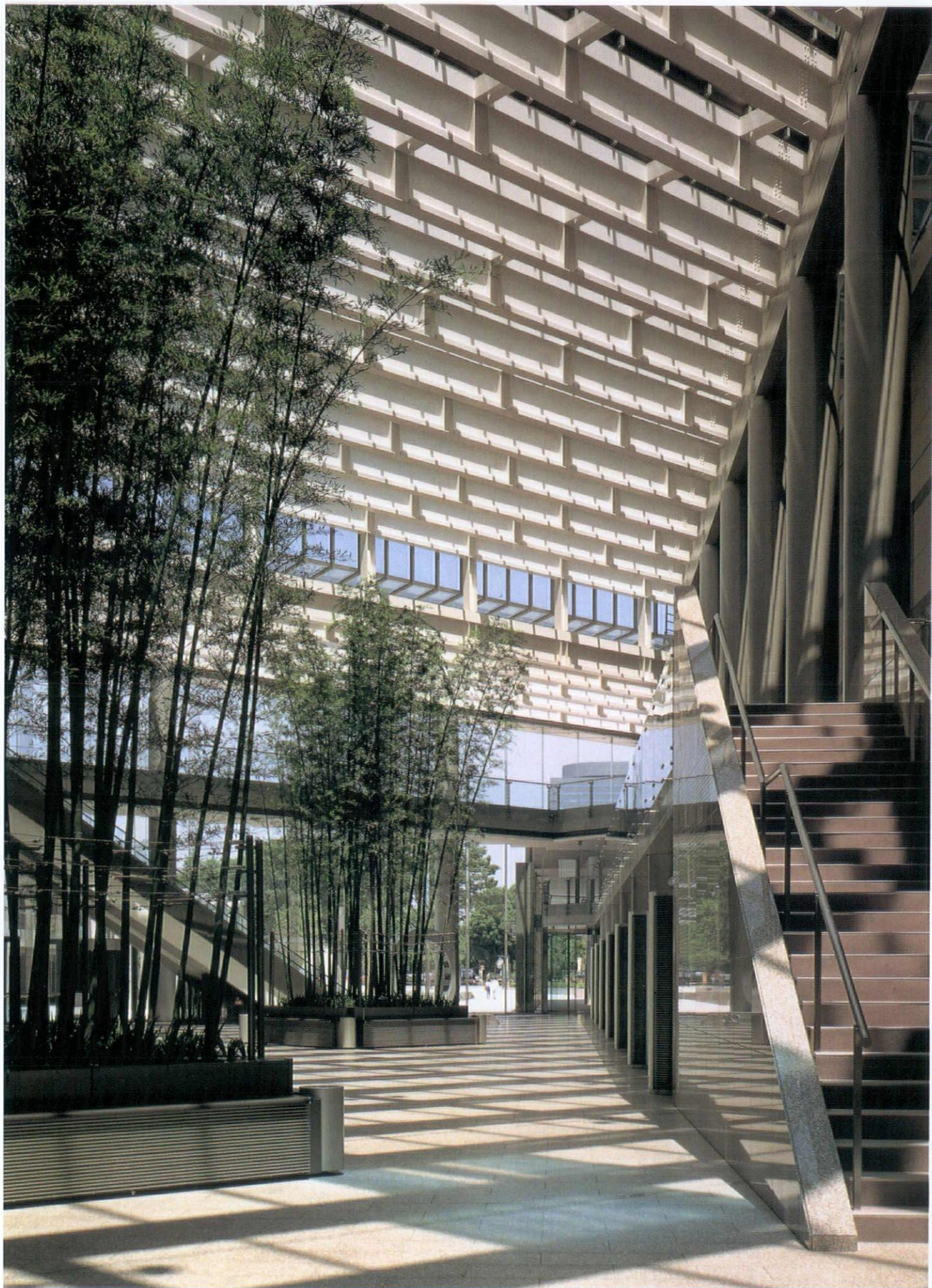


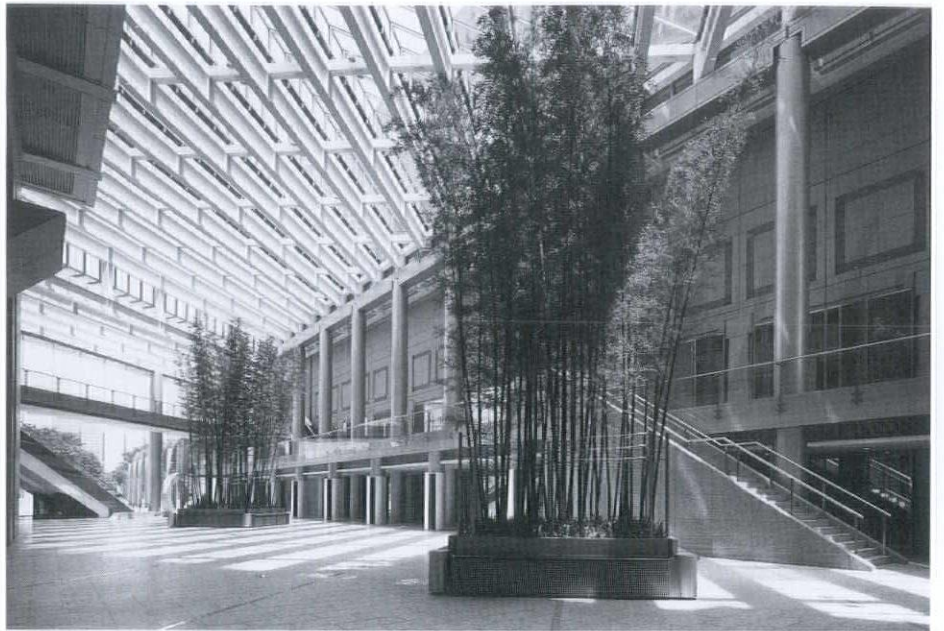






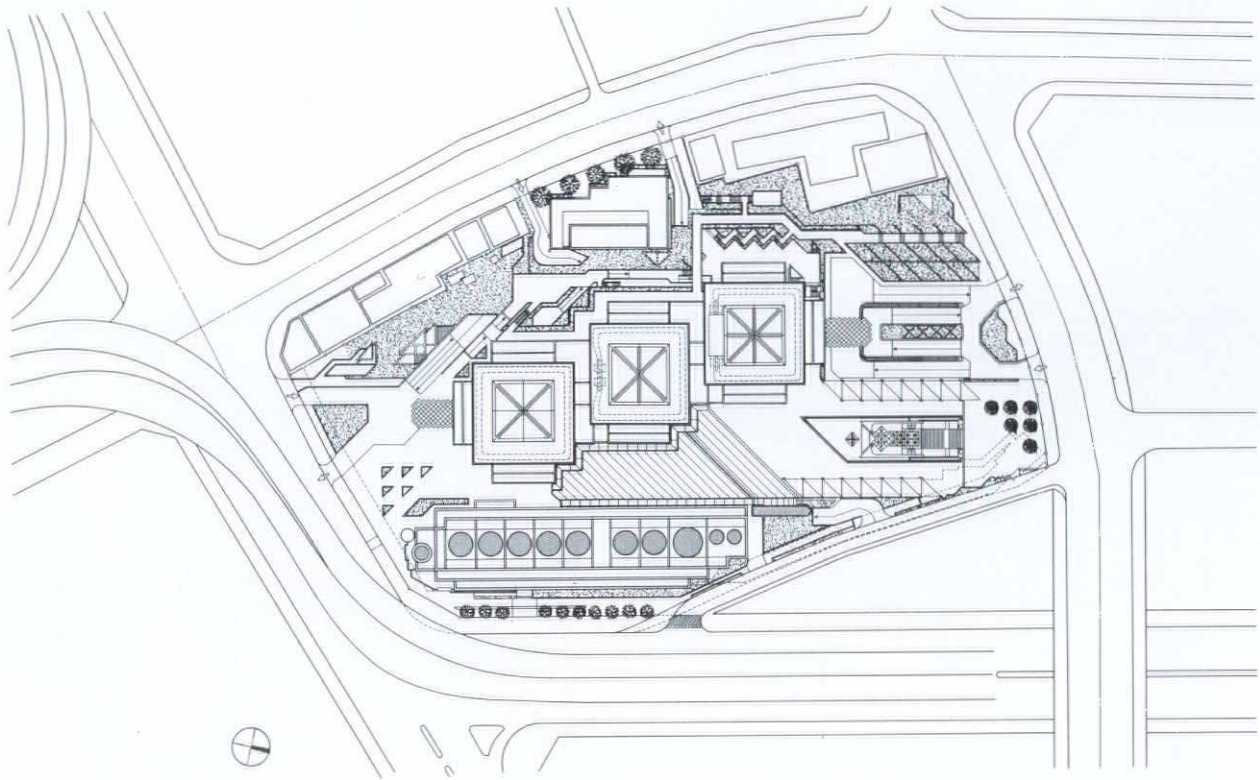




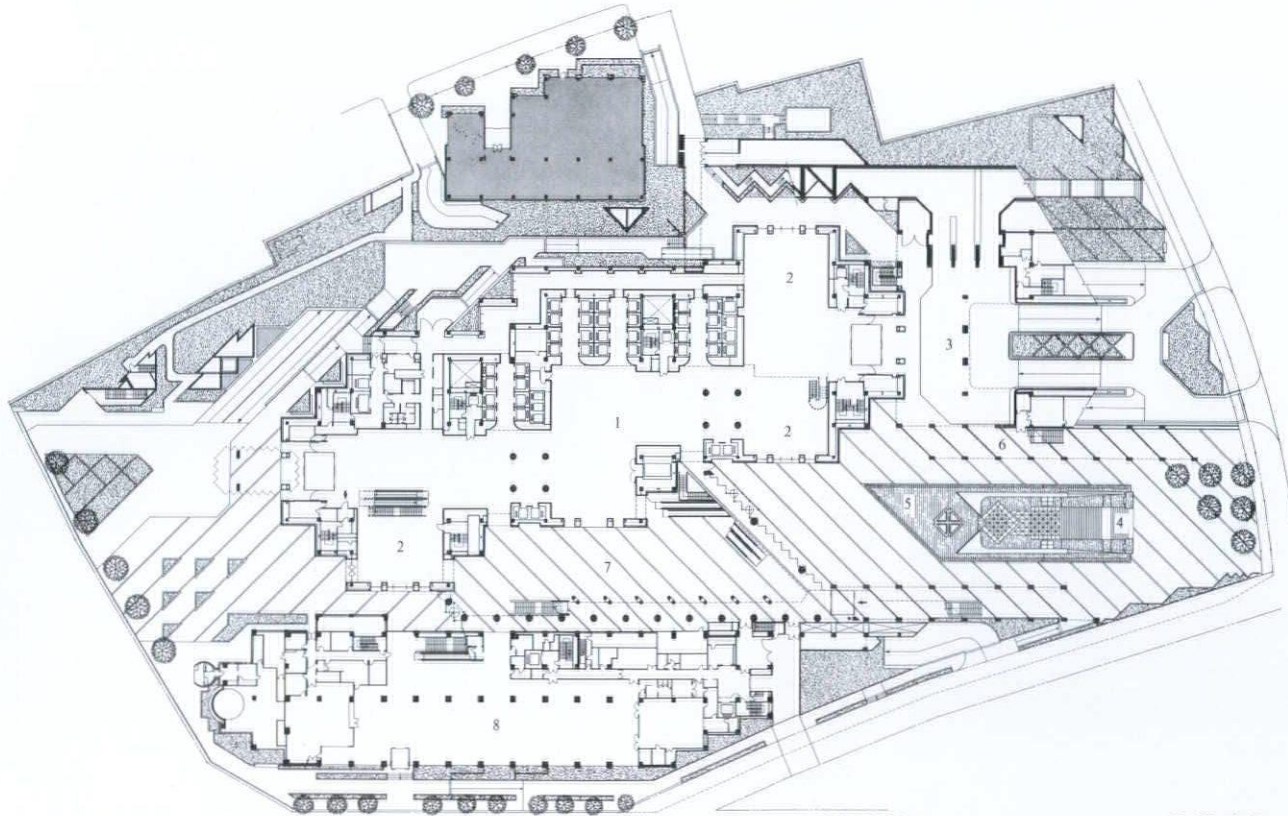






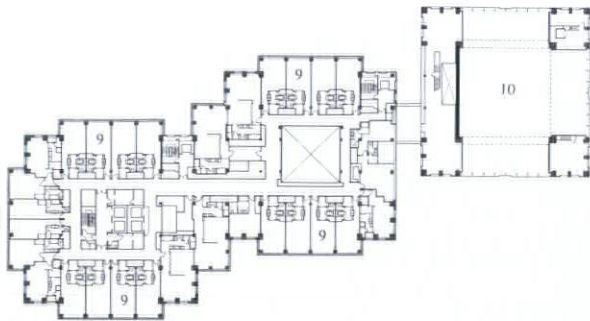


Site Plan 1:2500

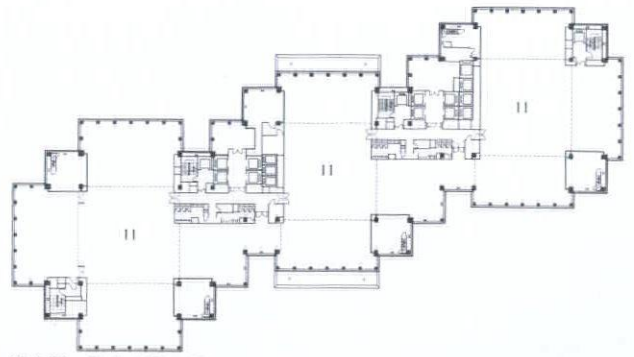


First Floor Plan 1:1500

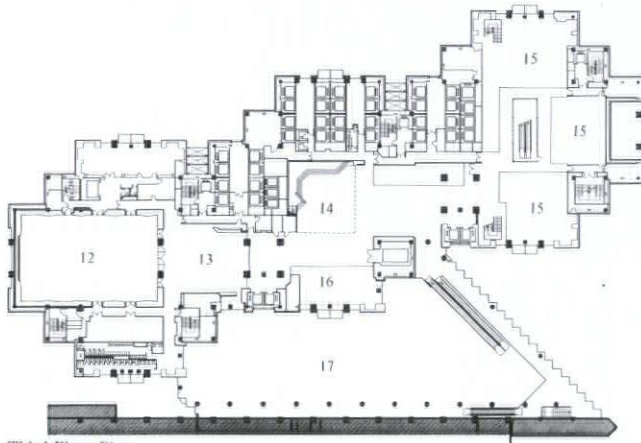
- | | |
|---------------------------------------|--------------------|
| 1 Office Lobby | 10 Sky Lobby |
| 2 Gallery | 11 Office |
| 3 Office Entrance | 12 Park Tower Hall |
| 4 Sunken Garden | 13 Foyer |
| 5 Pond | 14 Show Room Area |
| 6 Colonnade | 15 Shop |
| 7 Atrium | 16 Cafe |
| 8 Shinjuku Heating and Cooling Center | 17 Void |
| 9 Guest Room | |



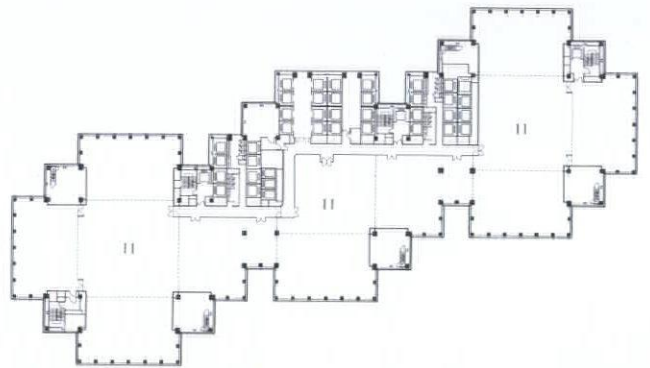
Hotel Typical Floor Plan



High Rise Typical Floor Plan



Third Floor Plan



Low Rise Typical Floor Plan 1:1500



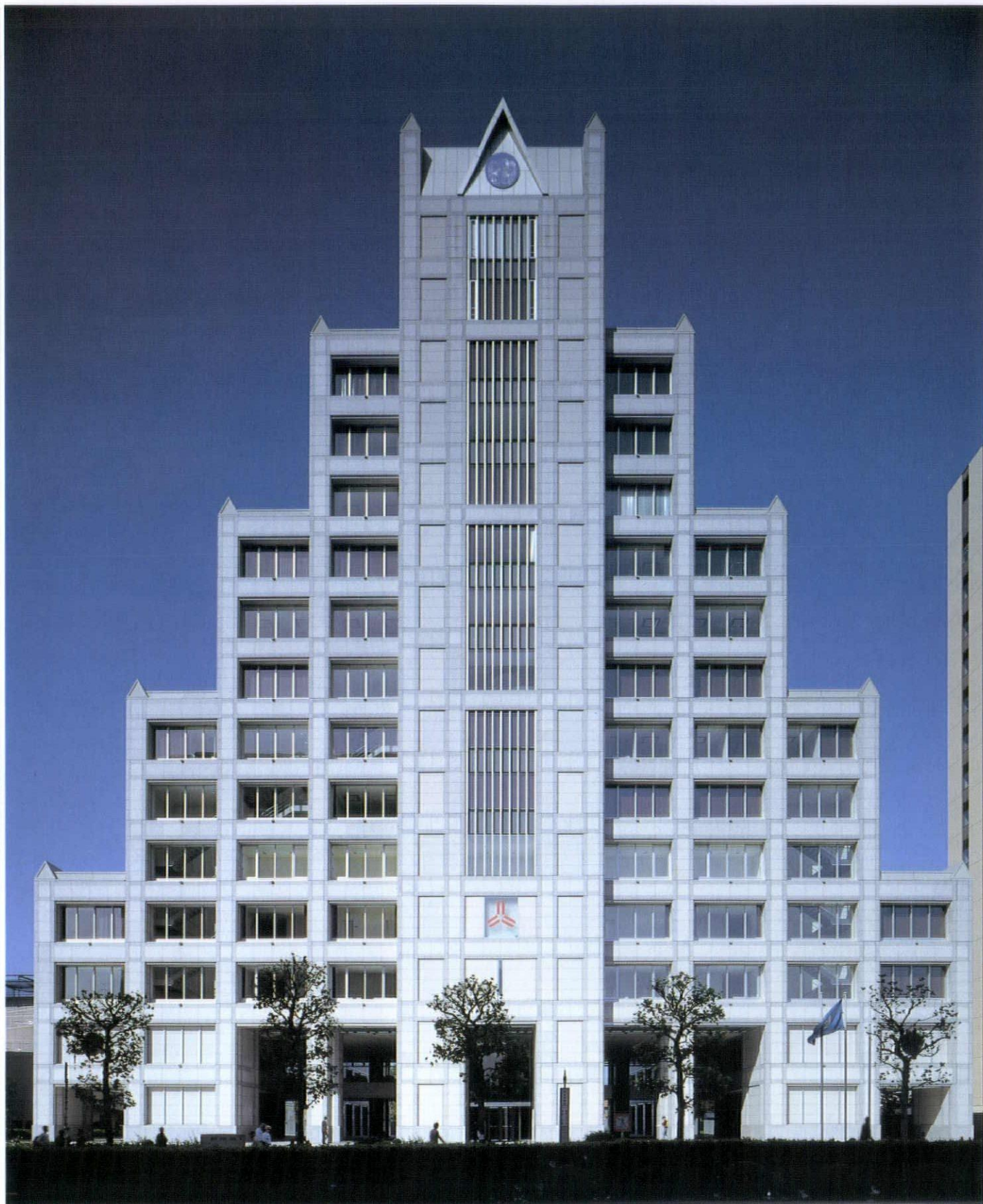


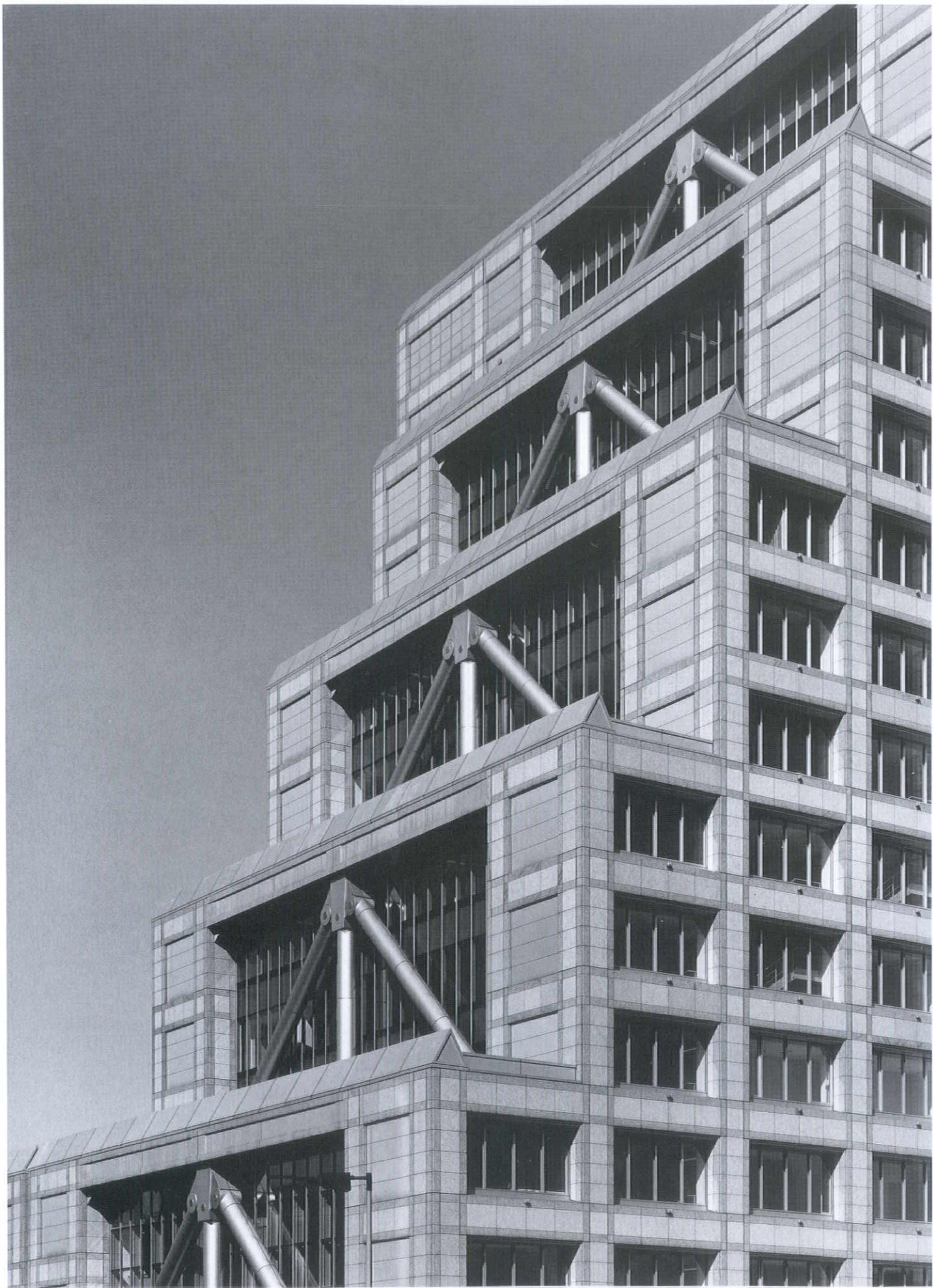


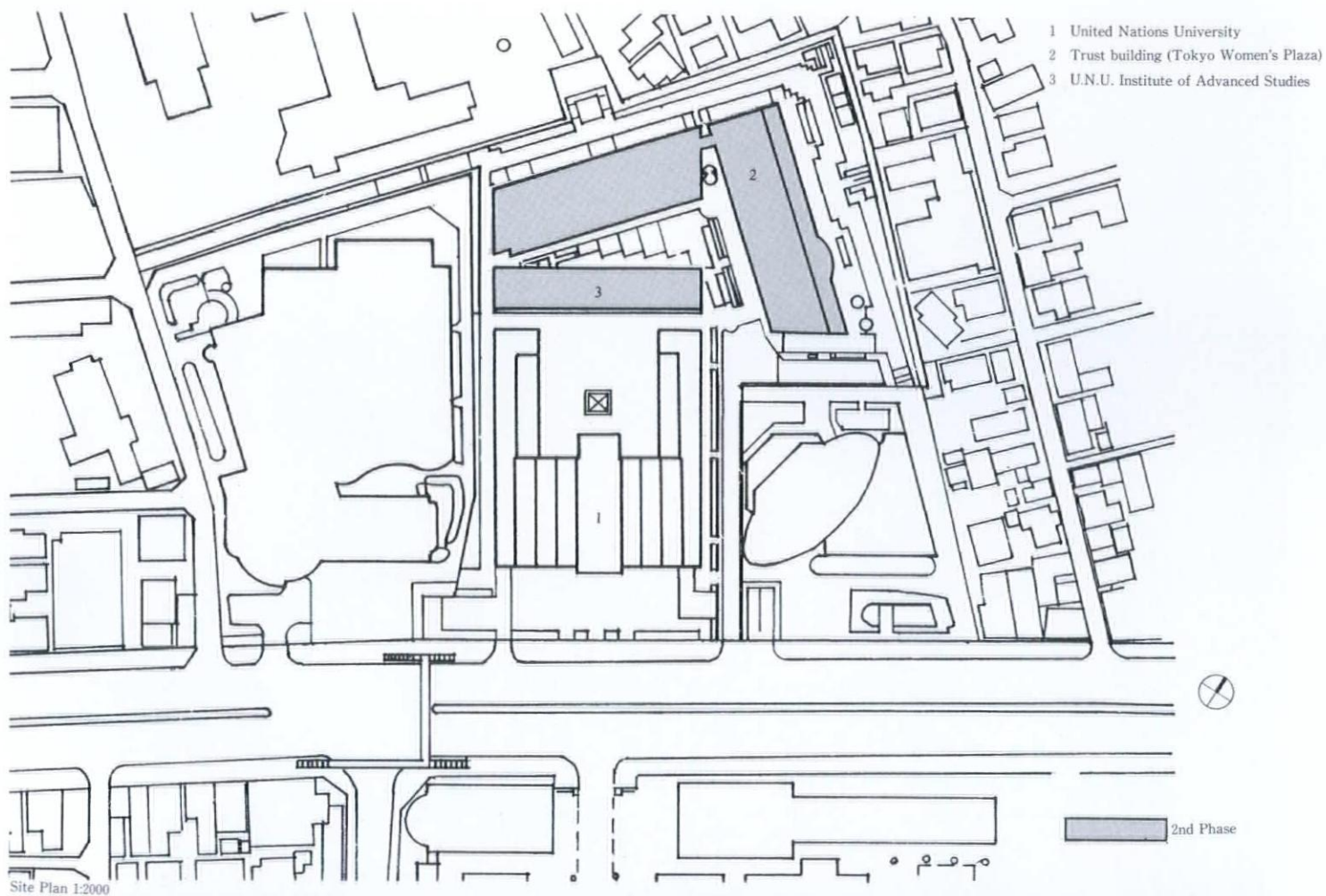
United Nations University
Headquarters and Trust Buildings

Tokyo, Japan 1985-1995

国際連合大学本部施設・信託ビル







The United Nations University was founded by the UN General Assembly in 1973 and is the only UN organization headquartered in Japan. The site was provided by the Tokyo Metropolitan Government and construction was funded by the Ministry of Education, Science and Culture. The University is devoted to research, training, and the dissemination of knowledge on the pressing global problems of human survival, development, and welfare. Its new Tokyo headquarters is the center for planning, coordination, and administration of UNU's entire program of activities. A two phase project, the first phase was the construction of the UN University's Headquarters building and its courtyard, the second phase, part of the Tokyo Metropolitan Government's Land-Trusteeship Project, was the construction of the UN Trust Building and The Institute of Advanced Studies.

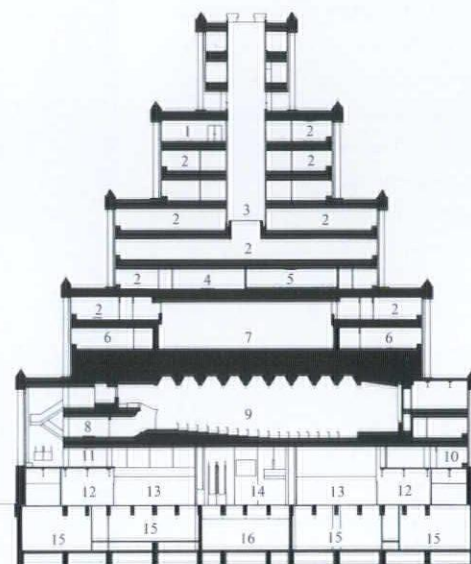
The buildings are located along Aoyama Avenue between the well known districts of Shibuya and Omotesando. Our architectural proposal was to create a perpendicular axis to Aoyama Avenue which would give order to the entire complex. Positioned at the front of the plaza, along Aoyama Avenue and in contrast to the curvaceous surrounding context, the building is a tall symmetrical pyramid shaped structure containing mainly office and conference space. Two smaller flanking structures are linked, via pilotis, with the plaza to enclose a courtyard. The L-shaped Trust building is positioned at the terminus of the axis and cradles a sunken garden. The Sunken Garden brings light into the underground spaces and functions as a buffer between the buildings.

The United Nations University Headquarters Building consists of one underground level and 14 floors above ground. A visually unhindered interior space necessitated a structural super frame with wall and a horizontal bracing every three floors. This unique system allows the lower levels to be used as a meeting hall for large international and mid-sized conferences and the upper floors to reduce in size as they ascend. Due consideration has been given to matters of diplomatic security and the inclusion of energy conservation systems.

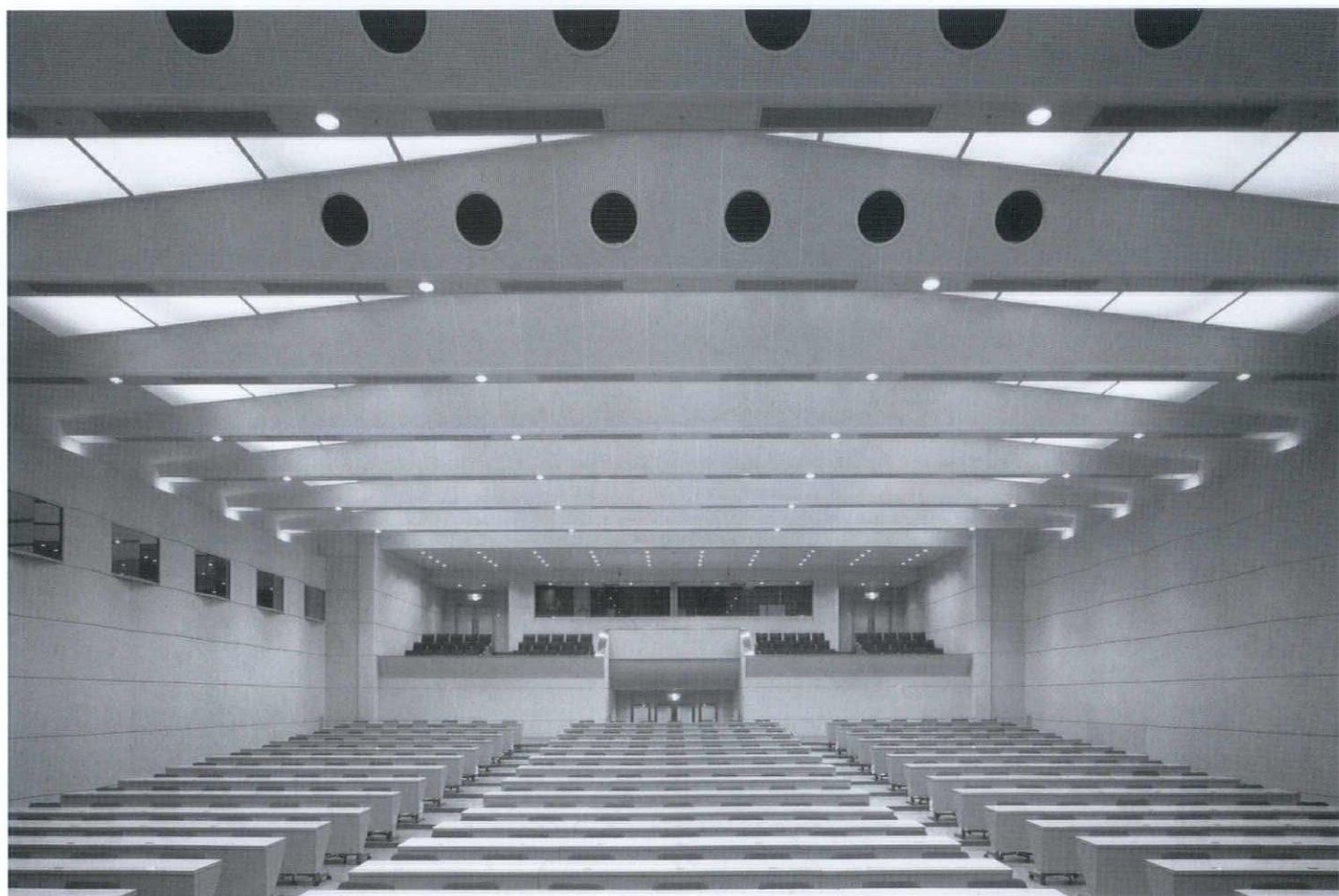




- | | |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 1 Reception Hall | 9 International Conference Hall |
| 2 Office | 10 Library |
| 3 Light Well | 11 Lounge |
| 4 Archives | 12 Retail |
| 5 Computer Room | 13 Piloti |
| 6 Committee Room | 14 U.N.U. Entrance lobby |
| 7 Medium Size Conference Hall | 15 Mechanical Room |
| 8 Foyer | 16 Gymnasium |

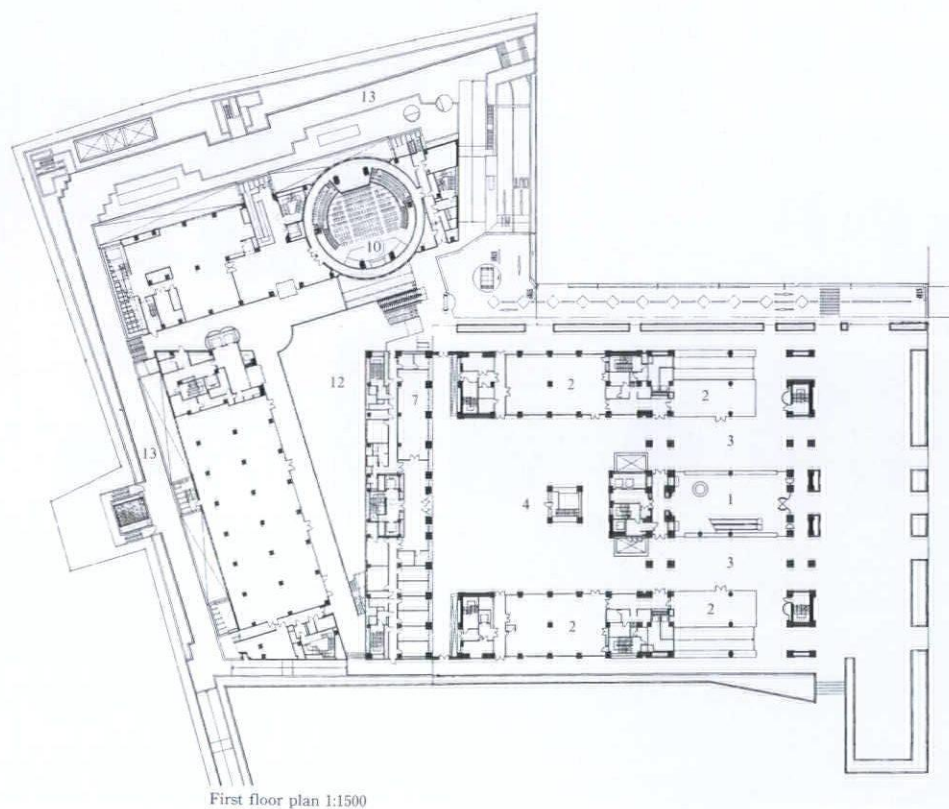
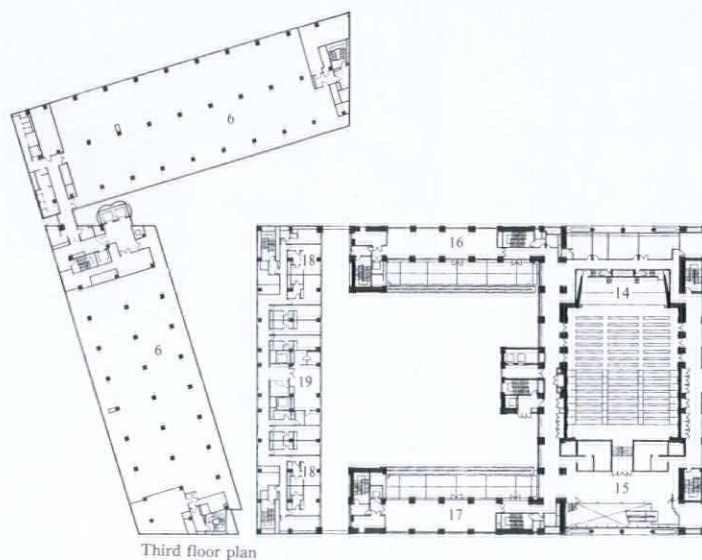
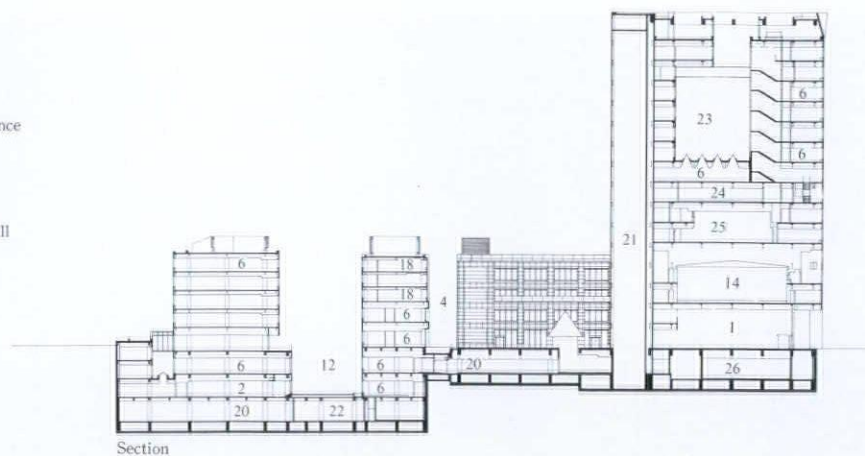


Section 1:1000





- 1 U.N.U. Entrance Lobby
- 2 Retail
- 3 Piloti
- 4 Courtyard
- 5 Institute of Advanced Studies Entrance
- 6 Lobby
- 7 Office
- 8 Seminar Room
- 9 Tokyo Women's Plaza Entrance Hall
- 10 Library
- 11 Multi Purpose Hall
- 12 Office Lobby
- 13 Sunken Garden
- 14 Promenade
- 15 International Conference Hall
- 16 Foyer
- 17 Library
- 18 Exhibition Area
- 19 Dormitory
- 20 Lounge
- 21 Parking
- 22 E.V. shaft
- 23 Mechanical Room
- 24 Light Well
- 25 Computer Room
- 26 Medium Size Conference Hall
- 27 Gymnasium



The United Nations Trust Building houses the Tokyo Women's Plaza with an area of 4,500 square meters, and the remaining area is used as rentable office space. The Tokyo Women's Plaza is a Tokyo metropolitan facility planned as a base for research, surveys and dialogue with the aim of realizing a society where men and women are equal. It is equipped with a multi-purpose hall, library, group activity spaces, conference and discussion rooms. Between the Trust Building and the University Headquarters Building is the UNU Institute of Advanced Studies which occupies approximately 6,000 square meters of space and encloses a courtyard on the same axis as the UNU Headquarters building.

As part of the United Nations University, the UNU Institute of Advanced Studies is equipped with research space, seminar rooms, computer rooms, libraries, and overnight accommodations.

A primary objective was the resolution of the diverse architectural elements while making the most of the available underground space within the prerequisites and maintaining the maximum building height of 21 meters.

Constructed in two phases, the first phase was completed in 1992 and involved construction of the UN University Main Building with a total floor area of approximately 21,300 square meters; the second phase, the U.N. Trust Building, was completed in July of 1995. The two phase project took 11 years from design to completion and is expected to play a significant role in the international society of tomorrow.





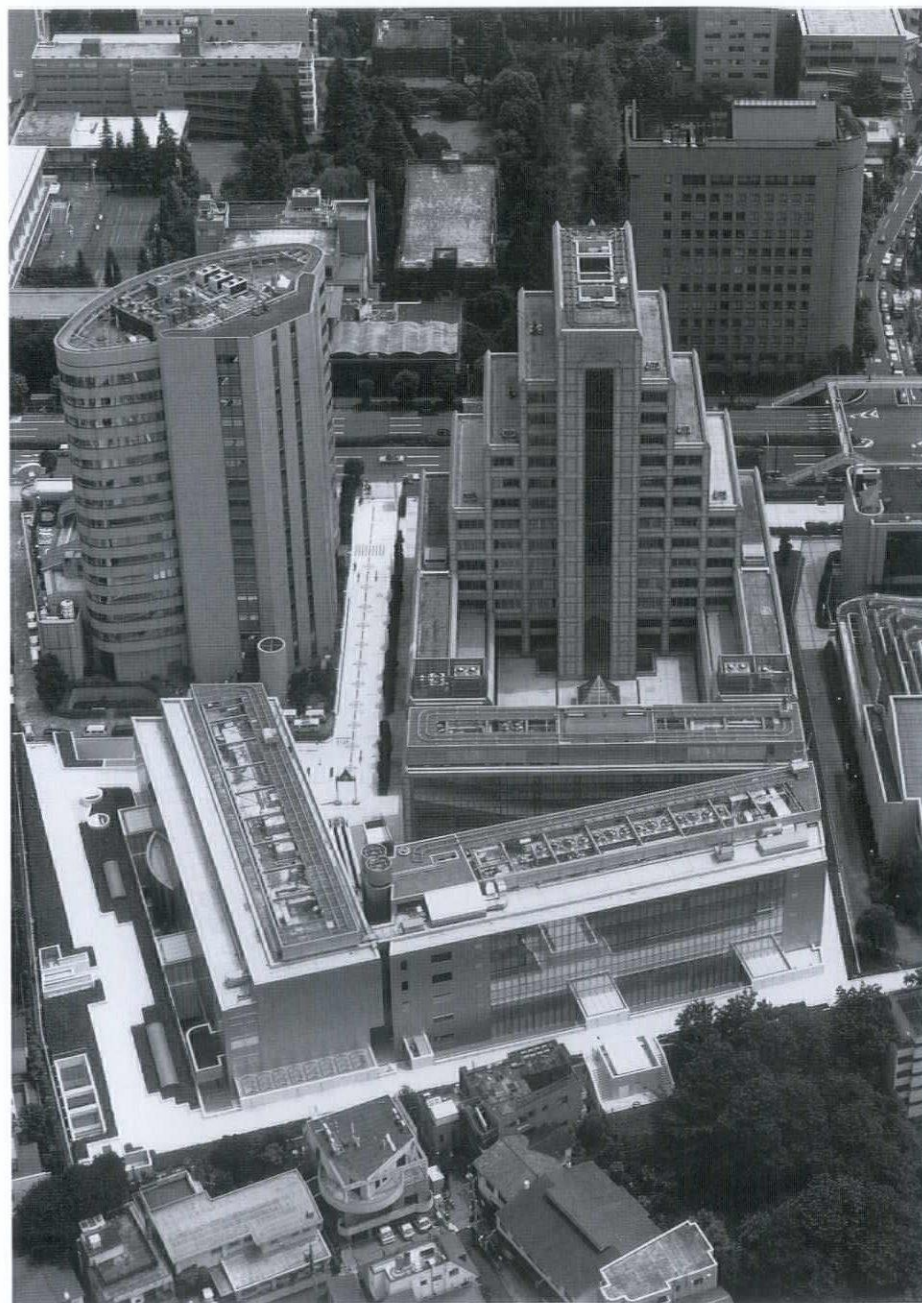
この建築群は、青山通りを渋谷から表参道へ向かう中間に位置し、2期に分けて建設されている。

第1期の国際連合大学本部施設の規模は、地下1階、地上14階、延床面積約21,300㎡であり、1992年に竣工した。

国連大学は1973年の国連総会によって創設された、わが国に本部を置く唯一の国連機関であり、東京都の用地提供と、文部省の建設費負担によって実現した。国連大学の目的は人類の存続、発展および福祉に関わる地球的な問題についての研究、研修および知識の普及を行うことであり、本部施設の機能は、目的のための諸事業を企画調整する中枢機関であって、主に会議および執務スペースで構成されている。設計にあたり、計画地周辺の曲面を持つ建物群とは反対に中央の高いシンメトリーなピラミッド状の高層棟を青山通りに沿った広場の正面に配置し、その広場からピロティで連続する中庭を囲む形での低層棟を左右対称に配置して、青山通りに垂直の軸線を創造することを提案した。特に構造的には高層棟内部を無柱とする必要から、3層ごとの壁面ブレースと水平ブレースの組合わせによる折板状スーパーフレーム架構とした。これによって、国際会議場、中会議場などの大空間を下層部に配置し、上層階ほど面積の減少する建築プログラムに整合させている。また、設備的には本施設の性格上、省エネルギーと国際機関であるためセキュリティには十分配慮されている。

第2期は東京都の土地信託事業の一環で、1995年7月に竣工した。規模は、地下4階、地上5階、延床面積約41,000㎡であり、施設内容は国連大学高等研究所約6,000㎡、東京ウィメンズプラザ約4,500㎡及びその他の部分は賃貸オフィス、店舗等となっている。その内のひとつである国連大学高等研究所は本部施設と一対をなすもので、研究室、セミナー室、コンピューター室、図書室、宿泊室等を設置している。また、東京ウィメンズプラザは東京都の施設であり、男女平等社会の実現を目指した研究や調査、相談等を行う活動拠点として計画され、多目的ホール、図書室、グループ活動コーナー、会議室、相談室等を設置している。

この計画のポイントは日影により高さ21m以下に抑えられた状況の中での配置計画と地下空間の活用にある。配置計画においては本部施設の軸線の延長上にある中庭を囲む形で高等研究所棟を配置して、国連大学ゾーンを確定し、L型のオフィス棟を敷地形状に合わせて置いた。その結果、中央のサンクンガーデンと青山通りから引き込んだ通路を連続させて人の流れを地上と地下に誘導している。このサンクンガーデンは地下空間に対する光庭であり、ゾーンの緩衝帯であり、都市のオアシスとして機能している。また、その他、大部分を占める賃貸オフィスは全てにOAフロアを設置し空調システムも含めて、オフィスオートメーションに対応する機能を持ったものとなっている。設計を始めてから、11年を要して1、2期が完成した。これからの国際社会の中で、この建築群が担っていく役割を期待している。



Makuhari Prince Hotel

Chiba, Japan 1987-1993

幕張プリンスホテル

The Makuhari Prince Hotel, built in the center of Makuhari City as an integral part of the new administration district, was designed with the aim of complimenting the new international convention and business facilities. Located near Nippon Park, the Makuhari Seaside Park, and the Nippon Convention Center, the complex offers convenient first class accommodations and banquet facilities in an exciting yet sophisticated atmosphere.

A 180 meter high, 49 story, triangular tower houses the Prince hotel's 67,000 square meters of floor area. The base of the tower features a grand three story entrance hall with a shopping arcade, meeting rooms, and a small coffee shop.

1,001 guest rooms are situated from the 5th through the 43rd floor and provide guests with dramatic views across Tokyo Bay to the Boso mountains and the scenery of Yokosuka and Tokyo. The 44th to 48th floors contain restaurants and lounges that feature a range of different decor.

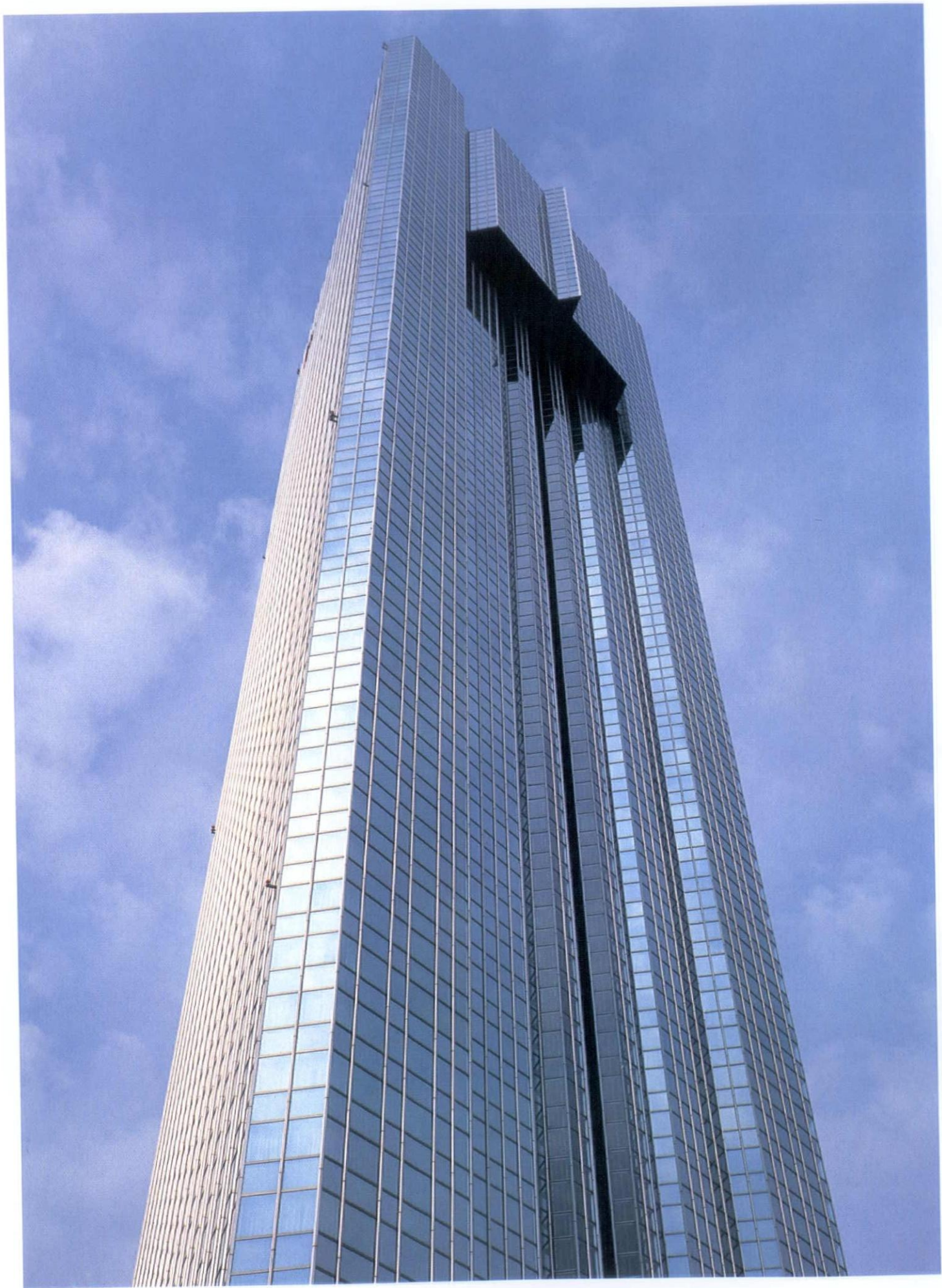
The triangular shape of the tower, designed to assure spectacular views in all guest rooms, is projected to provide overall organization of the site. Along the broad side of the triangular site is situated the banquet building which includes a large banquet and wedding reception hall. The rectangular banquet building has symmetrically positioned ramps that ease congestion and facilitate smooth and effective operation during all kinds of events. The banquet building can be partitioned into 9 different sizes ranging from 172 square meters to 2,000 square meters in order

to accommodate events of various sizes. Situated between the tower and the banquet building is a courtyard that serves as the main entry for both structures. A second-floor aerial walkway located along one side of the tower extends across the entry courtyard and connects the hotel tower with the banquet building.

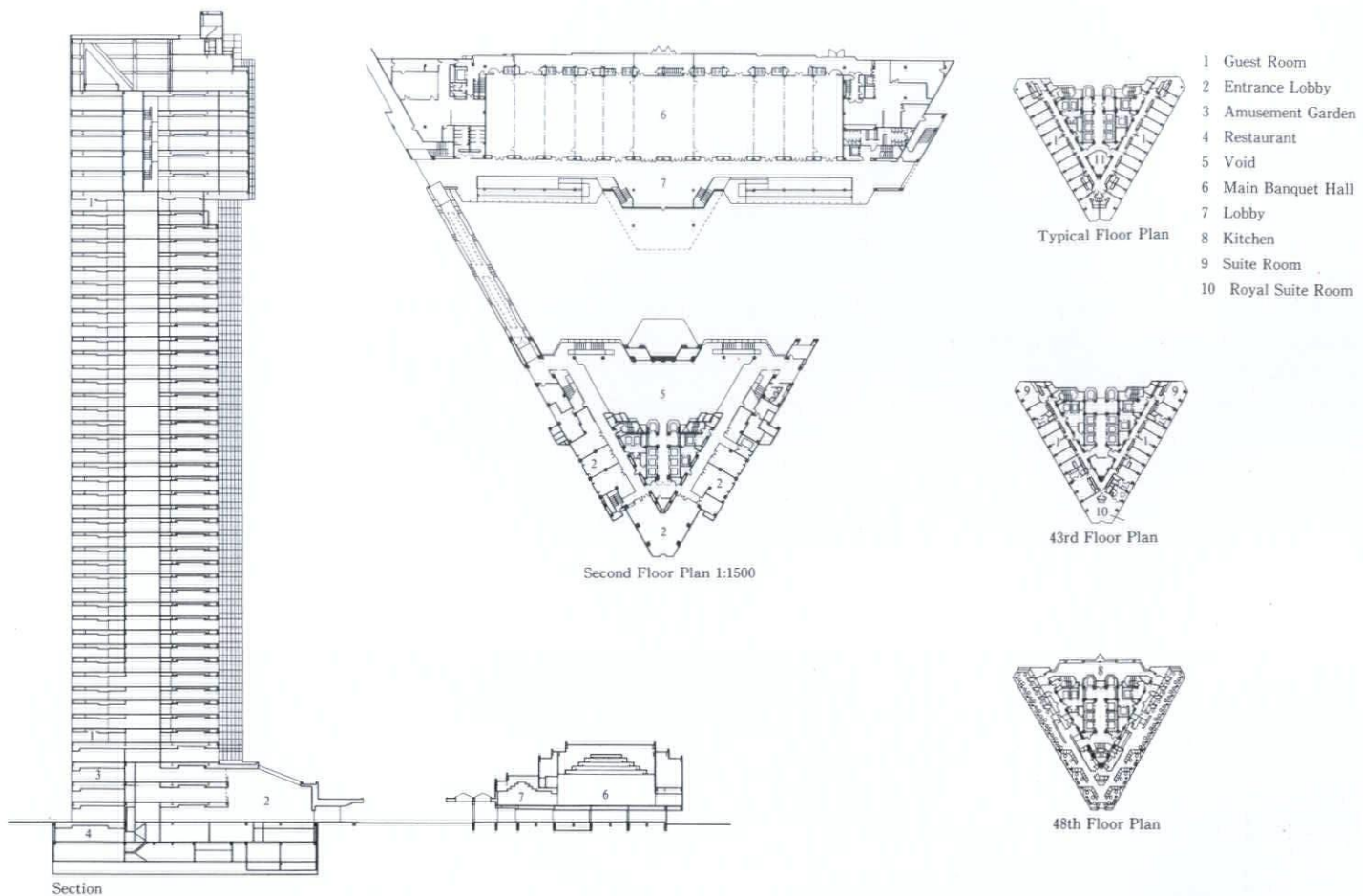
Throughout the building the flow of people on the ramps, escalators and elevators is used to animate and complement the building's design. Two glass elevators provide guests with a stunning view of the developing city center while moving vertically through the tower. A pair of escalators in the three-story entrance hall extend up from the 1st floor to the 3rd and provide separate access to the shopping arcade.

The two phase plan, included the banquet hall building executed in 1989 and the Hotel building completed in 1993.









21世紀に向けて、国際的なメッセとビジネスの複合都市を目指す幕張新都心に、このホテルは建設された。敷地は周囲が日本庭園、海浜公園、メッセ会場に隣接し、3方向が海に開かれた場所である。

全客室が海に面する、高さ180m、49階の三角形平面の超高層の宿泊棟と、これを頂点としてその底辺にあたる所に、大宴会場や結婚式場を含む低層の宴会棟が、玄関車寄せの中庭を挟んで対峙おり、全体のブロックプランも三角形で構成されている。三角形の一边をなす、2階レベルの空中歩廊は高層棟と低層棟を結び、そのまま隣地のメッセ会場へと道路をまたいで連続している。

宿泊棟は1階に3層の吹抜けのエントランスホールや

コーヒーラウンジ、2・3階は店舗、4階は小会議室、5階から43階は1,001室の客室、44階から48階までは各種レストランや展望ラウンジになっており、東京湾越しに房総の山々から横須賀、東京都心の建築群など、ワイドな眺望を楽しむことができる。

低層の宴会棟は172㎡から2,000㎡まで9通りの広さに可動間仕切りで分割でき、様々なイベントの対応が可能である。

宴会棟のロビーの横長なプランを利用して、2階の宴会場まで上りと下りのふたつのスロープを正面に対して対称に配置したため、一度に多人数をスムーズに流すことが可能になり、各種イベントに有効に動いている。また、超高層の宿泊棟に2基のシースルー・

エレベータを配したことにより、変貌しつつ発展を続ける新都心を眺めながら展望レストランに直行できるようになっている。また、3層吹抜けのエントランスホールにも1階から3階までの一対のエスカレータが配されており、ホテル宿泊客と分離した展望レストランや店舗の客の動線となっている。

この建物はスロープ、エスカレータ、エレベータという動線上の人の流れが、建物の外観部分のデザインと呼応しているのが特徴である。

1989年に宴会棟が完成し、引き続き宿泊棟が1993年に完成という、2期にわたる配置計画で総床面積67,000㎡のホテルである。









Bay Square Yokosuka

Kanagawa, Japan 1989-1993

ベイ・スクエア・よこすか

Located at the entrance to the Miura Peninsula, a developing beach resort area with a long history, the Bay Square Yokosuka Complex was constructed as part of the Housing and Urban Development Corporation's Urban Renewal Project intended to create a new urban development on subdivided lands between Yokosuka's Highway 16 and Keihin Kyuko's Shioiri station. A number of distinct facilities with multiple functions and scales are unified and arranged into the very accessible Bay Square Yokosuka Complex. The structure includes a 91 meter high tower housing the Yokosuka Prince Hotel, the opera house-style Yokosuka Theater seating

1800, the Yokosuka Bay Side Pocket theater with movable seating accommodating between 200 to 574 people, residences provided for the site's original occupants, an industrial promotion plaza, a commercial facility, a 261 car underground parking facility and its own air-conditioning/heating plant. The tower, reminiscent of the American Navy's old EM Club Tower, the birthplace of Japanese jazz that was originally located in the area, is square in design and serves as a new city landmark.

The Bay Square Yokosuka site is pierced by an urban axis around which the building has been organized. At the ground level this axis becomes a central circular driveway designed to alleviate the area's congested traffic. A terraced plaza known as the "Galleria" is situated above the interior street on the 2nd, 3rd and 4th floors and is connected by escalators and stairs and provides a distinct entrance for each facility.

This plaza was designed so that the 3rd floor level plaza would directly link to an overhead platform in Shiori station sometime in the future. The "Galleria" plaza, with its large transparent glass roof, forms the nucleus of the facility and was designed with the hope that it would spur activity and become a symbol of the cultural, industrial, and intercommunication network of this multi-functional city space.

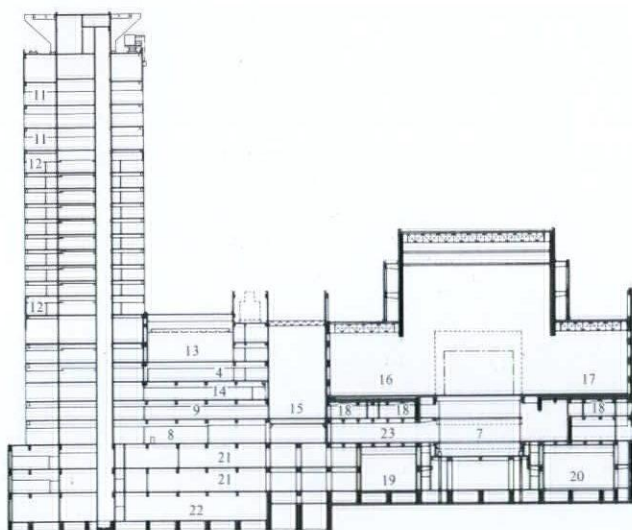
The building's exterior design expresses the uniqueness of the different facilities inside while maintaining an overall unity. To achieve this, the entire facility is wrapped by a single enclosure system that conforms to the irregularity of the site in order to maximize the building to site ratio. To include human scale into the windowless halls and banquet rooms, the outer wall is articulated with reinforced pre-cast vertical ribs clad in tile, emphasizing the height of the structure.



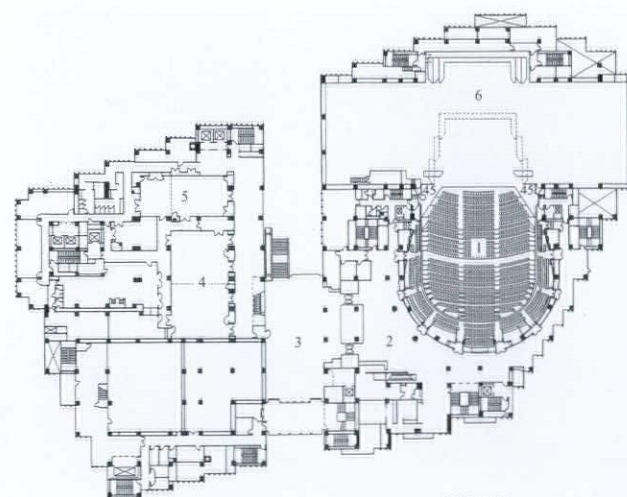




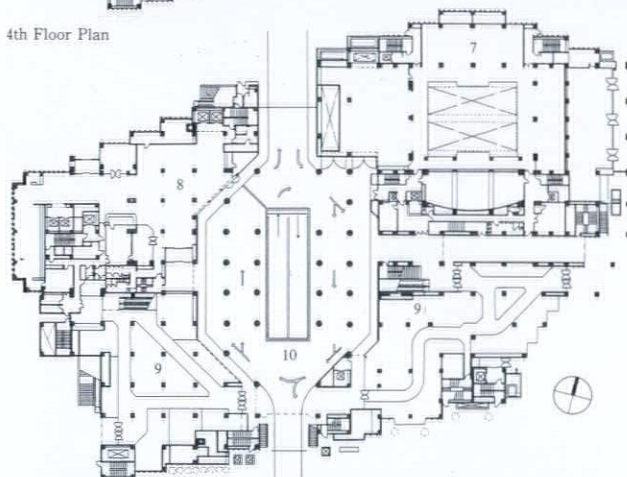




Section



4th Floor Plan



First Floor Plan 1:1600

- | | |
|-----------------------|-------------------------------|
| 1 Main Hall | 13 Main Banquet Hall |
| 2 Foyer | 14 Industry Promotion Plaza |
| 3 Entrance Hall | 15 Gallery |
| 4 Middle Banquet Hall | 16 Left side Stage |
| 5 Small Banquet Hall | 17 Right side Stage |
| 6 Stage | 18 Dressing room |
| 7 Under stage | 19 Rehearsal Room, Small Hall |
| 8 Hotel Lobby | 20 Rehearsal Room, Main Hall |
| 9 Shop | 21 Parking |
| 10 Porte Cochere | 22 Machine Room |
| 11 Restaurant | 23 Loading Dock |
| 12 Guest Room | |



歴史とロマンの海浜のリゾート地域として発展する三浦半島の玄関にあたる、横須賀の国道16号線と京浜急行汐入駅に挟まれた、細分化された土地を新しい街づくりとするために、住宅・都市整備公団の市街地再開発事業として〈ベイ・スクエア・よこすか〉が建設された。

高さ91mの高層の客室棟を持つ〈横須賀プリンスホテル〉、1,800席（2,000人収容）のオペラ座タイプの〈よこすか芸術劇場〉、200～574席（600人収容）の可動の客席と舞台をもつ〈ヨコスカ・ベイサイド・ポケット〉、他に地権者住宅棟、産業振興プラザ、商業施設〈アパート〉、261台収容の地下駐車場、地域冷暖房プラントと異なった機能とボリュームのこれらの施設を、統一ある分りやすい造形でまとめる手法として、施設のほぼ中央に都市軸を貫入させ、1階をホテル、劇場、店舗、地下駐車場の自動車の車寄せとし、周辺の交通緩和を図っている。

上部2～4階までをエスカレータと階段でつないだ、段状の広場として各施設の入口を設けている。また、この3階の広場は将来汐入駅の高架プラットホームへ直接連絡できるように考慮されている。透明ガラスの大屋根で覆われた広場は「ガレリア」と呼ばれ、この施設の核となり、多機能が複合した都市空間の文化、産業、交流のネットワークの拠点として、人々に利用され、新しい活力の象徴となることを望んで設計した。

また、外観のデザインは各施設の独自性を表現し、かつ全体が統一されるよう考慮している。そのため雁行した大壁面で全体をまとめている。その結果、ひとつとして平行な辺のない不整形の敷地に沿って建ぺい率いばいに設計する条件を克服している。ホールや宴会場と窓の少ない大壁面の低層棟に人間的スケールを出すことや、高層棟の高さを強調したいという考えから大壁面に縦リブを組み合わせた外壁を考案している。このリブはまた、タイル打ち込みのPC版やPCF版（型枠兼用）の補強にもなっていて施工に大変役立っている。

ホテルの最上階3層のレストランを含む、客室棟は正方形平面でのタワーとして設計されて、都市のランドマークの役目も持っており、またこのタワーはかつてこの場所にあった旧米海軍施設EMクラブ（日本のジャズの発祥地）のタワーのイメージにも類似させたデザインとなっている。



Hiroshima Peace Center Complex

Hiroshima, Japan 1946-1994

広島平和記念公園

The plan for the Hiroshima Memorial Peace Park was based Kenzo Tange's winning entry in the 1949 design competition. A one hundred meter wide road was created through the center of Hiroshima City connecting the Atomic Bomb Dome, the Flame of Peace, the Cenotaph for the A-Bomb Victims, the Courtyard of Prayers, and the Hiroshima Peace Memorial Museum. This "Axis of Prayer" was designed as a space for contemplation and prayer. The Hiroshima Peace Memorial Museum, raised up on pilotis, serves as a symbolic gateway to the city of Hiroshima and dominates the Hiroshima City Auditorium and Memorial buildings that flank it. The three buildings, connected by aerial walkways, form a second axis perpendicular to the "Axis of Prayer".

The Hiroshima Peace Memorial Museum Building was completed in 1952 and followed three years later by the completion of the Memorial Building. Unfortunately, the third building in the composition, the Hiroshima City Auditorium, was completed at a later date by

another design firm. Thirty years later, Kenzo Tange Associates was asked to assist in the renewal and renovation of the Peace Park facilities.

In 1985, the Cenotaph for the A-Bomb Victims, which was made entirely of concrete was reconstructed out of 12 sculpted pure granite stone slabs in the form of an arch.

Major reconstruction of the Hiroshima City Auditorium was necessary in order to create a building that could serve as the new venue for international exchange in Hiroshima, a city dedicated to international peace. The Hiroshima City Auditorium was reconfigured into an international conference facility that contains a Music and General Assembly Hall that seats 1,500 people and is equipped with a sound reverberation control system, an International Conference Hall, and meeting rooms of various sizes. Since these facilities do not require natural light, most are situated below ground, but sunken gardens in the lobby, the entrance hall and the conference management room create a pleasant airy atmosphere full of natural light. Below ground construction was necessary to limit the overall building to land ratio to a maximum of 7% within the park and keep the structure's height well below that of the Hiroshima Peace Memorial Museum. The original design of the park envisioned structures

that were specifically designed to exert minimal influence on their surroundings, so that the overall image of the area would remain unchanged. Renovations in the General Assembly and International Conference Halls, including the refined stone style finish, were completed in 1988. The Auditorium building's reinforced concrete facade was covered with more durable granite slabs with careful consideration being given to emphasize the granite facade's detail without changing the building's overall aesthetic appearance.

The entire concrete facade of the Hiroshima Peace Memorial Museum was renovated in 1991. To preserve the original form as much as possible, only the large surface areas of the 2nd floor of the building were clad with granite, while the remaining parts of the concrete facade were simply cleaned and reinforced.

The Memorial Building was renovated as a display hall with a new large underground storage facility and a second floor link to the Hiroshima Peace Memorial Museum. The exterior of the memorial building was also clad in matching granite.

Forty five years after the original design competition, the Hiroshima Peace Memorial Park was completely renovated with new functions for a new age with the buildings retaining their original design intentions.







Peace Centre Master Site Plan 1:2800

平和公園の計画は1949年の競技設計で丹下研究室案が入選したものに基いている。広島市を貫通する100m道路とそれに直交する原爆ドーム、平和の灯、慰霊碑、祈りの広場、資料館、とつながる「祈りの軸」で祈念的空間を表現している。ヒロティ建築の資料館は、広場のゲートの役割を持ち、左右の公会堂と記念館は、高さも少し低めにし主従の関係にまとめている。この3館は空中回廊で結ばれて、一体となった計画であった。そして、この計画に基づき1952年資料館が完成、続いて1955年記念館が完成、公会堂は残念ながら他の設計事務所により完成された。それから約30年経過し、これらの施設のリニューアルが始まり、1985年にまずコンクリート打放しの慰霊碑は無垢の花崗岩のピース12個を組合わせたものに改修された。次いで公会堂が、21世紀に向けての

国際平和文化都市広島にふさわしい、国際交流の場として大きな規模で建て替えられることになった。この国際会議場の施設は残響可変装置を持った1,500人の音楽ホール兼総会議場、国際会議場、大小の会議室などあまり採光を必要としない施設であるので、その大部分を地下に配置している。しかし、ロビーや玄関ホール、会議運営事務局などは3カ所のサンクンガーデンを配して、地下にいても地上と同様な雰囲気をつくり出している。このような地下建築となったのは敷地が公園内で、建ぺい率が全体で7%以下に抑える必要があり、また高さも資料館より抑えて、全体のイメージを変えずに公園への影響を少なくするために特に設計されたものである。建物の外装をコンクリート打放しの柱梁を表現した原案に対して、耐久性のある花崗岩に置き換えたデザインで全体の

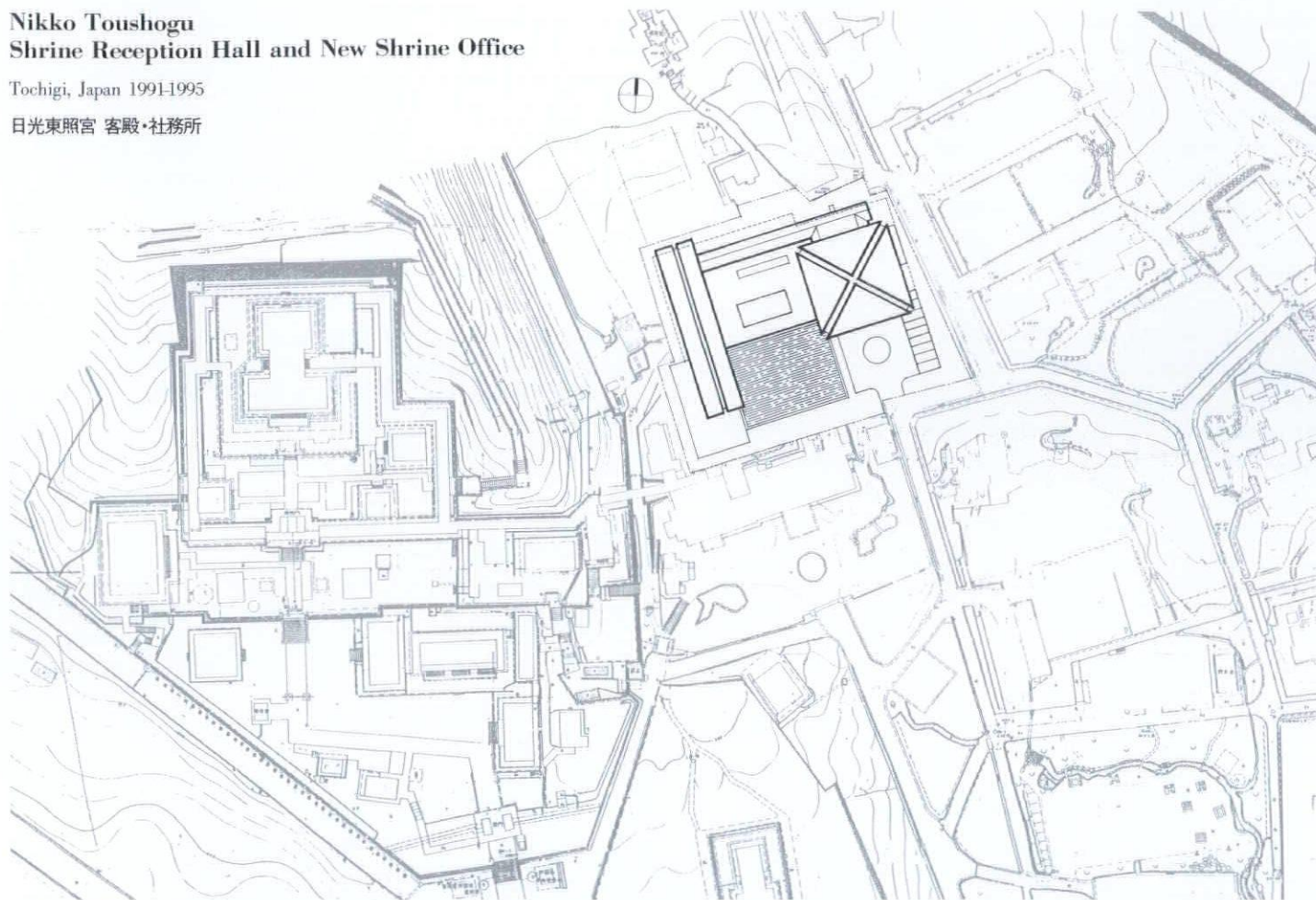
印象を変えずに石貼りのディテールを出すように考慮した。総会議場、国際会議場のインテリアも石貼りとし格調ある空間となり、1988年に竣工した。中央の資料館は1991年にコンクリートの打放し面を補修し、2階の妻壁を原案と合わせて花崗岩貼りとし、2階の一部を補強するなど原形を出来るだけ保存することにした。引き続き記念館も新しく地下に大きな収蔵庫を含む展示場として建て替えられ、資料館と回廊でつなげひとつの展示空間として再構成された。なお、外観は国際会議場と合わせて石貼りとし、これらは対になっている。このようにして設計競技入選から、実に45年をかけて、平和公園が当初のイメージに近く、しかも新しい時代に合わせた新しい機能の施設として完成した。



Nikko Tōshōgū
Shrine Reception Hall and New Shrine Office

Tochigi, Japan 1991-1995

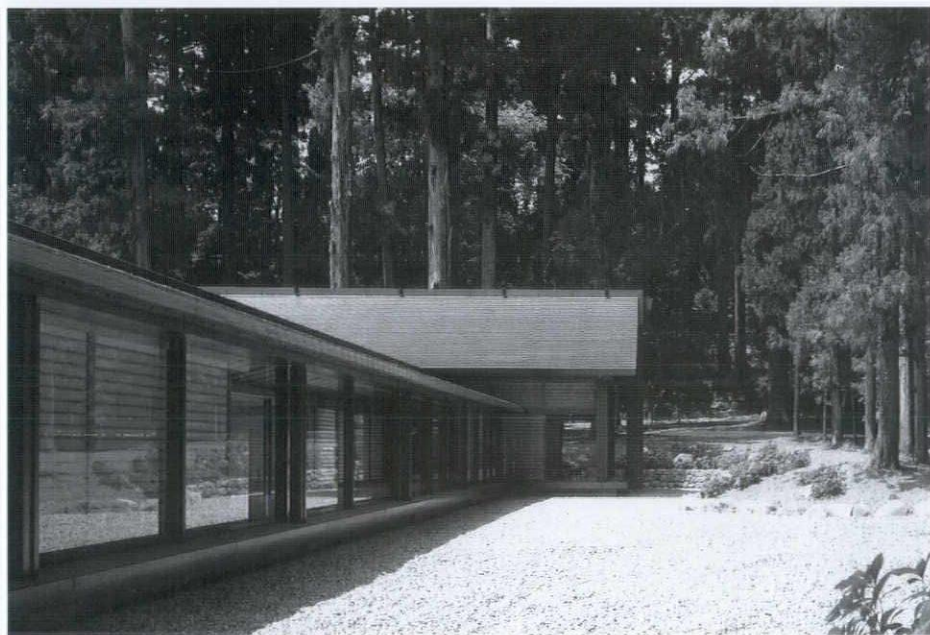
日光東照宮 客殿・社務所



Site Plan 1:2000



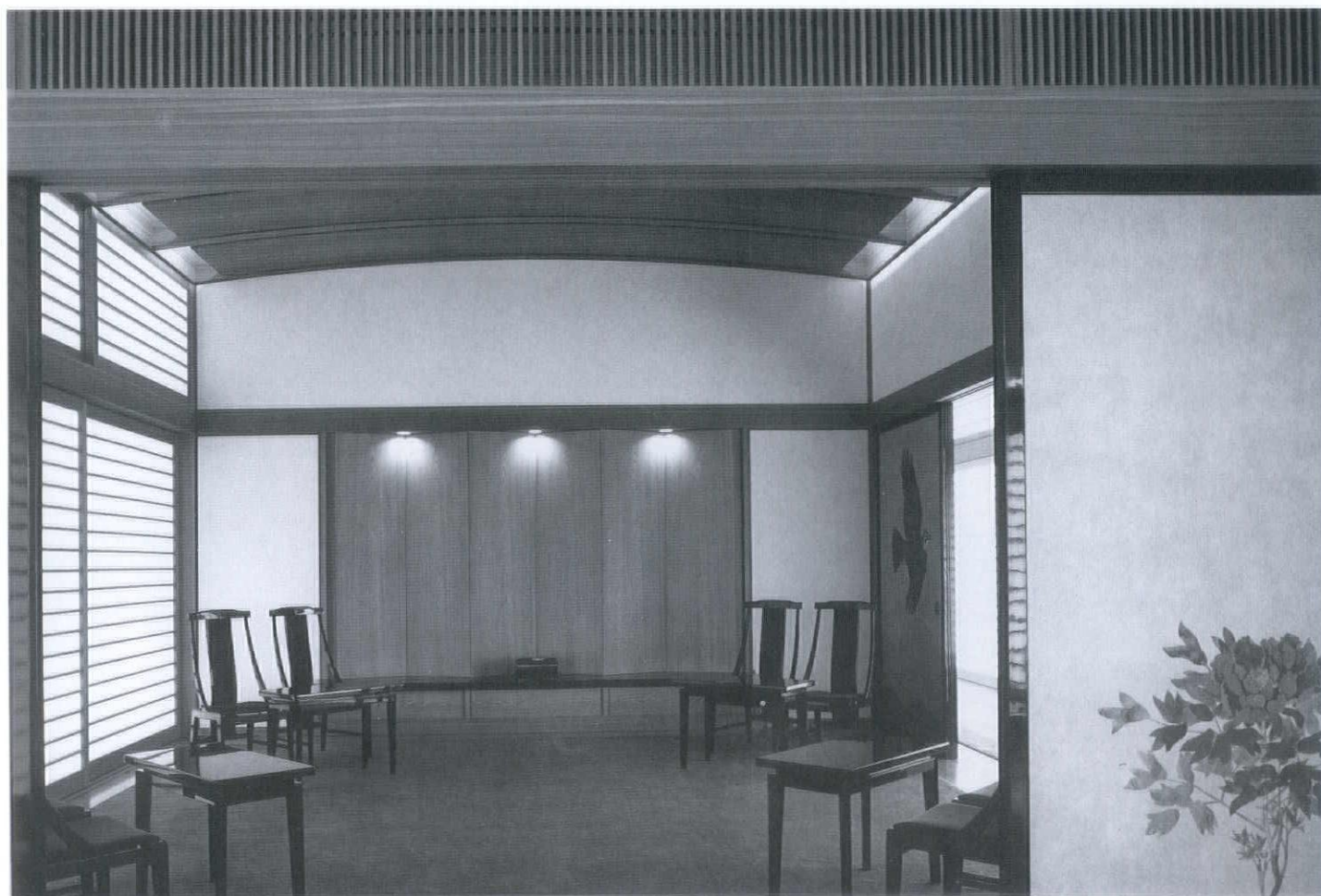


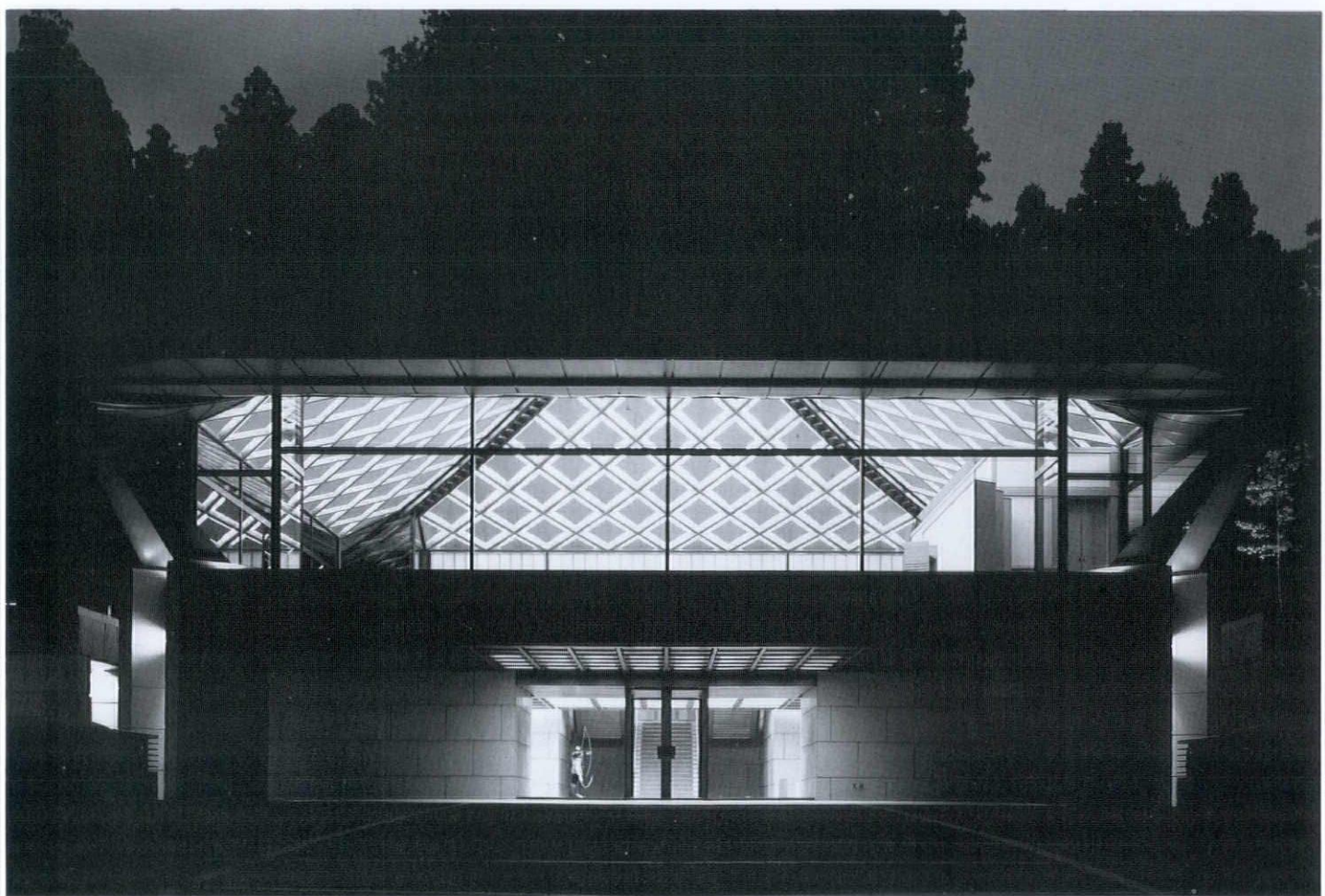


This building is adjacent to the old shrine office situated in the eastern part of the Nikko Toshogu Shrine, and was constructed as a commemorative project to celebrate both the coronation of the Emperor and the 450th anniversary of the birth of Ieyasu Tokugawa who is enshrined there. Completed in May 1995, it is a two-story structure, 16.4 meters in height, with a total floor area of 2,953.6 square meters. It was constructed for two main purposes: as a reception hall to receive special guests who arrive frequently from Japan and overseas, and to house the shrine's administrative office, the guest service area, and the preparation area for Shinto rituals. The plan involved incorporating into the design certain compositional elements typical of the "shaden" (the place where the divine body lies), using corridors for inter-communication. These elements emphasize the continuity with the old shrine office, which has been renovated into a museum that is open to the public. Special consideration was given to ensure harmony with the surrounding environment which consists of a thick cedar grove and natural topology that gently slopes from the mountain ridge linked with Mount Nantai. Situated on the first floor, and in harmony with the natural topography, are a number of rooms, including the shrine office, reception room, and purification area. Due to the continuity in height between the building and the surrounding stone walls, it was possible to express this first level in the form of a stone base using the existing rock foundation. The second level consists of three elements, the Grand Hall with its square roof, the Guest Hall with its gabled roof, and a glass walled corridor connecting the two buildings achieves a sense of visual unity between the landscape and the old shrine office while preserving the sense of abundant space inside. The Grand Hall was designed and constructed as a large square space with a high ceiling for Shrine events; the Guest Hall, with its visitor's lounge and hall, was designed to give unity and composition to the various elements, including the visitors lounge and hall. Nikko has very rainy and humid weather and careful consideration was given to durability; bronze was employed for the facing, fittings and fixtures and copper sheets are used on the roof. Seasoned Nikko cedar was used in the ceiling, fittings and fixtures inside the structure, creating a natural sense of continuity between the inside and outside. Therefore, the structure's design emphatically incorporates new materials and technology that satisfy a form and function for modern architecture, while achieving harmony with the natural environment and historical buildings in the area.









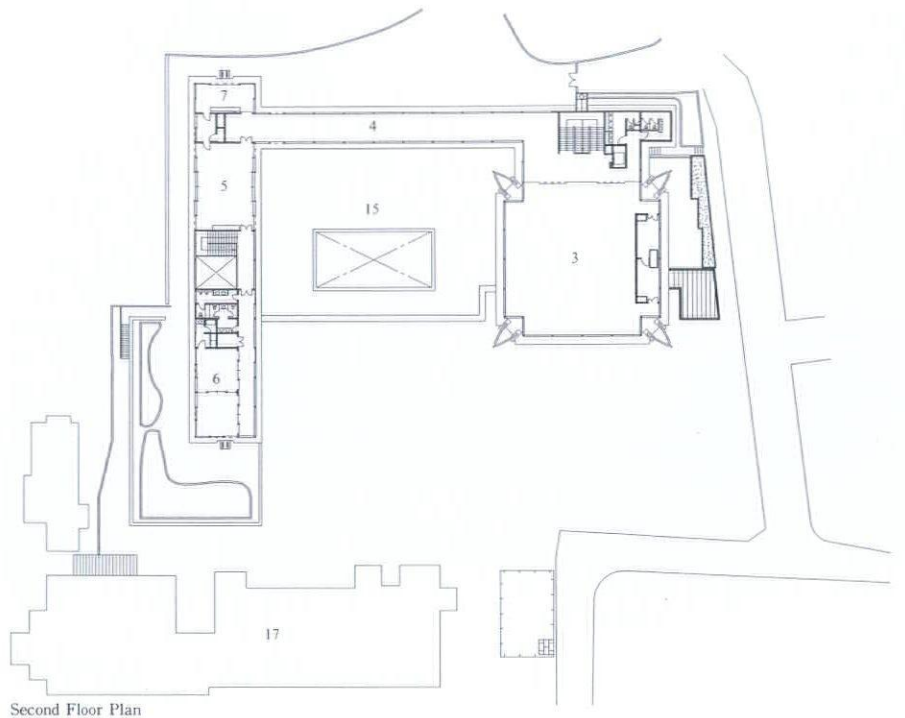
この建物は、日光東照宮境内の東側に位置する旧社務所に隣接して計画され、天皇陛下御即位を祝して、また祭神である神君徳川家康公誕生450年祭の記念事業として建設された。1995年5月の竣工で地上2階建て、高さ16.4m、延床面積2,953.6㎡で、1階部分はRC造、2階部分はS造の構造とした。

日光東照宮は国内外より賓客の訪れる機会が多く、そのために迎賓館としての機能を持つ客殿と、神社としての事務や接客、神事の準備を行う社務所の大きくふたつの用途からなる。

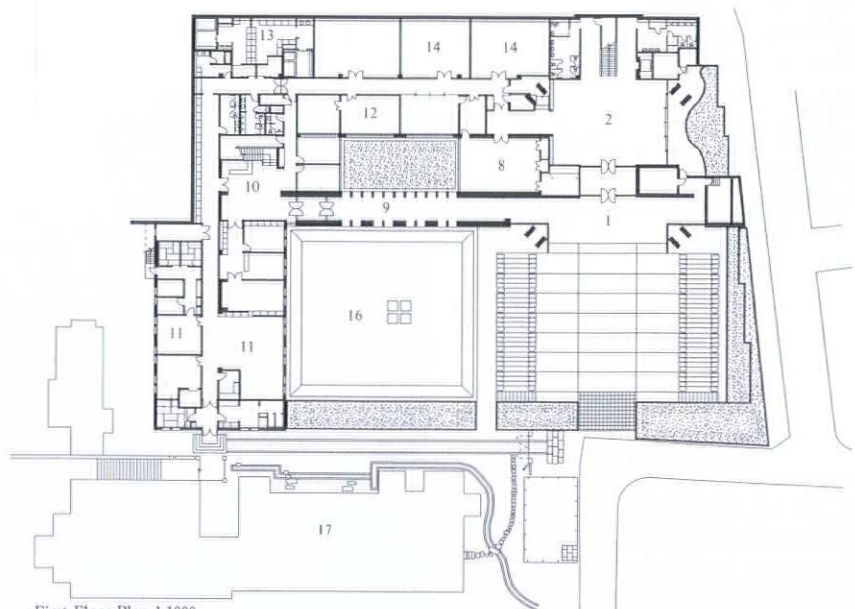
設計にあたって、男体山に連なる山稜よりの緩やかな斜面となる自然の地形と深い杉木立に囲まれた周囲の環境との調和、また改装して美術館として公開される旧社務所との連続性を尊重し、廻廊で連絡する社殿の構成要素を配置計画に取り入れる計画とした。

1階は、社務所としての機能を果たす事務室、応接室、潔斎場等の諸室を自然の地形に従って配置し、周囲の石積に高さを合わせ連続させることにより、既存の地盤面を再現する石の基壇として表現した。これにより、緩やかな登り坂になる正面アプローチより見て、建物の圧迫感をなくし、2階部分と後に続く杉木立との関係をより自然なものとした。建物と旧社務所の間は、社務所部分と正面玄関の車寄せとの距離を保つための機能と、神社としての心身を清める精神面の表現として、水を湛えた池を配した。

2階部分は客殿として象徴的に扱い、旧社務所との景観の一体性と、より豊かな内部空間の確保を目的として、銅板一文字葺の勾配屋根とし、方形屋根の客殿棟と切妻屋根の賓客棟を廻廊でつなぐ3つの構成とした。客殿（大広間）は、神社の行事を行うため多数の人が一同に会する必要性により、四隅にバランス良く柱を配した正方形で、高い天井を持つ大空間とした。休憩室、広間等の賓客棟は諸室の構成と既存との一体性を考慮して、境内の石垣に沿って、直線に配置、周囲の自然の地形と杉木立に負けない力強さを強調する建物とした。また、日光は多雨多湿の気候であり、耐用性を考慮して、外装や建具にはブロンズを採用した。内部の天井や建具等の造作には日光杉並木古材を用い、内外空間の連続性をより自然なものとした。このように、この建物は自然環境や歴史的建物と調和を図りながら時代にふさわしい機能と形態を満足させる新しい材料と技術を積極的に取り入れる計画とした。

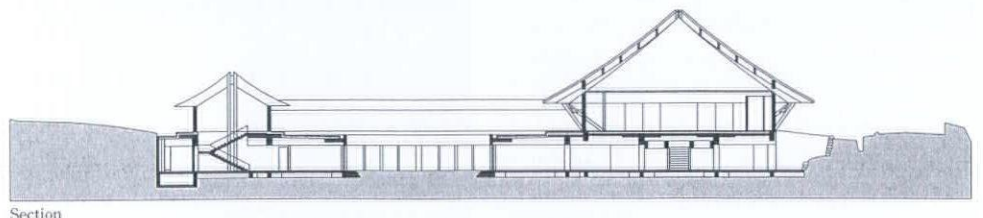


Second Floor Plan



First Floor Plan 1:1000

- 1 Porte Cochere
- 2 Foyer
- 3 Grand hall
- 4 Gallery
- 5 Hall
- 6 Distinguished Guest's Room
- 7 Ante-room
- 8 Conference Room
- 9 Covered passageway
- 10 Reception area
- 11 Office
- 12 Archives
- 13 Purification Area
- 14 Machine Room
- 15 Stone Garden
- 16 Pond
- 17 Nikko Toshogu Museum



Section

Yamaguchi Prefectural Museum in Hagi

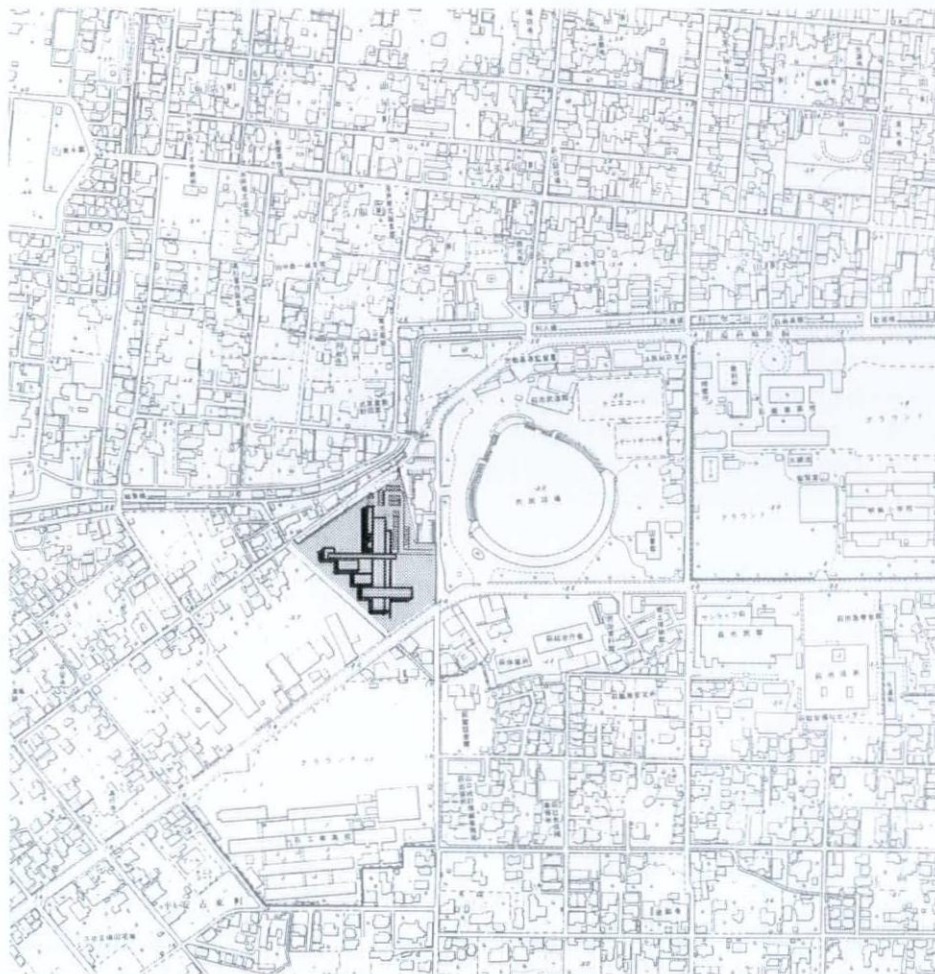
Yamaguchi, Japan 1993-

山口県立萩美術館

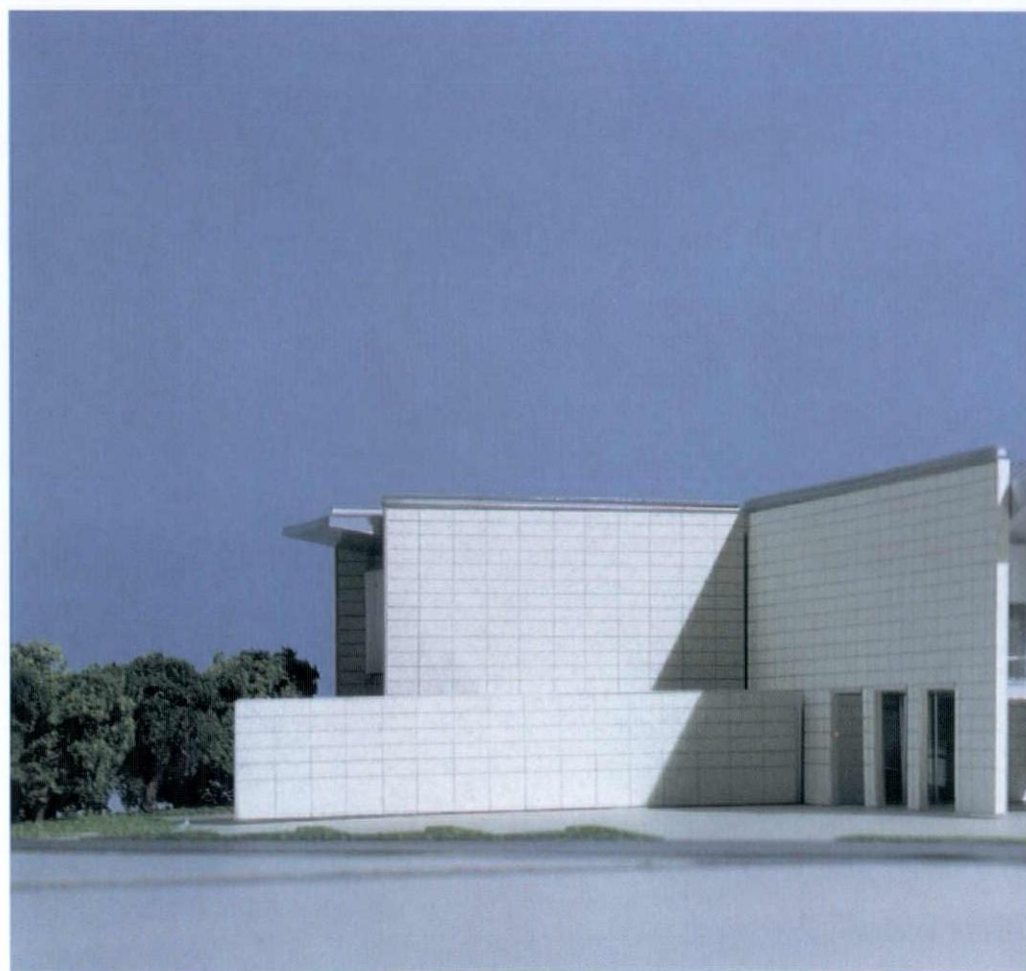
This project is a specialized art museum to promote cultural exchange and is designed to serve as a venue for the display, collection, and research of art. The museum's permanent collection includes the personal collection of Ukiyoe and ceramic objects donated by Hagi-born art collector Toshiro Uragami.

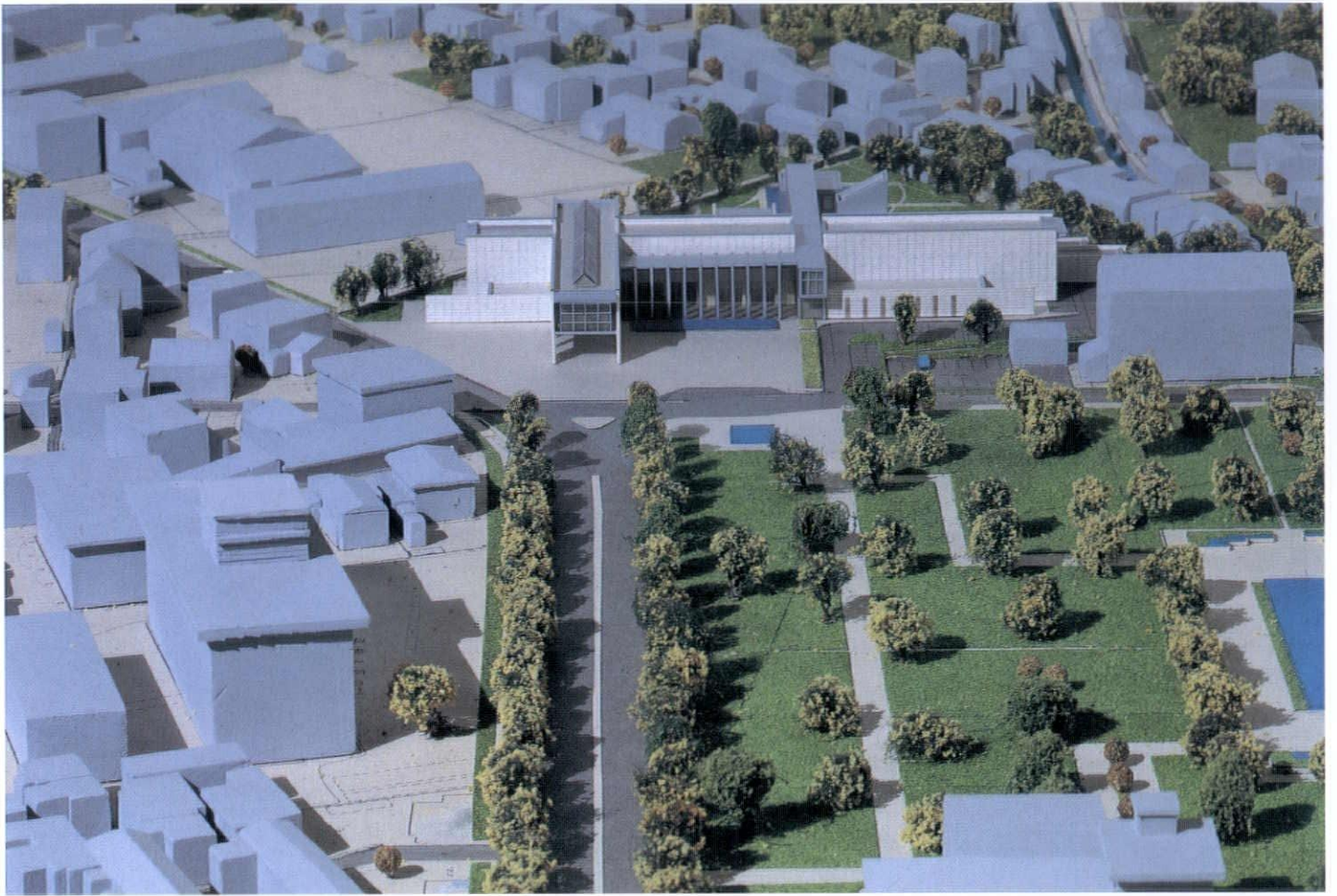
Located in the City of Hagi, the site is adjacent to various public facilities including the City Hall, the civic center, the library, the museum, and an information center. Immediately to the north of the site is an historical district which includes an area dedicated to the preservation of traditional castle town architecture. The site is strategically located at the very important intersection of Hagi City's historical, administrative, and cultural districts. There are a number of future projects planned in the vicinity of the site, including the widening of National Highway 191 into the city's central green axis and the construction of a new city park on the site made vacant by the relocation of the municipal baseball park.

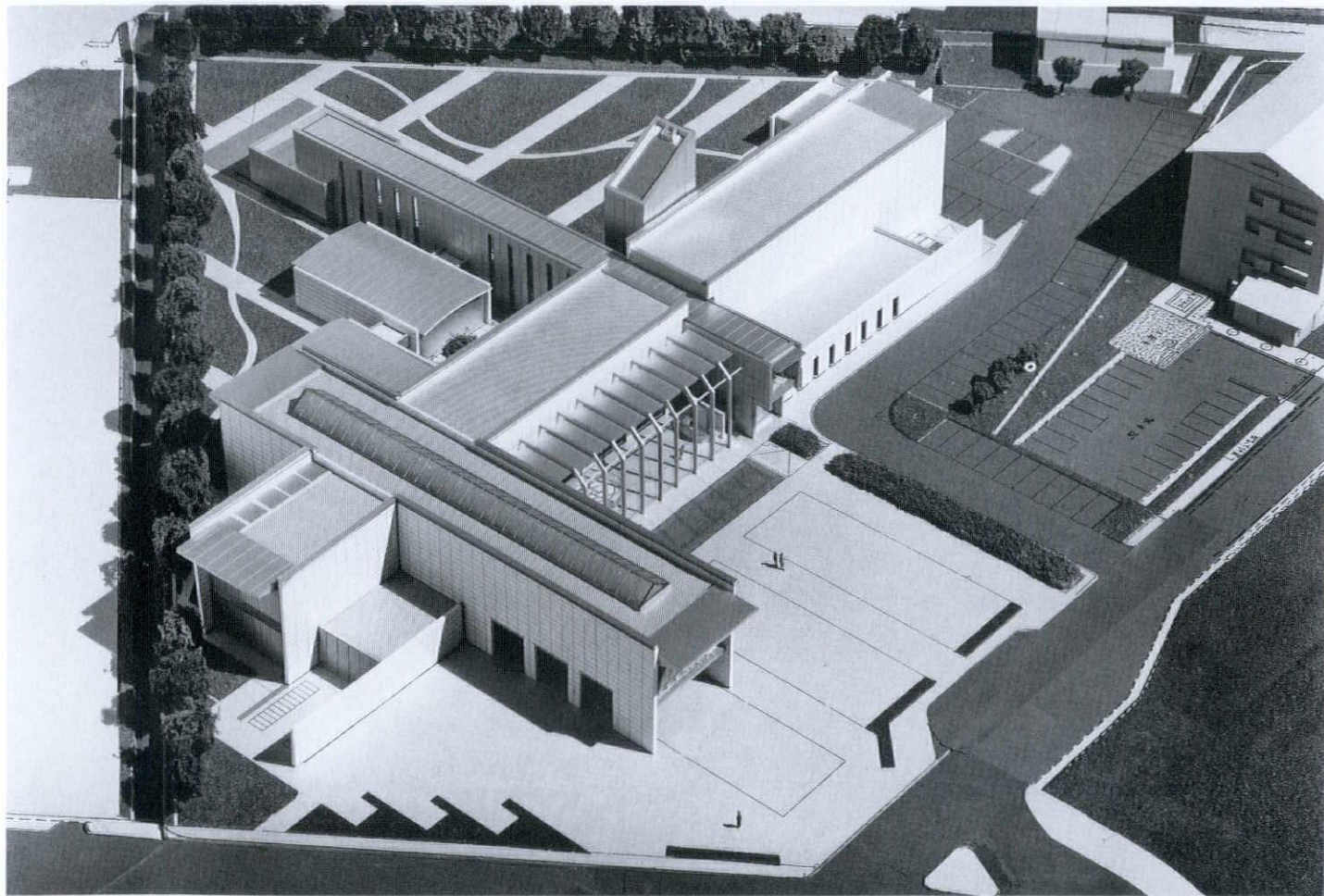
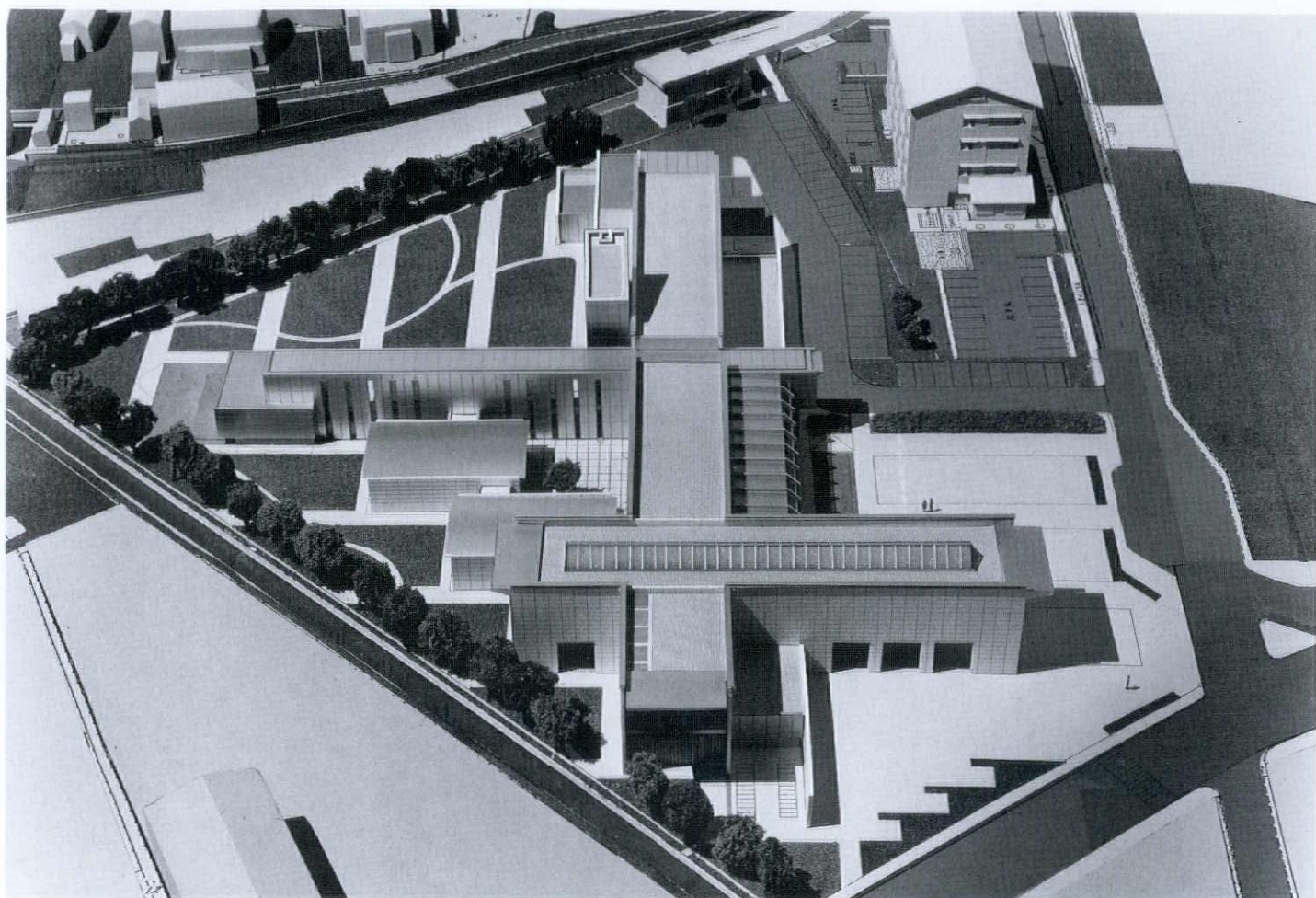
The architectural composition of the building is designed to create a number of distinct identities when viewed from different parts of the city. The predominant mass of the building, projecting forward, is situated at the terminus of an important city axis formed by National Highway 191 and can be viewed from over a kilometer away. On the West and North sides, the mass of the building is broken down into a number of small volumes to match the scale of the small streets of the old castle town. A large rectangular volume presents a monumental and formal facade facing the city's administrative and cultural area in the East. The irregular geometry of the site is adjusted with a series of small volumes, in a stepped pattern that emulates the formation of birds in flight and these rooms contain Ukiyoe display space. A garden with abundant flora, befitting the garden city of Hagi, was constructed on the northwest side of the site bordering the castle town, and a formal plaza was built to address the adjacent administration and cultural area.

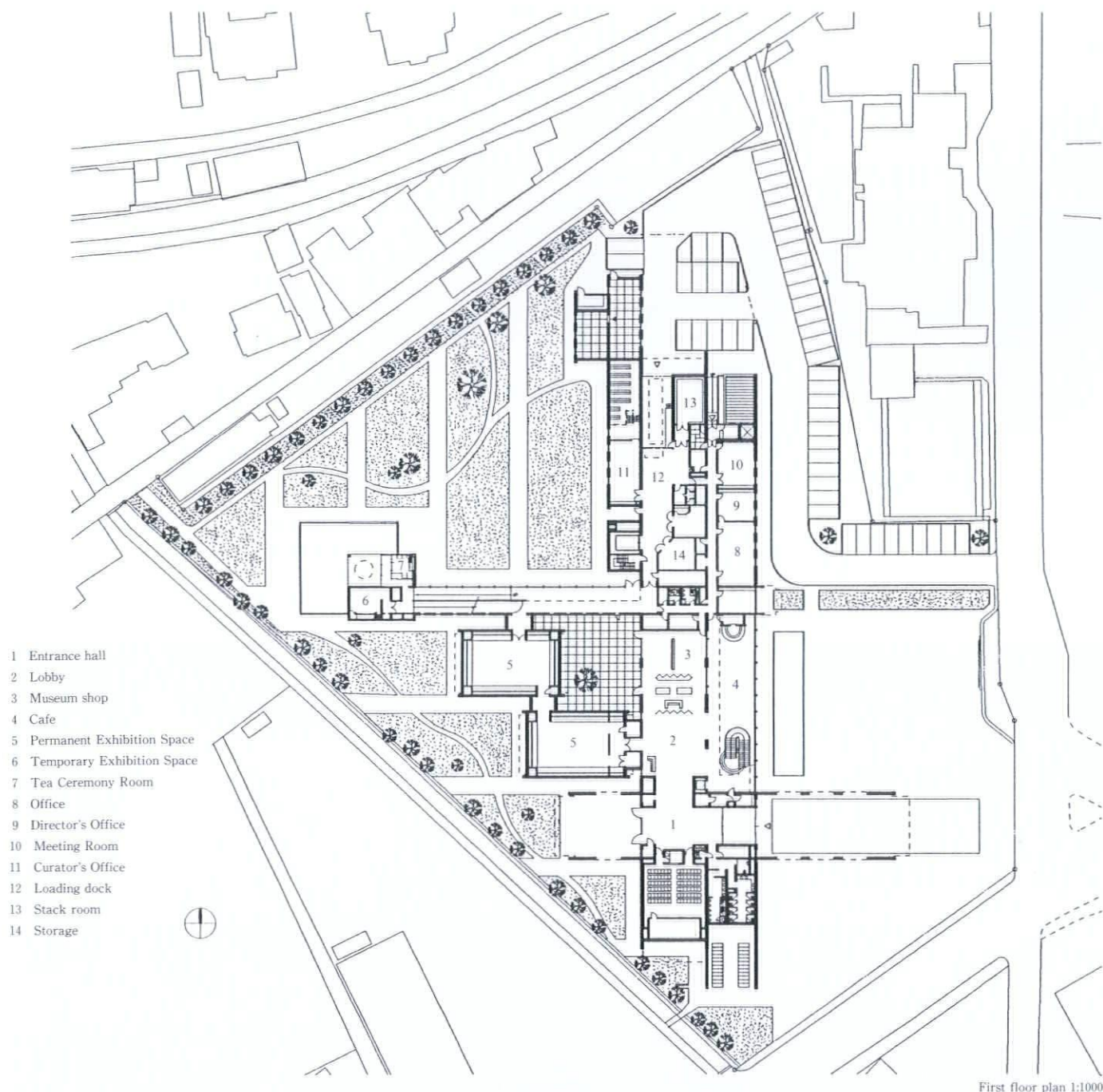


Site plan









First floor plan 1:1000

このプロジェクトは、萩市出身の美術品収集家・浦上敏郎氏から寄贈を受けた、浮世絵・陶磁器コレクションを中心として、美術品の展示・収集・調査研究を行うと同時に、このコレクションを媒介として、他県や海外との文化交流が図られる専門的・学術的美術館として計画されたものである。

計画地東側の国道191号線周辺には市庁舎・市民館をはじめ、図書館・博物館・資料館などの施設が集積しており、また北西側には、城下町、伝統的建造物保存地区といった歴史的な街並みが隣接し、萩市の行政・文化地区と歴史的地区の結節点に位置している。また、計画地周辺は将来計画として、国道191号線の拡幅と緑道の整備や、隣接する市民球場の移転

後跡地を都市公園とするなどの整備計画がある。建築の全体構成は、萩の街区を形成している。東西・南北軸を基調とし、萩市街の重要な軸線である。国道191号線の約1.5kmに及ぶ東側からの眺望を受け止める形態としている。計画地が東側の行政・文化エリアと、北西側に広がる歴史的地区の結節点に位置していることから、計画地の南東側には大きなボリュームとなる。陶磁器の展示空間を配置し、北西側には、城下町の小さな街並みに対応した、小さなボリュームとして浮世絵の展示空間を配置している。不整形な敷地形状に対応させて、建物及び外部空間を適正に配置するために、南北側に沿って細長いボリュームを配置し、北西側には敷地境界線に調和さ

せるために、雁行させたボリュームを配置している。外部空間については、城下町に隣接する北西側に庭園都市萩にふさわしい、緑豊かな庭を設け、行政エリア側には、これにふさわしいハードな広場を設けている。

萩市の歴史的地区の景観を特徴付けるひとつの要素として、連続した横長の建物や土塀といった、細長い形態や、石壁や石垣、石彫公園といった、材料としての石、さらに、城下町の特徴である鍵曲がりといった雁行した空間、といったものが挙げられる。本プロジェクトでは、このような特徴ある要素を建築形態や材料、内部の空間構成に取り入れることにより、萩の風土と歴史との調和を考慮している。

Kagawa Prefectural Government Office Building

Kagawa, Japan 1991-

香川県新庁舎

The Kagawa Prefecture government office building is located in central Takamatsu City, approximately a kilometer south of the Takamatsu Railway Station. The area surrounding the site includes other important civic facilities such as the Central Park, Takamatsu City Hall, and the Kagawa Prefecture Central Hospital and School.

The main building and the east wing of the original Kagawa Prefecture Government Office building were completed by Kenzo Tange Associates in 1958. Over 30 years have passed since the completion of these buildings, and the needs of the prefectural government have grown substantially. Additional space and technological demands necessitated the construction of a new and much larger government office building and the addition of a police headquarters building designed to raise the level of administrative service in the prefecture.

Divided into two phases, the first phase of the project involves the construction of a six story police headquarters building with 2 underground floors totaling approximately 19,000 square meters of floor area. The second phase is the

administrative office building with 21 above ground floors and 2 underground floors totaling approximately 47,000 square meters of floor space. When both phases are complete, including ancillary spaces, the total floor area will be 82,800 square meters.

To provide the highest quality space in the new government building, the design focused on the creation of a flexible, column free space, state of the art information systems, and structural durability against fire and earthquakes. The structural system is clearly expressed by the architectural articulation of both structures in the same manner in which the original government office buildings express their structural system.

In addition, this project integrates important rest areas in an environment accommodating greater function-oriented facilities. These spots are conceived as mesa-like structures, similar to Yashima Island and Goshikidai Hill, which are natural features of Kagawa Prefecture, and combine with the existing gardens to form the new prefectural plaza.



香川県庁舎の位置は、JR高松駅より約1km南下した高松市の中心地区にあり、周辺は中央公園・高松市役所・県立中央病院・学校等が近接し、様々な便利施設の集積地区となっている。

昭和33年に本館・東館が完成し、現在の県庁舎の全体構成が出来上がっている。本館・東館建設後30年余を経過し、今日の行政需要の増大に伴い、より一層の行政サービス向上のために県庁舎を改築整備が必要となった。

本計画は、2期に分け、警察棟、行政棟を整備するものである。警察棟は地上6階、地下2階、延床面積約

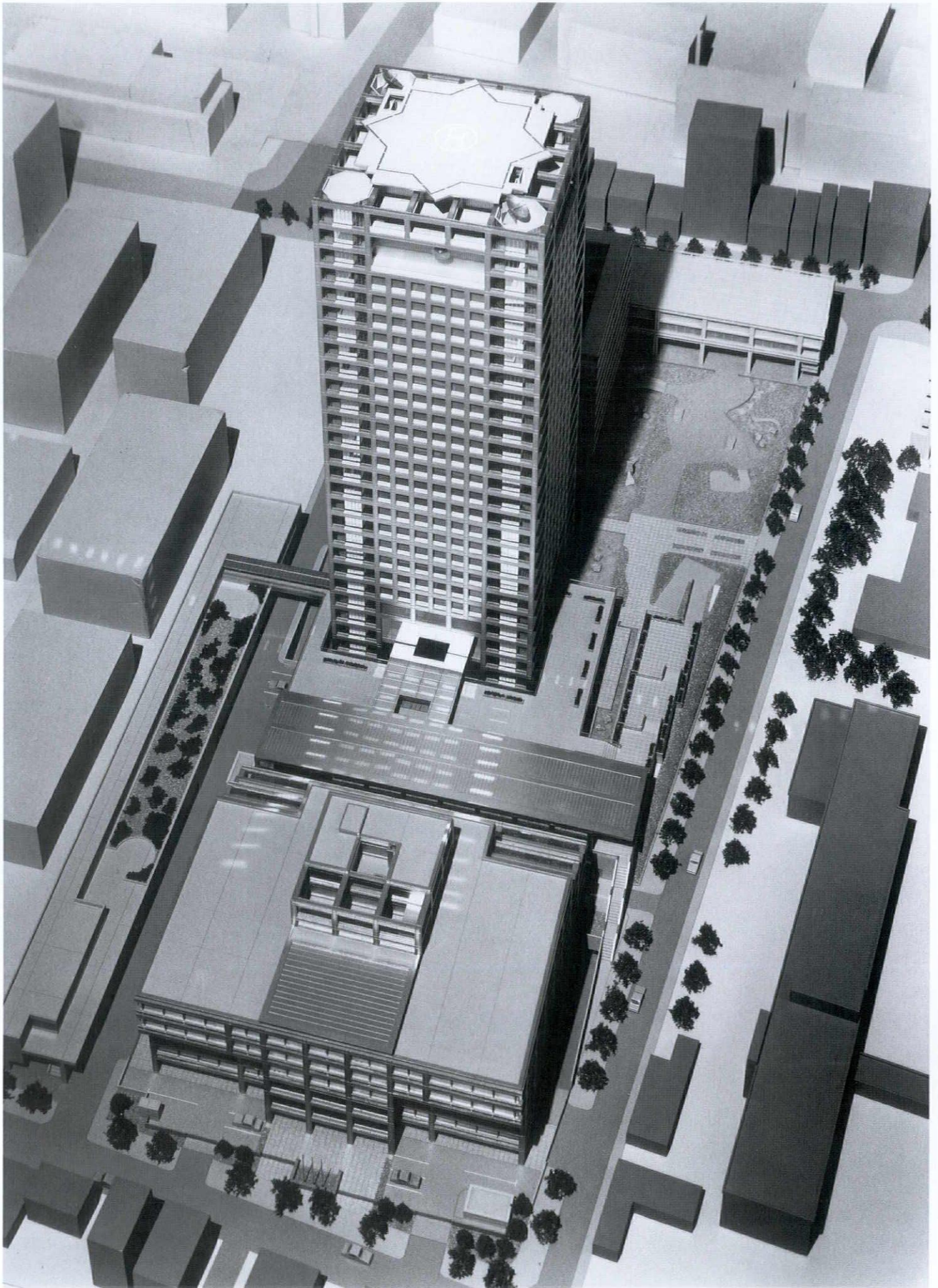
19,000㎡、行政棟は地上21階、地下2階、延床面積約47,000㎡となり、改築整備完成時には延床面積82,800㎡となる。

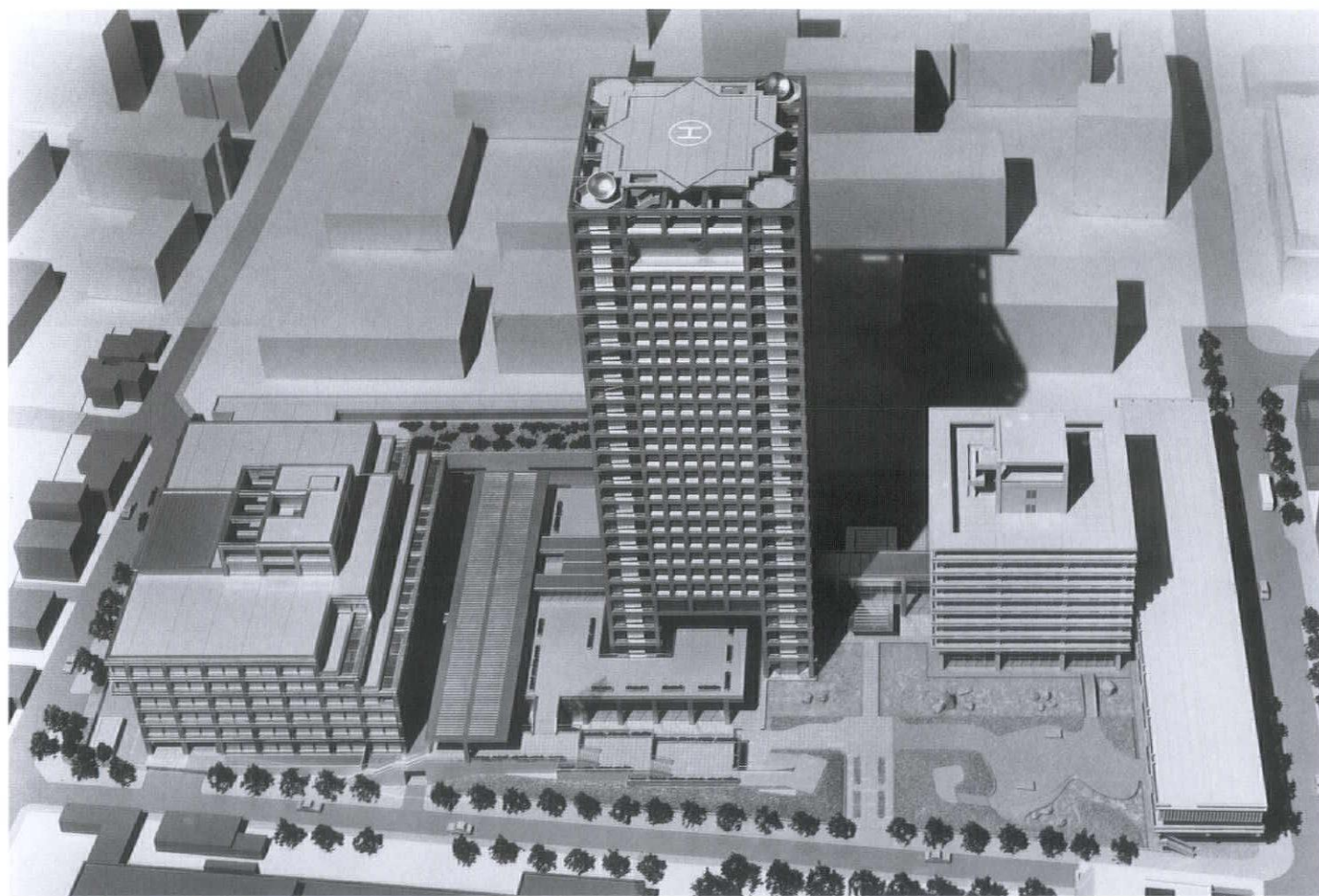
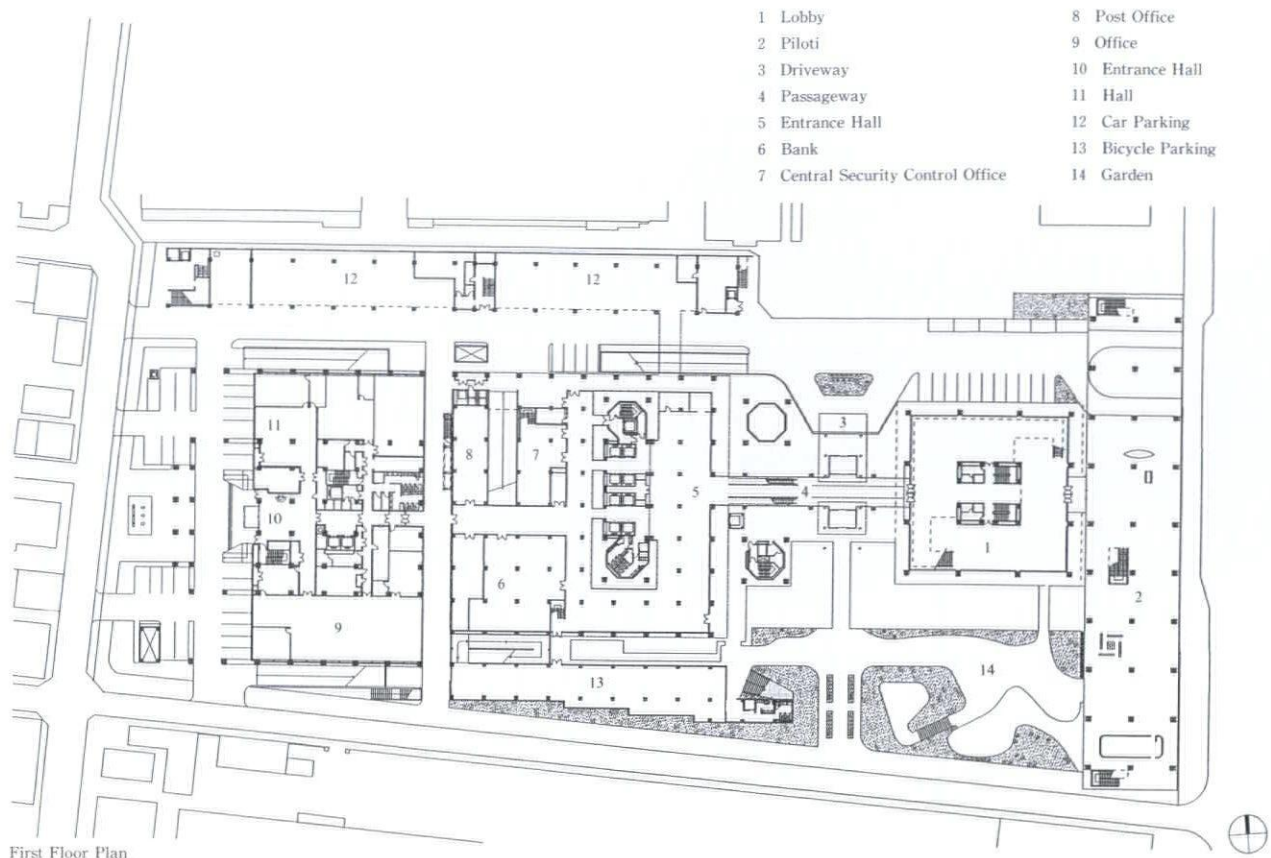
今回、現在地に計画された新庁舎の位置付けは、平成2年7月に策定された「県庁舎整備基本構想」に示された、本館・東館を存置した上での新庁舎の建設構想が基本になっている。

この新庁舎は、その最も基本となる行政機能の向上を推進するため、柱のないフレキシブルな空間、情報機能の充実、防災拠点としての構造の堅牢性等を主眼とした建築となるよう計画した。

特に行政庁舎は超高層であるため、構造的にベアコラム+ベアリングウォールという新しい架構システムを提案し、高い耐震性能の実現を試みた。また、建築の表現は構造システムを表現にまで高めたものとし、本館や東館の表現と共通するものとしている。さらに、香川県の風土的特長である屋島や五色台のような卓状台地(MESA)的なものを既存南庭の延長に県民プラザとして提案し、便利施設の集積が進む周辺的环境に対して憩いの場を提供する計画となっている







Tokyo Fashion Town

Tokyo, Japan 1991-

東京ファッションタウン

The aim of the Waterfront District, now under development in Tokyo Bay, is to create a city for the 21st century in response to the evolution of the international information society. Tokyo Fashion Town was planned as the nucleus of creative activity and culture centered on the fashion industry.

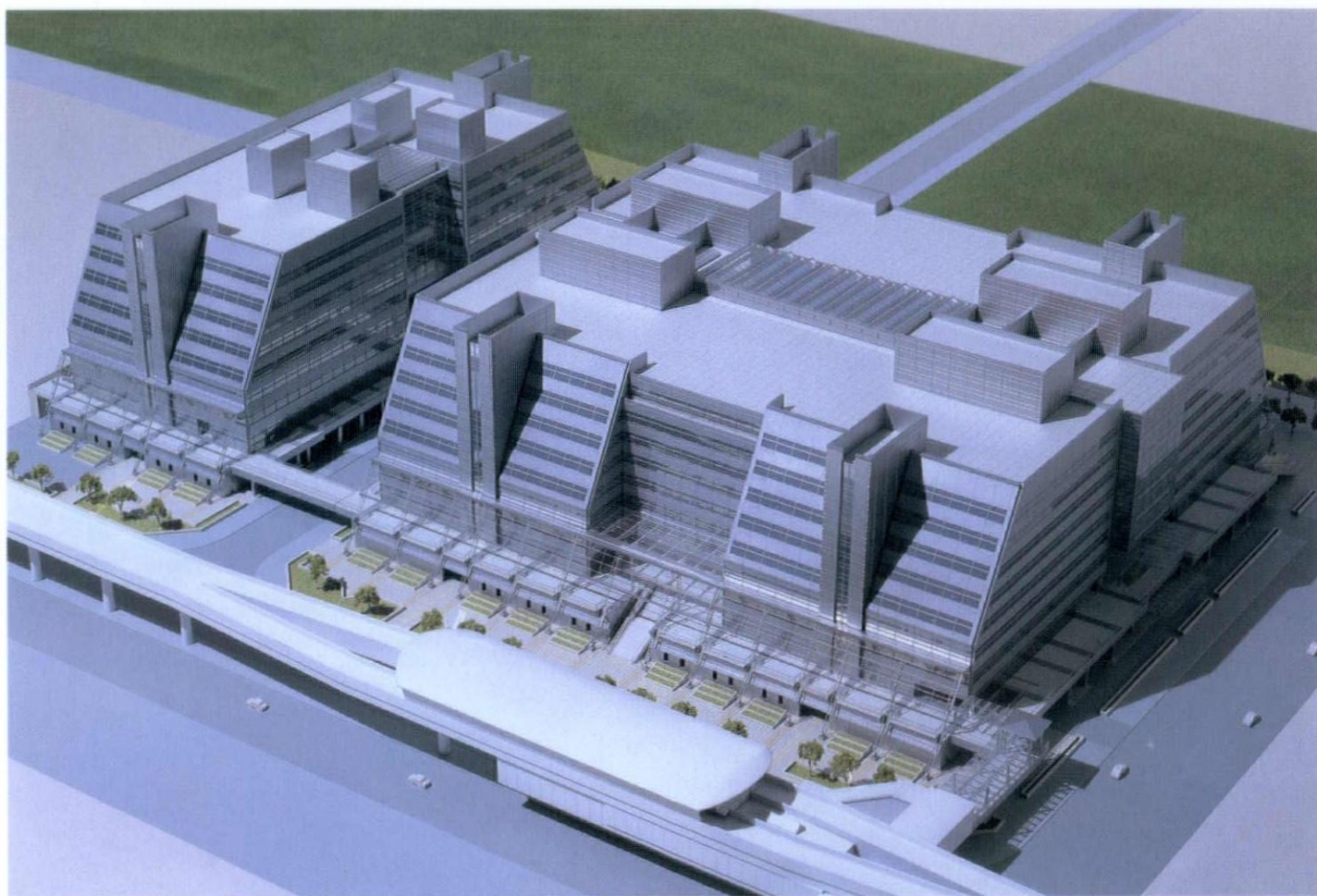
The site is composed of city blocks F and G which border the new Tokyo International Exhibition Center and face the 80 meter wide central promenade which runs the length of the district.

The exterior of the building is a sloping wall of reflective glass and aluminum panels which give a sophisticated futuristic appearance in keeping with the image of the new information oriented city. Vertical service spaces are expressed as rectangular towers that provide a horizontal rhythm to the facade. Consistent treatment of the outer wall creates a unified image of the complex.

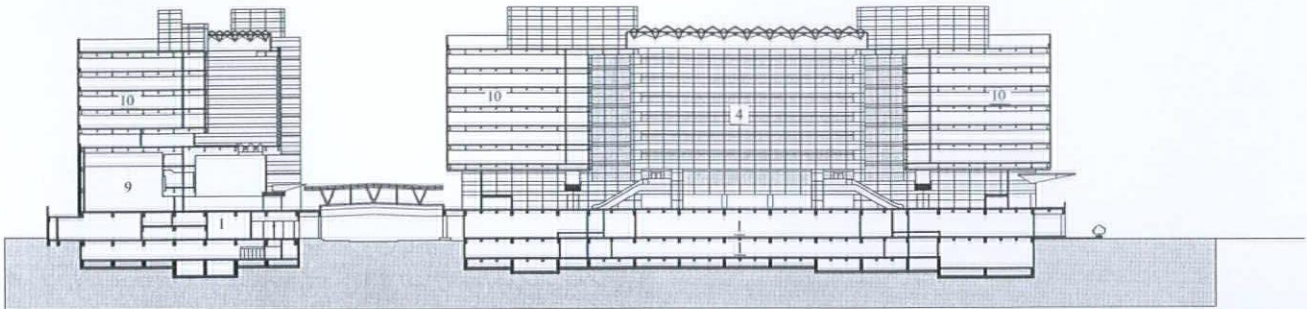
To create a pleasant pedestrian environment

that encourages leisurely excursions and links the two blocks together, a second floor pedestrian deck was designed that circles both buildings, elevated above the ground level vehicular accesses. The pedestrian deck level also provides direct access to a station of the new transit system that links the Waterfront District to the existing city. A large atrium was designed to help direct the flow of people into the facilities while creating an urban environment that provides access from the main entrance on the east side to the three multipurpose halls in block G. The upper levels of the building are planned as office space for fashion business activities. The building was conceived as an intelligent office environment where a variety of space requirements, from show rooms to negotiating areas, can be linked together on the same floor.

Tokyo Fashion Town, the new center for the fashion industry, is scheduled for completion in 1996.

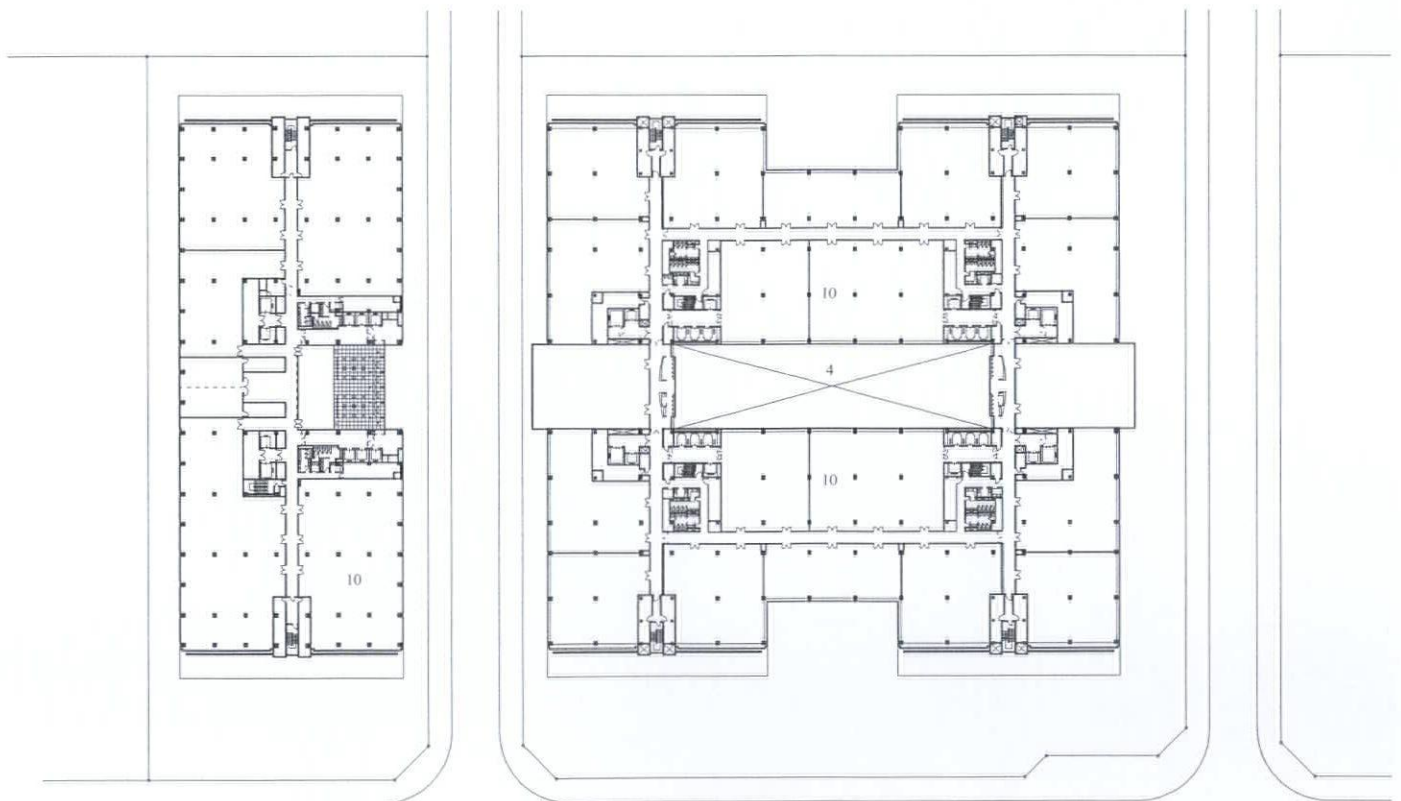
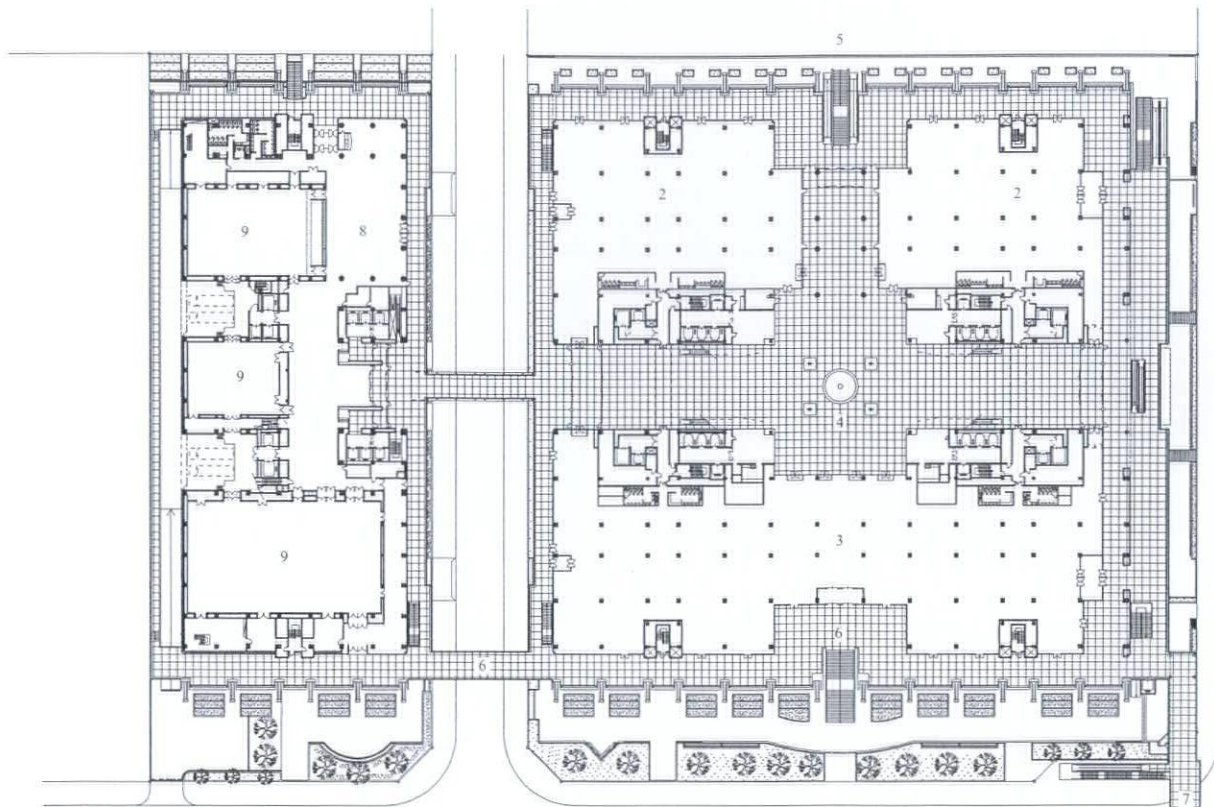






Section 1:1500





- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1 Car Parking | 6 Pedestrian Deck |
| 2 Shop | 7 Light Rail Station |
| 3 Food Court | 8 Foyer |
| 4 Atrium | 9 Multipurpose Hall |
| 5 Center Promenade | 10 Office |

東京湾に開発が進行中の臨海副都心は、国際化・情報化の進展に対応した21世紀の都市づくりを目指している。その中の有明地区に建設中の東京ファッションタウンはファッションを中心とした生活文化産業の創造的活動の拠点として計画された。

敷地は新しい国際展示場に近接し、北側の臨海副都心を東西に長く結ぶ幅80mのセンタープロムナードに面したF街区とG街区と呼ばれるふたつのブロックより成る。

建物の外観は、新しい都市づくりのイメージに合わせシャープな印象を与えるアルミパネルと反射ガラスの斜めの壁面、垂直のリズムを生み出す階段室のシャフトより構成されている。このような外壁のデザインによって、F・Gというふたつのブロックに

一体的な都市景観を創り出している。

廻遊性のある快適な歩行者空間を実現し、またふたつのブロックを有機的に結びつけるために、2階を歩行者用デッキとし、1階を車のサーキュレーションのスペースとして計画した。同時に既存都心と臨海副都心とを結ぶ新交通システムの駅へ、2階レベルで直接アクセスすることが可能となった。

この2階の歩行者デッキに、F街区からG街区への人の流れを建物内に創り出すため、街路的なスケールを持つアトリウムをF街区に設けた。さらにその周囲に商業施設をはりめぐらせることによって、都市生活に潤いと賑わいを与えることとなる。東側のメインエントランスから流れるアトリウム部分を通り抜け、G街区の多目的ホールへと到達する。それら

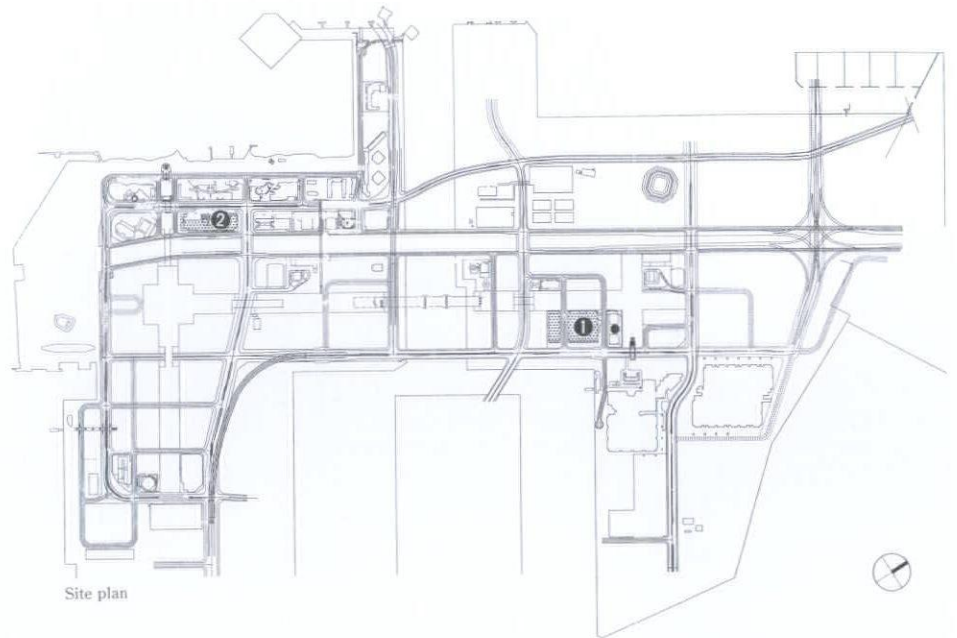
は大きさの異なる独立した3つのホールから構成され、それぞれが催し物の目的に応じたスケール、装置、デザインを有している。

建物の上層階はファッションビジネスの活動の場となるオフィス・スペースとして計画されている。それは単なるインテリジェントビルということだけでなく、ショールーム、商談スペース等の様々なスペースの要求を広く同一フロアで水平に連続させることのできる広い面積の廻遊性のある業務スペースとして考えられた。

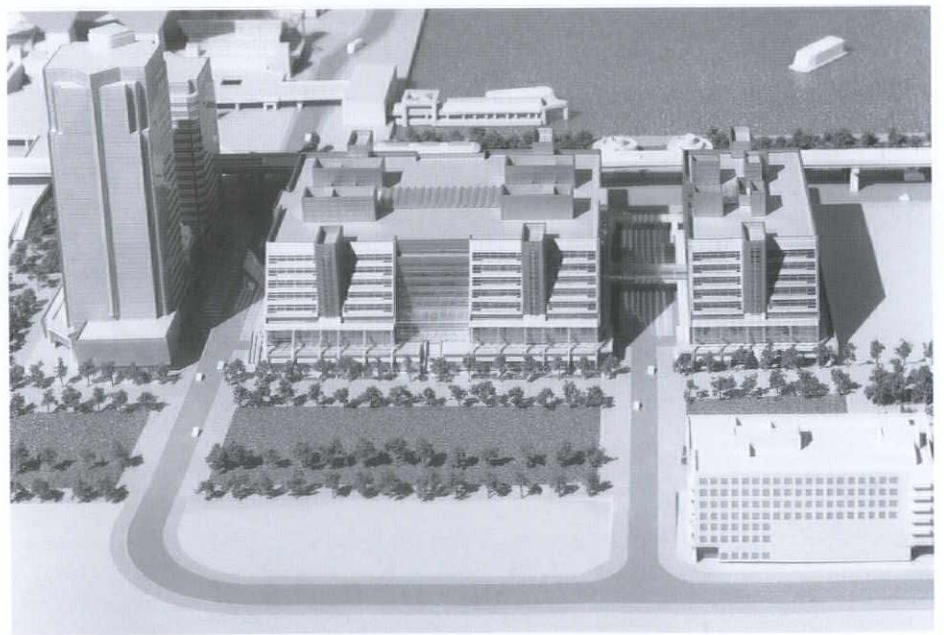
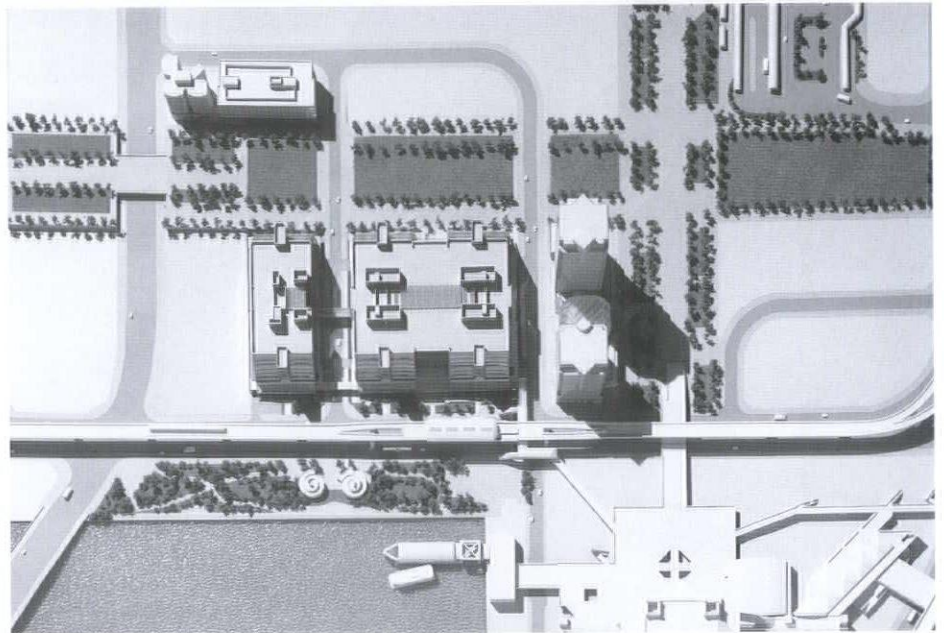
現在工事が進行中であり、1996年度には新しい東京ファッションの拠点が誕生することになる。



- ① Tokyo Fashion Town
- ② FCG Building



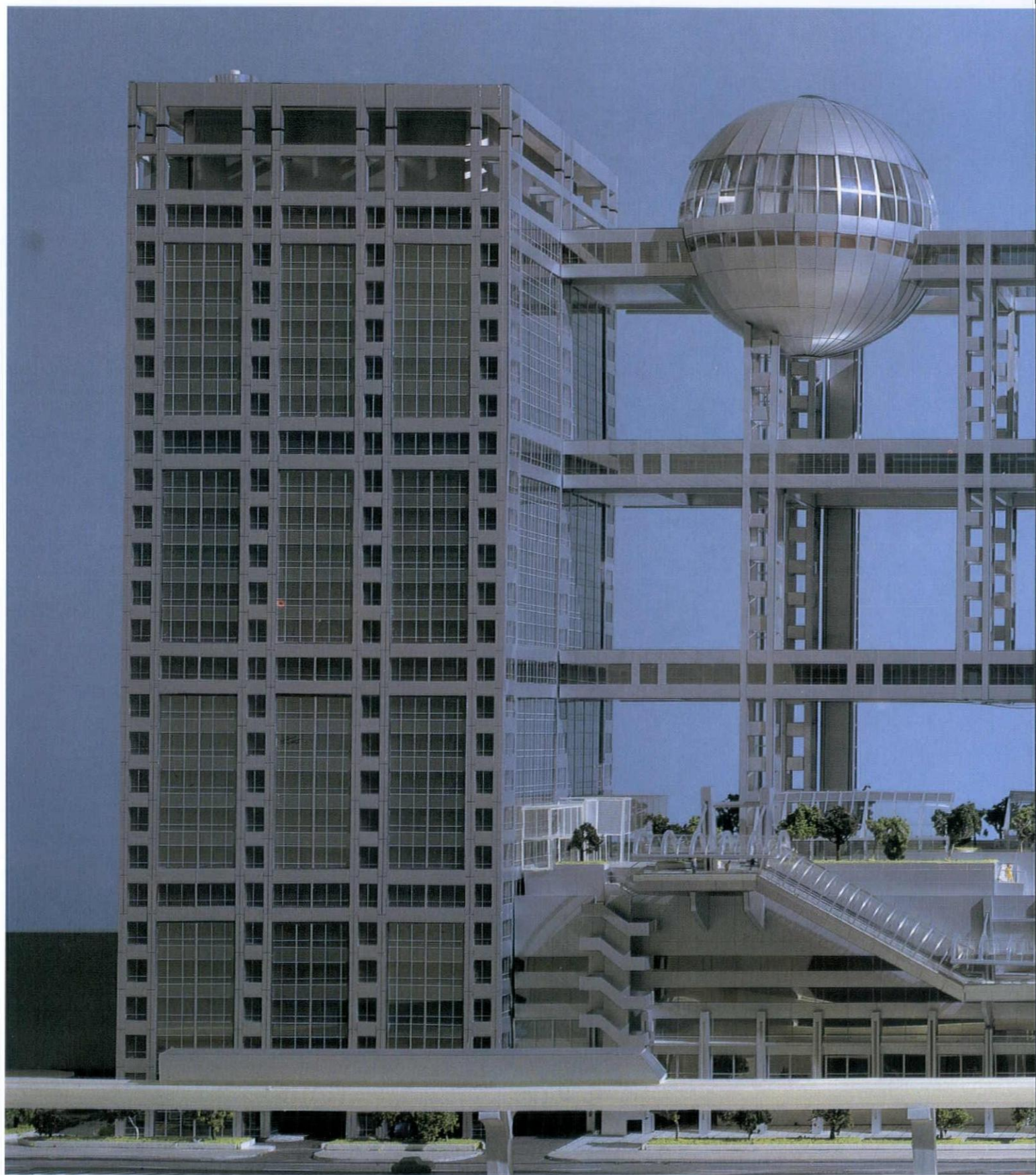
Site plan

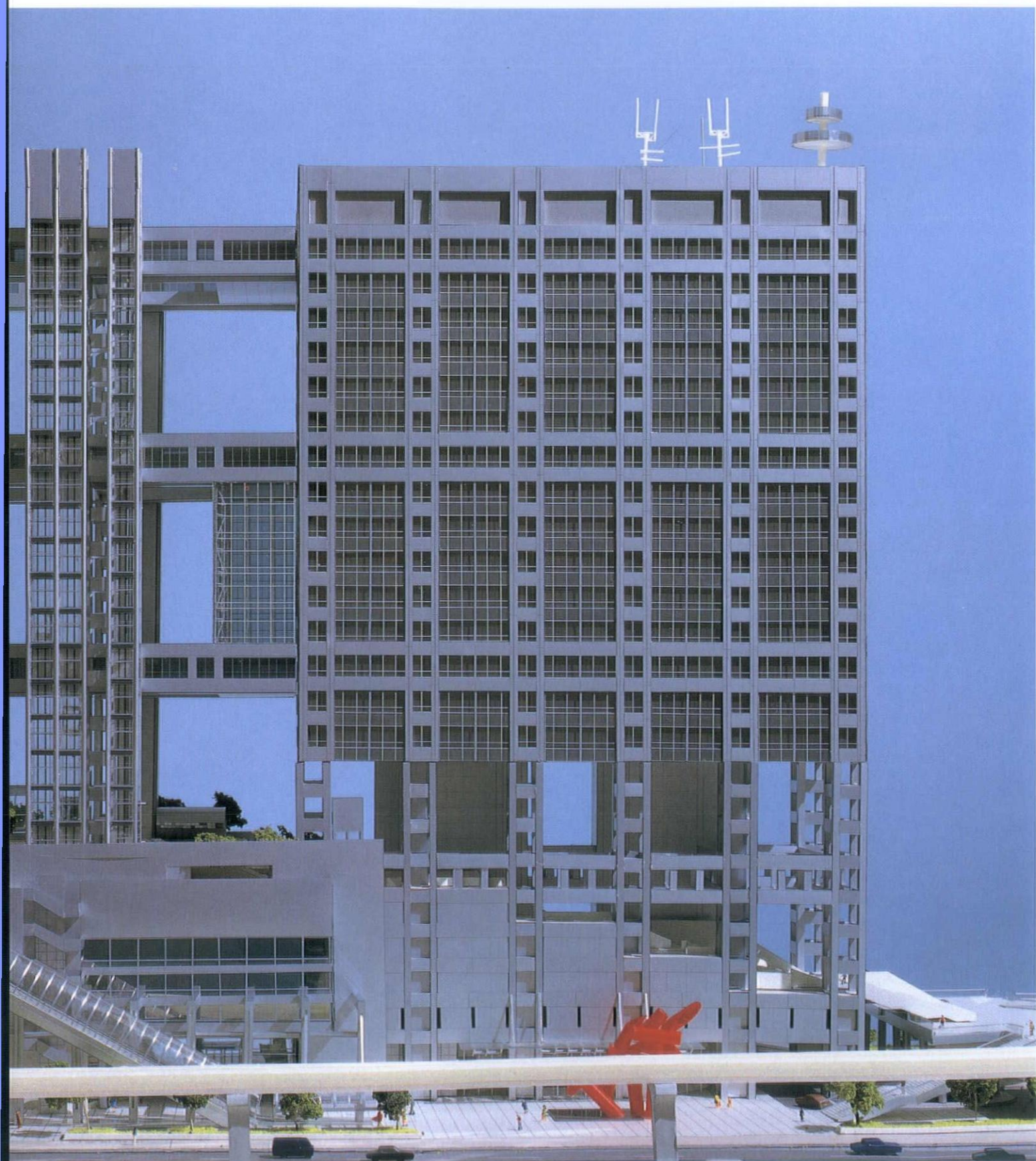


FCG (Fuji-Sankei Communications Group) Headquarters Building

Tokyo, Japan 1991-

FCG本社ビルディング





The City of Tokyo is in the process of constructing a new City Sub-center, located on reclaimed land in Tokyo Bay, as part of the creation of Tokyo's new multi-center urban structure designed to better meet the future needs of its international information oriented society.

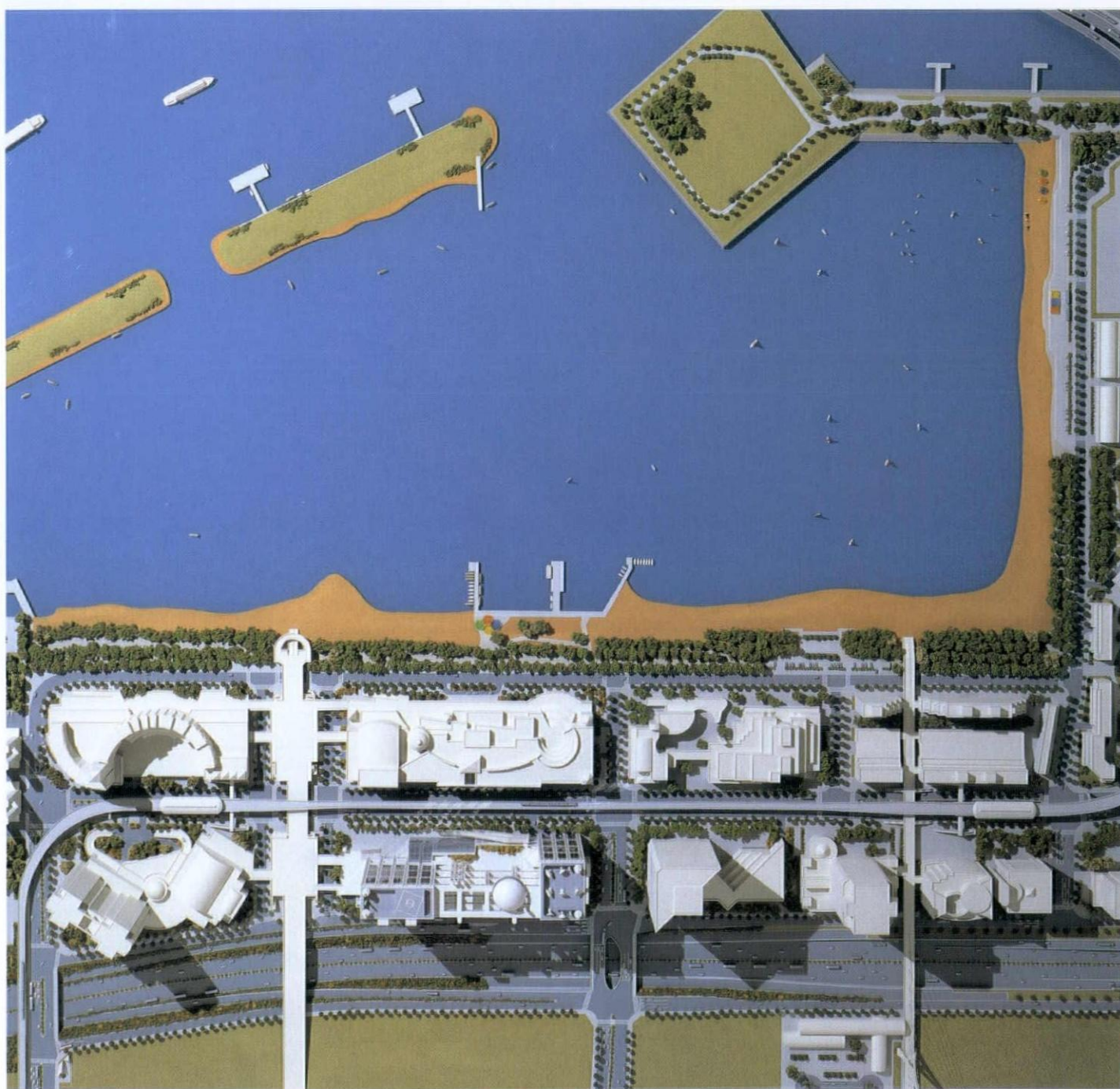
The Waterfront District is linked to the Tokyo Metro Area via the Rainbow Bridge, a network of roads which constitute the Tokyo Coastal Expressway and numerous public transportation and communication systems. The FCG Headquarters building is located in the Daiba district, a waterfront area rich in flora, surrounded by

relics (cannon barrels), and adjacent to the Odaiba Sea Side Park, offering an environment very different from central Tokyo.

The FCG Building will serve as the new headquarters for Fuji Television and Nippon Broadcasting. It was designed incorporating the latest technology of the communication industry, such as digital broadcasting and channel multiplication, and is to function as a reception/production center for many new activities and will be responsive to the demands of the new multi-media era.

The complex, situated on a narrow, 21,000 square meter strip of land, will offer a total floor

area of 143,000 square meters in two 25 story towers with 2 underground levels. The complex is composed of two towers set on a 7 story base with a framework of sky corridors that support an immense sphere and connect the two towers. One tower contains office space, the other tower contains small studios while their connecting base accommodates the larger studios and their supporting facilities. The dynamic composition of the complex with a total height of 120 meters and a length of 210 meters will add a special character to the district echoing the silhouette of the Rainbow Bridge and in harmony with the rich waterfront environment.



A mega-frame superstructure with four column super-columns permits the realization of the building's complex program, multiple objectives, and complicated circulation systems despite the site constraints. This superstructure allowed the creation of an immense roof garden and the complex sky corridor system, whose purpose is not merely functional. The building is expressive of communication via the flow of people and information occurring in different ways, and the openness in the transfer of information is expressed through the open grid work created by the sky corridors.

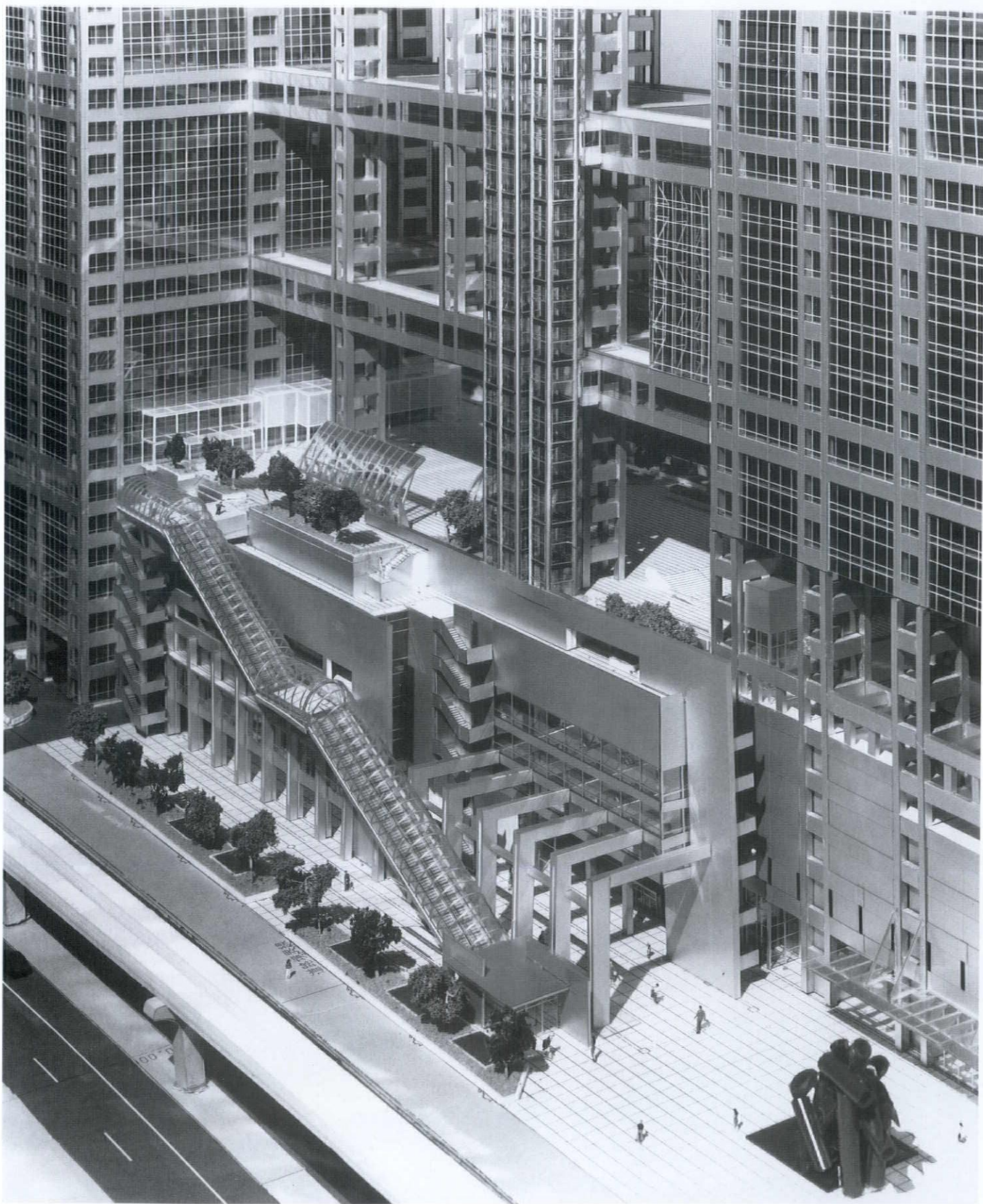
The consistent expression of the superstructure

in the facade of the building contributes to the design's unified appearance. The frame, clad with aluminum panels, continues uninterrupted the length of the entire complex and displays the structure of the building while emphasizing the sense of unity that symbolizes the Fuji-Sankei Group. The building's facade and exterior elevator system are predominantly transparent creating a crystal-like image.

This project represents and expresses the activity and information transfer occurring in the multimedia industry, as the clear glass windows between the mega-frame system will transmit light from the offices during the

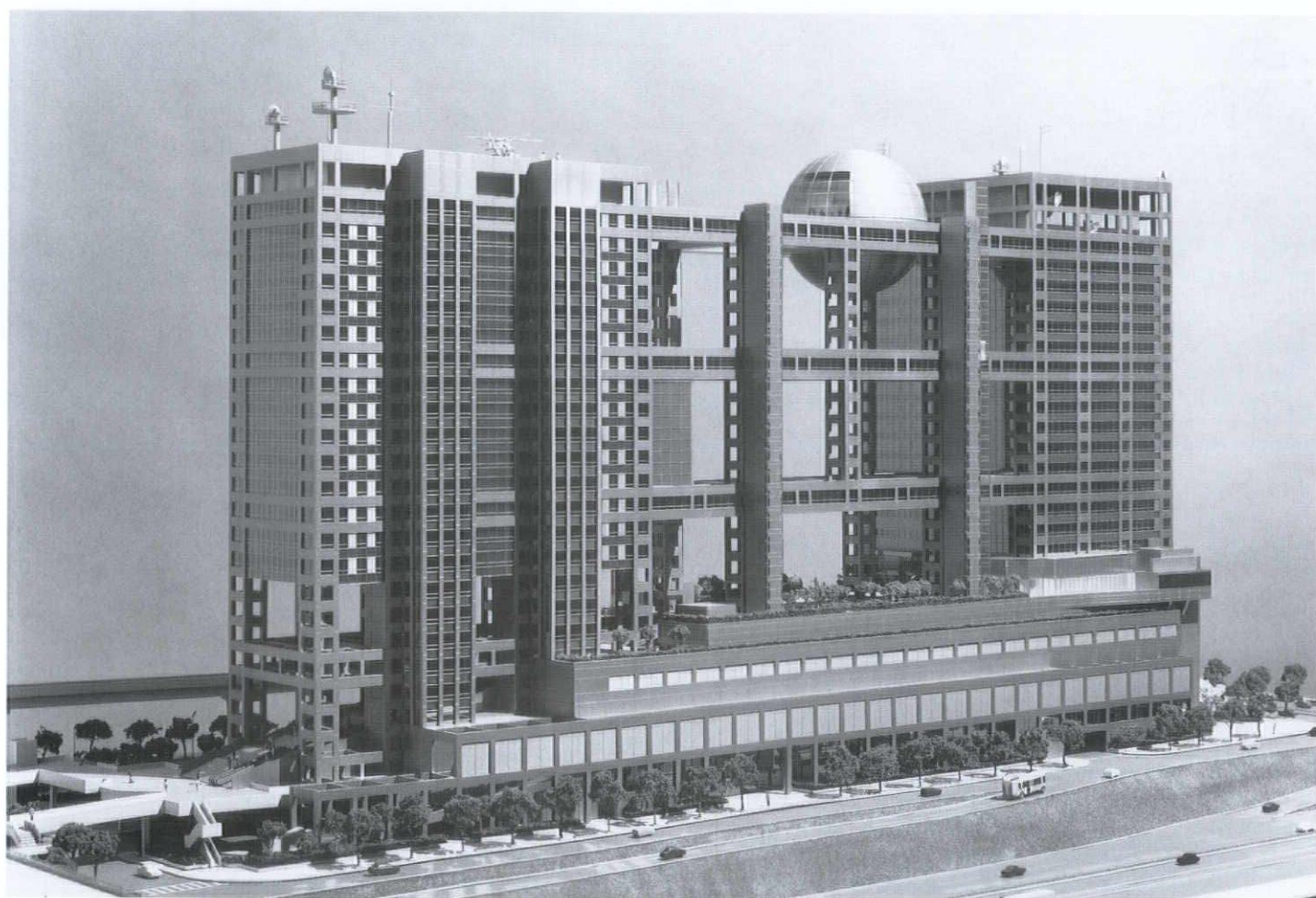
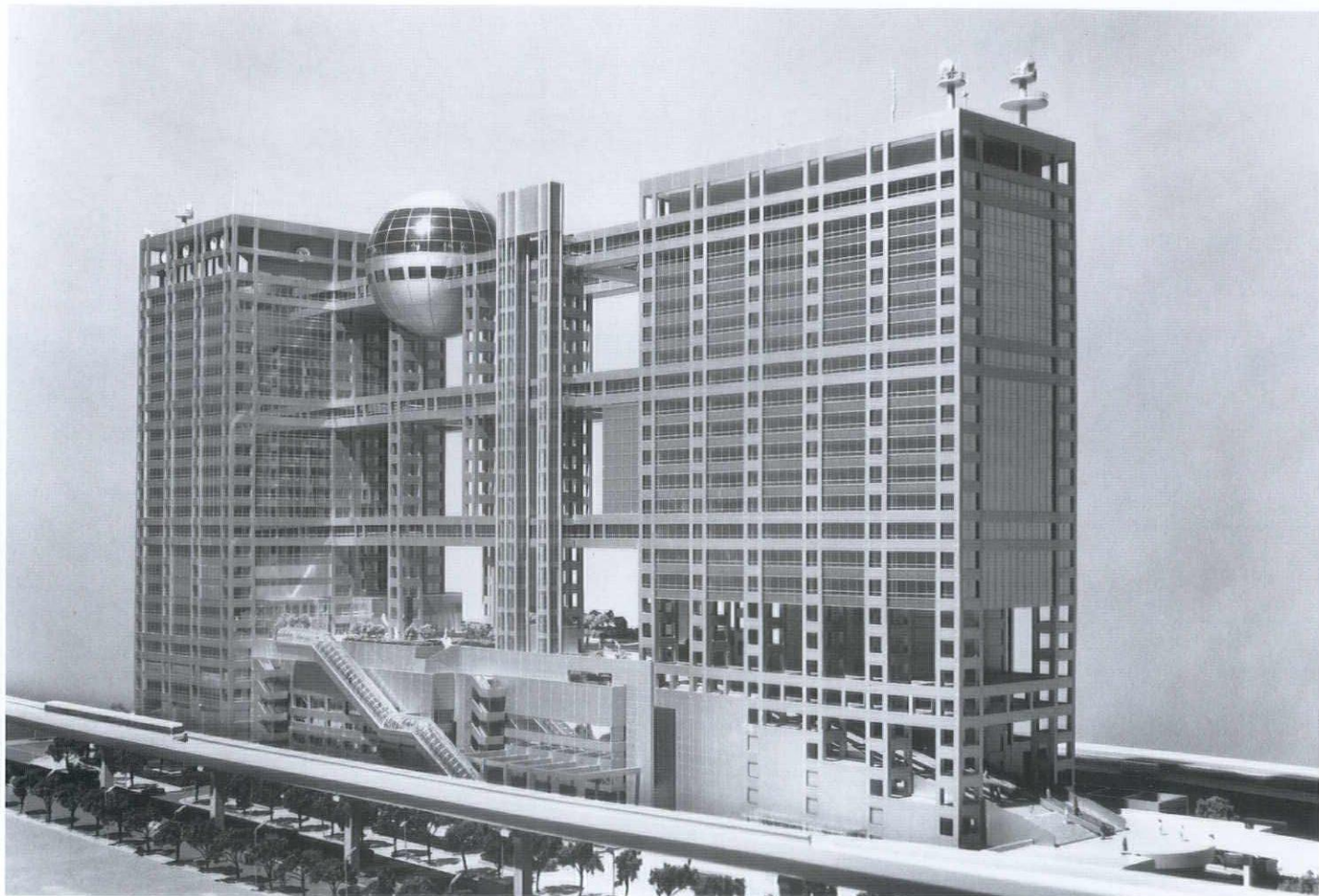
continuous 24-hour operation of the building. This project will be further animated by the public who can ascend the grand staircase from the promenade level to the roof level plaza to enjoy the expansive communication space. From the plaza level, one can further ascend via elevator to the observation level located within the sphere where spectacular views of the Waterfront District and Tokyo can be enjoyed.







- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 Entrance Hall | 21 Lobby |
| 2 Theater | 22 Member's Club |
| 3 Through Street | 23 Tea Lounge |
| 4 Observation Lounge | 24 Forum |
| 5 Restaurant | 25 Foyer |
| 6 Office | 26 Storage |
| 7 Studio | 27 Air-handling plants |
| 8 Sub-controlRoom | 28 Elevator Machine Room |
| 9 Sky Corridor | 29 Passage |
| 10 Rehearsal Room | 30 Parking |
| 11 Rest Space | 31 Elevator Hall |
| 12 Computer Graphic Room | 32 Recording Room |
| 13 Editing Office | 33 Machine Room |
| 14 Art Storage | 34 Data-editing Room |
| 15 Roof Garden | 35 Pedestrian Deck |
| 16 Waiting Room | 36 Projection Room |
| 17 Kitchen | 37 Editing Room |
| 18 Shop | 38 Lighting Control Room |
| 19 Major Conference Room | 39 Escalator |
| 20 Conference Room | |



現在、東京都は、多心型都市構造への転換、国際化、情報化の進展に対応した副都心の形成を目的とし、広大な未利用地の広がる東京港臨海部に東京テレポート・国際展示場などを中心とした新たな副都心の建設を進めている。

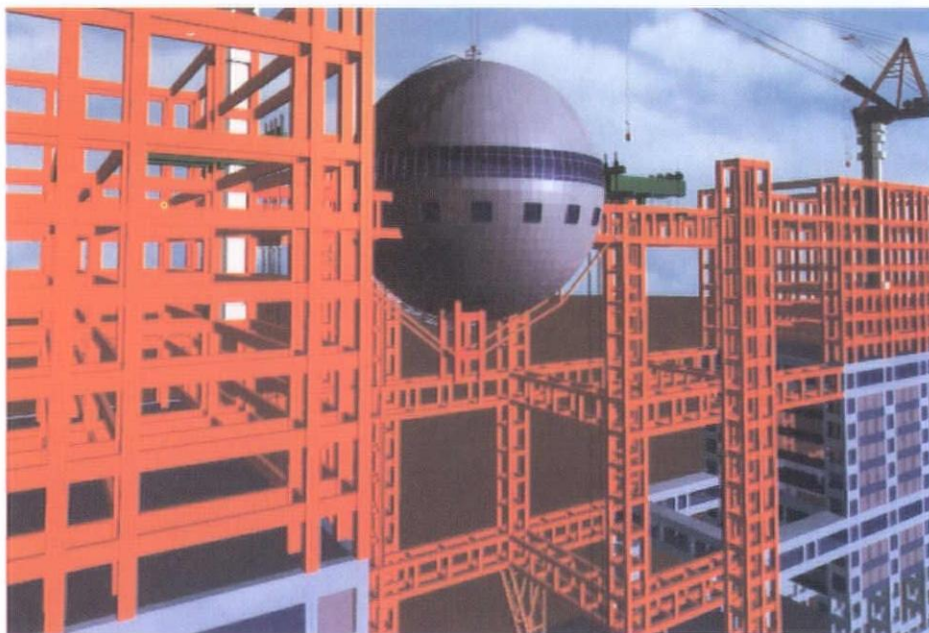
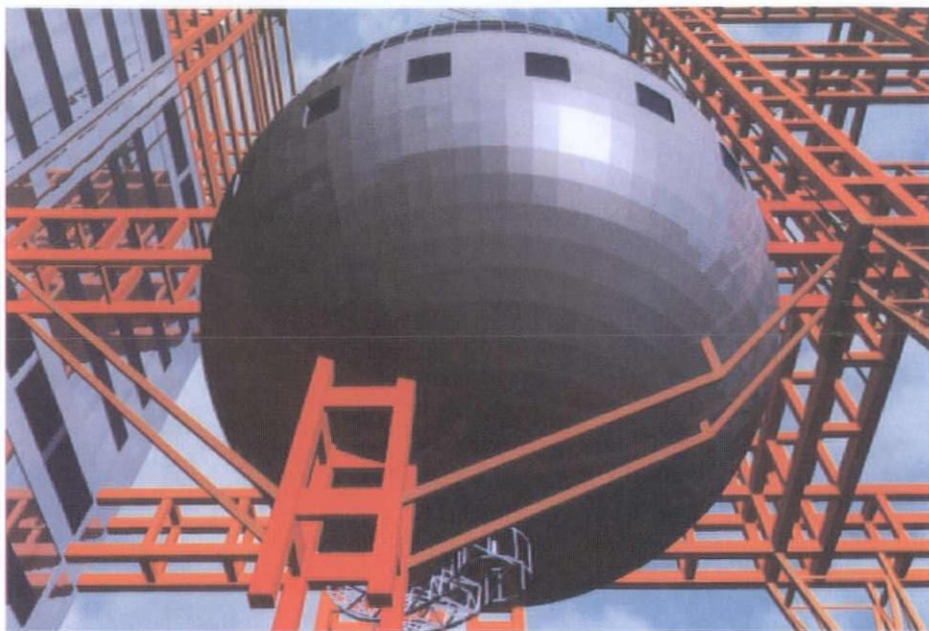
この臨海副都心は、都心部及びその周辺部とレインボーブリッジや広域道路網である東京湾岸道路によって結ばれ、1996年3月には新交通システムや鉄道の乗り入れなども予定されている。(仮称)FCGビルが位置する臨海副都心台場地区は、周囲に史跡(台場)や海浜公園など、水や緑が広がり、既存の都心部にはない恵まれた環境を有した理想的な立地条件を備えている。

フジテレビやニッポン放送の新本社となるこの建物は、放送のデジタル化、多チャンネル化という世界的な放送技術革新のニューウェーブに合わせるだけでなく、次世代のマルチメディア時代をも視野に入れた新事業展開などを目的とした新たな受信基地として1997年4月の業務開業を目指し、今まさにその全容を現わそうとしている。

この建物は、東西に長い約21,000㎡の敷地に、地下2階、地上25階、延床面積約143,000㎡の規模を持ち、主な施設としてはオフィス棟、スタジオやその関連施設を中心とした低層部及びメディア棟、その双方の建物を結ぶスカイコリドールや、印象的な球体展望室等によって構成されている。

建物の景観を特徴づけている高さ120m、長さ210mに及ぶダイナミックなスカイラインは、隣接地区との調和を図りながらレインボーブリッジや対岸からのシルエット等を勘案し、計画したものである。

建物全体は、敷地からの制約、様々な人の動線など多目的で複雑なプログラムを統合するため、4本の組柱からなるスーパーラメン構造の採用によって、スタジオなど様々な大空間の立体化を図り、一体の建築としてデザインされている。この構造システムによって創り出された屋上庭園、スカイコリドールなどは、単なる機能的なものとしてだけでなく、人・情報の流れや動き、人と人との触れ合いなど、コミュニケーションの在り方を表現し、これらの空間で起こる様々な変化や動きが生活に豊かさを与え、内部空間と外部空間が一体化された魅力ある空間を創り出している。また、外観上に見られる縦横を結ぶアルミフレームの格子は建物の構造体をビジュアルイズさせ、さらにフジサンケイグループの統一感を意味する。建築全体のファサードやエレベータシャフトには透明感を持つマテリアルを使用し、クリスタルなイメージを表現した。これは、本プロジェクトが21世紀に向け24時間活動する様を映し出し、情報産業集団のあるべき姿である透明性を表現し、ウォーターフロントという環境との調和を図っている。また、この建物は臨海副都心の中心軸であり、都市基盤を形成しているウェストプロムナードに直結され、大階段・屋上庭園・スカイコリドール・球体展望室へと空間が展開している。そして、これらの連続した空間構成によって就業者やそこを訪れる人々が、都市における様々なシーン、刻々と変わる周辺環境の変化を享受し、人間性に満ちた豊かで快適な都市空間が形成されている。







Gran Ecran (Place d'Italie)

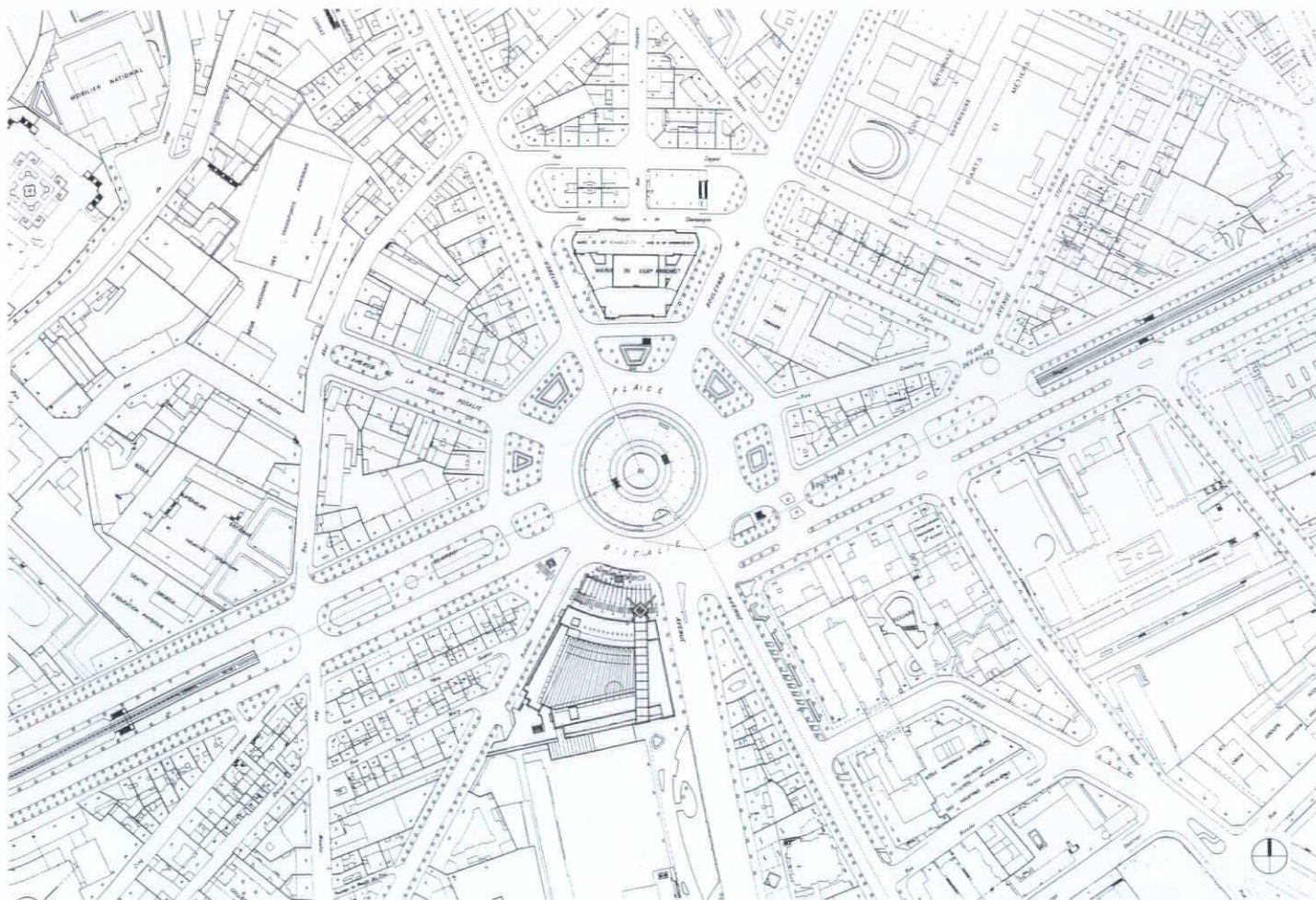
Paris, France 1984-1991

グラン・テ克蘭(パリ・イタリア広場)

This project was initiated at the request of His Excellency, The President of France, Mr. Jacques Chirac, in 1984 when he was the Mayor of Paris. The aim of the project was to restructure the Place d'Italie, located at the heart of the 13th arrondissement of Paris. This arrondissement experienced considerable building activity during the 1960's when a large number of high-rise commercial apartment buildings were constructed with little consideration given to the existing traditional buildings. The goal of this project was to create a building that would help restore harmony back to the plaza. The facade of the building is a combination of modern materials like mirror glass, large glass screens, and stainless steel, with the more traditional stone cladding, designed to reflect the unique character of the 13th arrondissement of Paris which is a mixture of the historic and the contemporary. The height of the building is limited to 38 meters to remain in harmony with the historic buildings located north of the project. The form of this building takes its shape from the curve of the Plaza, typical of buildings facing circular Plazas in Europe. The volume of the building is in the shape of a large Gate Structure. The upper two levels act as a structural bridge from which four levels of office space are suspended and below which the column free main entrance space spans 40 meters. During the conceptual study phase of the building we felt the need to create a public space closely related to the Plaza, and we explored several alternatives for the urban treatment of the Plaza and its relationship with the building. A public space was ultimately realized in the form of a large atrium, with an area of about 1,300 square meters, from which one can enjoy an undisturbed view of the Place d'Italie through a large glass curtain wall (40 meters wide by 12 meters in height). The atrium is a lively public space, around which are located a shopping center, galleries, cafe terrace, hotel and office space. The atrium serves as a forum where citizens congregate in a pleasant and casual atmosphere and where art shows and various events are often organized. A cinema in the basement, equipped with the largest screen in Europe also attracts many people. A campanile was created in front of the building reminiscent of the historic towers located in Italian Plazas. This campanile serves as a landmark of the Plaza and is visible from the different avenues that lead into the Place d'Italie.







Site Plan







このプロジェクトは1984年に当時のパリ市長であった現フランス大統領シラク氏の要望により計画された。この計画の目的は、パリ13区のあるイタリア広場を再建することであった。この地区は、今世紀初頭に建設された古い建物の中に、1960年代に数多くの高層アパートが無秩序に建設された場所である。

この計画の難しさは、調和のない周辺環境の中にこのような建物を作らなければならないという、かなり特殊なものであった。建築的な表現方法は、伝統的な建物と近代的な建物が混在したパリ13区の特徴を反映したものとして、ミラーガラスや大きなガラスのスクリーン、ステンレススチール等の近代的なマテリアルと、ヨーロッパ建築において伝統的に使われてきた石とで構成されている。

最初の検討段階で、ブラザの都市的役割とデザインへの反映、そして建築との関係性について、いくつかの提案をした。

建物のファサードはブラザと同心円であり、これはヨーロッパの円形のブラザを囲む建物の典型である。13区庁舎を除き、現存の建物は全ていつかはブラザと同心円の新しいビルに変わることになっているが、現在はまだそのようになっていない。

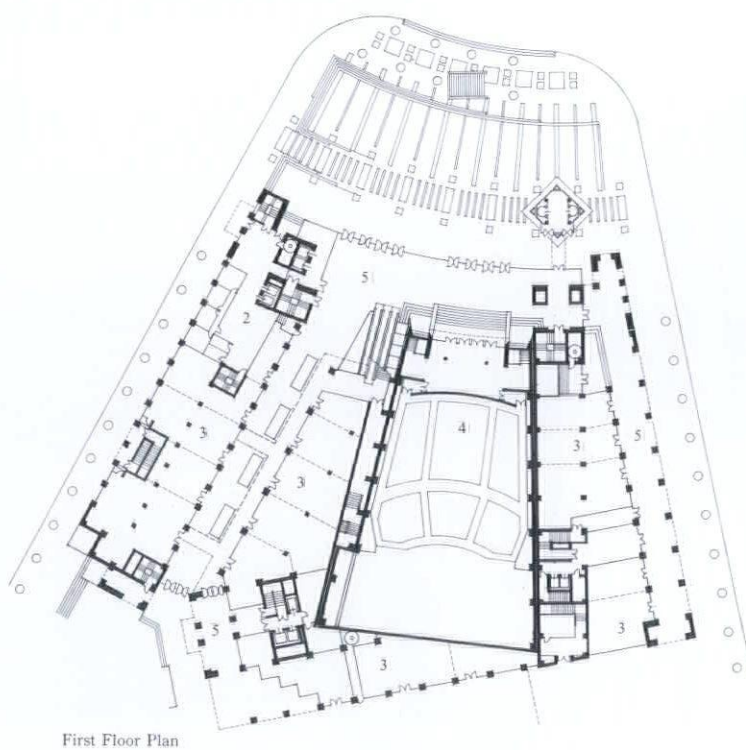
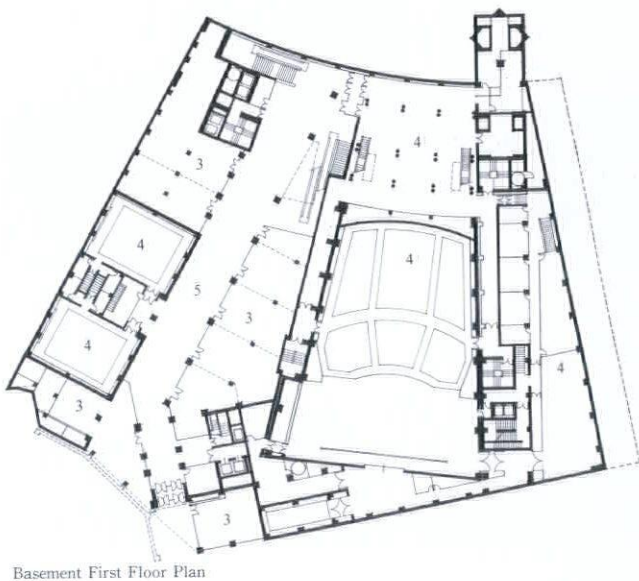
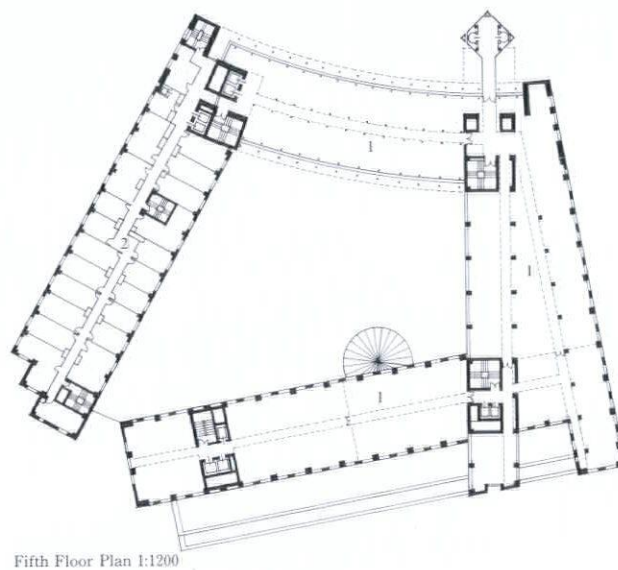
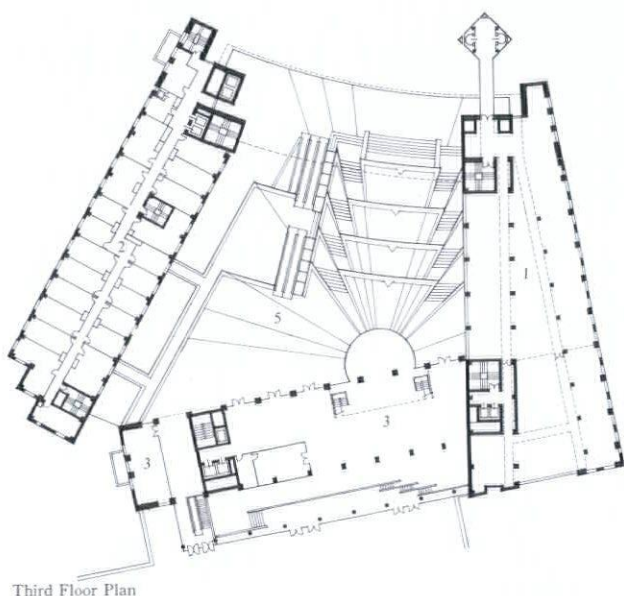
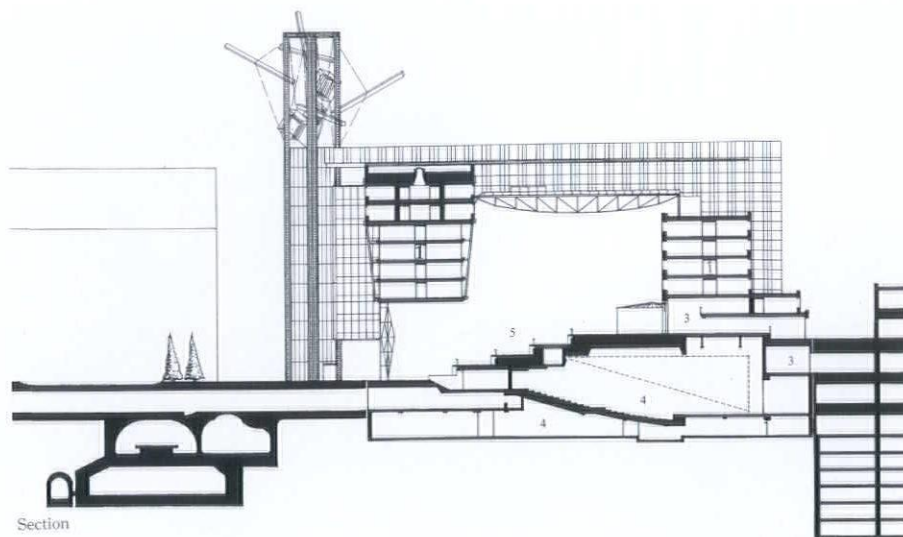
このファサードは大きな石の門の形をしている。上部2層のレベルは構造的な橋の役割をし、そこから4層からなるオフィス・スペースが吊るされている。このことにより、下のメインエントランスのレベルに40mスパンの無柱スペースをつくることができた。高さは、この建物の北側にある既存の建物と調和するよう38mに抑えられている。

また、コンセプチュアル・スタディを重ねている時期に、ブラザと一体となる公共スペースを作る必要があると考えた。これは、1,300㎡の広さの大きなアトリウムという形で実現し、ガラスでできた吊りスクリーン(幅40m、高さ12m)を透してイタリア広場を見渡すことができる。アトリウムに面しては、ショッピング、ギャラリー、カフェテラス、ホテル、オフィス・スペースを持つ活気ある公共スペースになった。さらに、市民が快適で気軽に利用できる広場としての役割を果たす。また、地下にある映画館はヨーロッパ最大のスクリーンを備え、芸術を愛する多くのパリ市民が足を運んでいる。また、建物の内部にミラーガラス・ウォールの建物を貫交させたことにより、外からも内部広場空間の映りこみを視覚的にとらえることができる。建物はカンパニーレ(ガラスの塔)と接続しており、軸線はブラザの中央を介して、グラン・テクランに対峙している13区庁舎への方向性を強めている。

カンパニーレは建物の前に立てられ、イタリア広場にあった歴史的なタワーをしのばせ、広場のランドマークとしてブラザに通じる様々な道路から見ることができる。この塔の中に展望エレベータがあり、パリを一望のもとに見渡すことができる。

「グラン・テクラン」と呼ばれるこのアーバン・コンプレックスが完成し、季節を問わず市民が集うことができる内部の広場が実現した。これによって、イタリア広場に新しい面が加わり、今やパリの東側で最も活気あるブラザとなった。

- 1 Bureaux
- 2 Hotel
- 3 Commerces
- 4 Spectacle
- 5 Espace Communs











Redevelopment Plan for the Seine River Left Bank

Paris, France 1990-

パリ・セーヌ左岸計画

This project is a redevelopment proposal for the eastern district of Paris along the left bank of the Seine River known as the Seine Rive Gauche District. The 130 hectare site, adjacent to the Seine River and centered about a strip of France's National Railway that extends south from Gare d'Austerlitz, has been officially designated as an Improvement District by the City of Paris. Our proposal for this project includes a very detailed plan for the 30 hectare area immediately around Austerlitz Station as

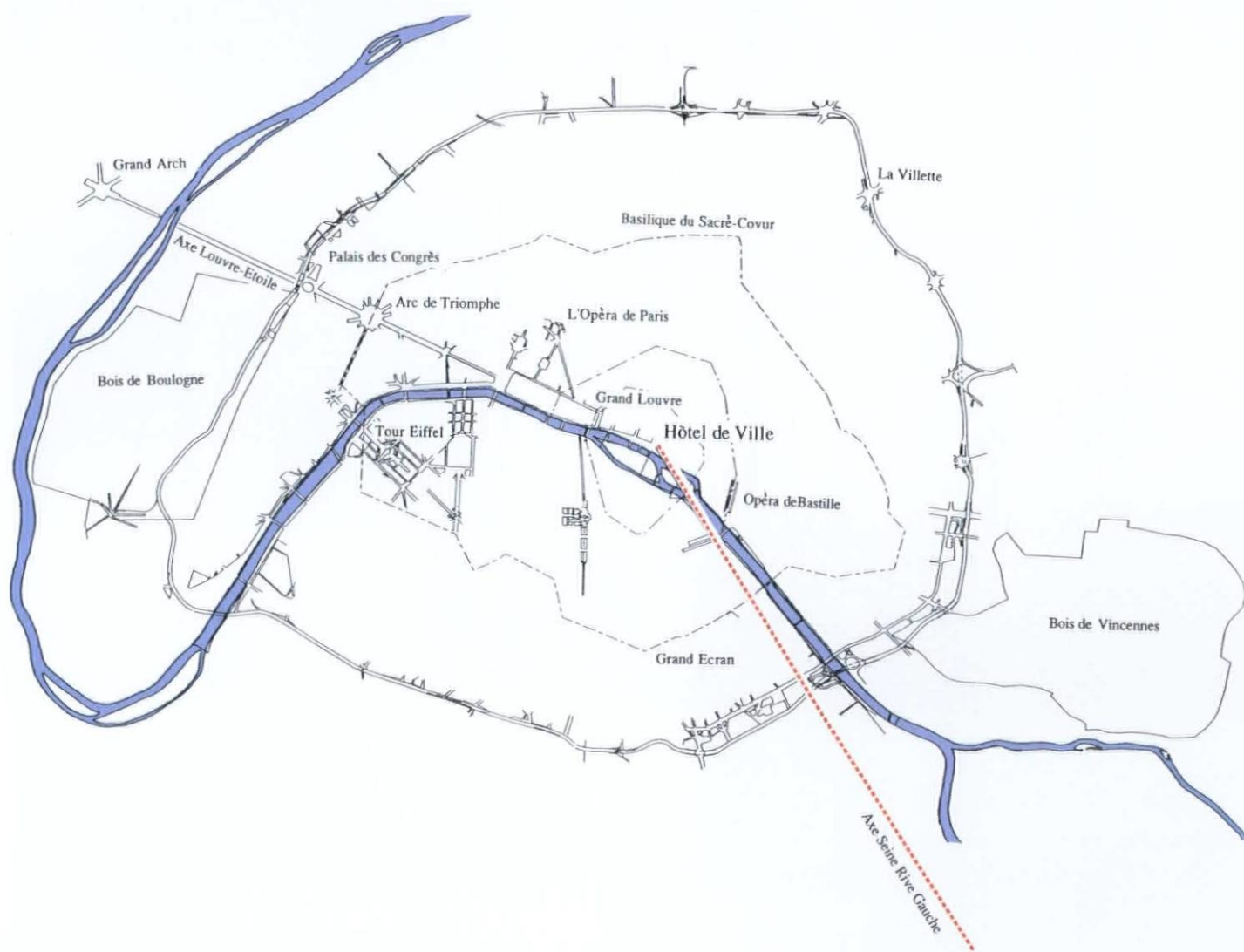
this area is crucial to the successful development of the entire district.

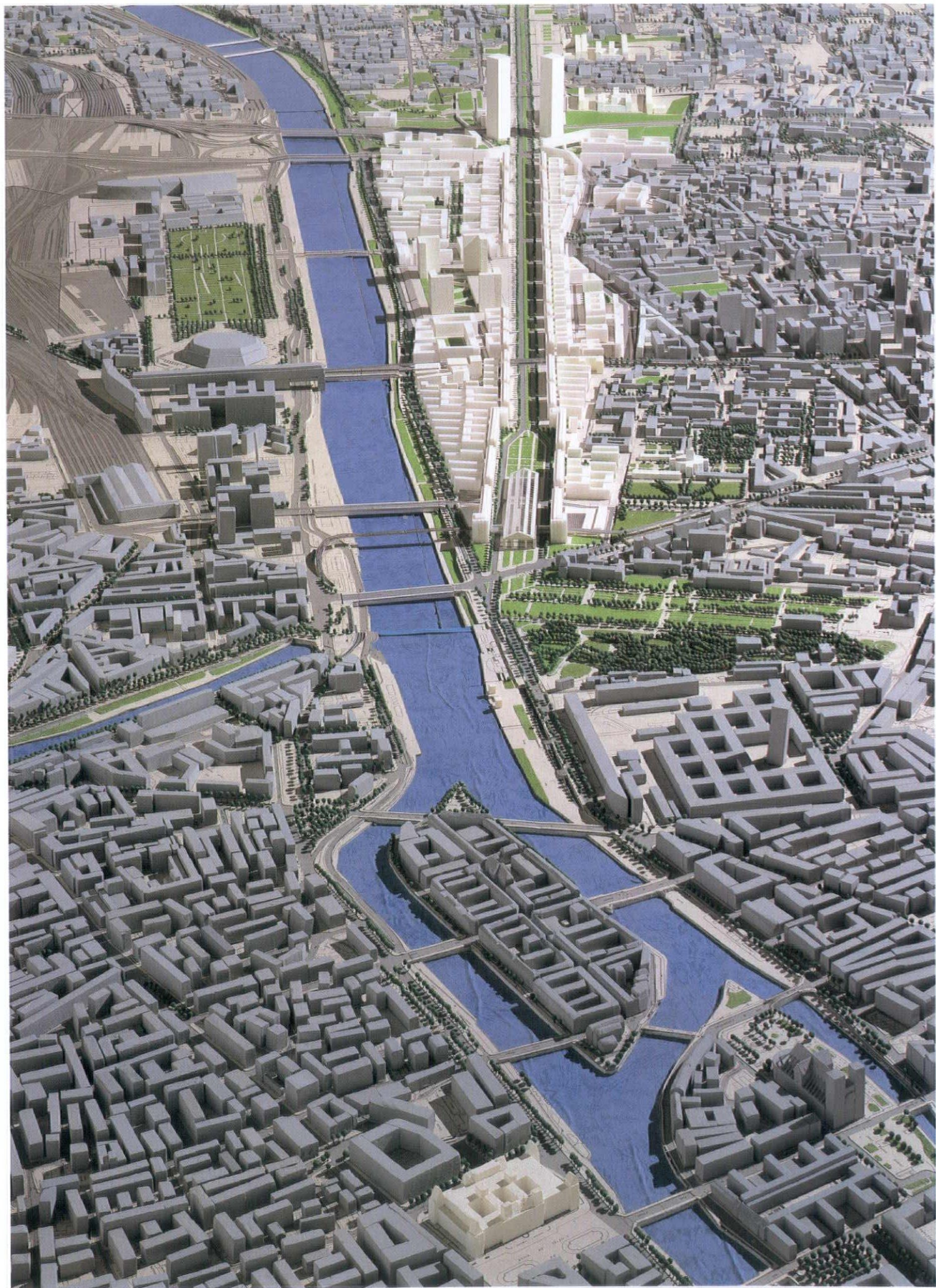
From a historical point of view, Paris has been steadily developing in a westward direction, while a trend towards stagnation and decline can be seen in many of the eastern districts. In the western section of the city there are a series of monumental structures located along a magnificent city axis that extends uninterrupted from the Louvre to the La Défense Area. This axis has served as an armature encouraging further city development; unfortunately, there is currently no such city structure spurring development in the eastern section of city, known as the Left Bank. Our project proposes the construction of a grand axis creating a new urban development armature along the Left Bank of the Seine and serving as a complement to the Louvre - La Défense axis on the Right Bank.

We propose a new city axis be created by constructing a deck above the existing railroad tracks leading South-east from Austerlitz Station. A 70 meter wide boulevard, situated on the deck, would serve as an axis that would rival

the Champs-Élysées on the Right Bank. An extension of this axis across the Seine River would intersect a similar extension of the Louvre - Défense axis at a point near Paris's City Hall (Hôtel de Ville). The construction of this new city axis will help achieve a more balanced city structure between Paris' Right and Left Banks. Buildings that flank the new grand avenue are arranged to emphasize the axis while buildings adjacent to the Seine are placed perpendicular to the river so that access and views to the Seine River are created.

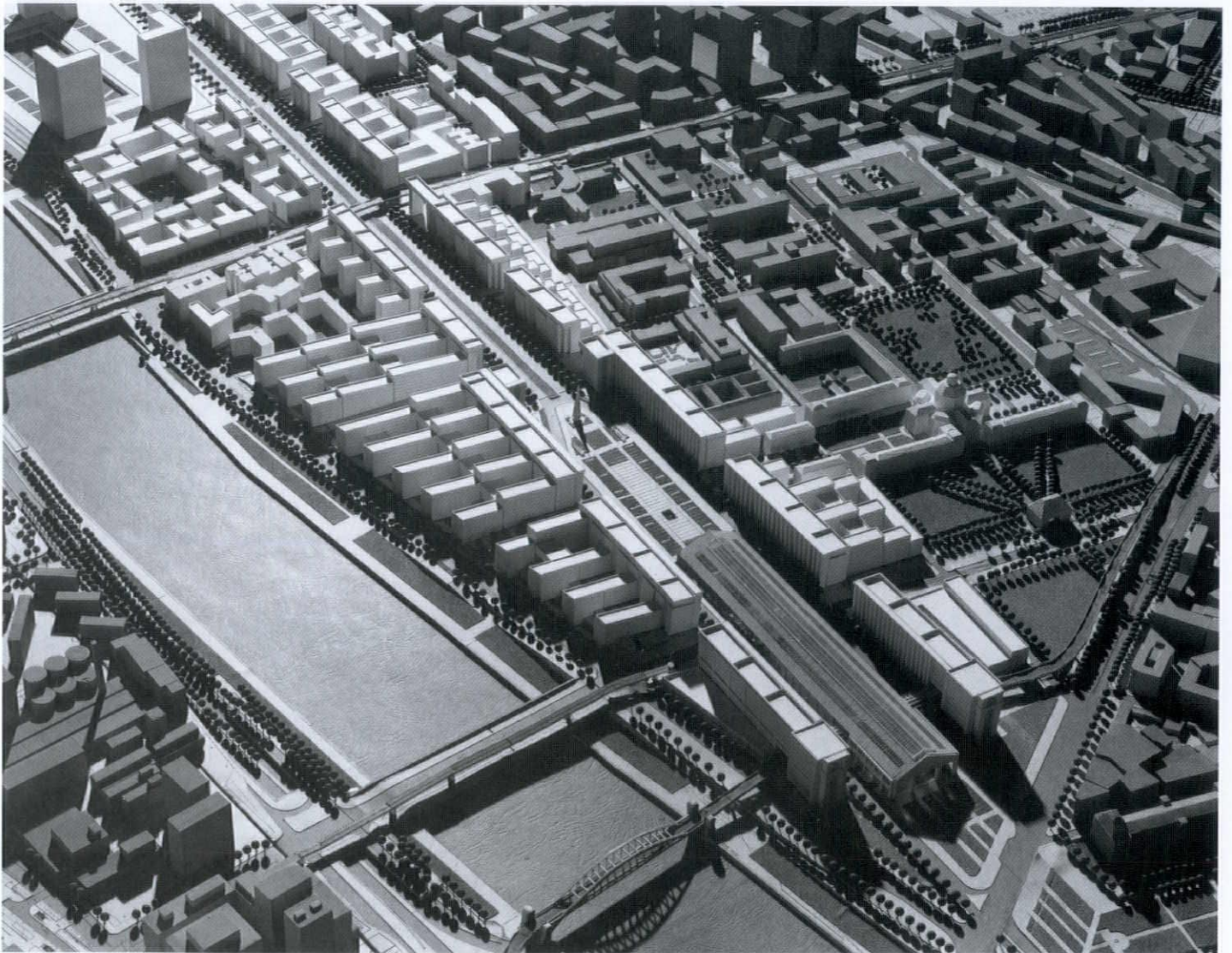
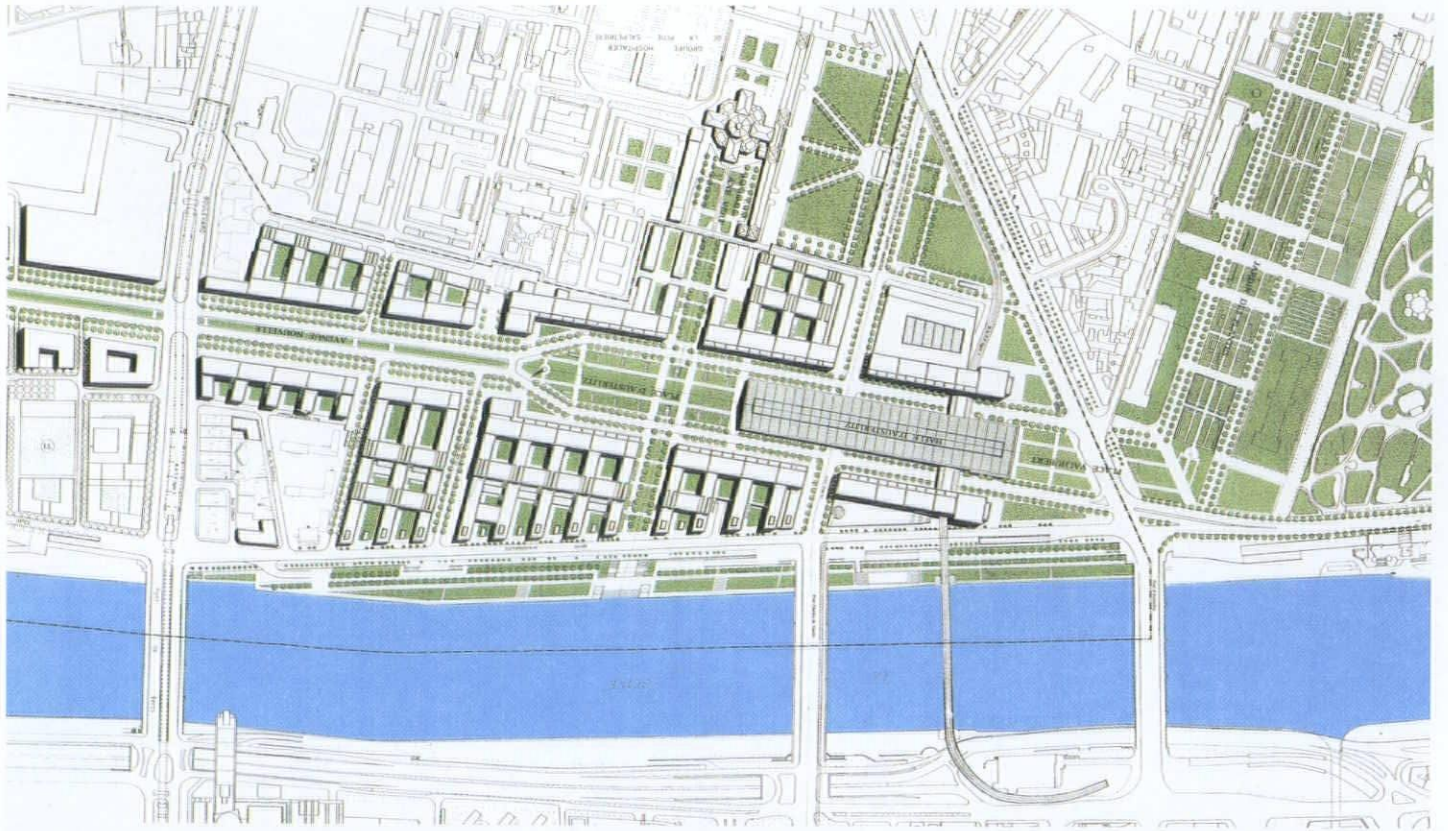
The La Salpêtrière district, which surrounds the Austerlitz Station, would serve as a symbolic gateway and accordingly, the width of the avenue here would be 100 meters. Our redevelopment proposal for the Austerlitz Station involves the preservation and renovation of the large roof of the existing station and the addition of new structures to accommodate the complex functions of the many railway facilities to be incorporated into the station. The renovated station will be both an important functional element and a symbolic gateway for future development in the Seine Rive Gauche District.











このプロジェクトは、パリ市東部地区のセーヌ左岸と呼ばれる地域を対象として提案されたものである。セーヌ左岸の整備対象地域として、オーステルリッツ駅から南東に向かって延びるフランス国有鉄道の鉄道敷を中心とした、セーヌ川に沿って広がる約130haの敷地がパリ市によって指定されているが、本プロジェクトでは、この地域に対する計画と同時に、この内で最も重要なオーステルリッツ駅周辺の約30haの地区について、より詳細な計画を提案している。歴史的にみて、パリ市は西に向かって発展してきており、本プロジェクトを含む東部地域は、衰退、荒廃の傾向が見られる地域である。また、西部地域あるいはセーヌ右岸は、ルーブルから凱旋門を経てデファンスに至る壮大な都市軸を中心として、明確な構造が構築され、これを軸として都市が発展してきたといえるが、東部地域あるいはセーヌ左岸では、

発展の軸となるような明確な都市構造が形成されていないのが現状といえる。

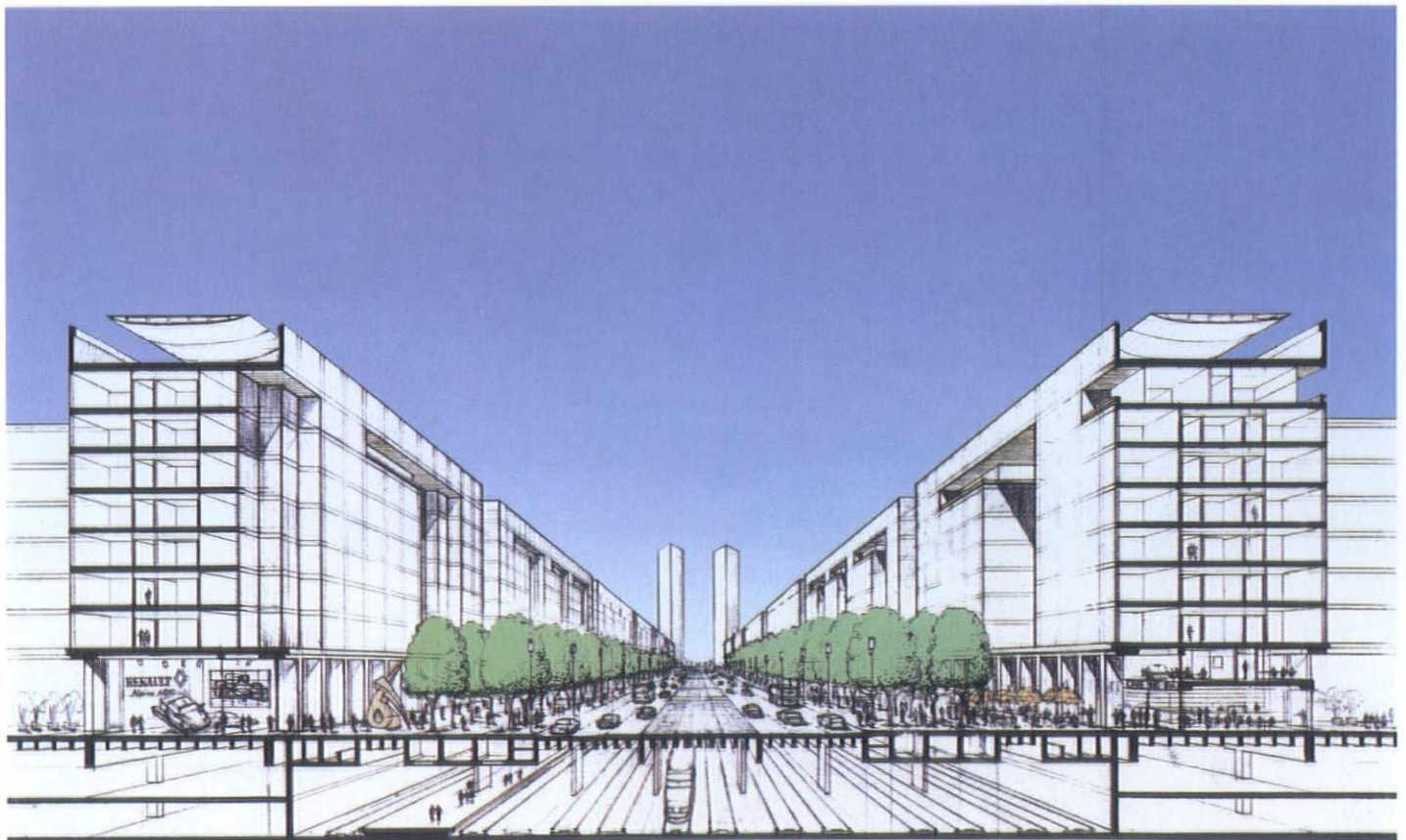
このようなパリ市の状況の下に、本計画では、基本コンセプトとして、パリ東部のセーヌ左岸に、新たに都市を構造づける明確な軸を構成し、セーヌ左岸のルーブル・デファンスの軸に対比する発展の軸とすることを提案している。この新しい軸の構造の枠組の中で本計画は行われている。

オーステルリッツ人工地盤の上に大通りを設けることにより、新しい都市軸を提案した。この大通りは、セーヌ右岸の軸のシャンゼリゼに匹敵する70mの幅員を持ち、その延長線は、ルーブルからデファンスに至る軸線の延長線と、パリ市庁舎の地点で交差することになる。従って、この新しい都市軸を構築することによって、セーヌ左岸と右岸、あるいは西部地域と東部地域それぞれに対して、パリ市としてバラ

ンスのとれた構造を持つことができるといえる。

この新大通りの両側の建物は、都市軸をより強調するよう配置され、一方セーヌ川側の建物は、川に対して直角に配置され、リバーフロントを建物が閉塞することなく、建物の各部からセーヌ川の存在が常に意識できるよう考慮されている。

オーステルリッツ駅を中心とするサルペリトエール・オーステルリッツ地区は、特に、提案されている新しい都市軸の起点であり、ゲートとなる地点である。従って、ここでは、街路の幅員は100mに広がり、その中に現オーステルリッツ駅の大屋根を保存し配置している。オーステルリッツ駅については、再開発案として、2系統のメトロ、中距離鉄道、及びTGVの乗り入れが予定されている長距離鉄道などの錯綜した機能を整理しなおし、同時に新都市軸の入口を表現する建物のデザインとしている。



Master Plan and Design for Napoli Administration Center

Napoli, Italy 1980-

ナポリ市新都心計画

The Master Plan and Design for the Napoli Administration Centre begun in 1980 has overcome many difficulties such as frequent changes in the city government and radical shifts in Italy's economic situation, but in 1995, after fifteen years of work, the "Green Axis" (undertaken in the first phase) is nearing completion. Most of the buildings along this "Green Axis" are already operational and the demand in the

apartment tower on the southern edge of the axis has been as high as 10 applications for each available apartment, an unprecedented ratio in Italy.

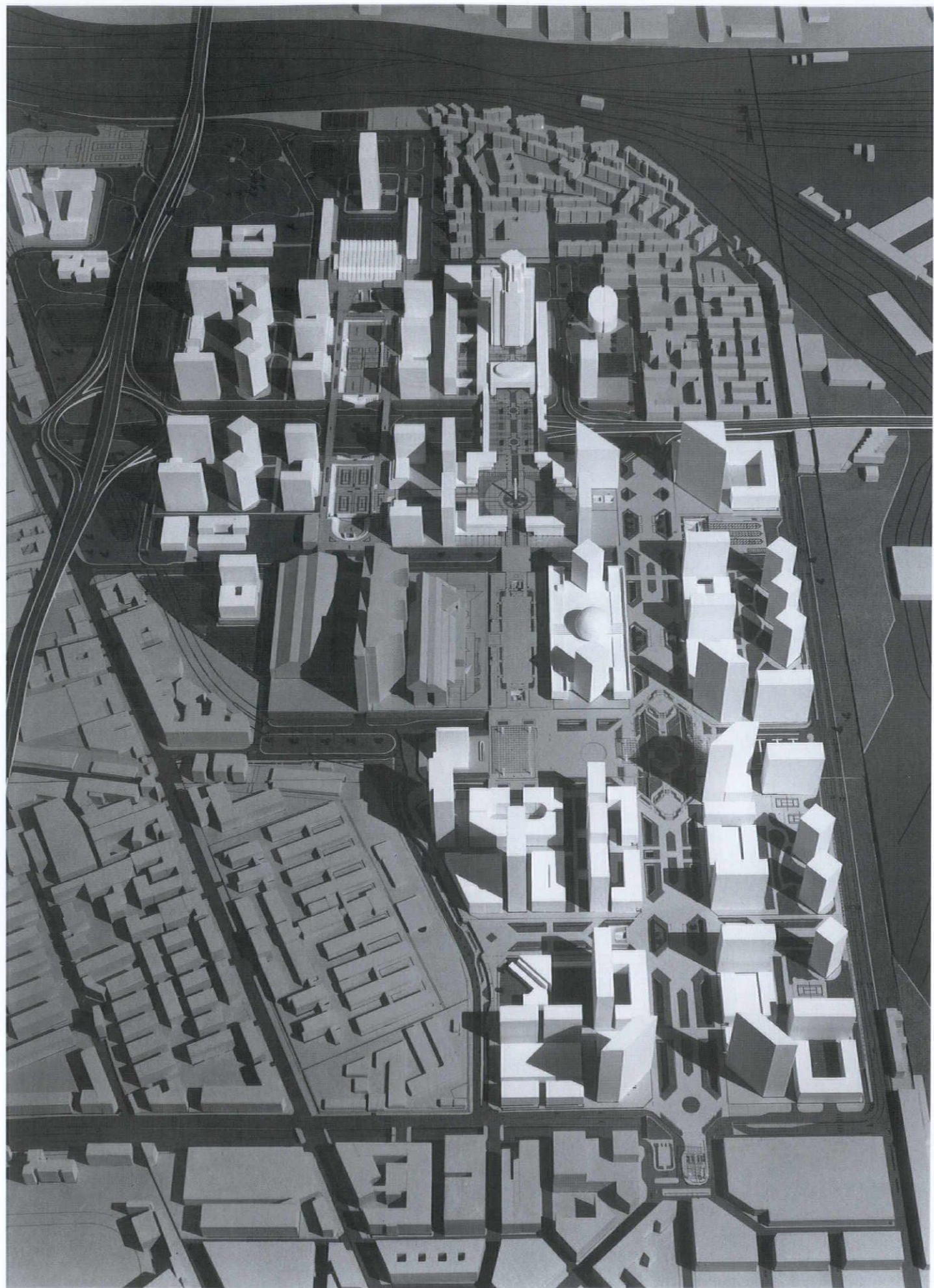
The network of pedestrian pathways, segregated from vehicular traffic, has created a multipurpose space for pedestrians free from the congested roads. In contrast to the historic areas of Napoli, the wide open space of the "Green Axis" is the scene of outdoor concerts, plays, and street performances on weekends and has already become a famous location in Napoli. In fact, many visitors from within Italy and abroad come to study the new segregated traffic system. With the successful completion of the first phase of the Napoli Administration Centre Master

Plan, the prospects for the second phase, which has been delayed by domestic economic and political problems are looking much brighter. The present Mayor of Napoli, Mr. Bassolino, is currently reviewing the East Napoli Overall Development Project, a key project for the future development of Napoli which extends over a 1,000-hectare area. He is trying to make the Master Plan and Design for the Napoli Administration Centre not only a blueprint for the relocation of government and corporate offices, but the core of new development in East Napoli.

The second phase of the project includes work on the "Public" and "Sports" Axes according to the development plan of East Napoli.







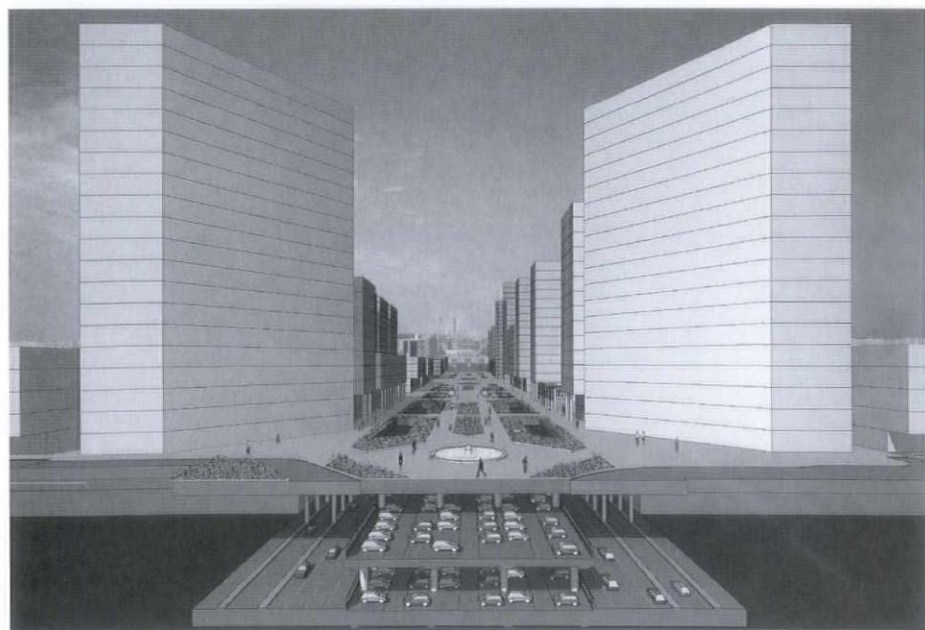
1980年にスタートしたナポリ新都心計画は、度重なる市政の変化、イタリア国内の経済状況の悪化という困難を乗り越え、15年経った現在、第1期工事にあたる「緑の軸」がほぼ完成された。

この「緑の軸」に建ち並ぶビルの大半は既に業務を開始しており、軸の南裏に位置する住宅タワーは、イタリアでは異例の高競争率10倍以上という中で選ばれた人々が入居し、生活を始めている。

計画の核となる歩車分離のネットワークシステムは、車の混雑から開放された歩行者のために多機能空間を実現させている。ナポリの歴史的地区とは対象的な「緑の軸」の広々とした空間では、その広場を中心に週末には野外コンサートや演劇、大道芸人なども見られ、ナポリの新名所にあげられているまでになっている。そのためイタリア国内外から、この歩車分離システムの見学者が数多い。

新都心地区は、第1期工事が完成したことで、国内経済の悪化や政治問題を原因に遅れている第2期工事を早急に開始し、地区の都市機能を完結させようという機運が高まっている。中でも現市長パッソリーノ氏は、ナポリの将来の発展を担う1,000haに及ぶナポリ市東部総合開発を現在再検討しており、その中で、このナポリ新都心計画を、従来の官庁・企業等の移転計画ばかりでなく、新しく発展する東部地区の中心と位置付けようと考えている。

この第2期工事では、「公共の軸」、「スポーツの軸」は、将来、増加が予測されるナポリ東部地区住民をも視野に入れた開発計画として進められていくことになる。



BMW Italia Headquarters Building

Milano, Italy 1991-

BMWイタリア本社ビル

The project is situated in the small Italian city of San Donato Milanese which is located 7 kilometers from central Milano, in an area of development that includes office and residential buildings that Kenzo Tange Associates master planned for the natural gas corporation S.N.A. M.. The site for this building is located along the highway that links Milano to Bologna.

The building is composed of 3 basic volumes, a main office space of 5,550 square meters, an exhibition space of 1,450 square meters, and the Italia Sales and Maintenance Training Center with 2,000 square meters of space.

The concept of this building, expressed in a metallic finish similar to the corporate image of B.M.W., resides in its streamlined dynamic shape developed from the neighboring highway. We designed the building to be in harmony with our Affari district master plan which has a radial pattern.

The streamlined design of the office showroom, in addition to its recognition of the site topography, is intended to have a strong impact on the people utilizing the highway.

Construction of this project will begin in the Fall of 1995 with the building being scheduled to open in 1998.

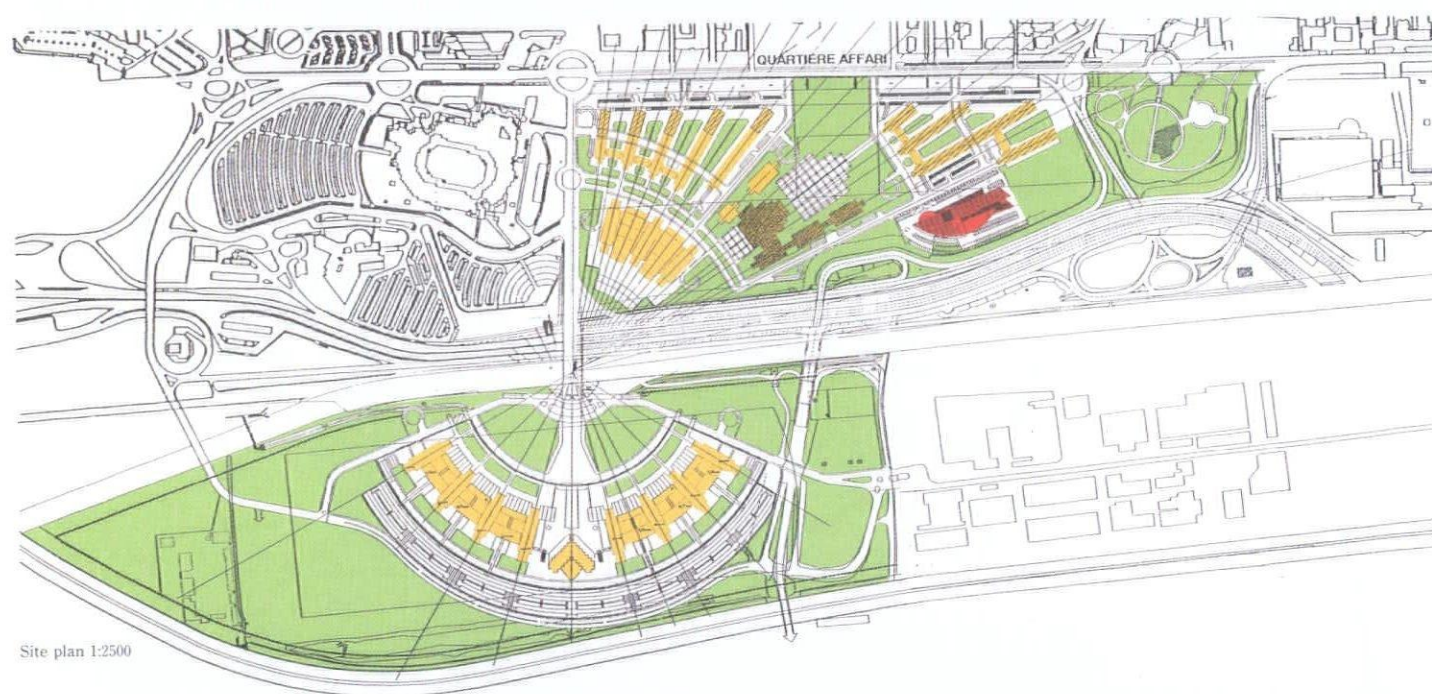
この計画地は、ミラノ市の中心より7km離れたサンドナートミラネーゼ市にあり、SNAM(天然ガス公団)により、オフィス、住宅等の総合開発が進められている地区である。また、ミラノ・ボローニャを結ぶ高速道路に隣接する場所に位置する。

建物は大きく分けて、本社事務スペース (5,550㎡)、展示場 (1,450㎡)、イタリア・セールズ・メンテナンス・トレーニング・センター (2,000㎡) の3つの機能から構成されている。この建物のコンセプトは、隣接する高速道路からの視界を意識した流線型のスピード感溢れる形状を取り入れ、BMW社のコーポレートイメージであるメトリックなデザインとして表現している。これを、私達が計画した放射線状に広がるアッファリ地区マスタープランのコンセプトと一体化させ、建物を構成した。

オフィス・ショールームの流線型のデザインは、敷地の形状に調和させるとともに、高速道路を利用する人々に強いインパクトを与えることを意図している。

計画は1998年のオープニングに向け、1995年秋より実施設計がスタートする。





Saigon South New City Center

Ho Chi Minh City, Vietnam 1993-

サイゴン・サウス・プロジェクト

Vietnam, with an estimated population of 6 million people, is in the process of shifting towards a market economy and Ho Chi Minh City (previously known as Saigon), its largest city, is expecting both an influx of foreign investment and a rapid population expansion. We proposed this project for an international design competition in June 1993 held as a result of the newly implemented economic policies. The master plan is for a site of approximately 2,600 hectares located approximately 2 kilometers south of Ho Chi Minh City's existing urban center. When complete, the project is intended to provide employment opportunities for roughly 300,000 people and support a population of

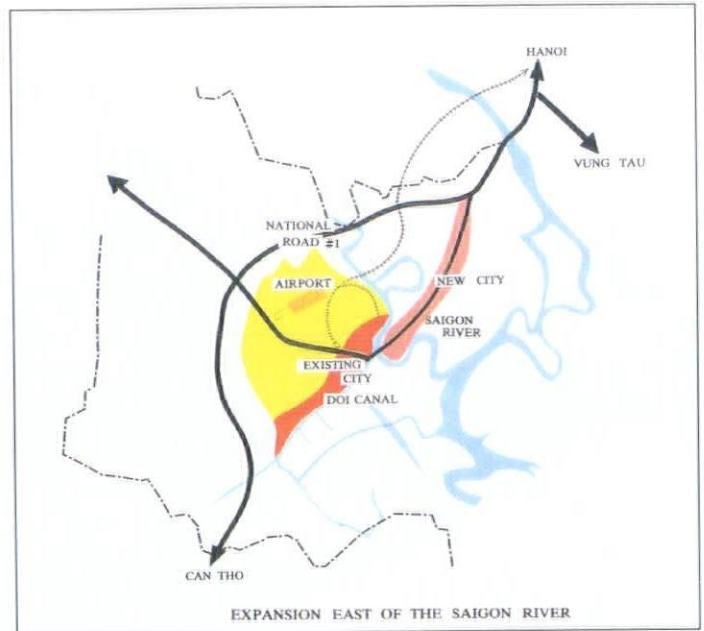
almost a million people.

The initial investigation considered two different potential new city center sites; a region across the Saigon River from the existing city and a vast undeveloped area a few kilometers south of the existing city. The site on the other side of the Saigon River would require the construction of a number of bridges and tunnels to physically connect it to the existing city; in contrast, the southern site could be linked to the existing city with relative ease. After careful consideration of the areas comprehensive traffic network, and the potential of future expansion, the site located south of the existing city was judged a more suitable location for the new city center. The center piece of the development is the new main highway linking the 2,600 hectare site east to west and connecting the industrial and housing development, already under construction east of the project site, with National Highway 1 which passes through the west side of

Ho Chi Minh City. Our project proposed a linear city located between the main highway, which forms one part of the new city's framework, and a system of waterways that form the other part of the framework. These types of waterways have traditionally been used for transportation in Vietnam and consist of a network of small and large natural canals that flow throughout the site.

The land use for this linear city was carefully planned in relation to the existing downtown area. The international business center is positioned on the eastern edge of the new city near the existing city center, making it easily accessible from the existing urban center. Situated along the new roadway are a number of mid- and high-density districts, as well as residential and park areas. The western edge of the new city is connected with National Highway 1 which runs the length of the country and links all parts of Vietnam together.



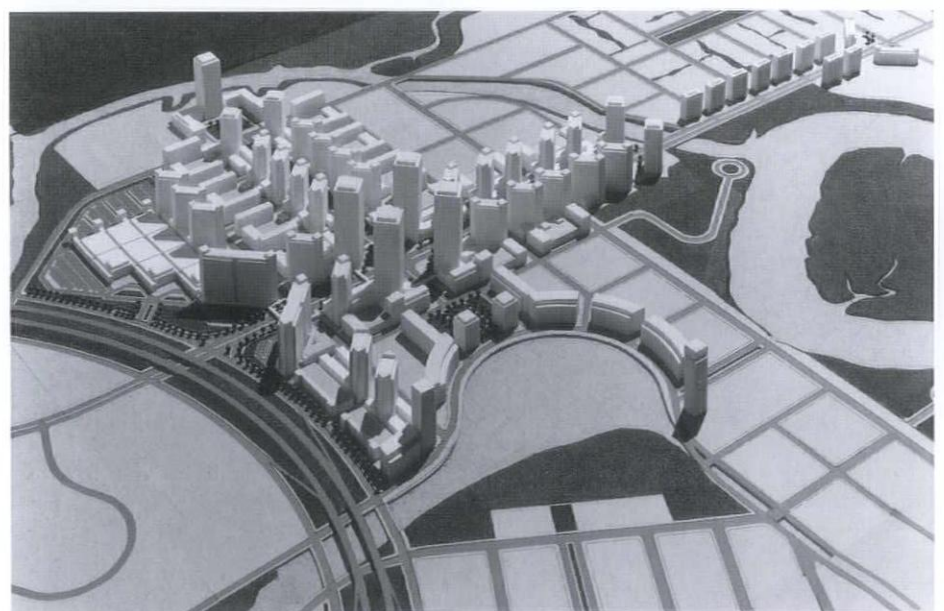
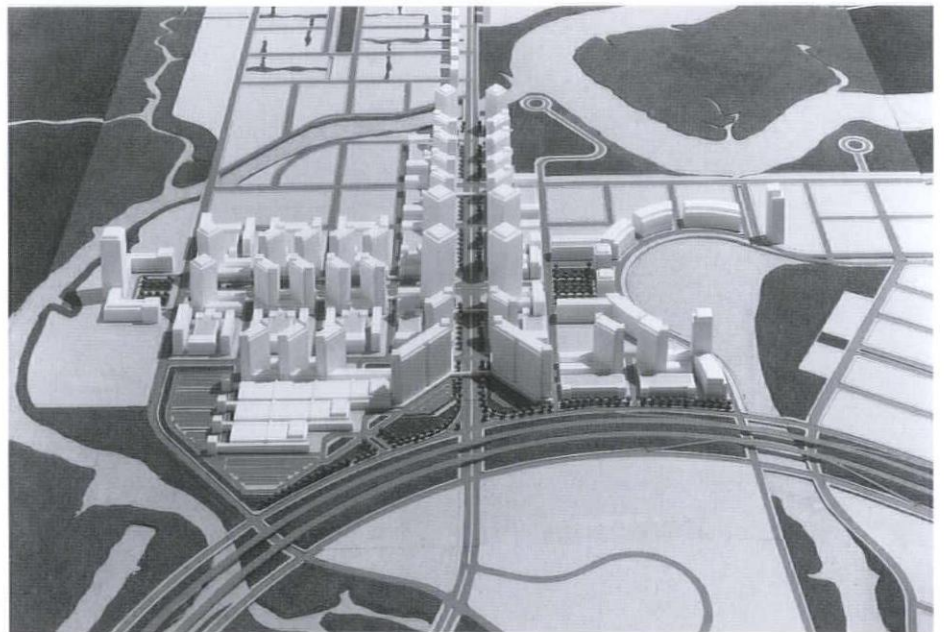




本プロジェクトは、ドイモイ政策による市場経済の導入が進むベトナムの経済の中心地であるホーチミン市のために、1993年6月に提案されたものである。計画対象地域は、現ホーチミン市の市街地の南側に広がる約2,600haの用地で、開発の最終段階には、91万人の人口と約30万人の雇用を提案している。ホーチミン市は、推定600万人の人口を有するベトナム最大の都市であり、同国の市場経済への移行に伴い急速な都市拡大が予想されている。本プロジェクトはこれに対処する新都市計画として提案されたものである。計画当初においては、新都市の立地についての検討が行われ、既存の都市からサイゴン川を渡った地域と、南部に広がる広大な未開発地域の二者が検討された。後者が、既存市街地との間の交通ネットワークの整備や将来的な拡張のしやすさなどの点で、既存の都心との連絡のために、新たにサイゴン川を渡る橋やトンネルが必要となる前者に対して、より新都市の立地にふさわしいと判断された。本プロジェクトでは、2,600haの用地を東西に結ぶ幹

線道路が、計画用地の東に既に建設中の工業団地と、市の西側を通過する国道1号線とを結ぶルートとして不可欠なものとなるため、これを新都市の骨格の一方とし、他方で、当用地を縦横に流れる大小の自然の水路を利用した、ベトナムの生活の伝統である水路交通を活用するための運河を、もう一つの骨格として、幹線道路と運河に挟まれたリニアな都市を提案した。

このリニアな都市は、既存の市街地との関係を基にして、その土地利用が計画されている。既存の都心に最も近く、現市街地からのアクセシビリティが最も高い東端部分には、国際ビジネスセンターが配置されている。一方新都市の西端は、国道1号線に接し、これによりベトナム全土との流通に有利となる点から、軽工業やこれに関係する物流センターを設定している。それらの間には、ノードとなるいくつかの中高密度地区と住居、緑地などのゾーンが配置されている。



Revised Central Area Model

Gan-Chen Commercial District Master Plan

Taichung, Taiwan 1994-

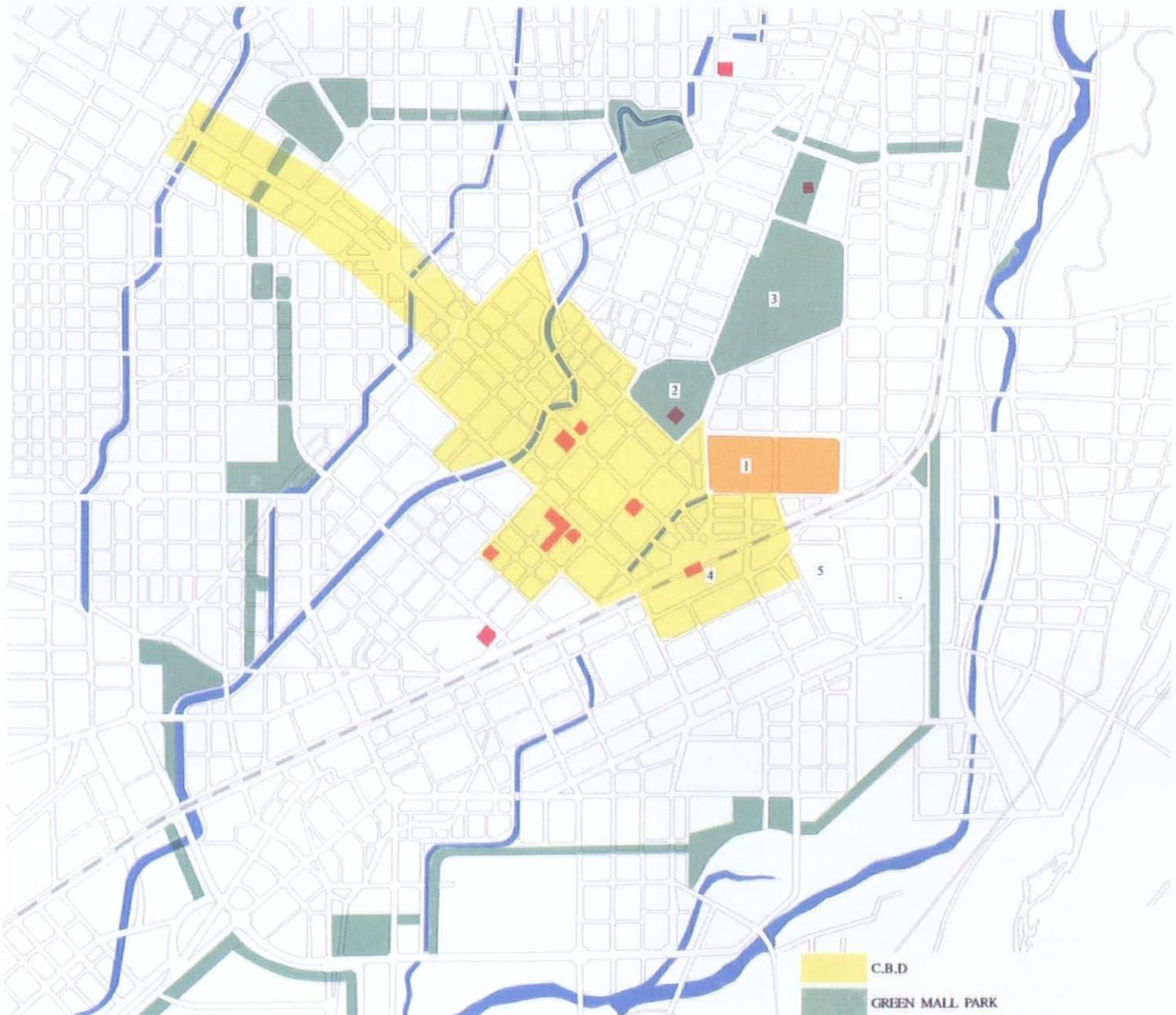
台中市干城商業地区マスタープラン

Taichung, located in the central region of Taiwan, has a population of about 800,000 people making it the third largest city in The Republic of China. Its population is expected to reach 1 million by the 21st century, and because of its rapidly growing economy, it has the greatest economic potential of all of Taiwan's cities. Situated on the east side of Taichung's central commercial area, the Gan - Chen commercial district is 4 large city blocks, of approximately 18 hectares, that link Chun Shan Park to Taiwan Railway's Taichung Station. The objective of this project is to revitalize the present commercial activity so that Taichung

City can promote itself as a new business base with complex functions valuable in attracting international business.

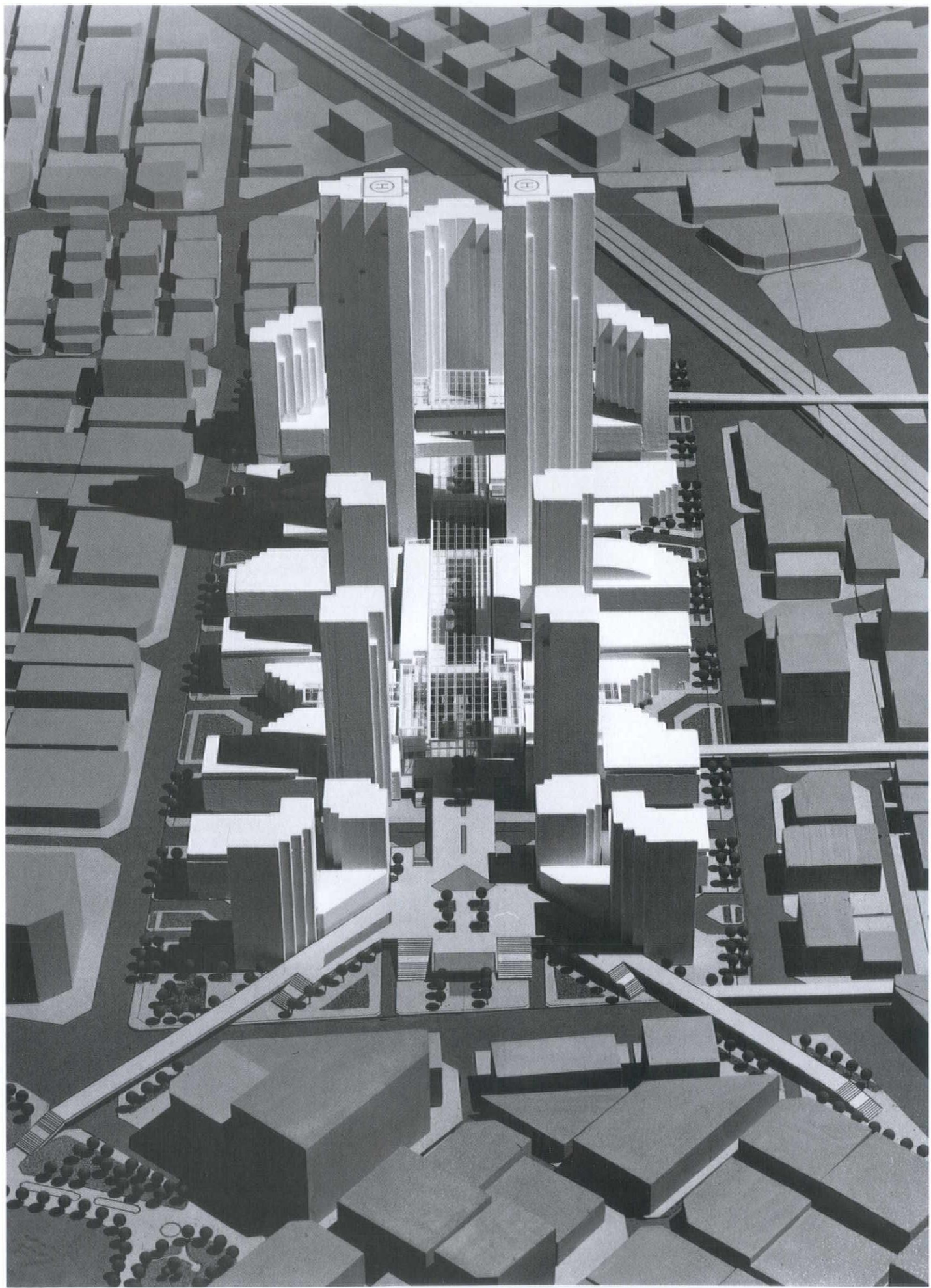
Through our surveys and analysis, we discovered special characteristics found in Taiwanese architecture. Working from these characteristics, we developed our key master planning concept of the "twin dragons". The dragon, according to Chinese mythology, symbolizes power and prosperity, and in one form of traditional Chinese architecture, dragons are placed at the very top of the structure, one at each end, as symbols that protect and bring luck to the people living within. In accordance with the twin dragon concept, twin towers were positioned about the axis running east - west through the center of the site, with pedestrian decks linking the two towers together. In order to cope with the anticipated increase in traffic volume and to completely separate pedestrian and vehicular circulation, the area beneath the

pedestrian deck is reserved for parking. The pedestrian decks are part of a comprehensive "pedestrian network" being promoted by the city of Taichung and function as a framework that organically connects the district with the nearby Chun Shan Park, Taichung Station, and future development. A number of structures are positioned symmetrically about the pedestrian axis in a linear fashion, including a large 5-story shopping mall with a large atrium, department stores, 100 meter high office buildings, cultural facilities, and residential hotels. The block which serves as the entrance to the development has a 5,000 square meter outdoor public plaza landscaped with rich greenery and two 240 meters high towers, containing office and hotel space. The entire complex is scheduled for completion in the year 2001, and it is expected that the 650,000 square meter Gan - Chen Commercial District will serve as an international and commercial base for Taiwan.





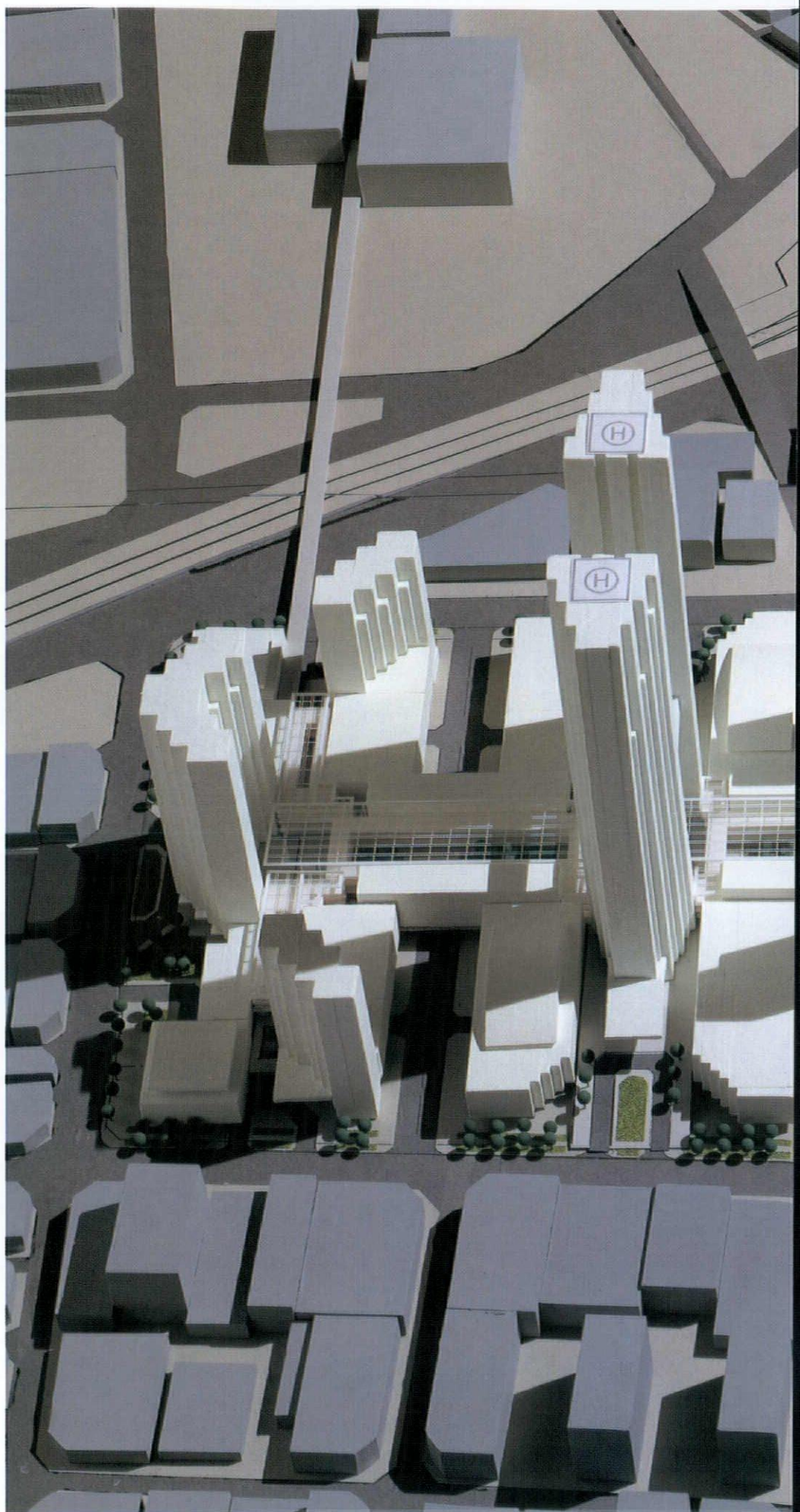




台中市は人口約80万人の台湾中部における最大の都市であり、台北、高雄に次ぐ第三の都市として知られている。21世紀には人口百万人に達すると予想され、その経済活動の伸びから、今日、台中市は台湾の都市の中でも、最も将来性の高い、重要な都市となっている。干城商業地区は、台中市の中心商業地域東側に位置し、風光明媚な中山公園と台湾鉄道の台中駅を結ぶ約18haの広さを持つ街区である。

このプロジェクトの立案に先立ち行った調査・分析作業を基に提案した計画の目標は、「現況の商業活動を再編し、台中市が推進する国際ビジネスの誘致に貢献する複合機能を有する新ビジネスの拠点とする」ことであった。また、この現地での調査・分析作業を通して私達は、台湾の建築にみられる特筆すべき特徴の一つを見出した。その特徴からマスタープランの鍵となるコンセプトを引き出し「雙龍の概念」として計画を進めた。

中国文化の神話的側面では、龍は力と繁栄の象徴であり、台湾の伝統的建築様式の一つに屋根の頂部の両端に龍が各々取り付けられ、住む人を護り、幸運をもたらす象徴とされている。この雙龍のコンセプトから、敷地の中央を東西に貫く軸線に沿ってツインタワーを配置し、ペデストリアンデッキで各ブロックを結んでいる。デッキ下は駐車場にすることにより、予想される交通量の増大に対応すると同時に、歩車の完全分離を図っている。また、このペデストリアンデッキは、台中市が推進するペデストリアンネットワーク構想に寄与し、干城地区周辺の中山公園、台中駅、さらに今後予定されている他の開発街区を有機的に接続する拠点としても機能する。このペデストリアン軸を中心に、大空間アトリウムを持つ5層の大型ショッピングモールをはじめ、数種の百貨店、高さ100m級の高層オフィスビル群、文化施設、レジデンシャルホテル等を、ほぼ線対称となるよう配置している。マスタープランの入口部分には、約5,000㎡の広がりとし緑豊かなランドスケープを持つ屋外広場を配置している。この広場は、メインのアクセス道路に開かれており、車から歩行への明解な移行を助けるとともに、周囲の既存街区に対する開かれたコミュニティのあり方を提案している。全ての施設群は、2001年を目標に完成する予定であり、干城商業地区全体で約65万㎡の台湾を代表する国際ビジネス・商業拠点として機能することが期待されている。





UE (United Engineers) Square

Singapore 1989-

UEスクエア(ユナイテッド・エンジニア)

The site of this project is situated midway between the well known central shopping area of Orchard Road and the Central Business District that is home to the United Overseas Bank Plaza. Situated diagonally from the site is the beautiful Fort Canning Park, the project is also close to the Singapore River Reserve and the old shopping district.

The total floor area of 130,000 square meters includes an 18 story office building, 350 condominium units, 130 service apartments, and a shopping center. Parking is located in 2 underground levels to preserve the site's scenic beauty and to help separate pedestrian and vehicular circulation. The project site is divided into two separate sections with the condominium block in the western portion and the office and service apartments in the eastern portion. The building mass was placed in a line perpendicular to the Singapore River, and the building mass steps in decreasing height toward the river to

allow for scenic views from River Valley Road. The western portion of the site is kept low to match the scale of the historic shops across the road.

Because the scale of office and residential buildings is very different, we employed a square frame with pink granite as a theme for the outer wall design in order to preserve unity and balance. Through repetition, transformation and continuity of these units, we expressed a rhythmic flow towards the river and tried to achieve harmony with the surrounding buildings in terms of scale. On the first floors of the buildings facing the street, we attempted to create an intimate relationship between people and buildings by creating a "covered walkway" pedestrian space, required by Singapore's characteristic weather conditions. Underground construction has been completed and the project is due to be completed in 1997.



プロジェクトの敷地は、UOBのあるビジネスセンター地区とショッピングの中心地として有名なオーチャードロードとの中間にある。敷地のはす向いにはフォートカニングパークという緑豊かな公園があり、またシンガポール・リバーの保存地域に近接しているためにそれらの周辺環境とのデザイン上の調和も求められた。

18階のオフィス、350戸の分譲のコンドミニウム、130戸のサービスアパートメント、ショッピングセンターからなる総延床面積約13万㎡の計画である。駐車場は景観保全のため地下2層に収容される。

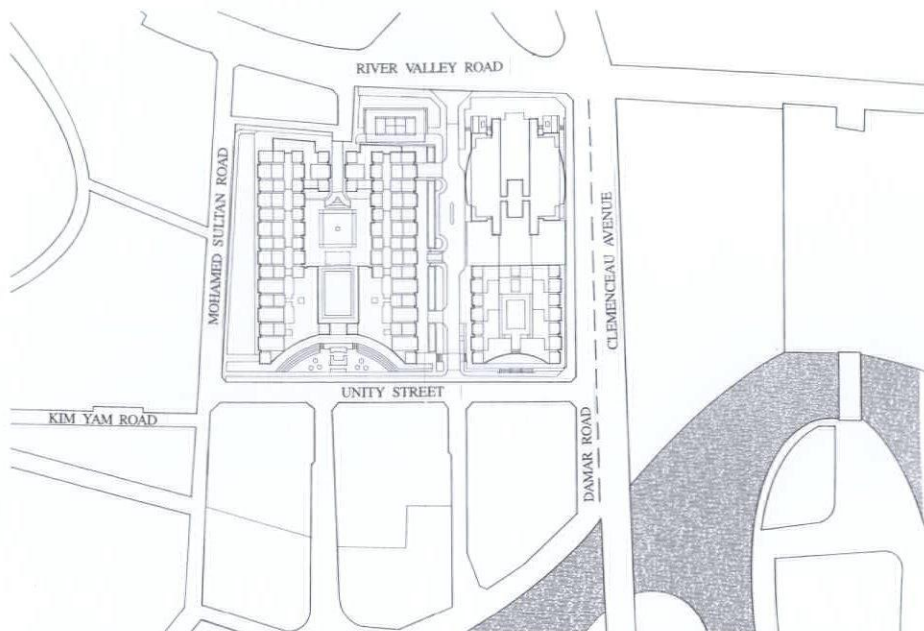
配置計画にあたっては、分譲のコンドミニウムの部分を他の部分と区画し、またオフィスは主要な2本の道路のコーナー部分に位置させ、北側正面からシンガポール・リバーへの視界を妨げないように、川に向かって垂直方向に各ブロックを並べた。

建物の高さについては、全体のブロックを川に向かってステップダウンさせると同時に、西側の通りに面した部分の高さを、通りの反対側の保存地域の街並みにスケールを合わせ低くした。

オフィスと住宅棟というスケールの異なるものが、1つの敷地の中にあるため、共通性とスケールのバランスを保つため、外壁のデザインにピンク色の御影石を基調とした正方形のユニットを採用した。それらを繰り返して、あるいは変化させて連続させることにより、川の方へ流れていくリズムを表現し、また、周辺の建物とのスケールの調和を図ろうとした。

また、通りに面した建物の1階部分ではカバードウォークウェイと呼ばれる歩行者空間をつくることにより、シンガポール特有の気候条件のなかで、建築と人間が親密な関係を生み出すことを試みている。

地下工事が完了し、現在地上部分が施工中である。



Site Plan 1:1000



TeleTech Park

Singapore 1994-

テレテック・パーク

Located 5 kilometers to the west of downtown Singapore, the Science Park II complex offers research and development facilities for the high-tech telecommunications and information technology industries. TeleTech Park is within Science Park II, and our proposal for this project, combining both the site's natural features and the spirit and energy of the advanced telecommunications field, was selected in 1994 from an international competition.

Singapore prides itself as the "Garden City", and our design responds to the surrounding environ-

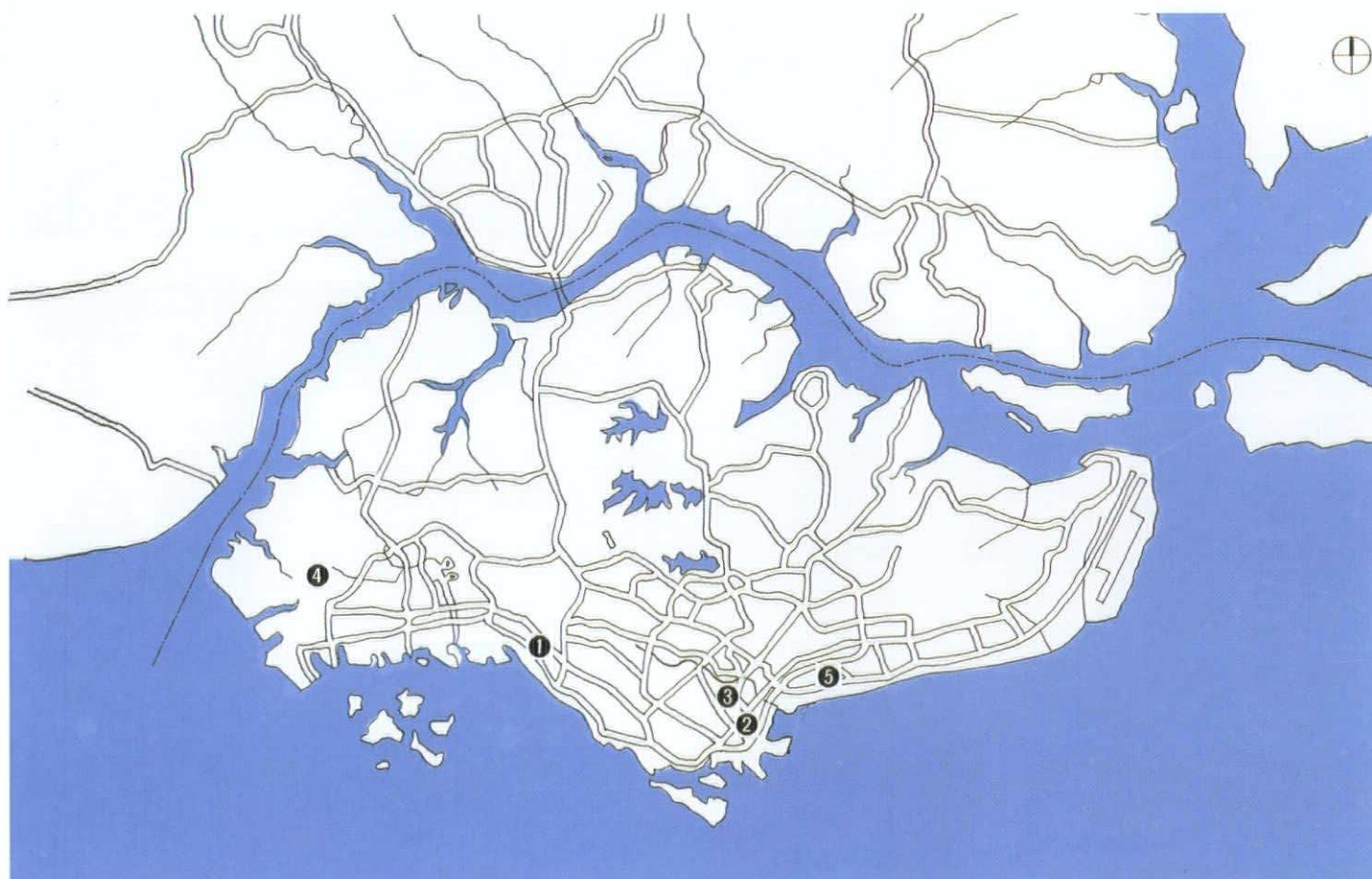
ment, shape of the site, and natural contours and vistas in providing a simple, yet monumental, V-formation. The project provides a series of public and private amenities extending from the entrance of the site along the central axis, including the glass entrance hall, lounge and cafe area, a central plaza, and terminating at a promontory along which scenic views toward the sea can be enjoyed.

In accordance with the master plan guideline to keep the building low and the architectural program that functionally required large blocks of tenant space, the building was separated into two wings connected by walkways to the central triangular glass lobby and lounge areas. This dynamic configuration allows the three stories of office space to have views of the lush flora and eliminates inter-visibility problems.

TeleTech Park uses aluminum panels, stainless steel, and glass to provide a building that clearly expresses the clean, high-tech image of the telecommunications field and integrates energy saving louvers into the composition and design. The building provides complete intelligent building services as well as information age features including fibre optics, video conferencing and on-site global satellite links to facilitate users in their research and development.

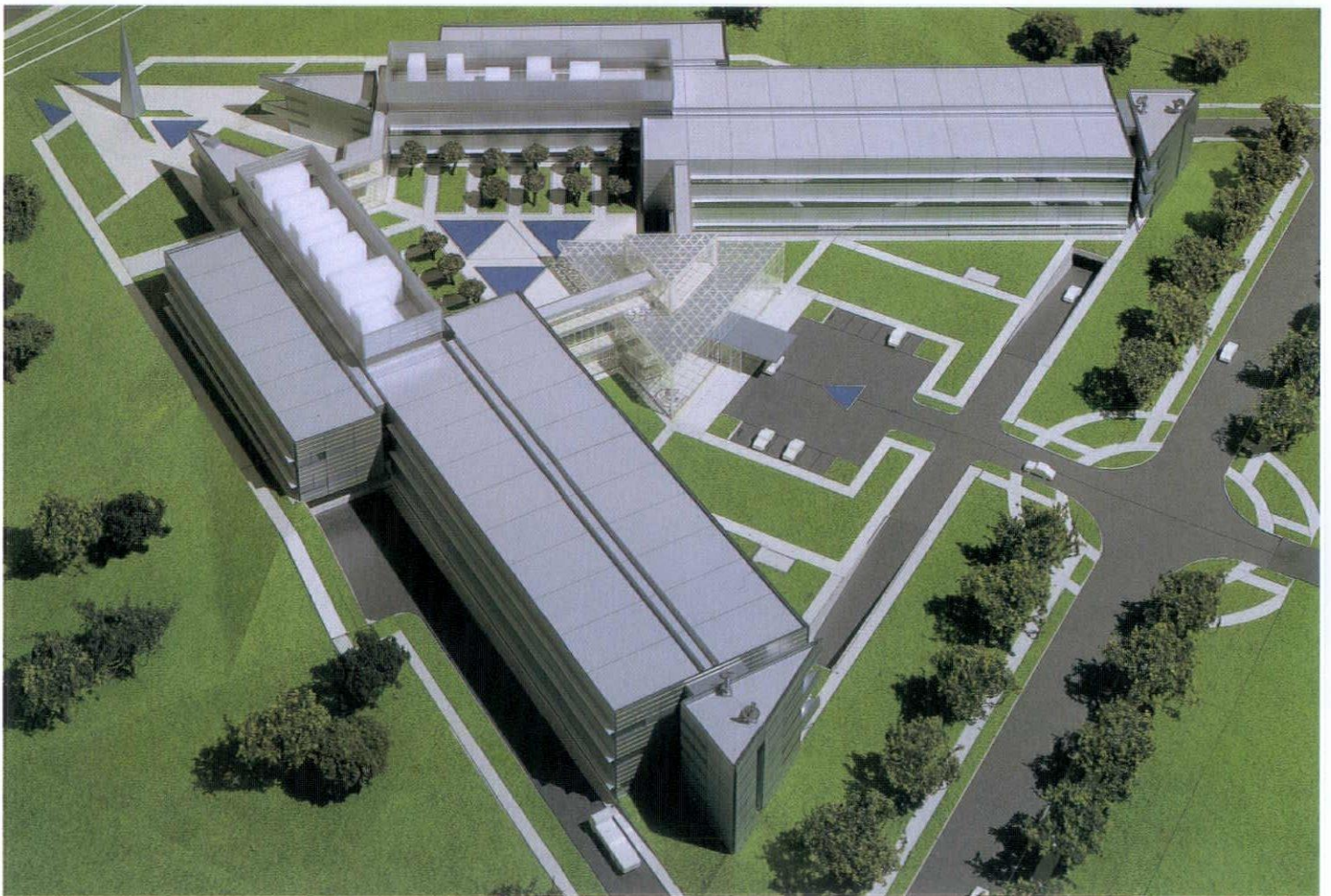
シンガポールの中心部から西へ5kmの場所に位置するサイエンスパークIIコンプレックスは、ハイテク・テレコミュニケーションの研究開発施設である。テレテックパークは、サイエンスパークII内に位置し、1994年の国際コンペで、この敷地の自然の特徴とテレコミュニケーションという先端分野の精神とエネルギーを結合させた私どものチームのプロポーザルが選ばれた。

ガーデンシティといわれるシンガポールにおいて、私どもは、周囲の環境、敷地の形、地形と眺望にふさわしい、シンプルでしかもモニュメントとなるようなV字型のデザインを提案した。敷地の入口から海への眺望が開ける岬まで、中央の軸線に沿って、ガラスのエントランスホール、ラウンジ、カフェ、中央プラザなどの一連のパブリックとプライベートのアメニティを提供している。建物を低くするというマスタープランのガイドラインと、機能的に広いテナント・スペースを必要とする建築プログラムにより、建物はふたつのウィングに分けられ、連絡ブリッジにより中央にある三角形のガラスのロビーとラウンジにつながっている。このダイナミックな形により、3つのフロアからなるオフィス・スペースから豊かな緑を楽しむことができる。外壁にアルミのパネル、ステンレス・スチール、ガラスを使うことにより、テレコミュニケーションの分野が持つクリーンでハイテクなイメージを表現し、省エネルギーのためのルーバーを建物の構成とデザインの要素に取り入れた。インテリジェント化された建物は、ユーザーの研究開発のための光ファイバー、ビデオ会議、グローバル・サテライト・リンクなどの情報化社会にふさわしい施設を備えたものとなる。



Site plan

① TeleTech Park ② O.U.B. Centre, O.U.B. Plaza, City Telecommunication Tower ③ U.E. Square ④ Indoor Stadium ⑤ Nanyang Institute of Technology

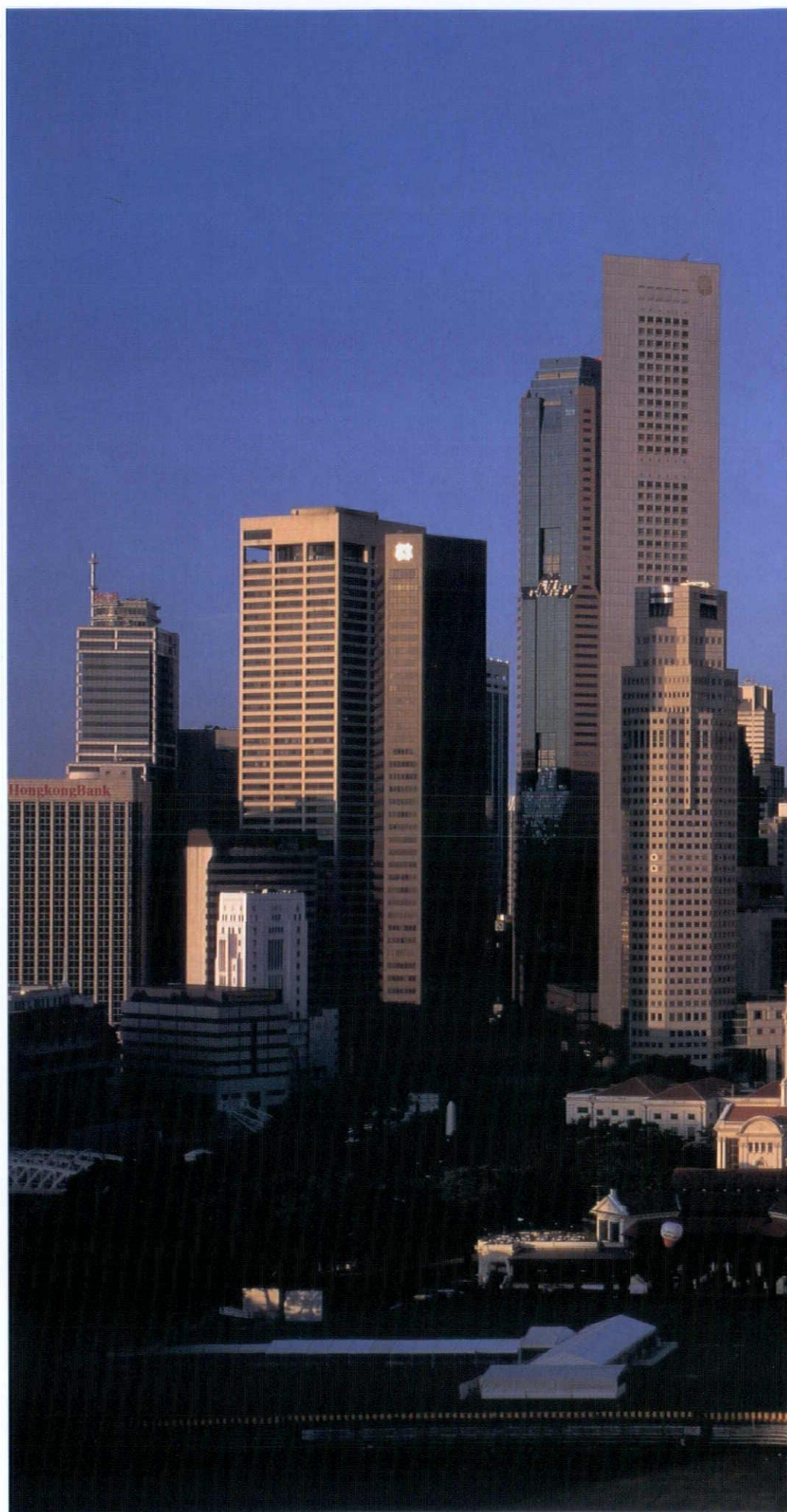


UOB (United Overseas Bank) Plaza

Singapore 1983-1995

UOB(ユニテッド・オーバース・バンク)プラザ

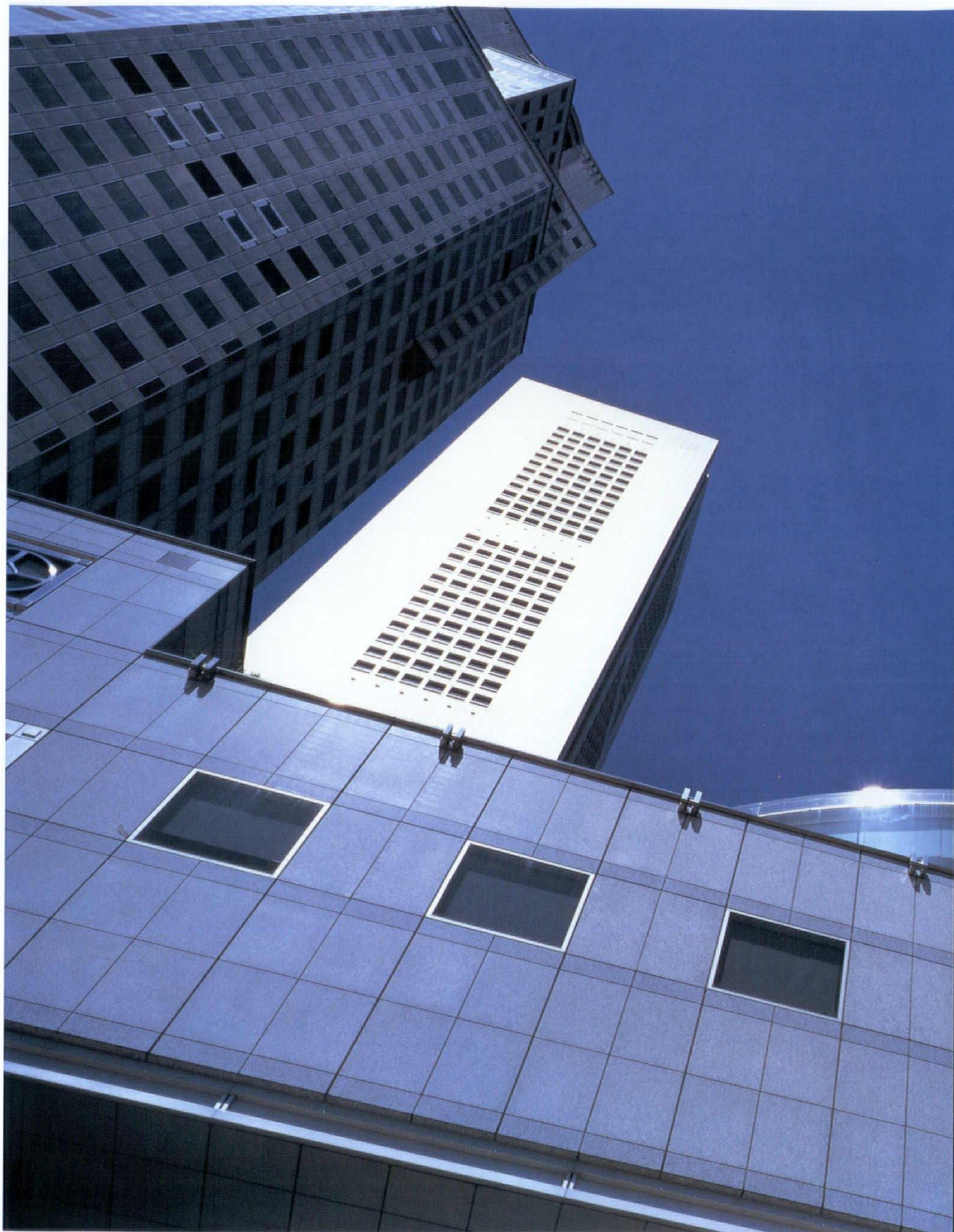
Located in the heart of Singapore's Central Business District, Raffles Place is an area that is not only important historically, but functionally significant as well because it is the site of the central subway station. The United Overseas Bank's existing 30-story building was situated on a strip of land facing Raffles Place on one side and the Singapore River on the other. Due to rapid growth, the need arose for a new high-rise tower which would harmonize with the old building and serve as the new headquarters of The United Overseas Bank. The new 66-story, 280 meter high tower tapers at its top and is formed by square blocks nested at 45 degree angles to each other sitting on an octagonal base. This articulation helps maintain balance and scale with the old tower and creates an outline that richly expresses motion through the play of light and shadow. The multi-faceted shape of the tower provides a variety of office space arrangements and incorporates views in every direction creating a panorama of sea, sky and flora. The 66-story tower contains a sky lobby with double-decker shuttle elevators that shorten the waiting period and make more efficient use of the core area. The sky lobby, situated on the 37th and 38th floors, is not merely a place to change elevators but provides an area to relax and enjoy the wonderful views of the Garden City. In order to visually link the famous Raffles Place with the Singapore River while functionally connecting the two towers, a podium with a span of 45 meters supported by 4 large columns was created. One can enjoy the river and Raffles Place from the first floor banking hall through the 12 meter high stainless steel tensile truss curtain wall. By providing a generous outdoor space at the foot of the two towers, people can now walk from Raffles Place directly to the Singapore River, creating a pleasant and active atmosphere. The 66-story tower and podium were executed in the first stage of construction completed in 1992, while the renovation of the existing tower, part of phase 2, was completed earlier this year. Work on the existing tower left the reinforced steel structural elements of the tower in place, but renewed all the interiors, facades, and equipment. After examining various options and carrying out structural investigations, it was decided that to strengthen the sense of unity with the other tower, a 40 meter high crown, matching that of the new tower, would be installed onto the apex of the old structure.







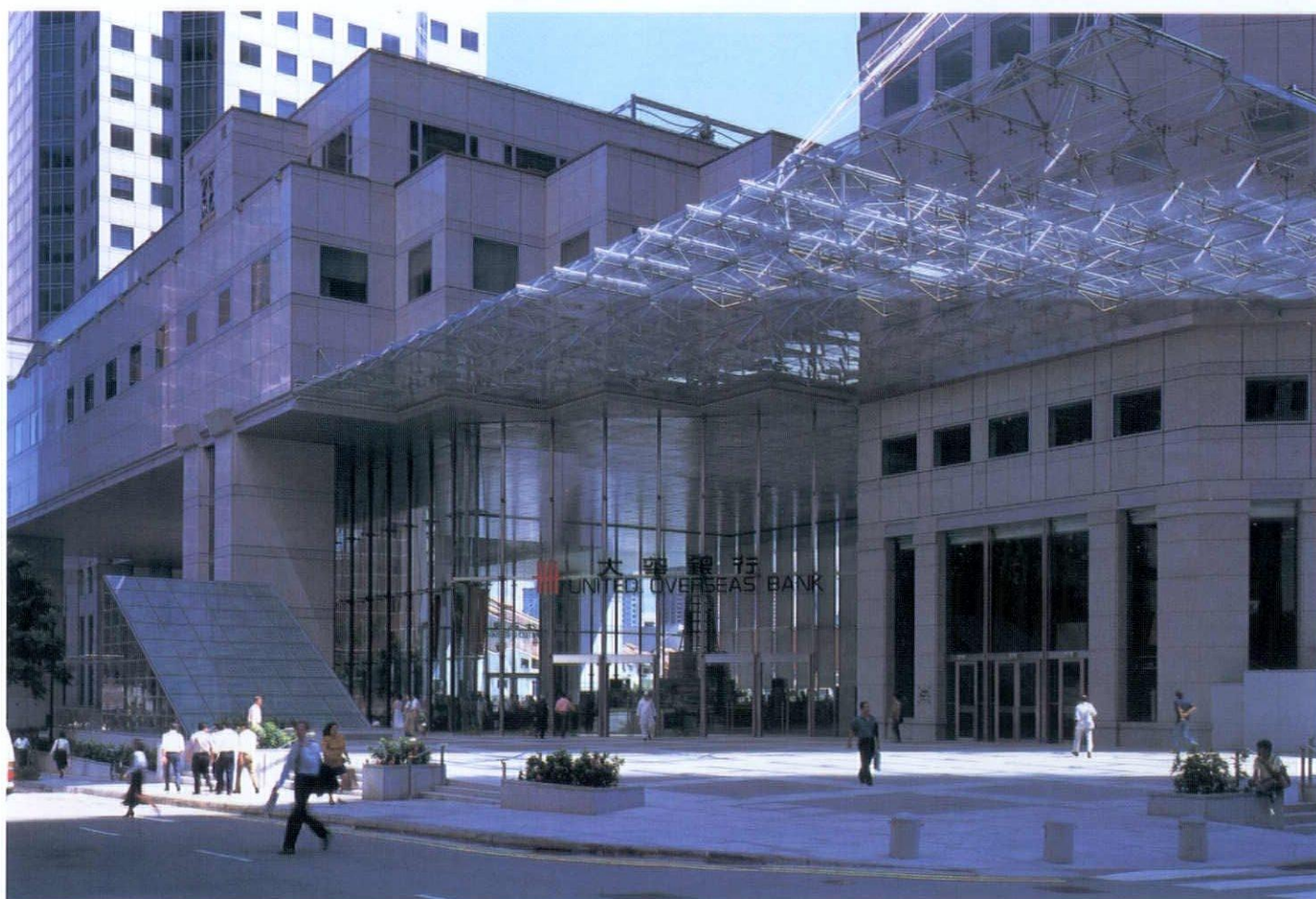
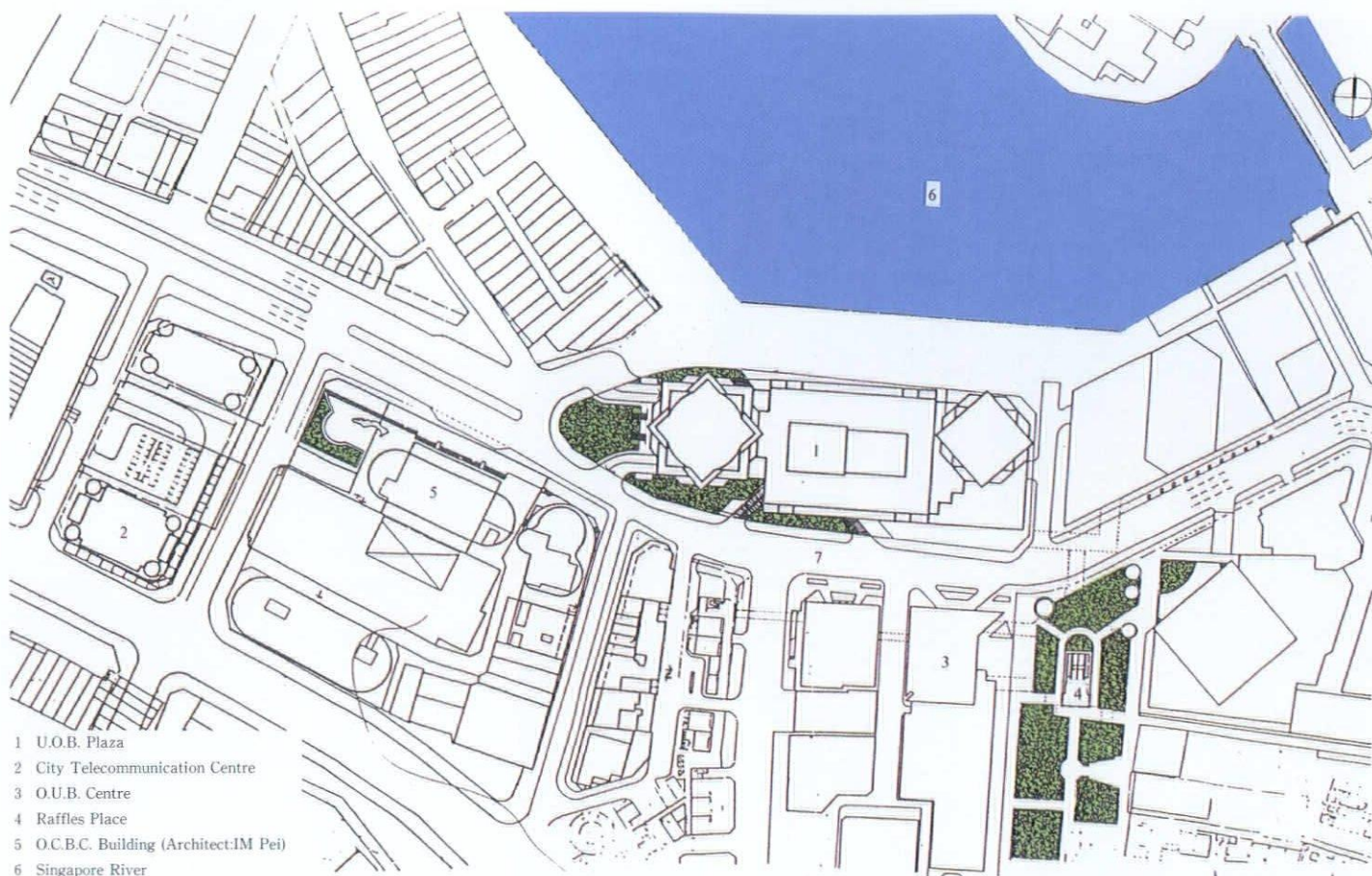


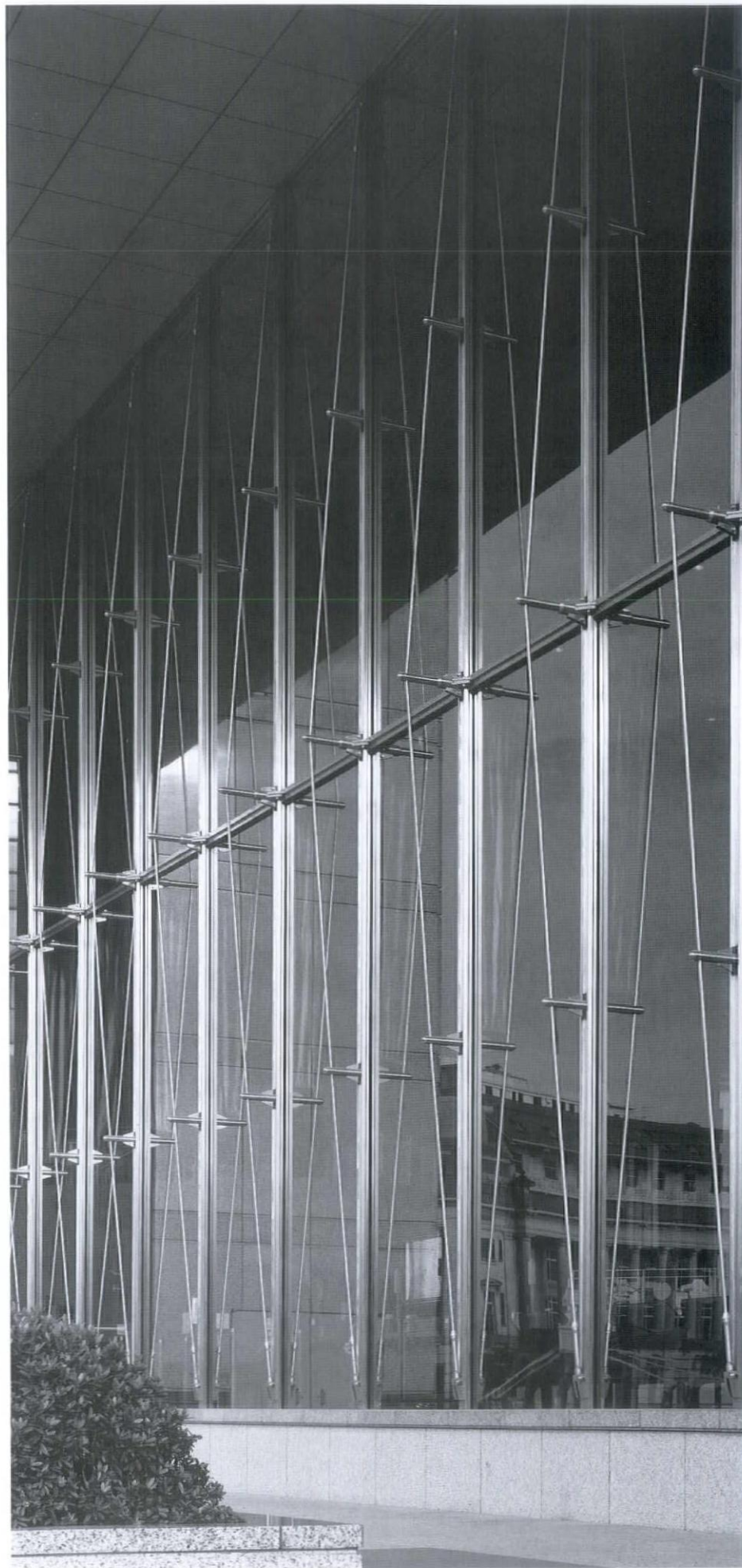












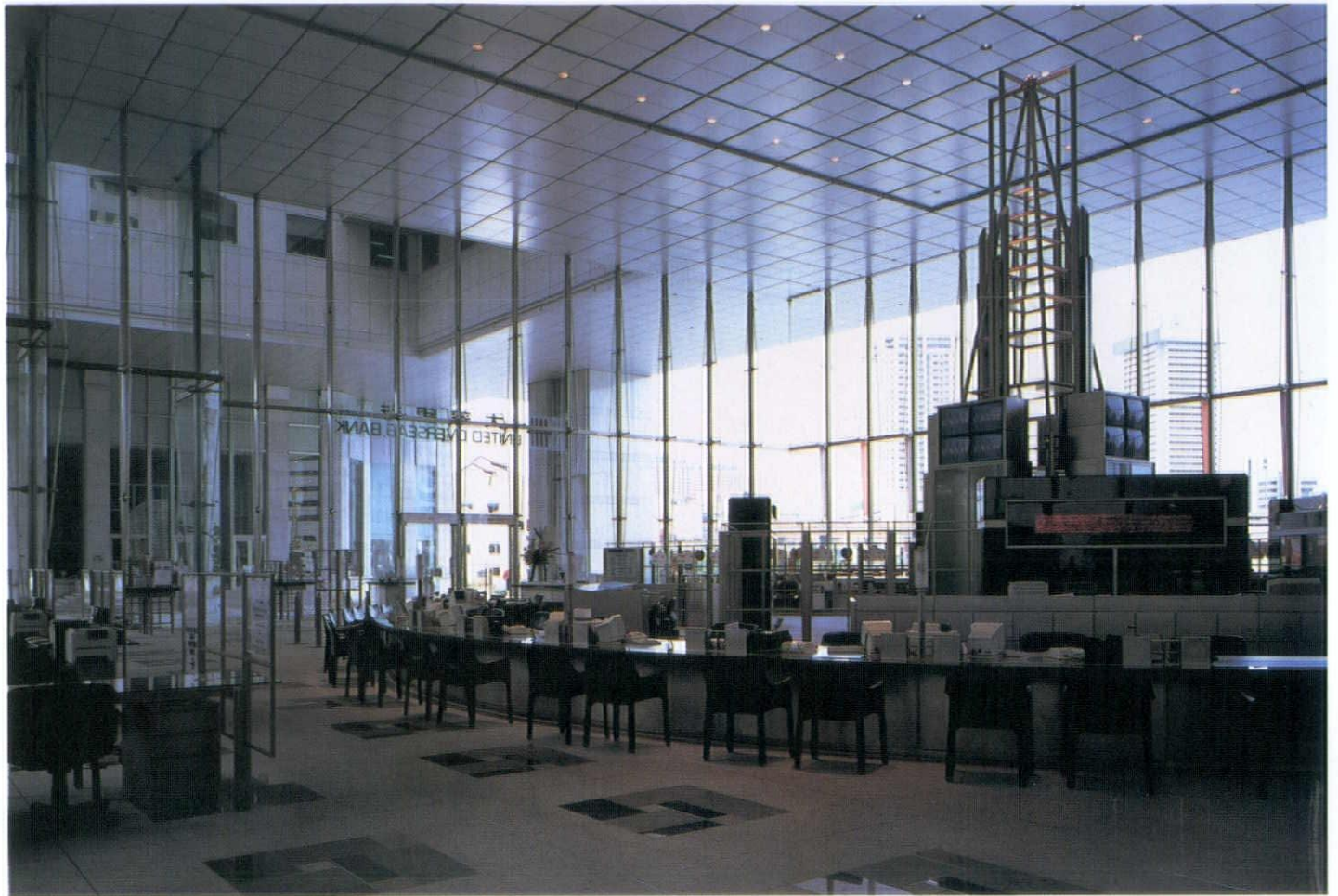
シンガポールの金融街の中心地区であるセントラルビジネスディストリクト（CBD）の真ん中にラッフルズプレイスという、シンガポール発祥の地として名高い広場がある。歴史的に重要であるばかりでなく地下鉄の中央駅があるところでもあり、機能的にも重要な拠点となっている。この広場に面して、また反対側はシンガポール・リバーに面している敷地にUOB（ユナイテッド・オーバーシーズ・バンク）の旧本社である30階建ての既存ビルが建っていた。このような敷地の重要性だけでなく、既存の建物は八角形の形態を持ち、当銀行が成長してきた中心であったために、この建物と調和を図りながら、新しい超高層のタワーをデザインすることが求められた。66階280mの新しいタワーは八角形のベースを持ち、上層階に上がるに従って小さくなる45度回転させた直方体を貫入させた。これは既存タワーとのスケールのバランスを保ちながら、光や影によって表情を変える動きのある形態を実現しようと考えたためである。このような形態によって、オフィススペースにも空間的な変化を与え、海、空、緑豊かな眺望を取り入れることが可能となった。

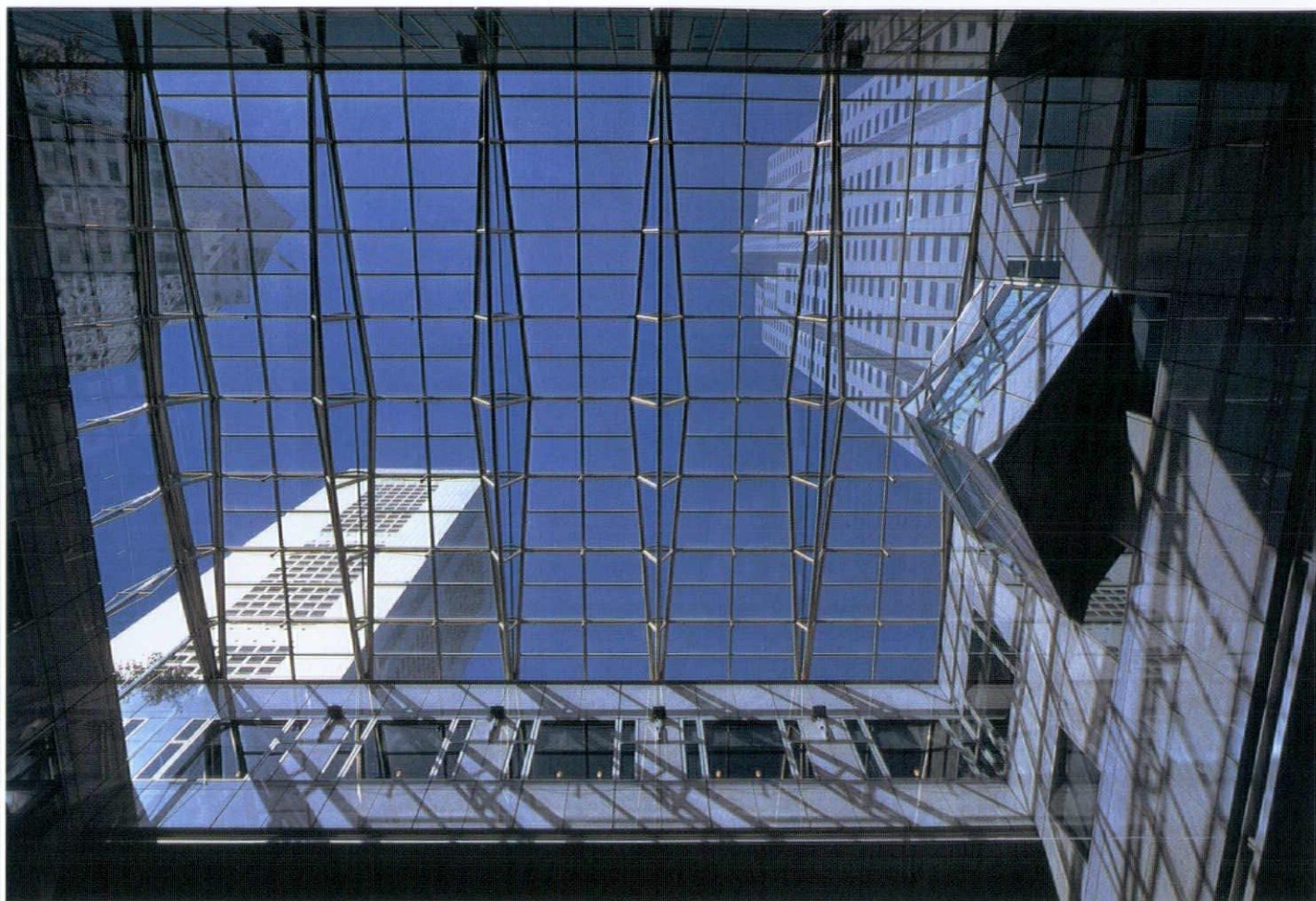
66階建てのタワーではダブルデッキのシャトルエレベータによるスカイロビー方式を採用し、待ち時間の短縮とコア面積の縮小による効率化を図った。シャトルエレベータから各階停止のエレベータの乗り換え階であるスカイロビーは37・38階に位置し、ガーデンシティの素晴らしい眺望の楽しめる憩いの場、交流スペースになっている。

有名なラッフルズプレイスと歴史的建築物の並ぶシンガポール・リバーを視覚的に結びつけるため、また、ふたつのタワーを機能的に結びつけるために低層棟（ポディウム）はスパンが45mある4本の脚（パイロン）で支えられている。その1階部分には川や対岸の眺望を楽しめるよう、高さ12mのテンション材を使ったステンレス製のマリオンで囲まれたバンキングホールがあり、そのメインエントランスはラッフルズプレイスに面している。

66階のタワーと低層棟は1期工事で1992年に完成し、2期工事である既存タワーの改修は1995年に完成した。既存タワーの工事は、鉄筋コンクリートのタワー構造部を残し、内・外装、設備部分を全て新規に取り替えた。また、66階建てのタワーとの一体性を強くするため様々な工法、構造的検討を重ね、高さ40mの頂部を取り付けた。





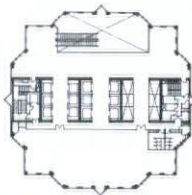




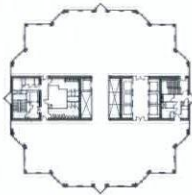
Viewing lounge 62nd floor plan



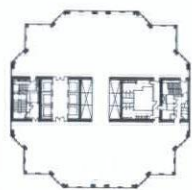
High rise



Sky Lobby 37th, 38th floor plan

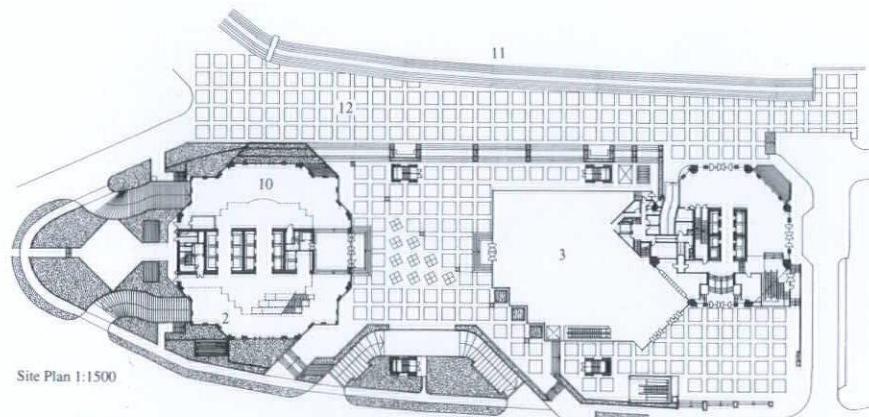
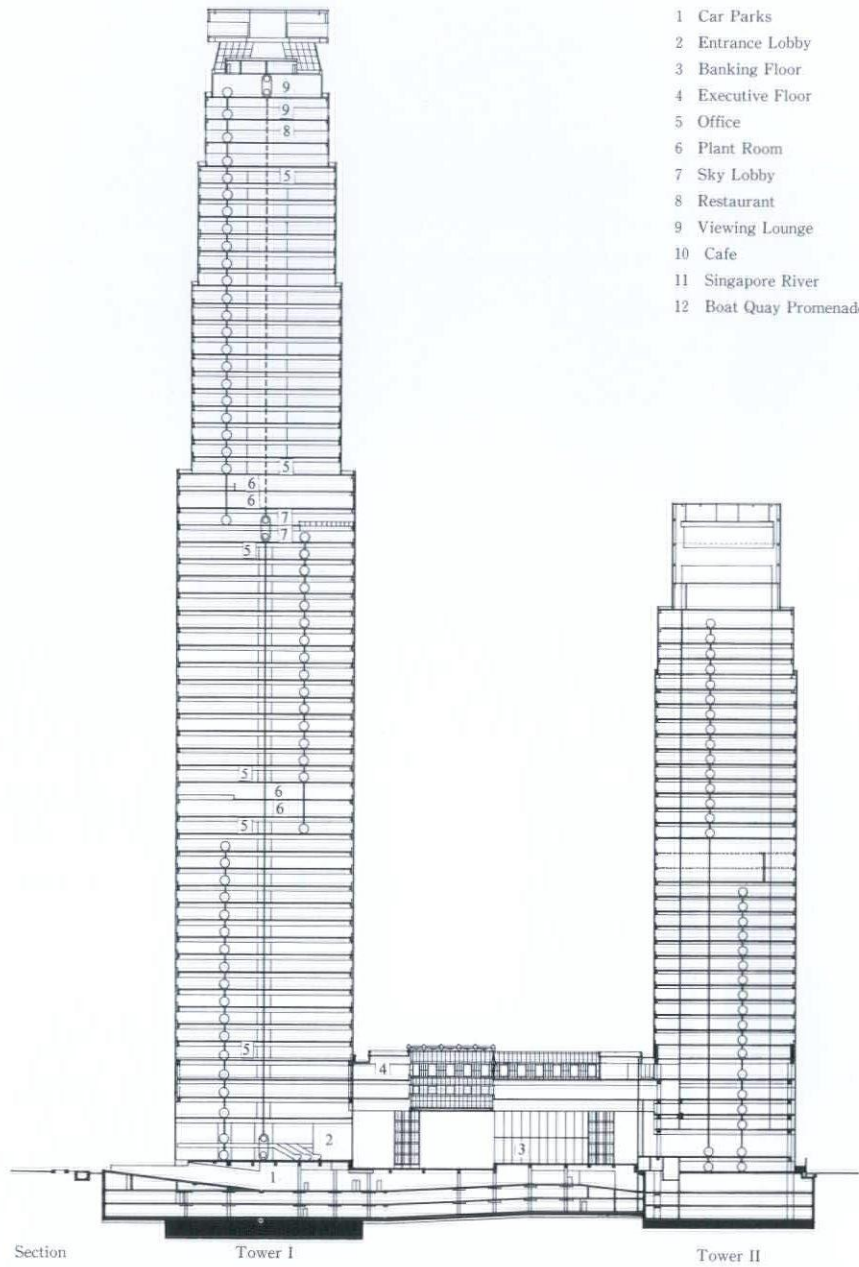


Midrise



Low rise

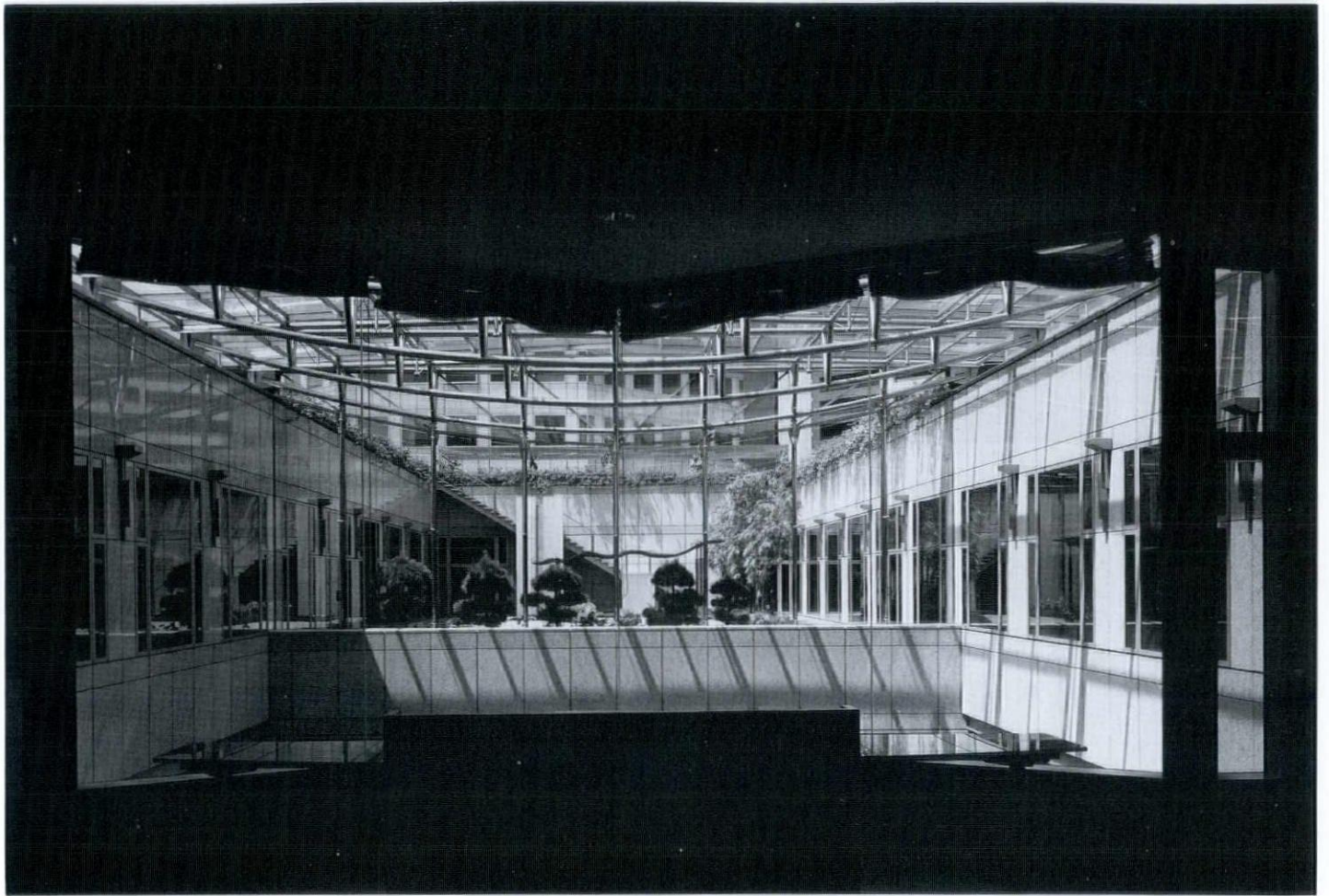
- 1 Car Parks
- 2 Entrance Lobby
- 3 Banking Floor
- 4 Executive Floor
- 5 Office
- 6 Plant Room
- 7 Sky Lobby
- 8 Restaurant
- 9 Viewing Lounge
- 10 Cafe
- 11 Singapore River
- 12 Boat Quay Promenade



Site Plan 1:1500







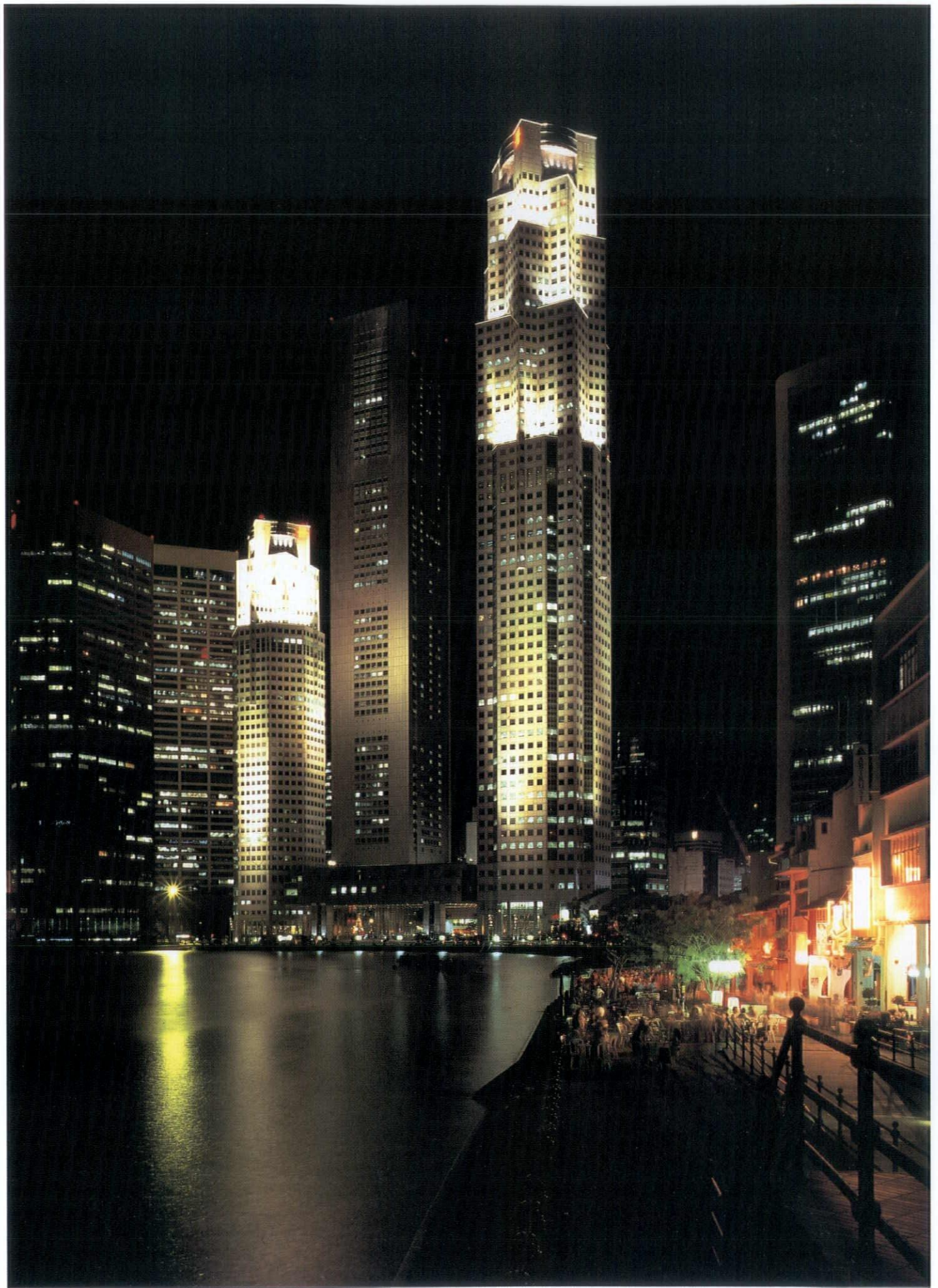






Interior Design Kohn Pedersen Fox Interior Architects









近代建築の50年と新時代への提言

丹下健三

今回で、SD誌では5回目の、私達の特集号が刊行されたことになる。第1回目の特集号が1980年1月であり、その中の広島計画は1946年から始まったものである。すなわち今年ではほぼ15年にわたり、また作品としては50年に渡り発表してきたわけである。

1回目の特集では、1980年までの全主要作品を網羅し、2回目からはその時期において、私達のメルクマールとも言える作品に焦点をあてた構成である。今回は、今年がちょうど戦後50年ということでもあるので、最初の設計から数えて40～50年の長きに渡り関わっているいくつかの仕事について、また経済的にも驚くべき発展を遂げている東南アジアの諸都市でのプロジェクトについて、そしてさらに世界都市・東京の展望に言及することにより、現在取り組んでいる仕事に対する私達の姿勢と考え方に触れてみたいと思う。

初期から連続しているプロジェクト

私の戦後の設計活動において、やはり1946年からの広島計画は大変重要で、同時に私達の心の内面にもひとつの骨格として生きずいてるプロジェクトとも言える。

広島平和記念公園は、慰霊碑・資料館・公会堂・記念館などにより構成されている。最初の設計に取りかかった当時の広島は、被爆により荒廃し全くのゼロからのスタートであった。従ってその時点では、新しい都市を描き起こすのだという夢と意気込みをもって取り組んだわけだが、しかし現実には都市創造に際して政治的、経済的、社会的な問題が浮上し、そうした諸問題を考えるよい機会を与えられたと思える。

広島平和記念公園の諸施設は、1985年より今日に至るまで、保存と改築・改修が行われてきた。まず始めに慰霊碑だが、竣工後約30年の月日が打放しコンクリートを劣化させ、苔や錆などが目立ってきたため、ムクの花崗岩を12個のピースにし、ポストテンションで緊結したものに改修した。次に、私達の設計ではなかった当時の公会堂が全面的な建て替えということで、国際交流の場としての国際会議場を今度は私達の手で設計し1988年に竣工した。全体は競技設計時の原案に近い柱・梁をモチーフとしたものになっている。また、仕上げは耐久性のある花崗岩貼りとした。中央の資料館は、1階がピロティとなっていたためか検査の結果あまり傷んでいなかった

が、結局のところ、1階は打放しコンクリート面を補修し、2階は一部を補強し、仕上げも花崗岩貼りとした。記念館も地下に収蔵庫を含む展示場として改築された。こうして広島平和記念公園の施設群は、約45年の歳月をかけて、私達の原案に近いものとして再生している。こうしたケースは、私にとっても初めての経験であった。私はこの長期に渡る仕事を通して考えていたことがある。それは、広島が世界に向けて平和祈念を訴えることができる貴重な都市だからこそ、この平和記念公園の諸施設が、めまぐるしくその表情を変えてはいけないのだと。だからこそ、この修復・保存という課題を背負ったこの広島での仕事に対して、私は感銘深く仕事をさせていただいたと感ずるのである。

また、やはり40数年を経て、建て替えや増築することとなったものに東京都庁舎、香川県庁舎がある。しかし、これらは広島の場合とはまったく別の形式である。都庁舎の場合は丸の内にあった旧庁舎を取り壊し、都が所有していた新宿新都心の敷地に新たに建設するものであった。旧庁舎の設計では、都庁機能をすべて収容することを目標とすると同時に、都心の再開発を行う上でのプロトタイプとなるべく取り組んだものであった。その後、人口増加による都民へのサービス需要増大、丸の内地区への都市機能の集中、東西に細長い東京都の行政地区などを考慮すれば、庁舎の新宿移転は当然の帰結であったと思う。さらに高度情報化社会となり、技術の発達に伴う建築のインテリジェント化という点からも驚異的な社会環境の変化があったことも勿論である。私達は、この新庁舎については、その寿命、その基本骨組を100年から200年と考えており、内部の設備については、5年から20年程度を考え、再設置を可能にしている。

また、広島や都庁舎とは違った形式で長期間関わってきた仕事香川県庁舎である。既存の本館・東館をそのまま残しながら、新たに警察棟と行政棟を新築するものである。この新庁舎では、無柱のフレキシブルな執務空間の実現と、インテリジェント化、防災拠点として構造的堅牢性に重点が置かれた。ベアコラム+ベアリングウォールという架構システムも高い耐震性能を持つものとして新たに提案したものの一つである。エレベーションに関しては、構造システムをデザインに生かし、旧来の本館・東館との一体感を高めている。既存南庭の延長に県民プラザを提案し、それは香川県の風土的な特徴である屋島や五色台のような卓状台(MESA)をイメージ

している。

ここに触れた作品は、私達にとって長期に渡るプロジェクトとして印象深いものではあるが、それは全体からみれば、ごく一部の仕事である。前にものべた通り、私にとっては、建築のサイクルは10年のサイクルをもって動いている。現に、私達の仕事のほとんどが10年単位のものである。そうした長期に渡る多くの仕事を通して、実践してきたことは、過去の自作に縛られることなく、常に新しい技術・材料の適用、さらにシステム・コンセプトの発展というように、前作を超えるものへの挑戦であると言える。

この間に建築界や社会にもいろいろと動きがあった。近代建築の前期を担ったといえるコルビュジエやグロピウスに代表される、工業化社会の表現を軸とし、それに各々建築家が自ら肉づけしていったもの。当時私達も、都市に対する機能的アプローチから構造的アプローチへの転換の必要性を感じ、都市軸という一つの構造概念を提唱した。その後、日本はもちろんのこと世界的に高度情報化社会に突入し、'70年代後半からそれは顕在化してきた。私達もそうした状況に対して、技術的、社会的、人間的な側面から、建築と都市のあり方について提言してきており、それは近代建築の第2期に入っていると思っている。ポスト・モダニズムという動きもあったが、それは私が思い描いたように、デザイン・ヴォキャブラリーを豊かにしたかもしれないが、情報化社会の表現者とはなりえなかった。

私自身、情報化社会の建築と都市のあり方を模索し続けているが、建築界を取り巻く状況としては、モダニズムのオーソドックスな流れとして、しばらくは続くのではないかと考えている。

シンガポールでのプロジェクトを通して

1980年に入り私の海外における作品の中でもアジア諸国におけるプロジェクトに重点は移ってきた。中でもシンガポールの当時のリー・クワンユー首相による都市再開発計画の一環として促進された様々な計画に参加できたことは、私の考える都市と建築との関係を現実的な形で建設することのできた意義のあるものとなった。リー・クワンユー前首相は、かなりはっきりとしたポリシーを持っていてシンガポールの都市と建築に具体的なイメージをもたれていた。私も個人的に親しくなる機会があり、いくつかの相談を受けるよう

になった。氏の明確な都市づくりの考えに対して私たちの建築や都市デザインの理論、方法、具体的なデザインなどを提案しながら計画を進めてきた。

現在ようやく都市としての機能が充実しスキームの通ったものとなり人々の生活に快適さと豊かさが浸透してきたことを実感している。やはり、このように文化的都市を現実的に構築してゆくためには、明確な構想と理論そして実現させる行動力を併せ持つリーダー的な役割を持った人物がいなければ成り立たないことを再認識せずにはいられない。そして建築家もまた専門的な立場から大きな構想力と信念をもって社会と密接に関係し参加していくべきだと考える。

次に実際どのようにして計画を進めていったかについてふれてみたい。私達が主として設計を行ったのはシンガポールの都心に建つ超高層ビル群である。中でも民間三大銀行の本社ビル、OUB (Overseas Union Bank) センターとUOB (United Overseas Bank) プラザの設計では新しい情報都市としての高層ビルの在り方や建築的な機能と都市機能が造り出す空間構造の関係、さらにそこから生まれてくる人と人とのコミュニケーションのスペースというものを意識してデザインをしてきた。敷地はシンガポール発祥の地として知られ、また地下鉄の中央駅のある場所として賑わっているラッフルズ・プレイスからシンガポール・リバーに繋がる一帯の空間であった。

私達はこの連続性を先に建設されたOUBセンターと今回新しく完成されたUOBプラザの2つの建物を通してラッフルズ・プレイスからリバーサイドへの流れを視覚的にも物理的にも可能なものにした。

OUBセンターでは超高層建築のデザインのスタートとして直裁で単純明快なステートメントを出して一つの方向性を示した。それとは別の民間三大銀行の一つである、UOBプラザでは、既存の八角形のタワーが存在する条件もあったが、なにか動きのあるもの、回転するようなダイナミックな形態を考えていった。また外壁の材料についてもOUBセンターがアルミでUOBプラザが石というコントラストを表現している。これらの2つのタワーは、両方共この地域の高さ制限である280メートルの高さとなっており、この超高層タワー群を中心としてシンガポールのスカイラインは活気のある新しい面を持つことになった。

また現在、UOBプラザのあるビジネスセンターとショッピングセ

ンターのあるオーチャードロードの中間に、オフィス、アパートメント、コンドミニウムなどから構成されるUE (United Engineers) スクエアという複合施設が建設中である。このプロジェクトでは、シンガポール・リバーや歴史的な保存地域の街並みと新しい建築の関係、オフィスや住宅という異なる用途に対応するデザイン上のアプローチの方法がテーマであった。また、ハイテク産業の研究施設を集積したサイエンスパークと呼ばれるエリアに情報通信等の研究開発スペースとして使われるテレテック・パークでは緑豊かな自然景観の中でのハイテク建築の一つの在り方を提案した。

アジアの諸都市におけるプロジェクト

世界に横のつながりをもつ中国系の人々の東南アジアを舞台とする投資活動が近年のアジアのダイナミズムを支えているようである。

特に90年代に入り、中国やベトナムの経済の自由化によって、世界の人々の目はアジアへと開かれてきている。台湾はアジア諸国への投資の拠点として台湾内でも、またベトナムにおいても建設投資に対して積極的である。

ベトナムでは1986年に始まったドイモイ政策（経済開放などによる刷新）に基づいた市場経済が採用され、これに伴って民法や投資環境が整備されつつある。これにつれて同国の発展性が世界の注目を集めるようになり、海外からの投資も1990年及び1991年を境にして急激な伸びを示し、更に昨今のアメリカとの関係正常化によりこの傾向に拍車がかかる状況である。

アジア各地の投資に力をいれる台湾が、投資国の分散化をはかる目的からも注目したのがベトナムであり、台湾資本とホーチミン市の合併によって生まれたのが私達が計画に参加しているサイゴンサウス計画である。

世界の中でも急速な経済成長を続けている東南アジアの諸都市が既にかなりの都市開発を行っている中で、ベトナムではベトナム戦争終結以来20年近く続いた経済の停滞を終えて、今、まさに急速な都市発展を始めようとしているときであり、サイゴンサウス計画は、ベトナム最大の都市ホーチミン市の都市拡大に対応する計画として提案されたものである。

旧サイゴンであるホーチミン市は市場経済の復活のなかでたい

へんな活気を呈しており、今後の急速な人口集中と都市開発が予想される一方で、他の東南アジア諸都市等に見られる深刻な交通渋滞と無秩序な開発が危惧されている。サイゴンサウスはこのような状況を踏まえてホーチミン市地の将来像を念頭におきながら計画された。

ホーチミン市の面的な拡大の方向性を検討することから計画は始められ、具体的には現市街地の南側にある広大な未利用地をホーチミン市の新都市サイゴンサウスとし、ここにマスタープランから建築のガイドラインに至るまでを設定し、これにより秩序ある都市発展を促すものである。現市街地には、フランス植民地時代の名残りを留める地域や建築が多数あり、サイゴンの歴史を残す街として、近代的な新都市として計画されているサイゴンサウスとは性格の異なる街として、互いに緊密な関係を保ちつつ、役割を分担してゆくという考えが基本であった。サイゴンサウス計画では、ベトナムの豊かな緑と、彼等の生活に根付く水路の活用を計画のテーマとし、国際的なビジネスセンターとなるゾーン等を含む計画となっている。私達は、1993年より、計画の当初から、ここに建つ建築のアドバイザーの役割に至るまでこの計画に関わっており、すでに現地では幹線道路の建設が始まっている。

台中の干城商業地区の開発計画も台湾省政府による建設投資意欲の中から生まれてきたプロジェクトである。台中市は戦前、日本の京都の町をモデルに建設された旧市街地の基盤上グリッドの町並みを中心にその商業地域を形成している。その街区を構成する建物は東南アジアでよく見られるショップハウスの住宅的スケールの集合であり、そのため、近年の都市の拡大は放射状となり新しい高層オフィスビル群や新ビジネス地区は放射状道路の両端に広がりスプロール現象をきたしている。

このような現況の中で干城商業地区は台湾鉄道の台中駅にほど近く、中心商業地域に接した南北に300m、東西に約600mという広さを持つ敷地で多少細分化された街区ではあるが、土地の大部分が台湾政府所有という条件にも恵まれ、台中市にとっては良質の都市空間を創造するたいへん良い機会であることは明らかだった。

敷地の周囲は商業／住居の混在する雑然とした雰囲気はあるものの、西北のコーナーは風光明媚な中山公園、西南のコーナーは旧市街の面影を残す緑川に面しており新しいビジネスコアのあり方を提案するには十分な環境が整っている。その提案は、水と緑の生き

づく公園的な要素を持つ商業・ビジネスの複合開発構想として生まれた。

具体的に双龍というコンセプトは台湾の伝統的建築様式に見られる双龍ということと、この中山公園と緑川という2つの自然要素(環境のペア)を中心とした商業軸を開発するというコンセプトへとオーバーラップしていったのである。

ヨーロッパにおける都市プロジェクト

ヨーロッパでは、特にフランスやイタリアにおいて、1970年代から多くの都市が都市再整備や新都心計画に積極的に取り組んでおり、現在にまで至っている。この背景には歴史的街区が物理的に現代の都市機能に対応しきれなくなったことがある。私は、イタリアではナポリを始めボローニャ、ローマ、ミラノ、フランスでは現フランス大統領のジャック・シラク氏が市長時代からパリ市における都市計画に参加させていただいている。ナポリやボローニャ、ミラノの都市計画は、旧市街地に対する新都心のあり方を計画した。これに対しパリやローマにおいては大規模な都市再整備計画を提案した。

ナポリでは私達の提案により、『緑の軸』『公共の軸』『スポーツの軸』といった、各々のメインファンクションに合わせた、道幅70mのメインストリートを3つ設けた。セクションでいうと両側の建物のあいだに3車線の道路が往復し車寄せがある。道路の中央は2層のガレージになっていて、その屋根上が道路の上部を含めて歩行者に開放されている。建物のエントランスはこの歩行者専用のレベルにつくる。歩いてきた人はこのレベルから建物に入って、エスカレーター等で上へいく。自家用車の場合には下のレベルに車を置いて、エスカレーターで上にあがって歩行者レベルから建物に入る。ガレージと上部の歩行者レベルはグリーンを多く施して、本当の意味での市民のためのプラザになっている。そこでは多くの人が集まって、常に賑やかな雰囲気になっている。100haもの土地が全部歩行者天国でネットワークされているという街は、世界でもナポリが今のところ唯一のものである。次に、パリではセーヌ左岸の再整備計画を提案した。セーヌ川沿いのオステリック駅周辺や新しく建設された国立図書館の周辺を再開発しようという計画で、当初、市当局では漠然と30mぐらいの道路をつくらうという話があったが、そうでは

なくて、道幅72mぐらい道路をつくり、シャンゼリゼ・デファンスの軸に対し西にのびるシラク時代のプロジェクトとして計画するべきではないかと提案した。また、道路に沿っては、シャンゼリゼ通りにあるような、1, 2階は商店で上部はオフィスといったものを建てることを考えた。大蔵省や国立図書館がここへ移ったという事で、この計画の現実性がかかなり出てきている。現状はかなり不整形となっているが、鉄道が敷地の中央に通っており、両脇に300mほど広がっていて、再開発する余地がかかなりある。このような理由を考慮して、その上にプラットホームをつくらうというアイデアがでてきた。プラットホームをつくるなら、それを一つのアクセスとして捉え、郊外まで延長できるような方法を考えた。要するに鉄道用地は生かしたままで、空中開発をやらうということである。それからセーヌ左岸に比較的近いパリ13区のイタリア広場にグラン・テクランといふかなり大きな複合施設が実現した。散漫であったイタリア広場にこの建築を完成させることで、広場としての機能や景観を整理しようという都市計画的観点がかたいへん大きなウェートを占めたプロジェクトであった。

世界都市・東京—21世紀へ向けて

私はヨーロッパの中でもパリはとても美しい都市だと思っている。19世紀後半に、オスマンの都市計画により、20~30年の歳月をかけて作り上げたものだ。こうした都市を整備してゆくことは、その計画を実践していけるリーダーシップをもった人物の登場と、その都市が持つ経済力とがうまくマッチしなければ実現は不可能であろう。パリではこれが実現した好例である。ロンドンやローマでは、そういった機会に恵まれなかったようだ。しかし、ロンドンは世界の金融の中心として、ローマは歴史・文化の地としてのアイデンティティを保っている。また、ニューヨークのマンハッタンは20世紀に作られた世界の中心都市である。これらの都市は今後も、貿易・金融・情報・文化を担う中心地として存在し続けるだろう。

日本の首都・東京に目を向けてみよう。私はアジアの、そして世界の都市としての東京の姿を思い描かずにはいられない。近年、東京湾岸では、幕張新都心計画や横浜みなとみらい21計画などが実際に動いており、幕張—東京—横浜といったつながりでの都市整備

が進行しつつある。しかし、まだまだ東京という都市は自然発生的な姿を呈している。私達は、かねてより東京湾および湾岸の開発に深い関心を持ち続けており、すでに〈東京計画1960〉、〈東京計画1986〉を発表してきた。'60年代の日本はまだそれほど豊かではなかったが、'80年代半ばから経済成長は著しく、都市整備の気運が高まったのだが、'90年代に入り経済が悪化し、バブル経済の崩壊と共に都市整備のスピードは失速してしまったと言える。円高による日本経済への打撃と行政サイドの政策見直しなど、東京の都市開発は、いま逆風の中で立ち往生状態とも言える。

先にもふれたが、私達は近來東南アジア諸都市での仕事に携わっている。そこで感じるのは経済の発展に裏打ちされた都市の活況である。このままでは、世界都市・東京の存在が影の薄いものとなりかねないと危惧されるのである。日本の現在の経済・社会状況を考慮すれば、ここしばらくは都市開発は停滞を余儀なくされるであろう。さらに今後の日本の高齢化社会の進行も確実視されており、ますます混沌とした時代を迎えるわけである。

では、このような時代に建築家は何を考えるべきなのか、現代の世の中では、自分一人で建築を建てるということはほとんどなくなっていると考えられ、例えば今回の阪神大震災のように街が壊れたときに、個人に何ができるかという、おそらく無力であるのではないか、阪神大震災の被害地に対して建築界は考える以上に無力のような気がしている。しかし、無力であってはいけない。ただ現代の若い建築家たちは、自分たちのやれる範囲が非常に限られた小さな範囲であるように考えて、建築のプロセスのほんの一部分に参加しているだけという気持ちが強すぎるのではないだろうか。そういうことで都市を考えるという気力もなくなっている。しかし、本当に大事なことは、建つ建たない、あるいはできるできないは別に、復興への提案を建築家自身がどんどん自発的に出して構想力をつけていくことだと思う。自分ならこうやりたいという気持ちを出していくことが重要なのである。そうして少なくとも社会を刺激していかなければいけない。

文化・情報の中心たり得るには、その都市と建築のデザインの質が重要なのだ。私は今後も、継続的な文化都市創造に向けての提言に努力は惜しまないつもりである。

**50 Years of Modern Architecture and
A Proposal for the New Century**

Kenzo Tange

This publication is SD magazine's fifth special issue featuring our work. The first issue was in January 1980 and reported on the Hiroshima Project which started in 1946. Thus, our work that spans fifty years has been reviewed in five special issues during the past fifteen year period.

The first special issue included all of the major works up to 1980. The second and subsequent special issues focused on those projects that may be said to mark particular respective periods. In this, our most recent special issue appearing exactly 50 years since the end of World War II, I would like to comment on our thinking and position in regards to our current work by remarking on a few select projects. Firstly, I will comment on projects we have been involved in for some 40~50 years since their initial designs; secondly, on our projects in Southeast Asia with its dazzling economic growth; thirdly, on our projects in Europe; and finally, some thoughts on Tokyo as a world class city.

Projects that have continued from their initial stage

In my post-war design activity, the Hiroshima project begun in 1946 was extremely important, and it still continues to live on in my heart as an integral part of my architectural life.

The Hiroshima Peace Memorial Park is comprised of the Cenotaph for the A-bomb Victims, the Hiroshima Peace Memorial Museum, the Hiroshima City Conference Center, and the Memorial Hall. Hiroshima, at the time we undertook the initial design, had been devastated by an atomic bomb and was at square one. Accordingly, at that time we enthusiastically approached the project embracing the dream that we would begin with a new city. However, in reality, various political, economic, and social problems arose with the creation of a new city, which I now believe provided us with valuable experience in such matters.

The buildings that form the Hiroshima Peace Memorial Park Complex have been undergoing preservation, renovation, and repair from 1985 until the present. The thirty long years, since its original completion, had taken their toll on the cast concrete structure of the Cenotaph for the A-bomb Victims with evidence of moss and rust taking over, and it was rebuilt into a structure composed of 12 post-tensioned granite blocks. It was decided that the Hiroshima City Conference Center, which we did not design, was to be entirely rebuilt. For this, we designed an international conference space as a place for international exchange, which was completed in 1988. We

chose a column and beam system close to the original competition design proposal, and finished it with a more durable granite cladding. The first floor of the central Hiroshima Peace Memorial Museum was not damaged as much, possibly because it employed pilotis, so the concrete face was repaired and part of the second floor reinforced, and then clad in granite. The Memorial Hall was renovated as an exhibition space with an underground storeroom. After 45 years, the Hiroshima Peace Memorial Park buildings were being revived in a form close to our original design proposal. This was the first experience of its kind for me. I retained the notion over this period that as the city of Hiroshima is a place that sends out prayers for peace to the entire world, we should not make any striking changes to the Hiroshima Peace Memorial Park buildings. I feel privileged and deeply moved to have been given the opportunity to take on this responsibility of renovation and preservation in Hiroshima.

Other projects involving rebuilding or additions over the past 40 years include the Tokyo Metropolitan Government Office building and the Kagawa Prefectural Government Office building. These are, however, of entirely different forms than the Hiroshima buildings. The Tokyo Metropolitan Government Office in the Marunouchi area was torn down and newly constructed on city-owned property in the new city center of Shinjuku. When designing the old government office, our goal was to accommodate all metropolitan government functions and to make it a prototype for the redevelopment of the city center.

Moving the Metropolitan Government Complex to Shinjuku was a natural consequence considering the increased demand for services by an increasing population, the concentration of city functions in the Marunouchi district, as well as the geographical shape of the Tokyo Metropolitan Government administration area, a narrow district extending east to west. Furthermore, we are now in an advanced information society, and there has been an amazing transformation in the social environment, with intelligent buildings that have come with technological progress. We considered that the life-span of the basic framework of the building would be from 100 to 200 years and the facilities inside 5 to 20 years, therefore we designed the latter so they could easily be replaced.

The Kagawa Prefectural Government Complex is different from both the Hiroshima Project and the Tokyo Municipal Government Complex. The existing main

building and east wing would remain as they were, and police and administration buildings were to be newly constructed. Emphasis was placed on creating a flexible column-free office space supported by intelligent functions, and on structural durability from fire and seismic activity. We proposed a mega-frame system consisting of large pillars each made up of 4 columns with shear walls located between the pillars creating a highly earthquake-resistant structure. In its elevation, the design expresses the structural system and heightens the sense of unity with the existing main building and east wing. A plaza for the citizens of the prefecture is proposed on the extension of the existing south garden and is conceived as a mesa-like structure, similar to Yashima Island and Goshikidai Hill, which are natural features of Kagawa Prefecture.

Though the works touched on here all left their deep imprints on me as long-term projects, they are but a mere handful of our work. As I have stated before, I believe that architecture has a cycle of about ten years. In fact, most of our project terms can be counted in decades. What we have practiced throughout this period is the challenge to rise above past work, by not being tied down by the past, but always applying new technologies and materials in appropriate ways, and by developing new systems and concepts. During my architectural career various movements occurred in the field of architecture and in society at large; movements represented by Le Corbusier and Gropius who carried the first stage of modernism, and which pivoted on the expression of industrial society, and given substance by individual architects. At the time, my architectural group and I too felt the need to switch from a functional approach for the city to a structural approach, and proposed the city axis as a structural concept.

Subsequently, Japan and the world entered the advanced information society, a fact that became apparent in the latter half of the 1970s. In this situation, we presented our visions on architecture and the city from the technical, social, and human points of view, which efforts I believe can be said to belong to the second stage of modernism. While a post-modernist movement did arise, enriching our design vocabulary as I had envisioned, it never succeeded in expressing our information society.

While I myself am continuing the search for the ideal form of architecture and city within our information society, the major current in architecture, I believe, will continue down the path of orthodox modernism for the time being.

The Singapore Projects

In 1980, my focus shifted to projects overseas, especially those in Asian countries. In particular, participating in various projects promoted as part of the city redevelopment scheme for Singapore by then Prime Minister Lee Kuan Yew was significant in that it allowed me to realize in concrete form the relationship between city and architecture that I had been envisioning. Prime Minister Lee had a very clear policy and possessed a concrete image of architecture and the city for Singapore. I was fortunate to have had the opportunity to become personally acquainted, and I have consulted with him a number of times. Based on his clear ideas concerning the city's growth and its relationship with the bay and river, we presented and discussed our theories, methods, and specific design approaches concerning architecture and city planning.

Today, Singapore's city functions have finally reached a sufficient level, acquiring a coherent scheme, and I feel that comfort and affluence have permeated the lives of its citizens. In realizing a cultural city, we cannot avoid recognizing once more that this cannot be accomplished without someone with a clear vision, theory, and vitality who can take on a leadership role. The architect too, from the standpoint of a specialist, must possess a broad vision and strong conviction and participate in a close relationship with society.

I would next like to reflect on how we actually proceeded with the Singapore projects. The main projects that we designed were a group of high-rise buildings in the heart of central Singapore. Among these were the headquarters of two of the city's three major private banks: O.U.B (Overseas Union Bank) Centre and the U.O.B (United Overseas Bank) Plaza. These were designed considering such factors as the relationship of spatial structures created by architectural and city functions, the ideal form of high-rise buildings in a new information city, and the creation of spaces for human communications. Both buildings face the vibrant Raffles Place, known as Singapore's birthplace and the location of the central subway station, with the Singapore River flowing behind.

We made the flow of continuity from Raffles Place to the riverside visually and physically possible through the OUB Centre, which was built in the mid-1980's and the recently completed UOB Plaza. From its initial design conception, the OUB Centre was intended to create a simple clear powerful statement. For the UOB Plaza, another major bank, in consideration of the existing

octagonal tower, we conceived a dynamic configuration that involved rotation and movement. We contrasted the stone exterior of the UOB Plaza with the aluminum exterior of the OUB Centre. Both towers are 280 meters high, the height limit in the Central Business District and therefore they are the centerpiece of Singapore's vibrant new skyline.

Another project in Singapore is the U.E. (United Engineers) Square, composed of office space, service apartments and condominiums, which is located between the U.O.B. Plaza and the central shopping area of Orchard Road. This U.E. Square complex is now under construction. The theme of this project concerned the design approach in response to the different uses of office and residential spaces, and the relationship between the new architecture and the Singapore River and city streets in a historic preservation zone.

Meanwhile, TeleTech Park, located in Science Park II, a group of high-tech research facilities, is utilized as a communications research and development facility. Here we proposed our idea of high-tech architecture which responds to the surrounding environment, shape of the site, and the natural contours, and vistas in keeping with the ideals of the "Garden City".

Projects in the Cities of Asia

In recent years, foreign investment in southeast Asia has been the cause of the dynamism of Asian economies. In the early 1990s in particular, the eyes of the world turned to Asia as the Chinese and Vietnamese economies began to open up. Taiwan has been very active as a source for investment in Asia, including investment within Taiwan as well as in Vietnam.

Since Vietnam adopted a market economy in accordance with the "Doi Moi" or economic renovation policy initiated in 1986, civil laws are being established and the investment environment has been improving. This has resulted in the world's attention focusing on the development potential of Vietnam. Foreign investments grew rapidly in 1990 and 1991, and this trend has been further spurred on by the recent normalization of relations with the United States. Taiwan, which has been actively investing in Asia for many years, saw Vietnam as a potential target for diversifying its investments. The Saigon South project, in which we are participating, was the result of a joint venture between Taiwanese investors and the Government of Ho Chi Minh City.

Southeast Asia continues to enjoy some of the most rapid economic growth in the world today, and its cities have already undergone considerable development. The Vietnamese economy, which had been stalled for 20 years since the conclusion of the Vietnam War, has recently emerged and is now on the verge of rapid urban development. The Saigon South project was proposed as a response to the expansion of Ho Chi Minh City, Vietnam's largest urban center. Ho Chi Minh City, formerly Saigon, is showing great vigor amidst the emergence of a market economy, and rapid population growth and urban development are being projected. Meanwhile, there are concerns about the kind of disorderly development and traffic congestion commonly seen in other cities in southeast Asia. The Saigon South development was planned with the future image for Ho Chi Minh City in mind.

The project began with an investigation of the most appropriate direction for Ho Chi Minh City's expansion. A large site to the south was selected for Ho Chi Minh City's new urban center, known as the Saigon South development. A comprehensive master plan including the construction guidelines was set up for the area to prompt an orderly urban development. The basic concept was to divide the roles between two cities of differing characters while still maintaining a close link: the present city district as a place to preserve Saigon's history, with many areas and architectural works surviving from the French colonial era, and the new Saigon South, which would be a modern urban center. The project utilizes the existing abundant greenery and natural waterways, so much a part of Vietnamese life, along with the creation of a zone that would function as an international business center. Since 1993, we have participated in all aspects of this projects, from initial planning to serving as an advisor regarding buildings to be constructed. Currently the main highway traversing the site is under construction.

The development project for the Gan-Chen commercial district in Taichung also originated in the Taiwanese Provincial government's enthusiasm to invest in construction. Modeled after Kyoto, Taichung was constructed before World War II, and the basic grid-like street structure of the old city district forms the basis for the city's current commercial district. The typical city block is generally composed of the shop-houses common in southeast Asia, structures that serve as both a residence and a shop for the family business. For this reason, subsequent

city expansion has taken place radially outward, with groups of high-rise office buildings and new business districts sprawled along the roads fanning out from the central district.

The Gan-Chen commercial district is situated on a site that is 300 meters in length north to south and about 600 meters east to west, located near Taiwan Railway's Taichung Station, and bordering the central business district. Though the block is to some extent divided into segments, much of the land is owned by the Taiwanese government making it an excellent opportunity to create a high-quality city space within Taichung.

Although the surrounding area is characterized by a diverse mix of commercial and residential structures, in the northwest corner is the scenic Chun San Park, and the southwest corner faces the Liuh River where there are vestiges of the old city, therefore providing a suitable environment for a new business core. This proposal will connect the existing amenities near the site with an integrated development consisting of commercial and business space, containing park-like elements of water and greenery. Specifically, we overlapped the concept of the twin dragon, a traditional Taiwanese architectural element, onto the concept of developing a commercial axis centered on two natural environments, Chun San Park and the Liuh River.

City projects in Europe

From the 1970s up to the present, countries in Europe, especially France and Italy, have been aggressively undertaking new city center development projects and improving their cities' infrastructure. This is because historic city areas are no longer able to sustain the physical functions of a modern city. We have participated in city projects in Napoli, Bologna, Roma, and Milano in Italy, as well as in Paris, ever since President Jacques Chirac was its mayor. In city projects in Napoli, Bologna, and Milano we planned new city centers, examined in relation to the old city sections. Meanwhile, we proposed large scale improvements to the city infrastructures of Paris and Rome.

Following our proposal, the city of Napoli constructed three main axes; the Green Axis, the Public Axis, and the Sports Axis, each approximately 70 meters in width which organize the business district, governmental administration zone, and Public facilities. We furthermore designed the project to provide harmony and continuity with the historic district through the use of contextual

architectural elements. These axes consist of six driving lanes plus passenger drop-off lanes, flanked by buildings on both sides. In the center section of the road is a two-level garage, and on its roof, suspended above the road, is a pedestrian deck. The entrances to the buildings are located on this pedestrian-only level. People enter the buildings from this level and go to the upper levels via escalators or elevators. People may park their automobiles on the lower level and take an escalator to the pedestrian area where they may enter the buildings. The pedestrian level on top of the garage is complete with greenery, and forms a People's Plaza in the truest sense. Many people gather here, creating a lively atmosphere, and Napoli is the only city in the world with a 100 hectare area linked by a network of pedestrian-only walkways.

In Paris, we proposed a project for the Left Bank of the Seine River. The project targets the area near Austerlitz Station along the Seine River, and adjacent to the National Library now under construction. At the time, city authorities had been considering without a clear vision the construction of a 30m wide road, but we proposed a project that would mark the Chirac era, with a 72m wide street extending west from an axis formed by the Avenue Des Champs-Elysees from the Louvre to La Defense. In addition, we proposed along this new street the construction of buildings much like those along the Avenue Des Champs-Elysees, in which the 1st and 2nd floors composed of commercial space while the floors above serve as office space. There is a good possibility that this plan will be realized since the Ministry of Finance and National Library have already moved to the Left Bank. The railway winds through the center of the site and the 300m wide strip of land along the track, owned by the railway, offers space which could be incorporated in the project. If a platform was going to be built, we thought to consider it as a formal axis and extend it out to the suburbs. It would be a development taking place on railway land but which kept the railway service intact.

In addition, a large building complex, the Grand Ecran, has been realized in the Place D'Italie in Paris' 13th Arrondissement. Through the completion of this building in the sparse Place D'Italie, this project placed importance on the city planning perspective that sought the orderly arrangement of the square's function and appearance.

City on Tokyo Bay

I think Paris is a particularly beautiful city even among

European cities. It is the product of Haussmann's city plan, taking 20~30 years to realize in the second half of the 19th century. This kind of city building is only possible when a successful match takes place between the emergence of a person with the leadership to carry out the plan, and the economic power of the city itself. Paris is a good example of a city that has achieved just this. London and Rome have not been blessed with this opportunity. However, they both preserve their own identity: London as the financial center of world, and Rome as a historic and cultural center. In the case of New York's Manhattan, it became the world's central metropolis in the 20th century. These cities will no doubt continue to serve as centers for trade, finance, information, and culture.

As for Japan's capital, Tokyo, I cannot help but frame it in the context of Asia and the world. In recent years, development has been undertaken along the Tokyo Bay area, connecting Makuhari, Tokyo, and Yokohama, with projects including the Makuhari new city project and Yokohama's Minatomirai 21. Nevertheless, Tokyo is still very much a city that has grown in a spontaneous, haphazard fashion. We continue to be deeply interested in the development of Tokyo Bay and its coastal areas, and have previously announced two proposals, "Plan for Tokyo 1960" and "Plan for Tokyo 1986".

While Japan had not yet achieved affluence in the 1960s, economic growth since the mid-80s was striking, and the move towards city development gained force. However, as we entered the 90s, the economic situation took a turn for the worse, bringing about an end to Japan's "bubble economy" and putting the brakes on city improvement. With the high rate of the yen and a policy re-evaluation by the government, Tokyo's city development now seems to be at a standstill. As I mentioned earlier, we have in recent years been participating in projects in various cities in southeast Asia and have come to realize that a city's vitality is backed by its economic growth. If the trend in Tokyo continues there is a danger that its status as a world-class city will be compromised. In view of Japan's present economic and social conditions, Tokyo's city development is most likely to remain in a state of stagnation. With the aging of Japan's society considered as inevitable, we are entering uncertain times.

What should an architect be considering in an age like this? In today's world it is considered almost an impossibility for an individual to construct a building entirely on his or her own. When the town of Kobe was

destroyed by the recent Osaka-Kobe earthquake, it became clear that there was nothing an individual could do. It seems the architectural world is surprisingly powerless to do anything about the area desolated by the Osaka-Kobe earthquake. Even so, some action is called for. Young architects, thinking that the scope of activities in which they can engage is extremely limited, believe only too readily, that they participate in a mere fraction of the architectural process. For that reason, the vision to think about the city has disappeared. Regardless of whether you can or cannot build, or whether something can or can't be done, I believe it is important for the architect to take the initiative in creating proposals to rebuild Kobe if only to develop his or her conceptual powers. It is important to express how one would go about it given the opportunity. I think that, at the very least, it is important to thus provide a stimulus to society.

To be a center of culture and information, the quality in the design of the city and its architecture is important. In the coming years I intend to spare no effort in continuing to make proposals for the creation of an enduring cultural city.

作品年表

Chronological List of Major Works

<i>Name of Project and Building</i>	<i>Period</i>	<i>Location</i>	<i>Owner</i>	<i>Size of Project (total floor area)</i>	<i>Service Rendered</i>	<i>Associated Firm</i>
UOB (United Overseas Bank) Plaza Phase-I Phase-II	1983-95	Singapore	United Overseas Bank	131,887 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Co-Architect: Architects 61 Structural Eng.: Ove Arup & Partners Mechanical Eng.: J. Roger Preston & Partners Contractor: Nishimatsu-Lum Chang JV (phase 1) Wimpey-Woh Hup JV (phase 2)
Yokohama Art Museum	1983-89	Yokohama, Kanagawa, Japan	City of Yokohama	26,829 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Structural Eng.: Takumi Orimoto & Associates Mechanical Eng.: Sogo Consultants Contractor: Takenaka Corporation, JV
Hiroshima International Conference Center	1983-89	Hiroshima, Japan	City of Hiroshima	24,643.53 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Structural Eng.: Takumi Orimoto & Associates Mechanical Eng.: Inuzuka Engineering Consultants Contractor: Fujita Co., Ltd., JV
Jordan Royal Palace	1983-	Amman, Jordan	Hashemite Kingdom of Jordan	13,700 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 20%	Structural Eng.: Umezawa Structural Engineers Mechanical Eng.: Inuzuka Engineering Consultants
AMA River North Development	1983-88	Chicago, U.S.A.	The John Buck Company, Miller Klutznick Davis Gray Co.	540,000 m ² (site area)	Master Plan 100%	Coordinating Architect: Shaw & Associates Inc.
American Medical Association Headquarters Building	1983-90	Chicago, U.S.A.	The John Buck Company, Miller Klutznick Davis Gray Co.	65,529 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Coordinating Architect: Shaw & Associates Inc. Structural Eng.: Cohen-Barreto-Marchertas Inc. Mechanical Eng.: Environmental Systems Design Inc.
Toin School Phase-II (Kindergarten, Primary School)	1984-86	Kanagawa, Japan	Toin School	21,000 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Associated with: Jiro Inazuka & Associates Architect Planners Structural Eng.: Takumi Orimoto & Associates Contractor: Takenaka Corporation
King Saud University Al-Gassim Campus	1984-	Al-Gassim, Saudi Arabia	King Saud University	1,413,482 m ²	Master Plan 100% & Arch. design 100%	Co-Architect: Krikor Baytarian & Associates Somait Engineering Services Glynn Miller International Ltd.
King Saud University Women's College	1984-86	Riyadh, Saudi Arabia	King Saud University	145,000 m ²	Arch. design 30%	Co-Architect: Krikor Baytarian & Associates Somait Engineering Services
Asoke Project	1984-86	Bangkok, Thailand	Asoke Real Estate Co., Ltd.	540,000 m ²	Arch. design 20%	

* As for the works before 1983 see SD8704,9105

Kenzo Tange Major Projects Undertaken 1

Parkland Condominium	1984-86	Jakarta, Indonesia	Pt. Wisma Tamara Permai	28,000 m ²	Arch. design 10%	
Otsu Prince Hotel	1984-89	Otsu, Shiga, Japan	Seibu Railway Co., Ltd.	52,438 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Structural Eng.: Kajima Corporation Mechanical Eng.: Kajima Corporation Contractor: Kajima Corporation
Grand Ecran (Place d'Italie, Paris)	1984-91	Paris, France	SEMAPA	39,000 m ²	Urban design 100% & Arch. design 100% & Site supervision 100%	Co-Architect: M. Macary et X. Menu Structural Eng.: Sechaud & Bossuyt M/E Eng.: B.E.T.H.A.C. Contractor: Coteba Management
Catania Librino Centre	1984-89	Catania, Italy	STA City of Catania	140,000 m ²	Urban design 100%	
Headquarters Building for Emilia Romagna Region-Fiera Centre	1984-94	Bologna, Italy	Region of Emilia Romagna Finariziaria Fiere di Bologna	45,000 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Co-Architect: Marco Zanuso Structural Eng.: Roberto Alessi Mechanical & Electrical Eng.: Gianpeiro Mancini Roberto Innocenti
Urban Design for Bandar Seri Begawan, Brunei	1985-86	Brunei	Government of Brunei	1,280 ha (site area)	Urban design 100%	
International Conference Centre & Financial Centre of Brunei	1985-86	Brunei	Government of Brunei	200,000 m ²	Design concept 100%	
Osaka Bioscience Institute	1985-88	Osaka, Japan	City of Osaka	6,449 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Structural Eng.: Takumi Orimoto & Associates Mechanical Eng.: Sogo Consultants Contractor: Fujita Co., Ltd.
Singapore Indoor Stadium	1985-90	Singapore	Government of Singapore, Singapore Sports Council	35,000 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Co-Architect: RSP Structural Eng.: RSP Mamoru Kawaguchi & Engineer Takumi Orimoto & Associates Mechanical Eng.: Enbank Preece Partnership Inuzuka Engineering Consultants Acoustic Consultants: Yamaha Acoustic Laboratory
United Nations University Headquarters Building	1985-92	Tokyo, Japan	Ministry of Education, Science and Culture	21,300 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Structural Eng.: Takumi Orimoto & Associates Mechanical Eng.: Sogo Consultants Contractor: Kajima Corporation Hazama Corporation Nishimatsu Construction Co., Ltd., etc.

<i>Name of Project and Building</i>	<i>Period</i>	<i>Location</i>	<i>Owner</i>	<i>Size of Project (total floor area)</i>	<i>Service Rendered</i>	<i>Associated Firm</i>
Kawanote New City Center	1985-86	Tokyo, Japan	Arakawa Ward Office	124.8 ha (site area)	Urban design 100%	
The New Tokyo City Hall Complex	1986-91	Tokyo, Japan	Tokyo Metropolitan Government by competition	380,000 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Supervisor: City Hall Construction Office Structural Eng.: Muto Associates Mechanical Eng.: Inuzuka Engineering Consultants Contractor: Tower I: Taisei, Shimizu, Takenaka, etc. JV Tower II: Kajima, Obayashi, etc. JV Assembly Hall: Kumagai, Toda, etc. JV
Supreme Court of Pakistan	1986-94	Islamabad, Pakistan	Government of Pakistan CDA	32,000 m ²	Arch. design 100%	Co-Architect: PEPAC
Master Plan of Spoleto Historic Centre	1986-90	Spoletto, Italy	Fondazioni Antonimi	100 ha (site area)	Urban design 100%	
Shinjuku Heating and Cooling Center	1986-90	Tokyo, Japan	Tokyo Gas Co., Ltd.	18,214 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Structural, Mechanical Eng.: Kajima Corporation Contractor: Kajima, Shimizu, Taisei, JV
Shinjuku Park Tower	1986-94	Tokyo, Japan	Tokyo Gas Co., Ltd.	264,456 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Structural Eng.: Kōbori Research Complex Inc. Mechanical Eng.: Sogo Consultants Inuzuka Engineering Consultants Contractor: Kajima, Shimizu, Taisei, JV
Tokyo Plan 1986	1986	Tokyo, Japan	—		City planning	
Aprica Headquarters Building	1986-88	Osaka, Japan	Aprica-Kasai	1,245 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Co-Architect: Iwao Nakagawa, Architect & Associates Structural Eng.: Umezawa Structural Engineers Mechanical Eng.: Sogo Consultants Contractor: Nomura Construction
Makuhari Prince Hotel	1987-93	Makuhari, Japan	Seibu Railway Co., Ltd.	67,593 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Structural Eng.: Kōbori Research Complex Inc. Mechanical Eng.: Sogo Consultants Contractor: Kumagai-Gumi Co., Ltd.
Chicago Park	1987-88	Chicago, U.S.A.	City of Chicago	800 m ²	Landscape design 100%	
Pacific Rim Plaza	1987-89	Los Angeles, U.S.A.	SP Company	513,000 m ²	Master Plan 50%	

King Saud University Al-Diriyah Campus (four colleges)	1987-94	Riyadh, Saudi Arabia	King Saud University	100,000 m ²	Arch. design 100%	
Shitadajo Country Club Club House	1988-90	Niigata, Japan	Shitadajo Country Club	3,200 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Co-Architect: Brahma Associates Structural Eng.: Umezawa Structural Engineers Mechanical Eng.: Inuzuka Engineering Consultants Contractor: Yoshihara Gumi
Ohmon Club	1988-91	Tochigi, Japan	Ohmon Club	7,474 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Structural, Mechanical Eng. & Contractor: Kajima Corporation
Hiroshima Peace Center Memorial Hall	1988-94	Hiroshima, Japan	Hiroshima City	9,991 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Structural Eng.: Kanai Structural Engineers Mechanical Eng.: Okazaki Engineering Consultants Contractor: Obayashi Corporation, JV
Kimitsu Cultural Hall	1988-90	Kimitsu, Chiba, Japan	Kimitsu City	8,770 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Structural Eng.: Takumi Orimoto & Associates Mechanical Eng.: Sogo Consultants Contractor: Takenaka, Tokyu, Shin-Nittetsu, JV
Musee Franco- Japonais e la Donation Tremois	1988-95	Nice, France	Conseil General des Alpes Maritimes	2,230 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Structural Eng.: Terrell International M/E Eng.: O.T.H. Mediterranee Contractor: Miraglia
United Nations University Phase-II	1989-95	Tokyo, Japan	Mitsui Trust & Banking Co. by competition	41,026 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Structural Eng.: Takumi Orimoto & Associates Mechanical Eng.: Sogo Consultants Contractor: Obayashi, Kajima, Mitsui, etc. JV
UE (United Engineers) Square	1989-	Singapore	United Engineers	130,618 m ²	Arch. design 100% & Site supervision: 25%	Co-Architect: Architects 61 Structural Eng.: HCE Engineers Partnership M/E Eng.: United Engineers(s) Private Ltd. Contractor: Mitsui Construction (basement) / Kajima Overseas Asia Pte Ltd.
Gold Coast Hotel Project	1989-90	Gold Coast, Australia	Pacific Atlas	60,000 m ²	Design concept 100%	Co-Architect: M.B.L.B. Structural, Mechanical Eng.: W.L. Meinhardt Partners Project Management: WT Partnership Prominent International

<i>Name of Project and Building</i>	<i>Period</i>	<i>Location</i>	<i>Owner</i>	<i>Size of Project (total floor area)</i>	<i>Service Rendered</i>	<i>Associated Firm</i>
Master Plan for Rome New City Centre (SDO)	1989-	Roma, Italy	City of Roma	800 ha (site area)	Urban design 60%	Economic Advisor: Sabino Cassese Environmental Advisor: Gabriele Scimemi Technical Assistant: Consorzio S.D.O.
Master Plan for Milanofiori-2 (3 towers)	1989-	Assago (Milano) Italy	Brioschi Finanziarie S.p.A.	36 ha (site area) 220,000 m ²	Urban design 80%	
Kyoritsu Building	1989-92	Tokyo, Japan	T. Corporation	12,475 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Structural Eng.: Fujita Co., Ltd. Mechanical Eng.: Inuzuka Engineering Consultants Contractor: Fujita Co., Ltd.
Bay Square Yokosuka (Yokosuka Cultural Center)	1989-93	Yokosuka, Kanagawa, Japan	Housing & Urban Development Corp.	73,300 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Structural Eng.: Takumi Orimoto & Associates Mechanical Eng.: Sogo Consultants Contractor: Kounoike-Gumi, Tobishima, Goyou, Magara, JV
Headquarters Building for Campania Region of Napoli	1989-	Napoli, Italy	MEDEDIL	180,000 m ²	Arch. design 30%	Associated with: MEDEDIL
Cairns Project	1989-	Cairns, Australia	Daikyo	130,000 m ²	Design concept 100%	
Japan-Brazil Cultural Centre	1989-	Brasilia, Brazil	Mahikari	6,500 m ²	Arch. design 50%	Co-Architect: Hori Associates
Mitsui-Kaijo Hayama Training Center	1990-93	Hayama, Kanagawa, Japan	Mitsui-kaijo Kasai	1,855m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Structural Eng.: Umezawa Structural Engineers Mechanical Eng.: Inuzuka Engineering Consultants
Tokyo Dome Exhibition Hall (Phase-I)	1986-90	Bunkyo-ku Tokyo, Japan	Tokyo Dome Corporation	32,368 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Structural Eng.: Mechanical Eng. & Contractor: Takenaka Corporation
Indoor Amusement Park (Phase-II)	1989-92	"	"	15,121 m ²	"	"
Tokyo Dome Hotel	1990-	"	"	99,184.6 m ²	Arch. design 50%	Structural Eng.: Ohsaki Research Institute, Inc. Mechanical Eng.: Inuzuka Engineering Consultants
Master Plan for ENI Administration Centre - San Francesco	1990-	Quartiere S. Francesco Milano, Italy	SNAM	32 ha (site area) 130,000 m ²	Urban design 100%	

Kenzo Tange Major Projects Undertaken 3

Master Plan for Bologna New Town	1990-	Castel Maggiore (Bologna) Italy	Brioschi Finanziaria S.p.A.	280 ha	Urban design 10%	
Cainhill Condominium	1990-	Singapore	OCBC	30,000 m ²	Arch. design 20%	Co-Architect: RSP
Golden Mile Project	1990-	Kuala Lumpur, Malaysia	IGB Corporation	240,000 m ²	Arch. design 20%	Co-Architect: Daya Bina Akitek
Redevelopment Plan of Seine River Left Bank, Paris	1990-	Paris, France	SEMAPA	489,000 m ²	Urban design	
Pacific University International Center	1990-	Portland Oregon U.S.A.	Pacific University	3,000 m ²	Design concept 100%	
Shin-Yokohama Project	1991-	Yokohama, Kanagawa, Japan	Seibu Railway Co., Ltd.	16,600 m ²	Design concept 100%	
Jakarta Project	1991-	Jakarta, Indonesia	BENHIL	17 ha (site area) 500,000 m ²	Master Plan 100%	
The Exchange Square Project	1991-	Bangkok, Thailand	Tanayong Co., Ltd.	800,000 m ²	Master Plan 100%	
Master Plan for ENI Administration Centre - Affari	1991-	Quartiere, Affari Milano, Italy	SNAM	30 ha (site area) 177,000 m ²	Urban design 100%	Co-Architect: Studio BR
BMW Italia Headquarters Building	1991-	Quartiere, Affari Milano, Italy	BMW	8,500 m ²	Arch. design 20%	Co-Architect: Serete ITALIA
AGIP Headquarters Project	1991-95	Milano, Italy	SNAM AGIP	47,000 m ²	Arch. design 100%	Co-Architect: Studio BR(L.A.)
Nikko Toshogu Shrine Reception Hall & New Shrine Office	1991-	Nikko, Tochigi., Japan	Nikko Toshogu	3,700 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Structural Eng.: Umezawa Structural Engineers M/E Eng.: Sogo Consultants Contractor: Shimizu, Kajima, Tobu, JV
FCG (Fuji-Sankei Communications Group) Headquarters Building	1991	Minato-ku, Tokyo, Japan	Fuji Sankei Group	142,789.78 m ² 21,102.22 m ² (site area)	Arch. design 100% Site supervision 70%	Structural Eng.: Kobori Research Complex Inc. Mechanical Eng.: Sogo Consultants Contractor: Kajima Corporation

<i>Name of Project and Building</i>	<i>Period</i>	<i>Location</i>	<i>Owner</i>	<i>Size of Project (total floor area)</i>	<i>Service Rendered</i>	<i>Associated Firm</i>
Kagawa Prefectural Government Office	1991-	Takamatsu, Kagawa, Japan	Kagawa Prefecture by competition	82,488.5 m ² 19,825 m ² (site area)	Arch. design 100% & Site supervision 20% (Phase-I)	Structural Eng.: Aoki Structural Engineers Mechanical Eng.: Inuzuka Engineering Consultants Contractor: Nishimatsu Construction Co., Ltd. (Phase-I)
Tokyo Fashion Town Building F-block G-block	1991-	Koto-ku, Tokyo, Japan	Tokyo Fashion Town	121,320.82 m ² 20,792.62 m ² (F-block site area) 42,979.45 m ² 8,748.96 m ² (G-block site area)	Arch. design 100% Site supervision 70%	Structural Eng.: Nihon Sekkei Inc. Mechanical Eng.: Yamashita Sekkei Inc. Contractor (F-block): Takenaka, JV (phase 1) Shimizu, JV (phase 2) Contractor (G-block): Fujita, JV (phase 1) Toda, JV (phase 2)
Otsu Prince Hotel Banquet Hall	1992-94	Otsu, Shiga, Japan	Seibu Railway Co., Ltd.	16,530.162m ² 32,561.59 m ² (site area)	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Structural Eng.: Mechanical Eng., & Contractor: Kajima Corporation
Imabari City Hall	1992-94	Imabari, Ehime, Japan	Imabari City	7,150m ²	Arch. design 100% Site supervision 100%	Structural Eng.: Kanai Structural Engineers Mechanical Eng.: Nakata Setsubi Keikaku Contractor: Noma Koumuten
Saint Mary's Cathedral Extension	1992-95	Bunkyo-ku, Tokyo, Japan	Tokyo Catholic Associations	3,317 m ²	Arch. design 100% Site supervision 100%	Structural Eng.: K. Nakata & Associates Mechanical Eng.: Tetens Engineering Co., Ltd. Contractor: Shinkenkai Komusho
Zao Recreation Center for Dept. of Defense Mutual Aid Association	1992-95	Yamagata, Yamagata, Japan	Dept. of Defense Mutual Aid Association	5,592 m ²	Arch. design 100% Site supervision 100%	Structural Eng.: Umezawa Structural Engineers Mechanical Eng.: Inuzuka Engineering Consultants Contractor: Kounoike-gumi, Chitose Kensetsu, JV
Mita Condominium Project	1993-94	Minato-ku, Tokyo, Japan	Overseas Property Sales Co., Ltd.	2,700 m ²	Arch. design 100% & Site supervision 100%	Structural Eng.: Umezawa Structural Engineers Mechanical Eng.: Inuzuka Engineering Consultants Contractor: Arai-Gumi Ltd.
Yokohama-Negishi Architectural Center	1993-	Naka-ku, Yokohama, Japan	City of Yokohama	7,686 m ² 34,945 m ² (site area)	Master planning 50%	
Apricare	1994-93	Osaka, Japan	Aprica-Kasai	6,600 m ²	Arch. design 100% Site supervision 10%	Structural Eng.: K.nakata & Associates Mechanical Eng.: Inuzuka Engineering Consultants Contractor: Konoike, Haseko, JV

Kenzo Tange Major Projects Undertaken 4

Saigon South New City Center	1993-	Ho Chi Minh City Vietnam	Phu My Hung Corporation by competition	750 ha (site area)	Architectural Advisor	
Yamaguchi Prefectural Museum in Hagi	1994-	Hagi, Yamaguchi, Japan	Yamaguchi Prefecture	4,954.7m ² 11,600 m ² (site area)	Arch. design 100% Site supervision 40%	Structural Eng.: Umezawa Structural Engineers Mechanical Eng.: Inuzuka Engineering Consultants Contractor: Sato Kogyo, Kyowa Kensetsu, JV
TeleTech Park	1994-	Singapore	TeleTech Park Pte Ltd.	33,899 m ²	Arch. design 100% Site supervision 10%	Co-Architect: Architects 1990 Structural Eng.: Meinhardt Pte Ltd., Singapore M/E Eng.: J. Roger Preston + Partners Contractor: Eng Lim Construction Co.
Gan-Chen Commercial District Development Project	1994-	Taiwan	Taiwan Development and Trust Co., Ltd. by competition	8.48 ha (site area) (19.3 ha super block)	Master planning 100%	Co-Architect: Chien Ching Architects Engineers
Bangkok City Tower	1994-	Bangkok, Thailand	City Realty Co., Ltd.	75,000 m ²	Arch. design 30%	Co-Architect: Inter Akitek
Redevelopment Plan for Kowabo Site	1995-	Kurayoshi, Tottori, Japan	City of Kurayoshi	130,000 m ² (site area)	Master plan 100%	Co-Architect: Hsin-Yieh Architects (Int'l) Ltd.
Shanghai International Arts Center Development	1995-	Shanghai, China	APEC International (Holdings) Ltd.	109,344 m ² 14,466 m ² (site area)	Arch. design 25%	Co-Architect: ECADI, Shanghai, China
Genxin Gymnasium	1995-	Pudong New District Shanghai, China	Pudong New District Government	300,000 m ²	Urban design 30% & Arch. design 30%	

Personal History

Name

KENZO TANGE

Date of birth

September 4, 1913

Education

1935-1938 Department of Architecture, The University of Tokyo

1942-1945 Graduate School, The University of Tokyo

Doctoral Degrees

Ph. D. from The University of Tokyo, 1959

Honorary Doctor of Fine Arts from the State University of New York at Buffalo, U.S.A., 1962

Doktor-Ingenieur Ehren Halber from Technische Hochschule Stuttgart, West Germany, 1962

Dottore Architetto Honors Causa from Politecnico di Milano, Italy, 1964

Honorary Doctor of Science from University of Hong Kong, 1970

Honorary Doctor of Letters from University of Sheffield, England, 1970

Honorary Doctor of Arts from Harvard University, U.S.A., 1971

Honorary Doctor of Arts from Universidad Nacional Federico Villarreal, Peru, 1977

Doctor "Honoris Causa" of University of Buenos Aires, Argentina, 1978

Professorships

Professor at The University of Tokyo, 1946-1974

Professor Emeritus at The University of Tokyo, 1974-

Visiting Professor at The Massachusetts Institute of Technology, 1959-1960

Visiting Professor at Harvard University, 1972

Honorary Professor at Universidad Nacional Federico Villarreal, Peru, 1977

Honorary Professor at University of Buenos Aires, Argentina, 1978

Honorary Professor at Croatian Academy of Arts and Science, 1981

Honorary Professor at Bulgarian International Academy of Architecture, Bulgaria, 1987

Honors & Affiliations

Honorary Member of Mexican Institute of Architects, 1962

The Class of Architecture for "Accademico delle Arti del Disegno" Firenze, Italy, 1962

Honorary Member of Buffalo Academy of Arts, U.S.A., 1962

Honorary Member of Association of Danish Architects, 1962

Dem Ausserordentlichen Mitglied der Abteilung Baukunst der Akademie der Kunst, West Germany, 1962

Honorary Fellow of American Institute of Architects, U.S.A., 1963

Member of Royal Institute of British Architects, England, 1965

Honorary Member of Institute of Peruvian Architects, Peru, 1965

Honorary Member of Philippine Institute of Architects, The Philippines, 1965

Honorary Member of American Academy of Arts and Letters, U.S.A., 1966
Ehrenmitgliedschaft from Bundes Deutscher Architekten, West Germany, 1967

Foreign Honorary Member of American Academy of Arts and Science, U.S.A., 1967

Honorary Member of Puerto Rican Institute of Architects, 1967

Honorary Citizen of Skopje, Yugoslavia, 1968

Member of World Society of Ekistics, Greece, 1968

Member of Club of Rome, 1972

Foreign Member of Royal Academy of Arts and Letters, Belgium, 1973

Member of Pio Manzu International Scientific Committee, Italy, 1974

Honorary Citizen of Dallas, Texas, U.S.A., 1974

Member of Royal Academy of Arts and Letters, England, 1975

Member of Order "Pour le Merite", West Germany, 1976

Honorary Citizen of The City of Miami, 1977

Foreign Member of the National Academy of Fine Arts, Buenos Aires, Argentina, 1978

Honorary Member of Sociedad Bolivariana de Arouitectos, Venezuela, 1978

Honorary Member of Venezuela Architects Association, 1978

Honorary Citizen of Buenos Aires, Argentina, 1978

Member of the Advisory Board for the Governor of Tokyo, 1979-85

Membre Etranger de l'Academie d'Architecture, France, 1979

Honorary Member of Colombian Institute of Architects, 1980

Honorary Citizen of Bogotá Republic of Colombia, 1980

Honorary Member of Architectural Institute of Japan, 1980

Honorary Citizen of Lima, Republic of Peru, 1983

Honorary Citizen of Imabari City, Ehime Prefecture, Japan, 1983

Membre de l'Institute de France, Academie des Beaux-Arts, France, 1983

Permanent Member of Prix Vocation Japon, France, 1984

Vatican Panthen Academy of Arts and Letters, Italy, 1986

President, Japan Architects Association, 1986-87

Founding President of Japan Institute of Architects, 1987-88

Honorary Chairman, American Institute of Architects, 1986-87

Chairman, Building Council of the Ministry of Construction, August 1987-88
Honorary Member of Bulgarian

International Academy of Architecture, Bulgaria, 1987

Honorary Member of the Academy of Arts of the USSR, 1988 (The name was changed to the Russian Academy of Arts as of 1992)

Member of International Biographical Center, Cambridge, England, 1988

Honorary Member of Japan Association of Artists, Craftsmen and Architects, 1988

Member of the Inter-Allied Club (Cercle de l'Union Interalliee), France, 1989

Chairman, Tokyo Frontier Planning Committee, 1988-89

Chairman of the Project: "SISTEMA CASA", Italian Trade Commission, April 26, 1989

Chairman of the Jury for the International Competition for "Tokyo Forum" (to be built at the old City Hall site, Marunouchi, Tokyo), Nov. 1989

Second Term Chairman, Building Council of the Ministry of Construction, 1989-91

Member of the Honorary Committee of the Fourth Annual Accent on Architecture, U.S.A., 1993

Member of the Universal Academy of Culture, France, 1993

Chairman of the Japan-Makedonia Friendship Association, 1993

Honorary Member of Japan Institute of Architects, 1993

Member of the National Building Museum, U.S.A., 1993
 Honorary Member of the Royal Incorporation of Architects in Scotland, Nov. 1993
 Director of the Committee for the Construction of the Royal Wedding Commemoration Fountain Park, Japan, 1994
 Director of Union Foundation for Applied Art, Japan, Apr. 1994
 Honorary Member of Union of Architects of Russia, May 1994
 Honorary Member of the International Academy of Architecture, Russia, Apr. 1994
 Honorary Fellow of the Royal Institute of British Architects, May 18, 1994
 Honorary Advisor to the Shanghai Urban Planning Administration Bureau, 1995
 Senior Advisor to the Guangzhou Urban Planning Bureau, 1995

Prizes & Awards

Pan Pacific Citation from A.I.A., Hawaiian Chapter, U.S.A., 1958
 Prix International d'Art et d'Architecture de l'Architecture d'Aujourd'hui, France, 1959
 Diploma of Merit from International Olympic Committee, 1964
 Royal Gold Medal from Royal Institute of British Architects, England, 1965
 Asahi Prize from Asahi Newspaper, Japan, 1965
 President's Medal from the Architectural League of New York, U.S.A., 1965
 The Gold Medal from American Institute of Architects, U.S.A., 1966
 Medaille d'Or from Societe d'Encouragement au Progres, France, 1967
 The Medal of Honour from Danish Royal Academy of Fine Arts, Denmark, 1968
 Order of the Yugoslav Star on Necklace, Yugoslavia, 1968
 Order of San Gregorio Magno from the Apostolic Nunziature, Vatican City, 1970
 The Gold Medal from the President of Italy, 1970
 Merit Award from American Institute of Planners, 1970
 Thomas Jefferson Memorial Foundation Medal in Architecture, U.S.A., 1970
 Prime Minister's Award for Nominated Competitions for "Japan in 21st Century", Japan, 1971
 Grand Medaille d'Or d'Architecture de l'Academie d'Architecture, France, 1973
 SARP Medal from Stowarzyszenie Architektow Polskich, Poland, 1973
 Order Pour le Merite fur Wissenschaften und Kunste, West Germany, 1976
 Commandeur dans l'Ordre National du Merite, France, 1977
 Mexican Order of the Aguila Azteca Grade, "Encomienda", Mexico, 1978
 Commendatore nell'Ordine "Al Merito della Repubblica Italiana", Italy, 1979
 Person of Merit in Japanese Cultural Achievement, Japan, 1979
 Order of Culture, Japan, 1980
 Gran Oficial de la Orden El Sol del Peru, 1983
 Commandeur dans l'Ordre des Arts et Letters, France, 1984
 Grande Ufficiale nell'Ordine Al Merito della Repubblica Italiana, Italy, 1984
 Grande Prize, Architectural Institute of Japan, 1986
 The Pritzker Architecture Prize, U.S.A., 1987
 Order of Merit from Ehime Prefecture of Japan, 1990
 Premio Ape d'Oro, Italy, 1990
 The Fifth Praemium Imperiale, Architectural Section, Japan, 1993
 The First Order of the Sacred Treasure, Japan, 1994
 Medal of Honor by Pacific Rim Council on Urban Development, Taiwan, 1994

Publications by Kenzo Tange

"Katsura—Tradition and Creation in Japanese Architecture", 1960 (English Edition, Yale University Press, 1960)
 "A Plan for Tokyo, 1960—Toward a Structural Reorganization", 1961 (English Edition, Shinkenchikusha, Tokyo, 1961)
 "Ise—Prototype of Japanese Architecture", 1962 (English Edition, M.I.T. Press 1965)
 "Japan in the Future—Formation of Tokaido Megalopolis", 1966 (in Japanese)
 "Kenzo Tange, 1946-1958—Reality and Creation", 1966 (in Japanese)
 "Kenzo Tange, 1955-1964—Technology and Humanity", 1966 (in Japanese)
 "Kenzo Tange, 1946-1969—Architectural and Urban Design", 1970 (English, French, German Edition, Artemis, Switzerland, 1970)
 "Man & Architecture", 1970 (in Japanese)
 "Architecture & City", 1970 (in Japanese)
 "Japan in 21st Century", 1971 (Kenzo Tange & Study Team in Japanese), 1971
 "Architecture and Urban Design", 1975 (in Japanese)
 "Kenzo Tange" (Studio paperback, Artemis, Switzerland, 1987 (in German and French)
 "Ippon no Enpitsu kara"—Autobiography—Japan Economic Journal, 1985
 "Recollections"—Series of 15 months on Japan Architects (in English), April 1985 to June 1986

Publications on the Work of Kenzo Tange

"Kenzo Tange" by Robin Boyd (George Braziller Inc., London, 1962)
 "Three Japanese Architects, Drei Japanische Architekten, Mayekawa, Tange, Sakakura" by Alfred Alther (Arther Niggli Ltd., Teufen AR, 1969 in English and German)
 "Kenzo Tange" by Paolo Riani (Sadia/Sansoni, Firenze, 1969, in Italian)
 "Series of Contemporary Japanese Architects No. 10 Kenzo Tange" by Isamu Kurita (Sanichi Shobo, Tokyo, 1970, in Japanese)
 "Philosophy of Contemporary Architects—Kenzo Tange" by M. Naka (Kindaikenchikusha, Tokyo, 1970, in Japanese)
 "Kenzo Tange 1946-1969 Architecture and Urban Design" by Udo Kultermann (Artemis, Zurich, 1970, in English, French, German and Spanish)
 "Noboru Kawazoe Critics Series I, Architecture I—Kenzo Tange" by Noboru Kawazoe (Institute of Business in Administration and Managements/Sangyo Noritsu Tankidaigaku Shuppanbu, Tokyo, English)
 "Kenzo Tange Japanese Architecture Past and Present" by A.V. Ikonnikov (Progress, Moscow, 1976, in Russian)
 "Kenzo Tange" by Udo Kultermann (Studio paperback, Artemis, Zurich, 1978, in German and French)
 "Kenzo Tange and Urtec 1946-1979", special issue of SD (monthly magazine published by Kajima Corporation in English and Japanese)
 "Kenzo Tange and Urtec -1983", special issue of SD
 "Kenzo Tange Associates -1987", special issue of SD
 "Kenzo Tange Associates 1987", special issue No. 73 of Process Architecture
 "Kenzo Tange Associates -1991", special issue of SD
 "The New Tokyo City Hall Complex", special extra issue of Kenchiku Bunka (Shokukusha, 1991)
 "Kenzo Tange 1946-1996" (Arnoldo Mondadori Editore, Italy, in Italian) (to be published in 1996)

丹下健三 経歴

生年月日

1913年9月4日生

学歴

1935-1938 東京大学工学部建築学科

1942-1945 東京大学大学院

学位

東京大学・工学博士 1959

ニューヨーク州立バッファロー大学・名誉美術博士, アメリカ 1962

シュツツガルト工科大学・名誉工学博士, 西ドイツ 1962

ミラノ工科大学・名誉建築学博士, イタリア 1964

ホンコン大学・名誉理学博士, ホンコン 1970

シェフィールド大学・名誉文学博士, イギリス 1970

ハーバード大学・名誉芸術博士, アメリカ 1971

国立フェデリコ・ビリャレアル大学・名誉芸術学博士, ベルー 1977

ブエノスアイレス大学・名誉博士, アルゼンチン 1978

教授職

東京大学教授 1964-74

東京大学名誉教授 1974-

マサチューセッツ工科大学客員教授 1959-60

ハーバード大学客員教授 1972

国立フェデリコ・ビリャレアル大学名誉芸術学教授, ベルー 1977

ブエノスアイレス大学名誉教授, アルゼンチン 1978

ユーゴスラビア・ザグレブ科学・芸術アカデミー名誉教授 1981

ブルガリア国際建築アカデミー名誉教授 1987

会員・称号

メキシコ建築家協会・名誉会員 1962

フロレンス芸術院会員, イタリア 1962

アメリカ・バッファロー芸術アカデミー名誉会員 1962

デンマーク建築家協会・名誉会員 1962

西ドイツ芸術院・会員 1962

アメリカ建築家協会(AIA)・名誉会員 1963

イギリス王室建築家協会(RIBA)・会員 1965

ベルー建築家協会・名誉会員 1965

フィリピン建築家協会・名誉会員 1965

アメリカ芸術院・名誉会員 1966

西ドイツ建築家協会・名誉会員 1967

アメリカ芸術科学アカデミー・海外名誉会員 1967

ブエルトリコ建築家協会・名誉会員 1967

スコピエ市・名誉市民, ユーゴスラビア 1968

ワールド・ソサエティー・フォー・エキステククス・会員 1968

ローマ・クラブ会員 1972

ベルギー王室芸術院・海外会員 1973

ピオ・マンツォ国際科学委員会・委員, イタリア 1974

グラス市・名誉市民, アメリカ 1974

イギリス王室芸術院・会員 1975

西ドイツ政府プール・ル・メリット協会・会員 1976

マイアミ・名誉市民, アメリカ 1977

アルゼンチン国立芸術院・海外会員 1978

シモン・ボリバル建築家協会・名誉会員, ベネズエラ 1967

ベネズエラ建築家協会・名誉会員 1978

ブエノスアイレス市・名誉市民, アルゼンチン 1978

東京都顧問 1979-85

フランス建築アカデミー・海外会員 1979

日本建築学会・名誉会員 1980

コロンビア建築家協会・名誉会員 1980
 ボコダ市・名誉市民、コロンビア 1980
 リマ市・名誉市民、ペルー 1983
 愛媛県今治市・名誉市民 1983
 フランス芸術アカデミー・海外終身会員 1983
 プリ・ボカシオン・ジャポン名誉委員会・終身委員 1984
 バチカンパンテオン芸術アカデミー会員 1986
 日本建築家協会会員(会長 1986-87)
 新日本建築家協会会員(初代会長 1987-88)
 アメリカ建築家協会・名誉会長 1986-87
 建設省建築審議会・会長 1987-88
 ブルガリア国際建築アカデミー・名誉会員 1987
 ロシア芸術院(ソ連邦芸術院を1992年より改称)・名誉会員 1988
 英国ケンブリッジ国際人物登録センター・会員 1988
 日本建築美術工芸協会・名誉会員 1988
 ユニオン・アンテラリー会・会員、フランス 1989
 東京世界都市博基本構想委員会・座長 1988-89
 東京フォーラム国際設計競技審査委員長 1989
 イタリア政府・イタリア貿易振興会(システマ・カーザ)・総裁 1989
 建設省建築審議会・会長(第二期) 1989-91
 社団法人アメリカ建築家協会(AAF)名誉委員会・委員 1993
 ユニバーサル・アカデミー・オブ・カルチャー会員、フランス 1993
 日本マケドニア友好協会・会長 1993
 新日本建築家協会・名誉会員 1993
 ナショナル・ビルディング・ミュージアム会員 1993
 スコットランド王立建築家協会・名誉会員 1993
 財団法人皇太子殿下御結婚記念噴水公園建設委員会理事 1994
 財団法人ユニオン外国人会員 1994
 ロシア建築科学アカデミー外国人会員 1994
 英国王立建築家協会・名誉特別会員 1994
 上海市都市計画管理局名誉顧問 1995
 廣州市都市計画局高級顧問 1995

受賞

第1回汎太平洋賞、アメリカ(AIA) 1958
 フランス「今日の建築誌」第1回国際建築美術賞、フランス 1959
 国際オリンピック委員会(IOC)ディプロマ・オブ・メリット(功労賞) 1965
 イギリス王立建築家協会(RIBA) 1965年度ローヤル・ゴールドメダル 1965
 朝日新聞・1965年朝日賞 1965
 ニューヨーク市・建築家連盟特別賞、アメリカ 1966
 アメリカ建築家協会(AIA)・1966年度ゴールドメダル 1966
 フランス文化選奨・ゴールドメダル 1967
 デンマーク建築家協会(ADA)・国際大賞 1968
 ユーゴスラビア星条勲章 1968
 ローマ法王庁聖大グレゴリオ勲章 1970
 イタリア共和国大統領・ゴールドメダル 1970
 アメリカ計画家協会最優秀環境デザイン功績賞 1970
 アメリカ・1970年度トーマス・ジェファーソン・メダル 1970
 21世紀の日本・丹下健三グループ・プロジェクト・総理大臣賞 1971
 フランス建築アカデミー・ゴールドメダル 1973
 ポーランド建築家協会・国際建築大賞 1973
 西ドイツ政府ブルー・ル・メリット勲章 1976
 フランス国家功労勲章コマンドール 1977
 アギラ・アステカ勲章、メキシコ 1978
 イタリア共和国国家有功勲章コメンダトーレ章 1979
 文化功労章、日本国政府 1979
 文化勲章、日本国政府 1980
 太陽勲章グラン・オフィシエル、ペルー 1983
 フランス芸術文化勲章コマンドール 1984

イタリア共和国有功勲章グラン・オフィシエル 1984
 日本建築学会大賞 1986
 ブリッツカー建築賞、アメリカ 1987
 サボイア文化勲章、イタリア 1989
 アベ・ドーロ賞(金のミツバチ賞)、イタリア 1990
 愛媛県功労賞 1990
 高松宮殿下記念世界文化賞・建築部門受賞 1993
 勳一等瑞宝章 1994
 台北市功勞賞 1994

著書

桂——日本建築における伝統と創造／造型社 1960(英文版／エール大学出版局 1960)
 東京計画1960——その構造改革の提案／新建築社 1961(英文版／新建築社 1961)
 伊勢——日本建築の原形／朝日新聞出版局 1962(英文版／MIT大学出版局 1965)
 日本列島の将来像／講談社 1966
 丹下健三・1946-1958・現実と創造／美術出版社 1966
 丹下健三・1955-1964・技術と人間／美術出版社 1968
 丹下健三・1946-1969・建築と都市
 (英・独・仏文版／スイス アルテミス出版社 1970)
 丹下健三・1946-1969・建築と都市
 (スペイン語版／スペイン グスタボ・ギリ出版社 1970)
 人間と建築／彰国社 1970
 建築と都市／彰国社 1970
 21世紀の日本(丹下健三グループ著)／新建築社 1971
 建築と都市／世界文化社 1975
 丹下健三／スタジオ・ペーパーバック、スイス アルテミス出版社 1978(独・仏語版)
 一本の鉛筆から／日本経済新聞社 1985
 Recollections—15ヶ月シリーズ／新建築社 1985年4月-1986年6月(英語版)

文献・作品集

丹下健三／ロビン・ボイド著(ジョージブレイジャー出版社 1962)
 (ブレンティスホール・インターナショナル出版社 1962; 英語版)
 日本の三人の建築家—前川、丹下、坂倉／アルフレッド・アルトゥール著
 (アーサー・ニグリ出版社 1968; 英語、独語版)
 丹下健三／パオロ・リアニ著(サデア・サンソーニ出版 1969; 伊語版)
 現代日本建築家全集10 丹下健三／栗田 勇 監修(三一書房 1970; 日本語版)
 現代建築家の思想 丹下健三序論／中 真己著(近代建築社 1970; 日本語版)
 丹下健三 1946-1969 建築とアーバンデザイン／ウド・クルテルマン著
 (アルテミス出版社 スイス 1970; 英語、仏語、独語、スペイン語版)
 建築I 川添登評論集 第一巻 丹下健三／川添登著
 (産業能率大学出版部: 日本語版)
 丹下健三 日本の建築 過去と現在／イコニコフ著
 (プログレス出版社 ソ連 1976; ロシア語版)
 丹下健三／ウド・クルテルマン著
 (アルテミス出版社 ペーパーバック 1978; 仏語、独語版)
 KENZO TANGE & URTEC 1946-1982 SD特集号 鹿島出版会
 KENZO TANGE & URTEC -1983 SD特集号 鹿島出版会
 KENZO TANGE ASSOCIATES -1987 SD特集号 鹿島出版会
 プロセス・アーキテクチュア No.73 丹下健三・都市・建築設計研究所 1987
 KENZO TANGE ASSOCIATES -1991 SD特集号 鹿島出版会
 東京都新庁舎 建築文化別冊 彰国社 1991
 KENZO TANGE 1946-1996 (アルノルド・モングドーリ出版
 イタリア 1996; 伊語版)(予定)

■丹下健三・都市・建築設計研究所所員（1995年）

平賀國夫 1963-	三宅正樹 1992-
丹下憲孝 1985-	岡田弥生 1992-
亀卦川淑郎 1980-	尾崎亮一 1994-
高橋良典 1973-	小笠原好美 1994-
寺島良二 1980-	山内隆文 1994-
石野靖博 1982-	三宅真 1994-
半谷和郎 1995-	川島憲 1994-
是永益司 1972-	鈴木康夫 1995-
野田正治 1986-	ゴー・クァン・ヒエン 1995-
江尻史朗 1988-	胡宝哲 1995-
坂井俊夫 1988-	薦田一紀 1995-
斉木和夫 1987-	棟居克之 1995-
増尾崇志 1988-	飯田和哉 1995-
荒木平治 1987-	呉屋彦四郎 1995-
渡辺莊太郎 1987-	須藤幸一郎 1995-
星野幸次 1985-	原千品 1978-
デビッド・ローランド 1987-	田中信和 1979
望月伸一 1993-	松田雅秀 1980-
露木直巳 1994-	木村一夫 1980-
上村紀夫 1988-	アン・マリー・コルバン 1982-
田部井宏允 1988-	田中昇 1982-
山尾勝規 1988-	岡内和也 1985-
山崎淳一 1987-	海沼新一 1985-
木村和弘 1987-	福地和之 1985-
谷口大造 1989-	アイマン・カドラ 1987-
佐藤孝明 1989-	高尾直秀 1989-
高信正和 1990-	オマール・タケ 1989-
山里翼 1990-	モハメッド・チュイテム 1991-
岩切茂 1991-	長 俊晴 1993-
松井龍哉 1991-	松本隆三郎 1994-
カート・バームガートナー 1991-	松本彰 1994-
浦野直樹 1992-	沖口好巳 1994-
堀口志光 1992-	

その他国内外の現場には多数の監理技術者が駐在しておりますが省略させていただきます。

■所員数（平成7年7月3日現在）

103名（設計84名、事務19名）

■写真撮影 Photo Credits

村井 修+スタジオ村井 Osamu Murai

下記を除く総ての写真 All photographs except undermentioned

堀内広治（新写真工房） Koji Horiuchi (N.P.A.)

p.65上, p.64-65, p.66上, p.66下, p.68, p.69, p.70, p.71, p.72, p.73上, p.73下, p.74, p.77上, p.77下, p.78-79, p.80, p.81, p.82, p.84上, p.84下, p.85下, p.86-87, p.99, p.100-101, p.106, p.108, p.113上, p.113下, p.115, p.116, p.117, p.118-119, p.123上, p.123下

新建築写真部 Shinkenchiku-Sya

p.51上, p.51中, p.96上, p.96下, p.97

三島 淑（日経BP社） Satoru Mishima

p.8-9, p.17上, p.21中, p.23下, p.30, p.32上, p.32下, p.39, p.46, p.50, p.51下

■丹下研究室及び丹下健三・都市・建築設計研究所での協力者（年代は協力期間）

浅田孝 1946-59	福沢宗道 1963-68	レオン・ゴールデンバーグ 1972-74	宗門高明 1979-82
大谷幸夫 1946-60	福沢健次 1963-65	クリストフ・ドルナイヒ 1972-73	川口宗敏 1979-81
小槻貫一 1949-55	村井哲 1963-65	笠木弘二 1972-73	古迫清之 1980-90
光吉健次 1950-55	松本敏行 1964-73	芹沢金一郎 1973-87	五味博 1980-88
名古屋隆之 1951-55	加藤源 1964-73	林賢次郎 1973-80	寒竹伸一 1980-87
沖種郎 1951-55	木村浩 1964-73	宮川幸雄 1973-79	樺沢幸彦 1980-94
朴春鳴 1951-55	山岸潤 1964-73	天野周平 1973-79	山口真一郎 1981-84
田良島昭 1951-55	二宮順 1964-72	吉留浩一 1973-79	フィリップ・ロベール 1981-83
神谷宏治 1952-71	谷口吉生 1964-72	菊池聖史 1973-77	荻谷哲朗 1982-94
山梨清松 1952-56	小川公久 1964-71	高俊民 1973-76	山下誠一郎 1982-92
長島正充 1953-73	奥保多聞 1964-70	尾中純 1973-76	鳥谷部恭通 1982-91
吉川健 1953-60	山家道夫 1964-69	久保元郎 1973-76	工藤憲彦 1983-90
杉重彦 1953-54	稲岡進吾 1964-69	伊藤和 1973-76	尾川謙二 1983-88
山崎稔 1953-54	大沼二郎 1964-66	熊谷義信 1973-75	宮本真 1983-84
磯崎新 1954-63	吉島忠男 1964-65	広瀬哲久 1973-75	池田孝 1985-95
茂木計一郎 1954-60	ジェリー・シェリン 1965-66	ラファエル・ヴェガス 1973-74	東秀夫 1985-93
岡村幸一郎 1955-73	松下一之 1966-70	伊佐野昭 1974-85	椎名純 1985-91
西原清之 1955-60	木島安史 1966-67	川村純一 1974-85	陳志人 1985-87
吉岡三樹 1956-73	甘粕哲 1966-66	川村正士 1974-82	野間建作 1986-94
莊司孝衛 1956-72	坪井善道 1967-76	スティーブ・ディスキン 1974-77	櫻井義夫 1987-91
渡辺定夫 1956-71	岩田隆 1968-80	沖中高行 1974-77	古林史玄瑠 1987-91
阿久井喜孝 1956-62	長谷川敬 1968-73	加藤隆久 1974-76	渡辺均 1987-91
斎藤英彦 1956-58	高宮真介 1968-73	古市徹雄 1975-86	千葉明彦 1987-90
稲塚二郎 1957-85	中地正隆 1968-72	後藤宣夫 1975-84	上條美枝 1987-89
黒川紀章 1957-61	神谷五男 1968-71	三宅英一郎 1975-82	野間宏樹 1987-89
目良浩一 1957-59	岡野真 1968-70	村上純 1975-79	橋元勝久 1988-94
康柄基 1958-64	武田正義 1968-70	豊福芸也 1976-86	北野恭弘 1988-90
曾根幸一 1959-67	左高啓三 1970-74	森田克弥 1976-82	吉国昌美 1988-90
井山武司 1961-66	三木誠 1970-73	中川巖 1977-86	三上豊 1989-93
近沢可也 1961-64	原口佑 1971-94	田中晋也 1977-85	樫本幸治 1989-93
佐々木マリオ 1961-64	中村弘道 1971-87	川原村勝幸 1977-84	郡司祐美子 1989-92
林玲子 1961-63	奥山健二 1971-76	梅沢良三 1977-83	朝永賢一郎 1989-90
マックス・レヒナー 1961-62	伊藤英門 1971-76	赤坂顕 1977-81	三宅博子 1990-94
山本浩三 1962-88	関仁太郎 1971-74	高井義和 1977-79	マリア・ストゥピャ 1990-93
高瀬忠重 1962-68	二郷弘雄 1971-73	堀越英嗣 1978-86	コンスタンス・アダムス 1990-92
奥山陽子 1962-66	泉啓一郎 1971-72	松岡武夫 1978-86	鶴飼哲矢 1990-91
岸崎隆生 1962-64	飯島陽 1972-85	藤宗俊一 1978-84	鈴木真希夫 1991-93
坂本進 1962-64	柴田知彦 1972-76	渡辺純 1978-81	根岸麻由美 1991-93
荒田厚 1963-73	古磯隆生 1972-74	城戸崎博孝 1979-92	尾崎里子 1992-94
鳥栖那智夫 1963-73	デビッド・シエック 1972-74	小林正美 1979-85	ジェニファ・イズラエル 1993-94
土岐新 1963-70	リカルド・ドリオリ 1972-74	妹尾正治 1979-83	

大野繁

p.56

有川幸雄 Yukio Arikawa

p.111, p.112

岡田泰治

p.44, p.45

SS東京

p.47, p.48-49

Georges Fessy

p.88-89, p.90, p.91, p.92上, p.92下, p.94, p.95上, p.95下

Massino Bettinotti

p.104, p.107下

丹下健三・都市・建築設計研究所 Kenzo Tange Associates

p.105, p.107上

斎藤康一 Koichi Saito

p.5

鹿島建設 情報システム部 (CG作制)

p.85上, p.85中

ブレアCGシステム (CG作制)

p.109

■英文翻訳 English Translation

Omnitec Japan Inc.



雑菌を抑止する、キラミック。



(こちら、キラミック)

アップすると、



(こちら、従来商品)

一見、同じようでも、



衛生的、美しい、メンテナンス費軽減。

抗菌商品 **KILAMIC** INAX から誕生。

トイレ空間の衛生性をもっと向上させていきたい。その思いから生まれたタイル・衛生陶器・樹脂製品など一連の抗菌商品の総称が、**KILAMIC**です。銀イオンの持つくオリゴジナー効果により、様々な雑菌の繁殖抑止に大きな効果を発揮。清潔で、衛生的な水まわり空間を実現するINAXならではの画期的な新製品です。

■静置生菌数試験(抗菌タイルの場合)

試験菌株	大腸菌 (注1)	MRSA (注1)	黄色 ブドウ球菌	枯草菌	サルモネラ 菌	肺炎桿菌	緑膿菌
減菌率(%)	99.9	99.9	99.9	99.8	99.9	99.9	99.9

(注1) 試験依頼先/財団法人日本食品分析センター 試験成績書発行年月日/平成6年5月18日

試験成績書発行番号/第67030514-1号

*大腸菌、MRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)については(注1)のとおりで、6時間経過後観察結果

その他の菌については当社試験結果で18時間経過後観察結果。

- MRSAをはじめ大多数の菌に対して99%以上の抗菌効果を発揮。院内の衛生環境を一段と向上させます。
- 水まわりの悪臭、尿石、ヌメリ、黒ズミの発生を軽減。
- 清掃、管理、維持が簡単。メンテナンスコストを軽減。
- なんと洗浄を繰り返しても、抗菌効果は持続します。

キラミック

KILAMIC

抗菌商品

株式会社 INAX

東京本部
東京支社

〒160 東京都新宿区西新宿一丁目6番1号 新宿エルタワー
〒104 東京都中央区京橋3-6-18

☎03-3343-1700
☎03-5250-6544

SD

ROLOGUE

es quand de luy on disoit que plu
ndoit. A moy n'est que honneur
bon gaultier et bon compaignon
u en toutes bonnes compaignies
enes fut reproché par un chagrin
comme la serpilliere d'un ord

〔入選者〕

市原 出

遠藤秀平

大林直高/鹿島建設建築設計本部

佐々木 聡

佐藤光彦

チー・ティエン/CHI'S WORKSHOP

手塚貴晴+手塚由比

トム・ヘネガン+安藤和浩+梶 直樹/

アーキテクチャー・ファクトリー

長坂 大/Méga

長田直之+筏 真司/I.C.U.

中東壽一/乃普創..設計工房

西沢大良

藤本壮介

山口 賢+BEAM STUDIO

由田 徹+岡本美樹

吉田 進+松本哲弥+有馬浩一+森吉直剛/

大成建設設計本部

SDレビュー1995

第14回建築・環境・インテリアのドローイングと模型の入選展

〔審査員〕

高橋 航一(建築家)

坂本一成(建築家、東京工業大学教授)

内藤 廣(建築家)

妹島和世(建築家)

〔主催〕

鹿島出版会SD編集部

〔後援〕

朝倉不動産株式会社

〔協賛〕

ノールインターナショナルジャパン

〔問い合わせ先〕

鹿島出版会SD編集部

107 東京都港区赤坂6-5-13

tel: 03-5561-2555

fax: 03-5561-2565

SD Review 1995

The 14th Exhibition of Winning Architectural Models and Drawings

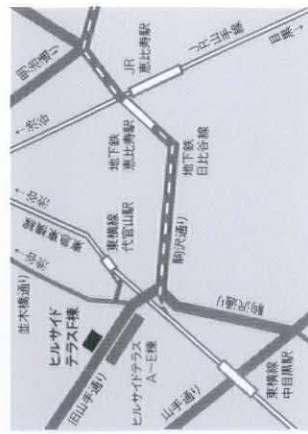
〔東京展〕

会期: 1995年9月20日(水) - 10月1日(日)

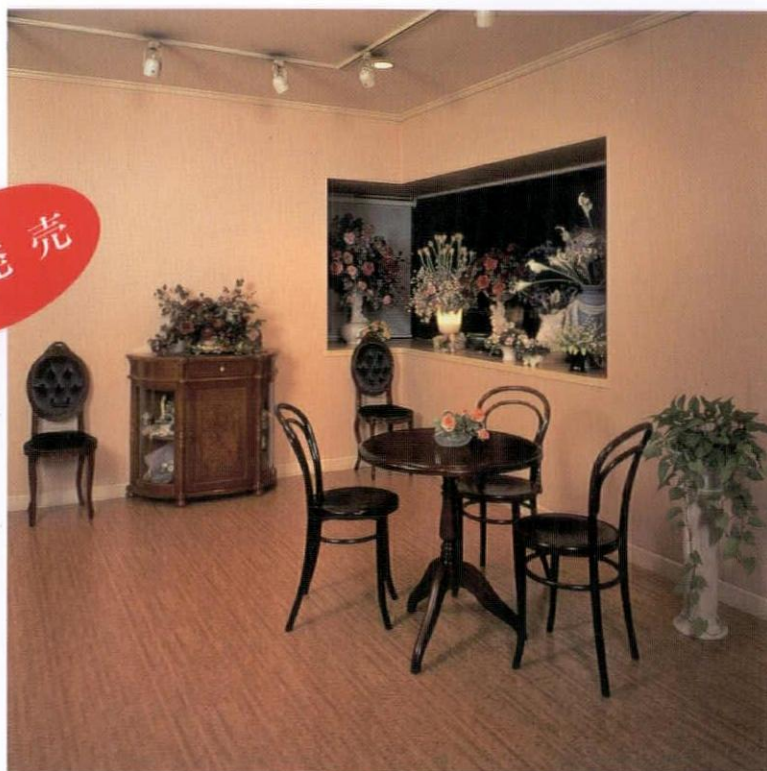
12:00 - 19:00

会場: 東京都渋谷区猿楽町18-8

ヒルサイドテラスF棟 ヒルサイドフォーラム



新発売



人集う空間に、自然のやさしさと、 自然を超えたたくましさ。

「ナチュラルな感覚は大切にしたい。しかし、強くなければ、機能を満たすことができない」。こうした、公共の建物やビジネス空間、商業・サービス空間に求められる高い要求を、すべて備えた床材、それがロンクレオです。木とコルクという自然の素材をモチーフにしながら、自然素材にはない耐久性・寸法安定性を実現して重歩行のニーズにも対応。自然のやさしさと、自然を超えたたくましさ、人の集う空間にふさわしいスペース・クリエーションを可能にします。

特長

- 透明なトップ層に保護された、完成度の高い自然の質感。
- 冬期の施工性にも優れ、スーパーシームシーラー工法により、接合部が目立たず、美しく確かな仕上り。
- ガラスクロスを積層したことにより寸法安定性に優れています。
- 重歩行に耐える優れた耐久性。いつまでも美しさを保ちます。

ファッションビニル床シート(重歩行用)

ロンクレオ

コルク&木



■規格:2.0^{mm}(2.5^{mm}※)厚さ×1,820^{mm}×9m長さ

※受注生産品

■柄・色数:3柄・6色

■用途:

公共空間…学校、幼稚園、図書館、病院、福祉施設など。

ビジネス空間…オフィス、ロビー、エレベーターホールなど。

商業・サービス空間…レストラン、デパート、ショッピングセンターなど。

ときめきの生活空間をサイエンスする
ロンシル工業株式会社

●本社/〒130 東京都墨田区緑4-15-3

TEL.03(5600)1821

●大阪支店/〒532 大阪府淀川区西中島3-9-13大北ビル

TEL.06(304)2700

●営業所

札幌 TEL.011(531)2602

青森 TEL.0177(77)1155

仙台 TEL.022(265)4771

新潟 TEL.025(243)3791

金沢 TEL.0762(92)1161

大宮 TEL.048(664)1511

千葉 TEL.043(246)5851

横浜 TEL.045(662)7370

静岡 TEL.054(251)3712

名古屋 TEL.052(935)7063

岡山 TEL.086926-4321

高松 TEL.0878(31)4177

広島 TEL.082(211)2700

福岡 TEL.092(472)5857

鹿児島 TEL.0992(58)6571

細江勲夫の新作プロダクト

HERON/事務用照明器具

これはハロゲンランプと蛍光灯のふた通りに使えるオフィス用照明器具である。どちらの場合でも、オフィス作業において人間工学的必要とされる非対称の光が得られる。素材はガラスを充填したナイロン材で、射出成形である。反射板が基部に接合する内側部分には、パンタグラフ機構が組み込まれており、反射板の角度をアーム部分とは切り離して維持できるようになっている。基部の底には小さな車輪が列になっており、机上で自由に向きを変えられるようになっている。仕上げの色は各色そろっている。重さは3.2kg。

コンセプト

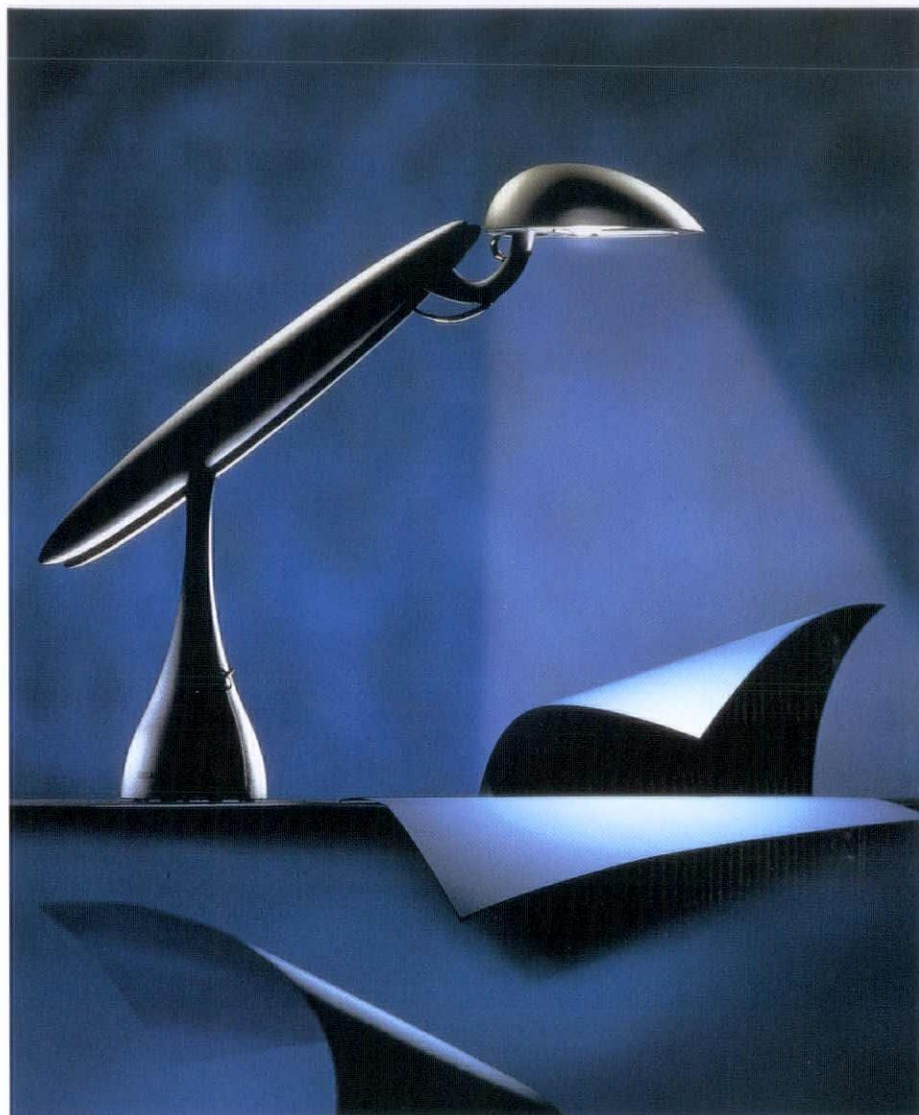
HERON——地球外のランプ。

HERONは高く翔ぶことが大好きだった。

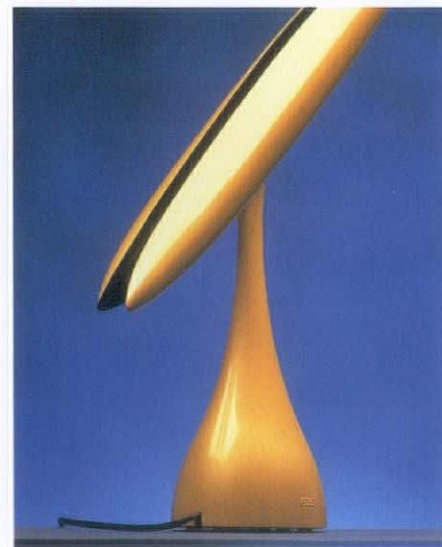
ある日、HERONは生まれ育った星からあまりにも遠くまで翔んだので、地球に降り立った時には光になっていた。

そのいかにも地球外的な姿は、実に優雅に体を折り曲げ、向きを買えることができる。HERONが発する光は、地上のすべてのものに優しくそっと触れる。

HERONは、友愛の光を与えに遥か遠くからやって来たランプなのである。



HERONの非対称の光



基部とアームのジョイント

Designer: Isao Hosoe, Herbert Lindinger, Ann Marinelli, Koji Mitsuhashi, Alessio Pozzoli, Sam Ribet

Manufacturer: Bosch/Telenorma GmbH

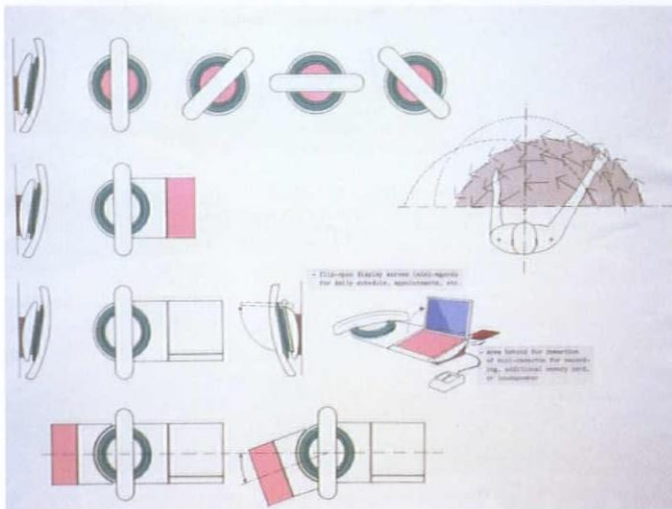
T1/オフィス用電話シリーズ

T1テレフォン・シリーズは、ふたつのコンセプトから生まれた。第一に、受話器の重要性和その使用を強調すること、そして第二に、どんな位置からでも受話器を本体に楽に戻せるようなディテールを考案することであった。その結果、受話器は胸のような形の真ん中にあるボタン状の突起に乗り、回転してどんな位置からでも受け戻しが楽にできるようになっている。

このT1シリーズは4タイプのモデルがあり、ひとつを除いてインフォメーション・スクリーン付きである。一番複雑なモデルでは、大型のインフォメーション・スクリーンがキーボードの上に折りたためるようになっている。



プロトタイプ



コンセプトスケッチ



基本モデルシリーズ



受話器うけ部

Designer: Isao Hosoe, Alessio Pozzoli
 Manufacturer: Luxo Italiana S.p.A.
 photos: Lorenzo Lucatelli, Miro Zagnoli

シンガポール大動脈

東洋屈指の超高層ビル（UOBプラザ）。
そのすみずみに、西松の技術と情熱が脈々と流れています。

地上66階、高さ280メートル。超高層ビルが立ち並ぶシンガポール・シェルトンウェイ地区でも、ひととき目を引く（UOBプラザ）（United Overseas Bank）。私たち西松が長きにわたり注ぎ続けてきた情熱と先進技術が、また一つ大きな成果を産み出しました。国際金融都市シンガポールの新しいランドマーク（UOBプラザ）は、新時代のビジネスの大動脈として力強く活動していくことでしよう。私たち西松もまた、来るべき21世紀に向けて、この様な地上建設の分野にとどまらず、ジオフロントからウォーターフロント、さらには宇宙開発の分野まで大きな目標を掲げ、技術の向上と人材の育成に努めていきます。人と地球に優しい環境づくりをめざし西松は新たなフィールドへと挑み続けます。

毎日ふれあう技術



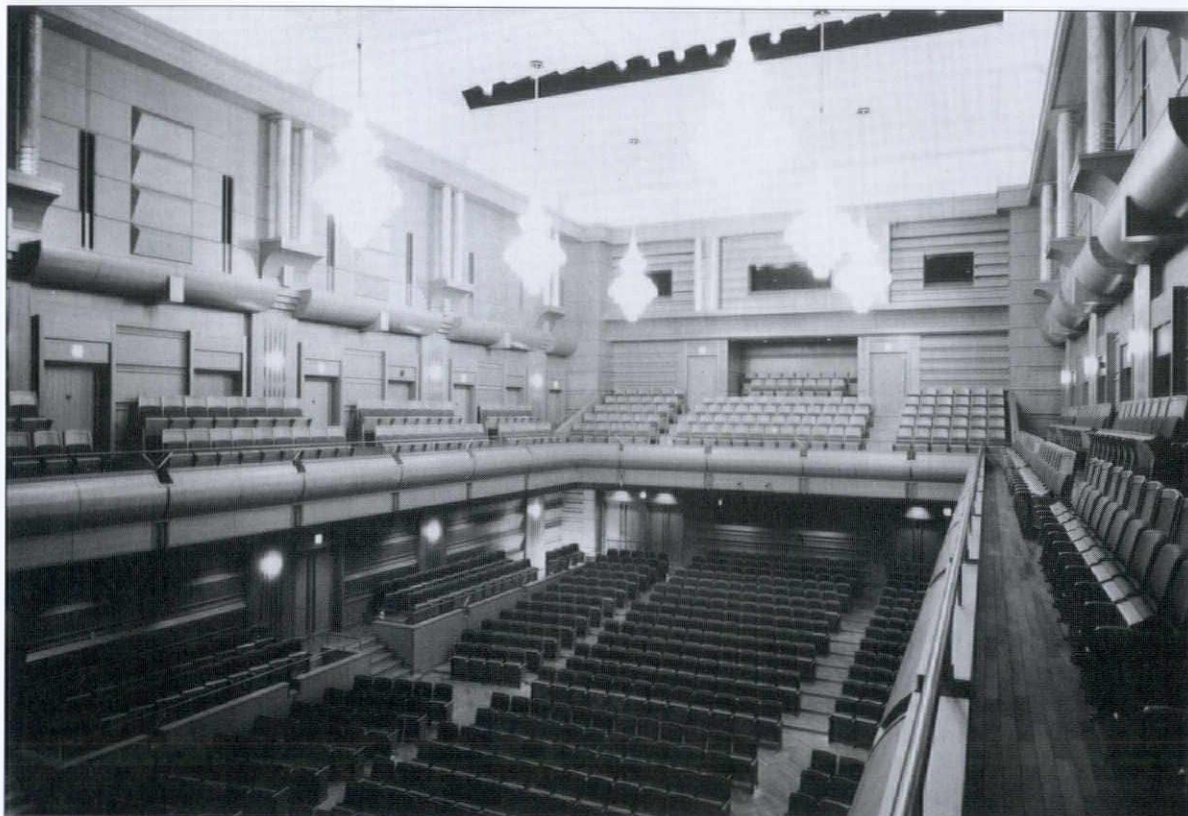
西松建設

〒105 東京都港区虎ノ門1丁目20番10号
電話 03(3502)0232

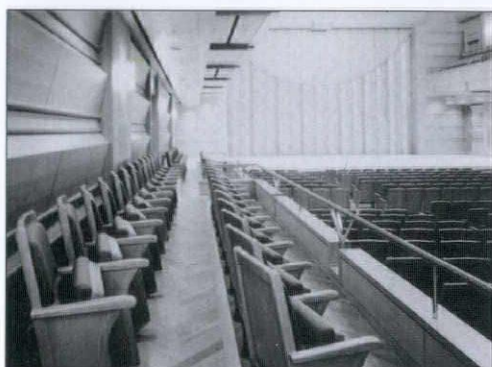


デザインとテクノロジーの融合。

オカムラの技術力が、紀尾井ホールの劇場用チェアに集約されています。



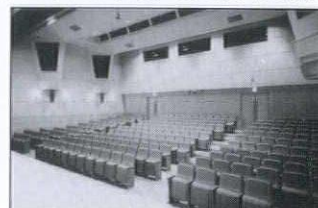
中ホール客席



オカムラは設計者のコンセプトを基に、ホール用チェアの実施デザインから製作・施工までのプロジェクトに参画。ホール全体で1050席のチェアを納入しました。

和洋二つの音楽空間を構成するために、これまで培ってきた木工技術を駆使し、スタンダードタイプはもとより、ハイバック席、斜め席、移動席、特殊構造の足掛け席など、ホールの機能やデザインに合わせた製品づくりを行いました。

オカムラは、これら紀尾井ホールでの実績をさらに磨き上げ、次代のニーズにお応えした様々なファニチュアをご提案していきます。



小ホール客席

紀尾井ホール ホール用椅子デザイン ■建築主/新日本製鐵株式会社 ■設計者/新日鐵・山下設計共同設計室

よい品は結局おトクです

オカムラ

株式会社 岡村製作所 市場開発部 設計事務所担当 〒107 東京都港区赤坂6-1-20 国際新赤坂ビル西館 TEL.03-5561-4046

お客様サービスセンター フリーダイヤル ☎ 0120-81-9060 月曜～金曜(祝祭日を除く)AM9:00～PM6:00



ノルマンディ生まれのド・ロ神父が築いた石壁
粘板岩を主体に、奥まって開く窓から
その厚さの程が知れる
1893

ブリコラージュ3題

大野教会堂
聖福寺・瓦塀
日本26聖人殉教記念施設

長崎に本社のある企業から「長崎の壁」の撮影依頼を受けた。外壁の造形を通して、改めて当地の文化を見直そうとする企画である。専門家はもとより、様々な時代や社会が織りなしてきた外壁は、一般の人たちにとっても、親しみの持ち易い建築の切り口だろう。すぐに思い浮かんだものは、今井兼次の26聖人施設であった。資料館や聖堂の双塔を彩る、陶片モザイクの壁である。西彼杵半島の小さな集落に建つ大野教会堂も、訪ねてみたい。なにしろ、大浦天主堂からひとり赴任してきた神父が、周辺にころがる石を集めては、黙々と築いた壁だという。

5日をかけて、選んだ20あまりの建築を撮影した。奇しくもそのうちの3つが、手近な素材を駆使して築かれた壁であった。26聖人施設と大野教会堂そして聖福寺の瓦塀である。3者は、寡黙かと思えばごちゃごちゃ、あるいは戦略的表現と、それぞれに異なる仕上がりを見せてはいるが、いずれも、かつてレヴィ=ストロースが指摘したブリコラージュを思い出させる造形という点で、共通していた。

聖福寺の境内奥にひっそりと立つ瓦塀は、明治初年の作と伝えられるだけで、誰がどのようなつもりで造ったのかなど、詳細は知られてはいない。平瓦を積んだ塀には、時々お目にかかる。しかしここは立派な鬼瓦や波紋の装飾瓦、果てはコンニャク煉瓦までほんぽん埋め込んである。そんないわくあり気のもの、単なる素材として扱ったはずはない。寺などの塀で、上塗りをして見えないものの、結構、壊れた本堂の瓦を詰め物に使った例は多いのではあるまいか。ル・コルビュジエが、ロンシャンの壁にもとの教会堂の石を埋め込んだように。その上塗りをし忘れた、あるいは取れてしまったために、塀はブリコラージュになった。

アートの跡を少しは留める瓦塀に対して、大野教会堂のそれは、ただひたすら堅牢な石壁を築いた、そんな印象が胸を打つ。これこそ上塗りをしたくとも出来なかった質素な壁で、ロマネスクの教会堂の構造内部もかくありなんと思わせる。石ころもあれば、板石や石塊もある。畑を拓いた際に出た、正真正銘の土着の石である。

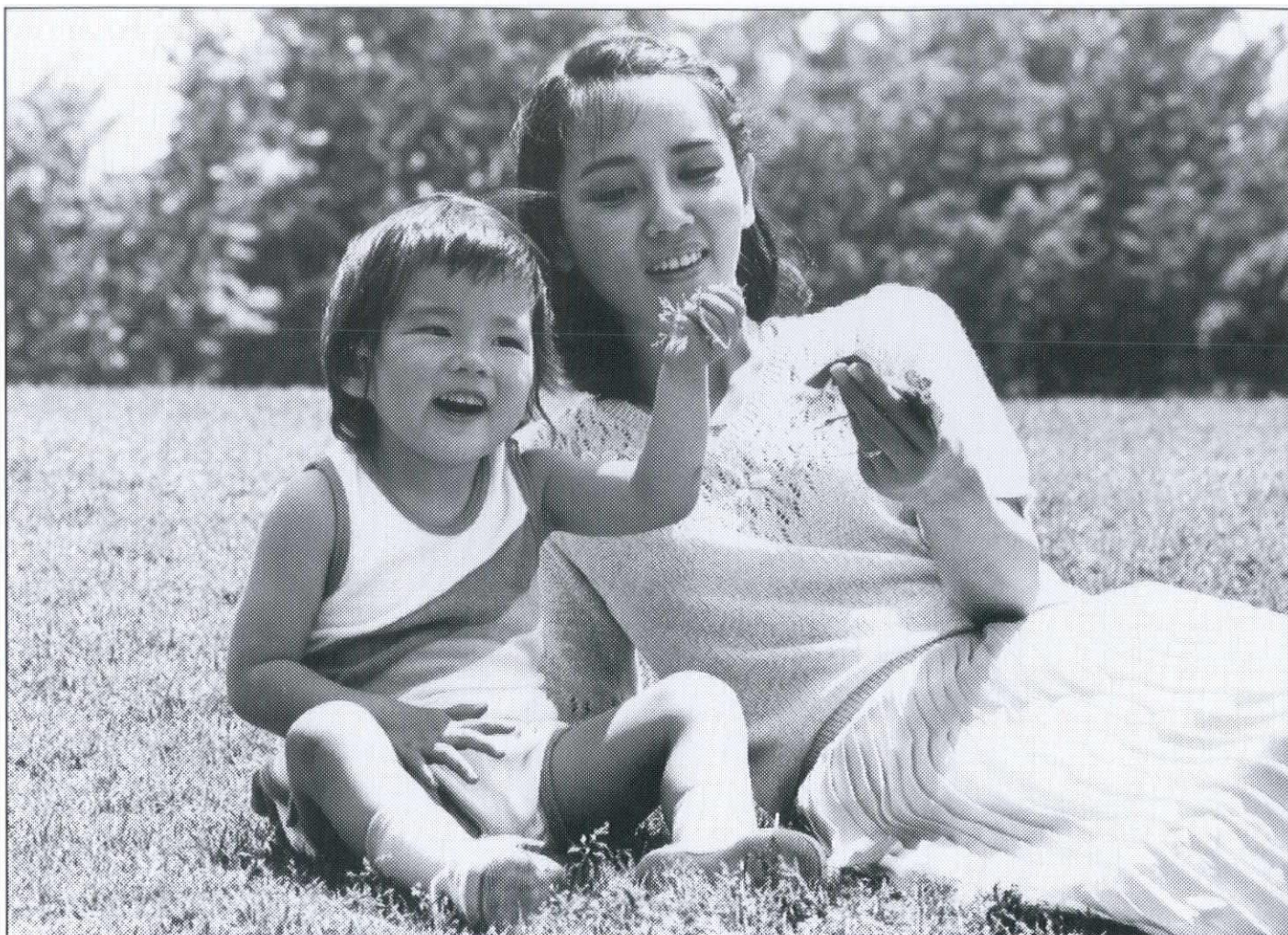
私には、今井兼次の、陶片を素材に殉教者に捧げる清らかなる物語を謳いあげた外壁が、それらの結論のように見え始めた。今井が、聖福寺や大野教会堂を見知っていたかどうかはわからない。もちろん、瓦塀に造形のヒントを得たというつもりもない。それを指摘する前に、ガウディのいることも確かだ。

ただ、およそ建築に対して造形として臨むならば、絵画や彫刻と同質の、手による仕事の跡が残ることだろう。そこでは遊び心が生じ、ブリコラージュ的な表現手段が介在してくる余地も生まれる。そして聖福寺の瓦塀は、その手法が何もヨーロッパのアートひとつに限ったものでないことを示し、深いところで今井の表現と結びつくように思われるのだ。不思議にも、ガウディは陶片モザイクによって、何がしかの物語を紡ぎ出したことはない。今井兼次はそれを実行した。彼の独自性は、そのあたりに潜んでいるに違いない。

華麗な襷帳のような、資料館の外壁
原形を留めた皿や猪口
ブリコラージュでは、元々の素材には手を加えず
その集積で列物を仕立て上げることが肝要
1962~63

大雄宝殿脇の石段に沿って立つ、聖福寺の瓦塀
埋め込まれた鬼瓦の数はひとつやふたつではなく
瓦のカatalogを見ているようでもある
瓦葺きの寄道か？
1868頃





心のかよう広告づくり

企業と生活者の究極の利益は、正しい

情報の伝達と、思いやりのある

心のかよい合いから生まれます。

博報堂の願いも、正しい情報を伝え、

心のかよい合う広告をつくることです。

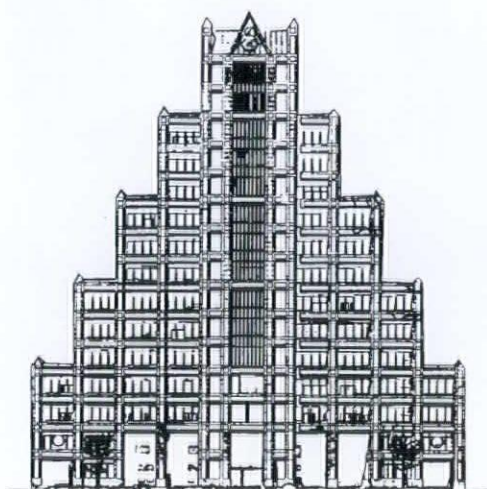
マーケティング・エンジニアリング企業を目指す

博報堂

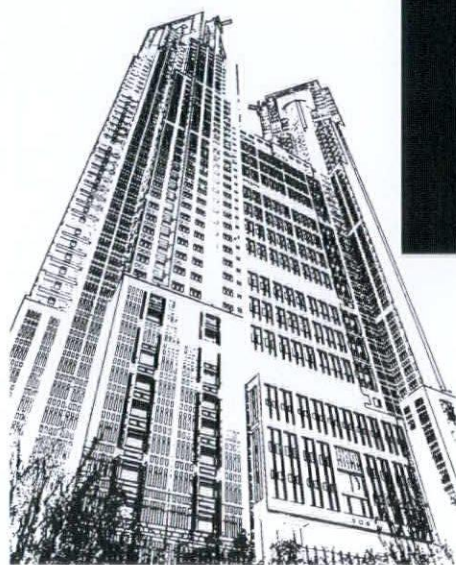
広告相談室(03)3240-7777/電話番号案内(03)3240-8111

東京・大阪・名古屋・福岡・札幌・仙台・新潟・静岡・広島
高松・那覇・金沢・京都・鹿児島・松山・岡山・神戸・富山

TOSTEM

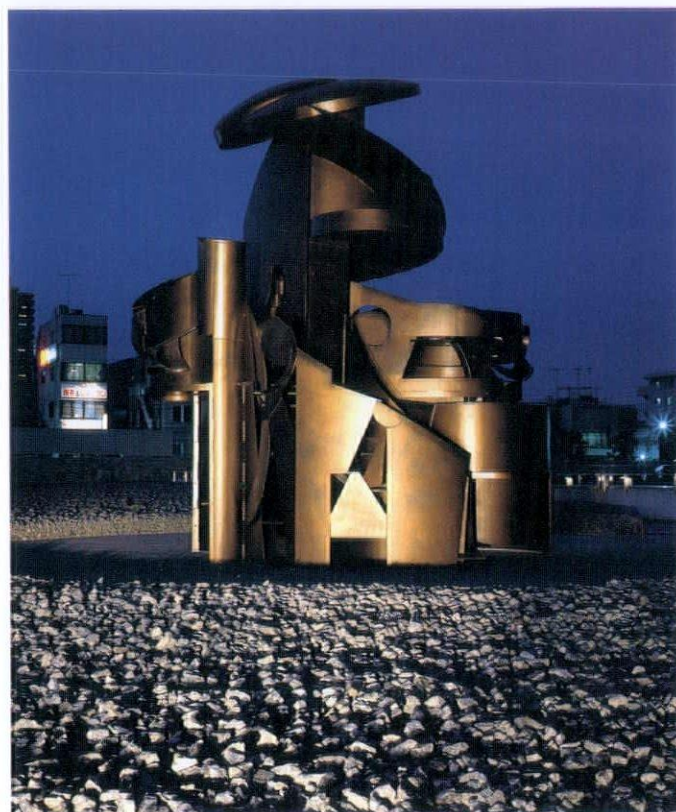


時代を映す
ビルには、
私たちの技術が
映っている。



トステム株式会社

アンソニー・カロ展より



会場構成：安藤忠雄 撮影：安齋重男

アンソニー・カロ展
主催：東京都現代美術館
会期：1995年6月30日(金)―9月3日(日)



拮抗と鼓舞： インスタレーションの挑戦

「瞬間の気合で引き裂かれた鋭い切り口は、内部に深い奥行を秘め、ある種残忍な冷徹さを匂わせながらも、そこには人間の感情を越えたえもいわれぬ美しさがある」（『安藤忠雄の都市彷徨』より）。ルチオ・フォンタナ絵画についてシャープな感性で印象を記している安藤は、実に現代美術に造詣の深い建築家である。

その彼が東京都現代美術館で開催されているアンソニー・カロ展の会場構成に挑んでい

る。カロはイギリスを代表する彫刻家として世界的に活躍しているスチールを素材にした抽象彫刻家だ。会場は、地上2層、地下1層の3フロアー（約4000㎡）と屋外を合わせた広大な空間。1950年代のブロンズによる人体作品、60年代の鉄にグリーンやイエローのカラフルな彩色を施した鉄の抽象、70年代の錆びた鉄板を用いた作品、そして80年代から90年代のボリュームが増し巨大化した建築的な彫刻、というように、100点を超える作品が年代順に並べられカロの仕事の軌跡をたどる展示になっている。それだけならごく普通の展示だが、安藤ならではの仕掛けがなされている。

3階の展示室には7.5度の傾きをもつ壁で空間を仕切り、1階では床にベニヤを敷き、その上にパテを塗り全体を白い空間に作り上げ

ている。しかし、圧巻なのは、地下1階にある3層吹き抜けのアトリウムでのインスタレーションだ。床一面に碎石が広がり、無作為に砕かれた碎石は、数cmの低い部分から7.5度の傾斜で厚みを増し、ガラスを突き抜け屋外へと流れる。高い部分は1.2mにもなる。

近くに寄ると碎石の粗野な力強さが観る者に強く迫ってくる。ところが、粗い石も遠くに目を移して見ると、一個のオブジェにさえ見えてくるのである。そこには「ナイト・ムーブメンツ」と題された錆びた銅の有機的形態の彫刻が群がり、碎石のオブジェと拮抗しつつも、存在感あるものに引き立てられている。いや、それ以上にインスタレーション自体を作品としてみることができるし、鑑賞に堪えられるアートとしての力を秘めているの



だ。

美術家が1980年代からギャラリーで盛んに発表しているインスタレーション。日本語でいえば取り付けという意味で、作品をある空間に置くことによって、空間そのものもアートにしてしまう表現である。その意味でも安藤のインスタレーションは単なる彫刻の引き立て役ではなく、作品として自立しているといえるだろう。

安藤は「おとなしく飾るというのではなく、インスタレーションが挑発するように意図した。それにカロも乗ってきた」という。そこには互いの信頼関係に基づいた、アーティストとして、よい意味でのライバル意識がある。カロも「安藤忠雄の建築の質の高さは、彼の設計した家の写真を初めて目にしたときから

はっきりと認識していた。そこには、深い静けさと落ち着きがある。この特質こそ現代建築の最良のものにすら欠けているものなのだ。彼の作品をさらに知り、いかに彼の建築が創意工夫に富んでいるかが分かった」と当美術館の齊藤泰嘉学芸員のインタビューで語っている。

ふたりは1990年に大阪でのカロ展の時初めて会い、カロは安藤の建築を目の当たりにして、大きな刺激を受ける。以来ふたりの交際は続き、安藤は本展のためカロ自身とも1年半前から打ち合わせをした。このインスタレーションも作品搬入と同時進行で行われ、約1カ月を費やしたという。

かつて安藤は草月美術館での陶芸展「ルーシー・リー展」のインスタレーションで、

水を張った展示装置をつくり驚かせたが、相変わらず安藤の仕事は冴え渡っている。

これまでの彫刻展といえば、台座や床にただ置いたものが主流。その意味でも安藤のインスタレーションは今後の彫刻展の一つの方向を示したといえる。彫刻展の新しい流れをつくる意味でも公の美術館がこのような凝った展示方法を試みることは高く評価されている。しかし、もっと欲をいうなら、例えば直島コンテンポラリーアートミュージアムのような、安藤の設計した光や影の仕掛けのあるストイックな建物でカロ展を観ることができたならさらに見応えがあったに違いない。

● 渋谷和彦／美術ジャーナリスト



うれしい。



旭硝子は、現在、ガラス・化学技術を中心とする
複合的多角化企業をめざし、
明日のお役に立つ製品をいろいろと開発しています。
誰もがうれしいと感じるものをつくる「価値創造企業」へ。
わたしたちは、技術革新と品質向上に挑戦しています。

旭硝子

旭硝子株式会社 〒100 東京都千代田区丸の内2-1-2 TEL.03(3218)5258



窓は、ビルを、グラマラスに演出する。

（都市に美しく、人に美しく。）

都市の景観を一変させてしまうほど、存在感に満ちた高層ビル。それだけにビルには、街に映える、人を引きつける、魅力的なデザインを形づくる責任があると、いえるのではないのでしょうか。不二サッシは、ビルと窓の関わりの中で、ビルの外壁を装うカーテンウォールの進化に努力を傾けてきました。その一つの成果が、天然石、Gセラミック、アルミパネルなど、さまざまな素材を組み合わせ、多彩なディテール表現をビル建築に可能にした、複合カーテンウォール「SR-VIEW」工法の創造です。かつて表現しきれなかった設計者の豊かなイマジネーションによるグラマラスなビルも、不二サッシによるデザインフィールドの拡大によって実現させることができるのです。訪れる人が心ときめく美しいビルを、その街にふさわしい魅力あふれるビルを、不二サッシは提案し続けていきます。



窓から夢をひろげていきます

不二サッシ

本社 〒211 川崎市中原区中丸子135 TEL.044-422-1111
東京本部 〒150 東京都渋谷区桜丘町9-8 TEL.03-5458-7024

環境芸術大賞 '95



コンペ対象地区：島根県出雲市の神西湖東岸地区

今年で第8回目を迎えた環境芸術大賞'95の入選作品が決定した。今回の対象地は島根県出雲市の神西湖東岸地区。

1986年春に彫刻の森美術館に建築家、彫刻家が集まって開かれたシンポジウム「建築と彫刻の出会い」の結果から生まれた環境芸術大賞は、1988年に開始され、今年で第8回目。その趣旨は「日本が21世紀に世界に誇れるまちづくりを促し、環境芸術の一層の発展に寄与しようというもので、地方自治体や各団体が計画している再開発等の構想地域を対象に、環境芸術計画・アイデアを一般から募集し、その中の優れた作品を表彰する」というもの。

第1回 東京都立川市立川駅北口地区

第2回 東京都江戸川区新川とその周辺地域

第3回 兵庫県姫路市飾磨地区

第4回 静岡県三島市大場川流域

第5回 水戸千波公園・西の谷地区

第6回 新潟市西海岸公園地区

第7回 大阪府・りんくうタウンシンボル

緑地北ゾーン

が、これまでの対象地区として募集された。三島市大場川地区では大賞受賞の清水泰博氏設計の橋が完成し、新潟市西海岸地区でも大賞受賞のグリーンシグマの平田敏彦氏により施設の設計が進んでいる。

今年の環境芸術大賞は、島根県出雲市の神西湖東岸約30haと、これに隣接する台地部分約20ha、計50haという広い区域が対象地となった。

“住みよさランキング” 全国一位を誇る出雲市は、豊かな自然が残るとともに都市環境も充実している。その中で今回の対象地である神西湖は周囲約5km、出雲市の西端に位置する気水湖で、ヤマトシジミをはじめとする50種近くの水産資源に恵まれ、



賞金	環境芸術大賞	500万円 (1点)
	優秀賞	100万円 (1点)
	佳作	50万円 (3点)

多くの水鳥が飛来する風光明媚な風景が残っている。

そうした豊かな自然資源を保全しながら、地域の活性化に役立つような開発計画はどうあるべきか。さらに自然をそのまま保持するのではなく、人間がアクセスし、レクリエーションや野外教育活動などを楽しみながら、より豊かな自然を育ててゆく方策を考えることが今回の課題。

応募登録数1,201件、応募作品数136点。特性の異なる2つの地区が組み合わせられた50haに及ぶ対象地に対し、総合的な計画

力が要求されるむずかしい条件にも係わらず、スケールの大きな力作が多数寄せられ、白熱した審査が行なわれた。

第6回新潟での大賞'93以来、エコロジーとしての環境を意識した作品が多く見られるようになった。今回も対象地と課題の関係において、エコロジーとエンバイロメント、2つの「環境」を芸術を通して融合させようとするさまざまな提案が数多く寄せられるとともに、これに対する審査員の関心も高く、21世紀に誇れるまちづくりの方向性を予感させる審査会となった。

■主 催 彫刻の森美術館／美ヶ原高原美術館／環境芸術総合研究所／上野の森美術館／彫刻の森

■後 援 建設省／自治省／環境庁／国土庁／文化庁／島根県／出雲市／湖陵町／出雲地区広域市町村圏事務組合／山陰中央テレビ放送／山陰中央新報社／フジサンケイグループ

審査委員会 審査委員長 植田新也

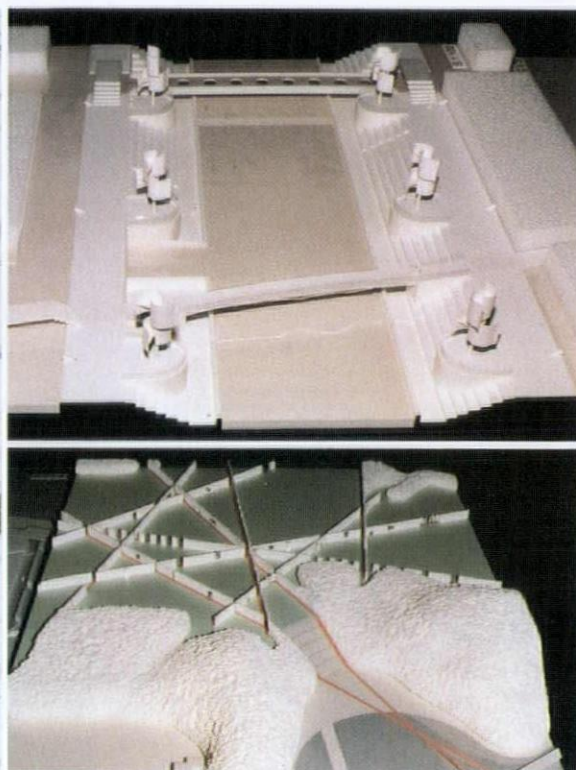
審査委員 雨宮敬子、安藤忠雄、新宮 晋、多久 博、建畠寛造、日野耕之祐、養原 敬、六角鬼丈

コーディネーター 馬場瑠造

【五十音順 敬称略】

環境芸術大賞

「植物都市」 清水泰博 37歳 SESTA DESIGN (京都府)



作品説明

湖面と水田のレベル差を生かし、現況の水田を葦原として風力ポンプにより湖水を葦原に汲み上げ、その循環により水を浄化するとともに、2つの水面が立体的な親水公園を形成する。また丘陵部分には、周辺の山々への指向性を持った築地松によって区画されたアート・パークを計画している。

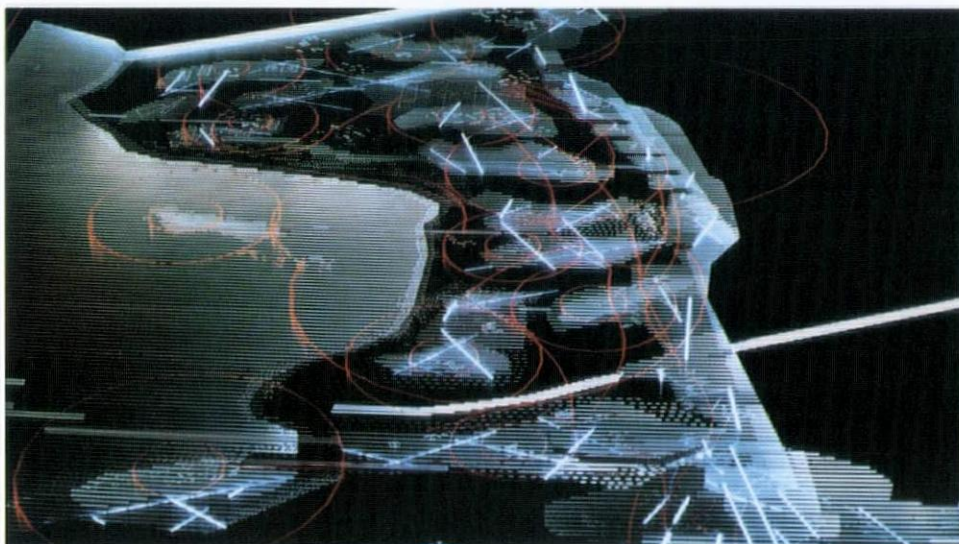
講評

地域の歴史風土を調べつくし、この土地ならではのコンテキストを見事に読み込んだ計画である点は何よりも評価された。葦原と築地松というこの地方の風景を特徴づける2つの要素を、未来にむけての新しい環境づくりの提案の中に見事に生かしている。

優秀賞

「浮き島のある風景… 自然とテクノロジーの共生」

菱谷和子 32歳 Foreign Office Architects (ロンドン) ・二宮 博 31歳 AAスクール (ロンドン)



作品説明

対象地に対し具体的な計画を行うのではなく、時空間に係わるプログラミングの手法を駆使することで、この敷地と環境、そこに導入するアートやイベントなどに係わるあらゆるハード、ソフトの要素をマッピングし、その重なり合いの中から、将来のあるべき姿を浮かび上がらそうとする提案。

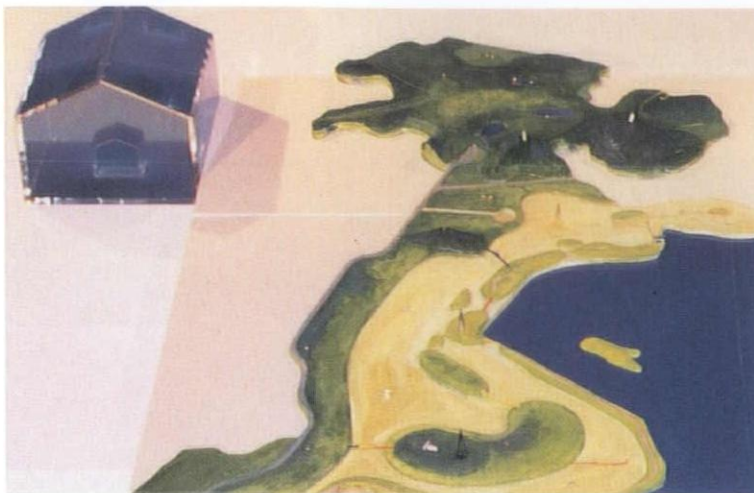
講評

コンピュータ時代のテクノロジーを生かすことによって、より自然らしい自然を取り戻すことへの可能性を示したことが高く評価された。反面、具体的な将来像についての提示がなく「作品」としての評価がむずかしい点で惜しくも優秀賞となった。

佳作

「神西あしはらのなかつくに公園」

PHスタジオ（東京都）



作品説明

対象地に新しい提案をするというよりも、環境の基礎調査を丹念に行って、そのあるべき姿を再現しようとする提案。水田をもとの湿原に戻し、造成された丘陵を植林によって照葉樹林として再生しながら、自然との共生の中で施設を整備していくプラン。

講評

対象地だけでなく、湖に流れ込む河川流域にまで目を広げ、現在あるものをどうしてゆくべきなのか、という真面目な手法への新しい視点が評価された。反面、計画のコンセプトと具体的なプランとの間に整合性を欠く部分がある点が惜しまれた。

「出雲 神門水海(かんとのみずうみ)公園」

向山 潔 37歳 アートボイス（大阪府） + 辻 一樹 30歳



作品説明

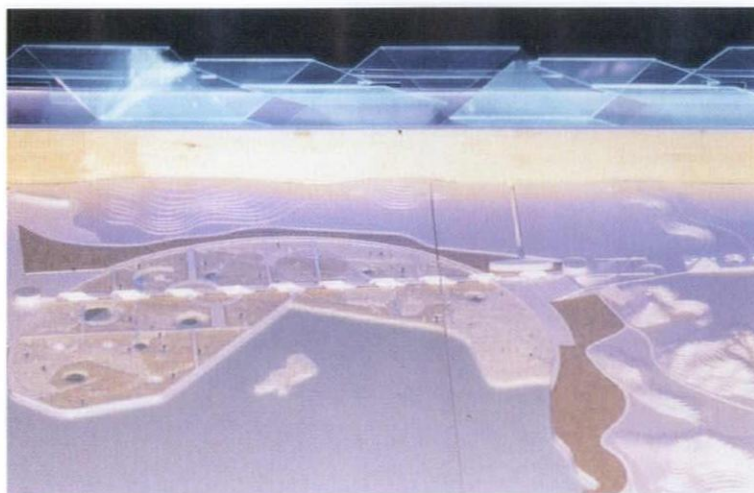
平地部分だけでなく、丘陵部分までを掘り込んで、現況の神西湖と一体となった大規模なウェットランドを計画。また重要地点には三種の神器を模した施設を、ランドスケープのポイントとして彫刻的にデザインし配置している。

講評

豊かな水辺をつくることによって親水性を高め、人と自然との新たなコンテクストを築こうとした点が評価された。その反面、水辺を創り出すための大規模な造成が逆に自然との関係を、計画本来のコンセプトから逸脱させてしまう点が指摘された。

「葎蘆葦の時(KAROI NO TOKI) ～水質改善芸術公園～」

和田 剛 23歳 日本大学大学院（東京都）



作品説明

対象地の平地部分をアシ、ヨシ、ハマオギの公園として、湖に流入する水を浄化するとともに、浄化の進行につれてこれらの植物が後退し公園が湖に戻ってゆくとする計画。丘陵地区には、環境造形としての役割も持った、DNAの螺旋をイメージしてデザインされた複合サービス施設が配置される。

講評

水質浄化をテーマとした公園の提案とともに、公園内に配置された木道の造形性が評価された。しかし、公園内に計画された鏡による造型や設置される彫刻作品の取り扱いに対して疑問点が投げかけられた。

'88

受賞作品：「プリズム・ガレリア」

箕原 正・箕原 真

対象地区：東京都立川市JR立川駅北口の一画

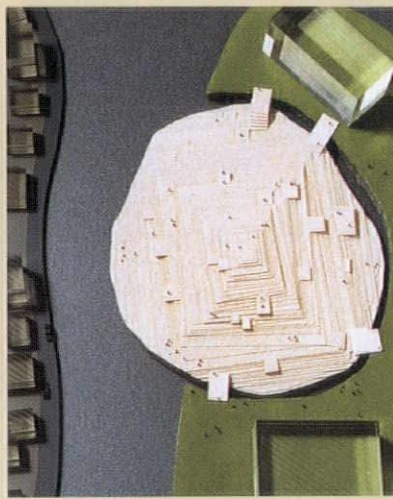


'89

受賞作品：「水景」

佐々木美貴

対象地区：東京都江戸川区新川とその周辺

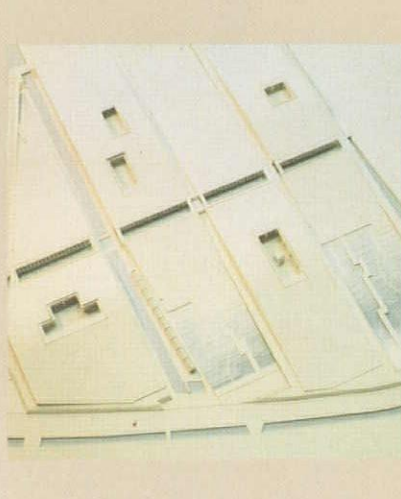


'90

受賞作品：「差異の庭園」

箕原 正・箕原 真

対象地区：兵庫県姫路市飾磨地区



'91

受賞作品：「水の道」 清水泰博・SESTA DESIGN

対象地区：静岡県三島市大場川周辺



'92

受賞作品：「ダムのある美術庭園計画」 長坂 大

対象地区：茨城県水戸市天王町千波公園（西の谷）地区



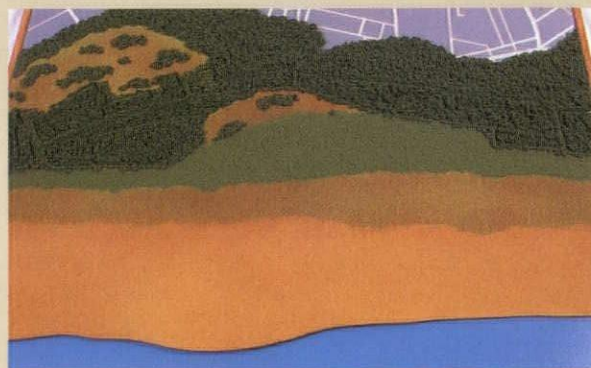
'93

受賞作品：「水都新潟の生き物たちが共生する砂丘列海岸林の再生」

平田敏彦

協力：相楽 治他5名

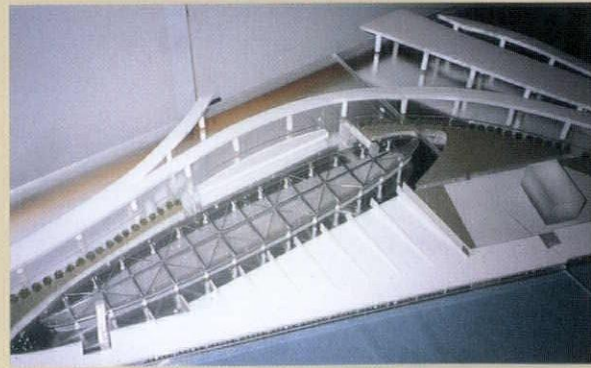
対象地区：新潟県新潟市西海岸公園地区



'94

受賞作品：「水の客船のある芸術広場」 葛西秀樹

対象地区：大阪府・りんくうタウンシンボル緑地北ゾーン



人に優しい。

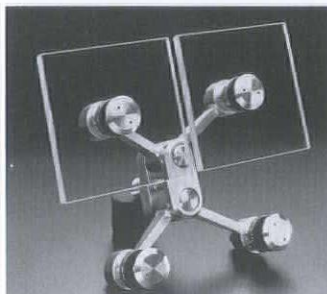


聖路加ガーデン
設計/ 株式会社 日建設計
（株式会社 東急設計コンサルタント（ホテル・レジデンスの
内装・設備）
施工/ 株式会社 鹿島建設、株式会社 大成建設、株式会社 大林組、株式会社 前田建設工業

- ガラスを支持する構造体は、張結ロッドによるテンション構造です。
- ロッドにはプレテンションをいれないため施工が容易です。
- 風圧に対しては、4点のポイントグリップと水平のトラスで対応。
- それぞれのガラスは、縦トラスのサスペンションロッドによって独立的に吊り上げられているため、ガラスの取付け・取替えが簡単です。
- 耐風圧性能（+200kgf/m²、-350kgf/m²）、耐震性能（層間変位1/150）および水密性能を実験により確認しております。
- 構造解析については、すべてコンピュータによる有限要素法を用い安定性を確認しております。

QUATTRO POINT DPG工法 SYSTEM

クワトロノード



セントラル硝子のDPG工法〈クワトロポイントシステム〉は、テンション構造体にささえられた4点支持強化ガラスカーテンウォール工法で、ガラスの特性を最大限に生かし、しかも安全性を確保した最新の工法です。

セントラル硝子株式会社

本社 〒101 東京都千代田区神田錦町3-7-1（興和一橋ビル）

札幌支店 ☎(011) 241-4251 仙台支店 ☎(022) 227-9191 東京支店 ☎(03) 3259-7430

名古屋支店 ☎(052) 582-0376 大阪支店 ☎(06) 315-1525 広島支店 ☎(082) 228-0531 福岡支店 ☎(092) 721-7555

《新日軽が考えるコストプランニング》：パネルユニット構造

LFSP

軽量アルミの完全ユニット工法、
工期短縮・積載重量軽減で建設費をコストダウン。
大型パネルに、抜群のフラットネス性と
加工しやすく高度なデザイン性能を実現。
新日軽独自開発のアルミハニカムパネル「レフサ」。

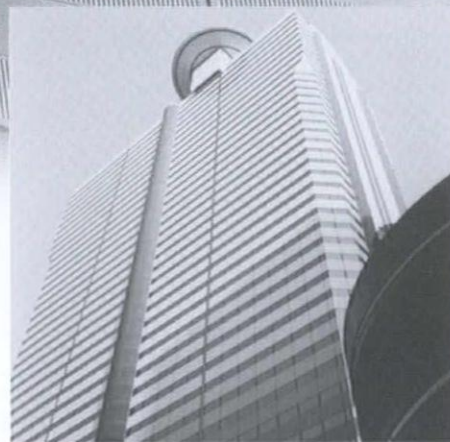
新日軽のアルミハニカムパネル「レフサ」は、
航空機や宇宙ロケットなどの翼や胴体部分の構造材に使われてきたアルミハニカムを、
ビルの外壁用パネルとして応用したものです。

パネル重量はPC版の1/5以下、躯体設計時の積載荷重が大幅に軽減され、
かつパネル構法による取付けのため、工期の短縮と著しい建設費の
トータル・コストダウンに貢献します。パネル生産は、アルミ板をハニカムコアに
高圧着させる技術を駆使、工場内の安定した品質管理の下、
従来困難とされた大型パネルのヒズミさえも解決し、
抜群のフラットネス（平滑度）・高比強度（強度÷重量）・易加工性（絞り成形）を実現。
耐風圧・水密・耐震性能にも卓越し、中低層はもちろん高層ビルに施工できます。
また、アルミニウムの加工性の良さから様々な絞り成形を施した
デザインバリエーションを提供でき、フッ素樹脂焼付塗装などの
高性能塗装の表面処理で優れた耐候性も得られます。
アルミハニカムパネル「レフサ」は、都市の外壁を軽く、強く、美しく彩ります。

●耐風圧性能 Type-1: 240kgf/m²、Type-2: 500kgf/m² ●水密性能 嵌め込み窓: 100kgf/m²、その他: 75kgf/m²
●Type-1（中低層ビル用）：耐風圧性能は、建築基準法施工令第87条により算出しています。
●Type-2（高層ビル用）：耐風圧性能は、建築省告示第109条により算出しています。
○写真の新宿アイランドタワーは、オーダーメイドで設計されています。○右の断面図は、セミオーダーの一例です。

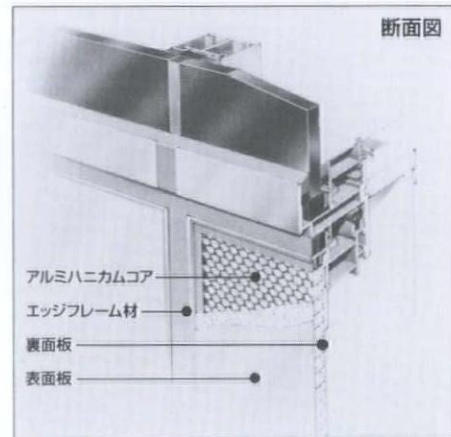
新日軽

新日軽株式会社 本社／東京都江東区木場2-7-23 〒135 ●レフサに関するお問い合わせ先／ビル建材第一事業本部 ☎03(3820)2211



新宿アイランドタワー

●設計：住宅・都市整備公団、㈱日本設計 ●施工：大成建設㈱、
三井建設㈱、鹿島建設㈱、㈱竹中工務店、㈱高経組 共同企業体



『ビルディング・エンベロプ』

——建物の外装のデザインと技術——

アラン・J.ブルックス+クリス・グレッグ=共著

B5判 148頁

鹿島出版会 4635円

建築の外装は、内部空間と外部空間を生み出す最も基本的な装置である。ここでは33の現代建築の事例を挙げ、屋根と外壁について豊富な図面と写真をもとに技術的な解説をしながら、外装に秘められた、数々のハイテクを明らかにしてゆく。



『肌寒き島国——「近代日本の夢」を歩く』

松山巖=著

A5判 397頁

朝日新聞社 2500円

日本各地の、地場産業が以前盛んであった現場を巡って、捨て去られようとしている、近代日本を支えていた「根」のところを見ようという試みの紀行文。現地の風景、現地の人々と直接対面し、感じたものを言葉にし、写真も数点あり、その場の今の雰囲気伝える。最終章は阪神大震災後の神戸。



『戦時下日本の建築家——アート・キュッチュ・ジャパネスク』

井上章一=著

四六判 334頁

朝日新聞社 1600円

本書は、『アート・キュッチュ・ジャパネスク——大東亜のポストモダン』（青土社、1987年）に少し手を加え、改題されて出版されたもの。日本の1930-40年代のファシズム体制における都市建築を分析し、そのファッション性を検討する。



『日本の古代の都城と建築』

澤村仁=著

B5判 330頁

中央公論美術出版 18540円

大陸様式が確立してできた古代建築は、日本建築の基本であり続けて来た。これまで寺院建築の研究が主だった古代建築史の分野で、都城、宮室、国衙などの有様が発掘のプロによって明かされる。

特に古代都市平城京、藤原京、難波京などの造営にまでまつわる史実は興味深い。



『ユカ坐・イス坐』

——起居様式にみる日本住宅のインテリア史——

沢田知子=著

小B6判 278頁

住まいの図書館出版局 2400円

起居様式を巡って、大正、昭和初期、戦後復興期、高度成長期、低成長期と区切り、およそ80年の流れをみる。その時代時代の社会情勢と、起居様式、建築様式の関係性が面白い。日本独特の和洋混交スタイルの形成過程がうかがえる。



『庭園の詩学』

C.W.ムーア、W.J.ミッチェル、W.ターンプルJr.=著

有岡孝=訳

A5判 302頁

鹿島出版会 4841円

本書は庭園という空間の領有の形式と人間の追想の関連を分析している。

著者たちは、場所の精神を訪ね、庭園を見つめ直し、自然と人工性に関わる様々な問題を探求してゆく。



自然を征服しようとは思いません・自然と調和させるだけです

空気調和の
三建設備工業株式会社

本社 東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目35番8号

☎(03)3667-3431(大代)

支店 北海道・東北・横浜・名古屋・大阪・中国・九州

『三井の土地と建築』

——R・W・アーウィンの事績にもふれて、

石田繁之介＝著

A5判 232頁

日刊建設通信新聞社 2500円



評者＝

坂本勝比古

三井家をめぐる華麗な建築物語

この本はその名の通り三井家が近代及び現代において、何らかの係わりをもってきた土地と建築に関する秘められた史実の興味深い探究の書である。

またこの書は単に独立した一冊の単行本として捉えるのではなく、近年相次いで刊行されてきた著者の一連の研究成果として理解されるべき性質のものとも言えよう。

石田氏が最近精力的に上梓してきた著述は、筆者の知る限りにおいて「三井本館と建築生産の近代化」(昭和63年5月刊)があり、さらに「三井本館」(平成元年6月刊)、「三井の建築家——三井合名をめぐって」(平成4年5月刊)、「三井の集会所——有楽町から札幌まで」(平成5年7月刊)があり、今回の書と合わせて5冊を見ることができる。

これらの著述を通して共通して見られる特徴は、著者の徹底した文献を通しての史実の解明への姿勢である。またそこに著者の三井家に対する思い入れの深さを読みとることができる。

この書は全十章からなり、第一章は数年前に完成した三井不動産の手掛けた大川端計画、東京のウォーターフロント開発の先駆けと言われた隅田川河口、石川島、佃島の歴史と三井合名会社の係わりについて触れている。

この計画は東京のウォーターフロント開発の成功例と言われるが、民間ディベロッパーの立場で開発地の歴史を捉えようとする姿勢は大切であろうと考える。

第二章では日本橋室町に建つ三井本館の建設にまつわる秘話である。この建物はフランス古典主義の影響を強く受けたアメリカ・ボザール派の流れを汲む壮麗な大建築であり、日本の近代を代表する建築のひとつである。しかしそれはアメリカ人建築家の手によって設計され、アメリカの施工会社が直接手掛けた建物として当時日本の建築界から多くの批

判を浴びたいきさつがあった。この点について三井合名の総帥であった團琢磨は、まだ日本の建築界の後進性を認め、その発展のために敢えてアメリカの最高レベルの建築と最先端の技術の導入を図ったものとし、むしろそれによって日本の建築界の振興を意図したものとするのが三井側の言い分であると取れる。

この章ではこの問題ではなく、この銀行の設計図面に注目して本来膨大な数であるべき原図類が失われたとし、僅かに残されている設計原図22枚について解説されている。なおこの原図は平成元年三井本館落成60周年を記念して刊行された「三井本館」(三井不動産刊)に収録されている。

このほか第四章では「京都別邸から西麻布三井家本邸へ」と題して、三井の総領家と言われる北家が京都油小路に建てた別邸の一部奥書院について述べている。この建物は戦後の昭和25年頃、東京西麻布へ移されるという数奇な運命を辿った建物であり、その変遷をこと細かく文献資料を分析しながら興味深く考察していることである。この建物は、今日まで殆ど知られていなかった、いわばヴェールの彼方の話であったが、最近進められている近代和風建築調査の対象となり、また東京都の進める小金井市の東京たてもの園(東京都博物館分館)に移築保存されることになったという。

このようにこの書は日本の近代史の中で表舞台には現れなかったことでありながら、しかし歴史的には注目に値するべきごとの存在を、著者の明快な論旨によって次々と明らかにしていることは興味深い。

●さかもと・かつひこ／神戸芸術工科大学教授

Metropolitan Library

9月の評者＝

難波和彦

自己のデザインの根拠を求めるのは、建築家の自然な欲求である。これまでデザインの根拠は、プログラム、テクノロジー、美学、経済、時代精神など、さまざまなものに求められてきたが、あらゆる時代を通じて究極的な根拠として追求されたのは「建築の原型＝原始の小屋」であった。

『アダムの家』は、古代から現代にいたる原始の小屋の系譜を、主にヨーロッパを中心に探ったものである。本誌7月号でも土居義岳さんが書評にとり挙げているが、ぼくは土居さんとは違った感想をもった。リクワートは原始の小屋の系譜を、近代から過去へと時系列を逆に遡り、最終的には、世界中に共通して見られる宗教的な建設儀礼や未開人の儀礼にまで求めている。土居さんの書評によれば、こうした原始の小屋への幅広い関心の根底に、再生への欲求という人類の普遍的希望がある、というのがリクワ

ートの結論である。たしかにリクワートは、本書の最後でそう主張している。しかし、この結論については、ぼくにはにはわかに信じていない。原始の小屋への希求が自らのアイデンティティの確認を目指すものである以上、その本来の意義は、それぞれの特異性・固有性にある。原始の小屋の普遍性＝共通性を主張することは、結果としては、原始の小屋の存在意義を解体することにつながる。逆にいえば、原始の小屋が意味をもつのは、そのような普遍性によって捉えられない「外部」としてである。リクワートが実際にそのように意図したかどうかはともかく、ぼくにはこれが本書の隠された真の意図のように思える。

『伊勢神宮』は1993年に式年造替された新しい神宮の写真集である。そこに収められた磯崎新の解説「イセ——始源のもどき」を読むと、『アダムの家』

『テクノスケープ——都市基盤の技術とデザイン』

片木篤=著

四六判 248頁

鹿島出版会 2987円



評者=

窪田陽一

景観の位相はいかに変換されるか

住宅群に包囲された変電所を見かけことはないだろうか。なぜこんな所にこんなものがあるのか。よく見れば異様な風景であるのだが、常日頃は気にも留めなくなっているその姿は、こうなるはずでなかったとでもいうような幾ばくかの寂寥感も漂って見える。

言うまでもなくこのような施設が住宅地の中に後からつくられることはほとんどない。通常は先に変電所が建設され、後にその周囲が宅地化されるという順序を経る。丘の上に立つ送電塔の周囲の地形がごっそり削ぎ落とされ、コンクリートで固められた台座の上に送電塔が鎮座するという奇態な光景が出現したニュータウンもある。余裕の片鱗もない極限の景観と言えるだろう。

隣あう物同士の偶然的な関係のなかに露呈された冷淡な無関係さ。「手術台の上でコウモリ傘とミシンが会った」というシュールレアリスムの古典的な台詞が思い浮かぶが、しかしそれとも違う何かが感じられる。そこにあるものが「都市の臓器」という表現がふさわしい文明社会の基盤施設だからだろうか。

変電所も送電塔も近代工業化社会にしか存在しない。このような物体が風景の中に忽然と現れた時、人はどのような精神的衝撃を受けるか。それは景観論がよく語るところだが、おおむねは好意的ではない。しかしそのような事態が蔓延すると人々の意識は溶融し始める。近代社会を支えるシステムの視覚的出現は、場所の意味と価値を転換し、景観認識の位相を否応なく変換する。

本書の表題である「テクノスケープ」は、本誌SDの1995年4月号の特集につけられた表題でもある。本書の内容は1993年から1年間本誌に連載された「インフラストラクチャーにみるモダンデザイン」を再構成したものである。著者が取って表題を変えた意図を深読みすれば、近代都市の基盤施設そのもののデ

ザイン論を通して、地球上の景観が劇的に変容したことの意味の根底を問い直すことにあるのだろう。産業革命後に出現した近代都市基盤施設がどのようなデザイン上の位相変換をもたらしたかを、豊富な事例を通じて、その背景と共に語ろうとしている。当時は周囲との景観の関係以前に、近代的基盤施設の出現という、それ自体の形姿的な様相に意識が向けられたことが読みとれる。

「テクノスケープ」特集号と本書を読み比べて見ると、当然の事ながら時代の違いが生む景観の質の懸隔に視線が向く。テクノスケープの主人公は、それ自体で完結した論理を持つ自己言及的な実体である。しかしそれが景観のなかで認識対象となると、その意味は横滑りを始める。かつて演劇論の領域でヴァルター・ベンヤミンが「異化効果」と呼んだ日常世界に対する「異議申し立て」、あるいはコンテンポラリー・アートにおけるインスタレーションにも共通する、「エンジニアリング・オブジェクト」あるいは「オブジェ・インジェニア」と呼ぶ方がふさわしい状況が発生する。横文彦が『見えがくれする都市』で「暴かれた奥」と言った事態とはちょうど逆の位相を刻む。

テクノスケープにおける形態やスケールの断絶は、近代文明を担う経済と技術の持つ力の論理を露呈している。修景技法を求めて境界部分における接点のデザインを模索することはもはや虚しい。20世紀文明の景観の可能性を求めてボリスとブシュカレフが著した『Man-made America』の次の段階を予見するためにも、前世紀までの状況を理解する上で本書は羅針盤となるだろう。

●くぼた・よういち/埼玉大学教授

との視点の違いがよく分かる。『アダムの家』でも伊勢神宮がとり挙げられているが、それは建築の原型の普遍性を実証する一例としてである。磯崎が伊勢神宮について書くにあたって『アダムの家』を参照したことは明らかである。ちなみに磯崎は『アダムの家』の序文を書き、リクワートの意図を近代建築の文脈に位置づけている。しかし、磯崎はあくまで伊勢神宮の歴史的な固有性にこだわっている。磯崎が提出した恐るべき仮説について、ここで詳しく述べる余裕はないので、原典をぜひ読んでいただきたい。『ぼくもGA Japan』14号所収のFAX批評で詳しく論じた。ひとつだけ指摘しておきたいのは、磯崎は伊勢神宮の式年造替を、日本の建築家が繰り返して立ち戻る「和様化」すなわち日本の固有性の根源的なモデルとして批判的に解釈しているが、モデルの起源を古代に遡って探っているために、もはやそ

れは解体不能な不動のモデルに思えてしまうという点である。これもリクワートと同じように、本人の意図とは逆の結果をもたらしている。

磯崎が『アダムの家』の序文で書いているように、起源の探求は近代の産物である。近代の起源の探求には、大きくふたつの型がある。ひとつは文化人類学のように、普遍的な理論によって起源を説明するものである。もうひとつは歴史学のように、固有の出来事として起源を探り出そうとするものである。リクワートは前者を、磯崎は後者の方法をとっている。レヴィ=ストロースは両者を統合しようとして、「構造と出来事」という二項対立的な概念を提案した。リクワートと磯崎の意図が、どちらも逆転した結果をもたらすのは、この対立概念が相補的な関係にあるために、互いに相手をあぶり出すからである。

『アダムの家——建築の原型とその展開』

ジョセフ・リクワート=著 黒石いずみ=訳

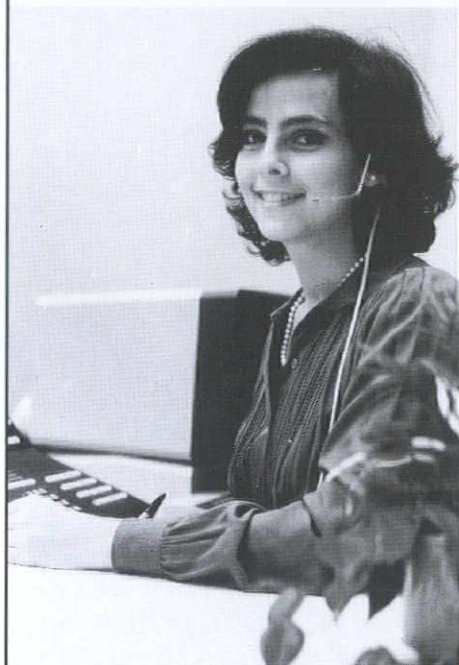
鹿島出版会 4120円

『伊勢神宮』

石元泰博=写真 磯崎新+稲垣栄三=解説

岩波書店 16000円

情報とエネルギーの ネットワークをつくる 日立電線



情報やエネルギーを伝える技術を中心に、人と人、人と世界を結ぶグローバルなネットワークをつくり、「私達の住む地球をまーな！つなぐ」。日立電線は、いま、快適で豊かなくらしの創造をめざして多彩な活動を展開しています。21世紀に向かって、ますます進展する情報化社会——たえず革新を続ける情報・通信、エレクトロニクス、エネルギーの世界でひとつの大きな役割を担っているもの——それは、ハイテク技術を駆使した日立電線の製品です。

日立電線株式会社 東京(03)3216-1616

お知らせ

團紀彦展 「RECENT WORKS 1995」

現在、團紀彦が手掛けている5つのプロジェクトについて、彼がその時々を考え、手を動かして模索したスケッチ多数と、それをいかに形態にして形成したのかを表現した模型により、彼の建築に対する考え方、形態の発生の仕方、模索の仕方を展示する。

作品展

会期：～9月27日(水) 10:00～18:00 (9月6日休館)
会場：INAXスペース・札幌
札幌市中央区南2条西2-18-1住友生命札幌南2条ビル
INAX札幌ショールーム 1F Tel: 011-271-1710

講演会

タイトル：多数多様体への計画学
日時：9月8日(金) 18:30～20:30
会場：札幌全日空ホテル
札幌市中央区北3条西1丁目
定員：300名(参加無料・Faxで申し込み)
申し込み・問い合わせ：INAX札幌ショールーム
Tel: 011-271-1710 担当/宗・高橋

リレー対談'95/菊竹清訓+松井源吾 「デザインと構造の関わり合い」

講師：菊竹清訓、松井源吾
日時：10月4日(水) 18:30～21:00
会場：建築家会館1階ホール
東京都渋谷区神宮前2-3-16 Tel: 03-3408-8291
参加費：一般2,000円、学生1,000円
定員：100名(申し込み先着順)
申し込み・問い合わせ：新日本建築家協会
関東甲信越支部事務局 担当/黄川田
Tel: 03-3408-8291 Fax: 03-3408-8294

リビングデザインセンターOZONE 開業1周年

新宿パークタワービルの3～8階に位置する「リビングデザインセンターOZONE」は、「生活者の視点」を重視し、建築設計やインテリアコーディネーターなどのプロと住まいに関心のある一般の人々のための情報収集の拠点として機能している。そして住宅関連の多くのショールームと豊富なカタログ、サンプル、情報メディアを擁しており、住まいの総合情報基地ともいえる。そのOZONEが、今年7月で開業1周年を迎え来場者も100万人を突破した。毎回ユニークなイベントが企画され、今回は以下の通り。

①タイトル：クニエダ・ヤスエのシンプルな暮らしの提案
会期：9月7日(木)～10月31日(火) 10:30～18:30
会場：OZONEプラザ
東京都新宿区西新宿3-7-1新宿パークタワー3階
②タイトル：共存/新ペット社会の居住を考える
会期：9月14日(木)～10月31日(火) 10:30～18:30
会場：生活スタジオ
東京都新宿区西新宿3-7-1新宿パークタワー7階
問い合わせ：①②共、リビングデザインセンター
Tel: 03-5322-6504

「あそんどお」 避難所の遊び展

阪神大震災の被災地神戸を拠点に、被災した子供たちと、遊びや絵を描くことを通じて少しでも彼らの励ましになることを願い、交流活動を続けているボランティア団体「ピントウラ」。ピントウラの活動である、公園や空き地などでのイベント「お絵かき工作会」の開催などにより、めまぐるしく変化する状況の中、被災地の子供たちの現状が少しずつ見えつつある。今回の展覧会では、被災地の子供たちの現状を伝え、少しでも彼らのことを考える機会を持てばという趣旨から、震災直後から描きためられた子供たちの作品を展示する。

会期：～8月30日(水) 10:00～19:00
会場：新宿NSビル1階イベントホール
展示内容：子供の自画像の展示、コンピューター回線による現地情報の紹介、避難所のお絵かきイベントの再現、ビデオによる現地の映像を紹介、児童心理学者による資料パネルの展示、被災地の子供の作文紹介、他。
問い合わせ：ボランティアーズ・アイデア・バンク
事務局代表/山越哲生 Tel: Fax: 0427-53-8928
神奈川県相模原市淵野辺本町3-16-3-201

安藤忠雄講演会 「日本のかたち——個を発見する建築」

日時：10月14日(土) 14:00～16:00
会場：津田ホール
東京都渋谷区千駄ヶ谷1-18-24 Tel: 03-3402-1851
受講料：1,000円
申し込み：日程明記の上、往復ハガキで下記まで
問い合わせ：朝日カルチャーセンター事業部
東京都新宿区西新宿1-24-1エスデック情報ビル15F
Tel: 03-3344-1949, Fax: 03-3344-4876 担当/長澤

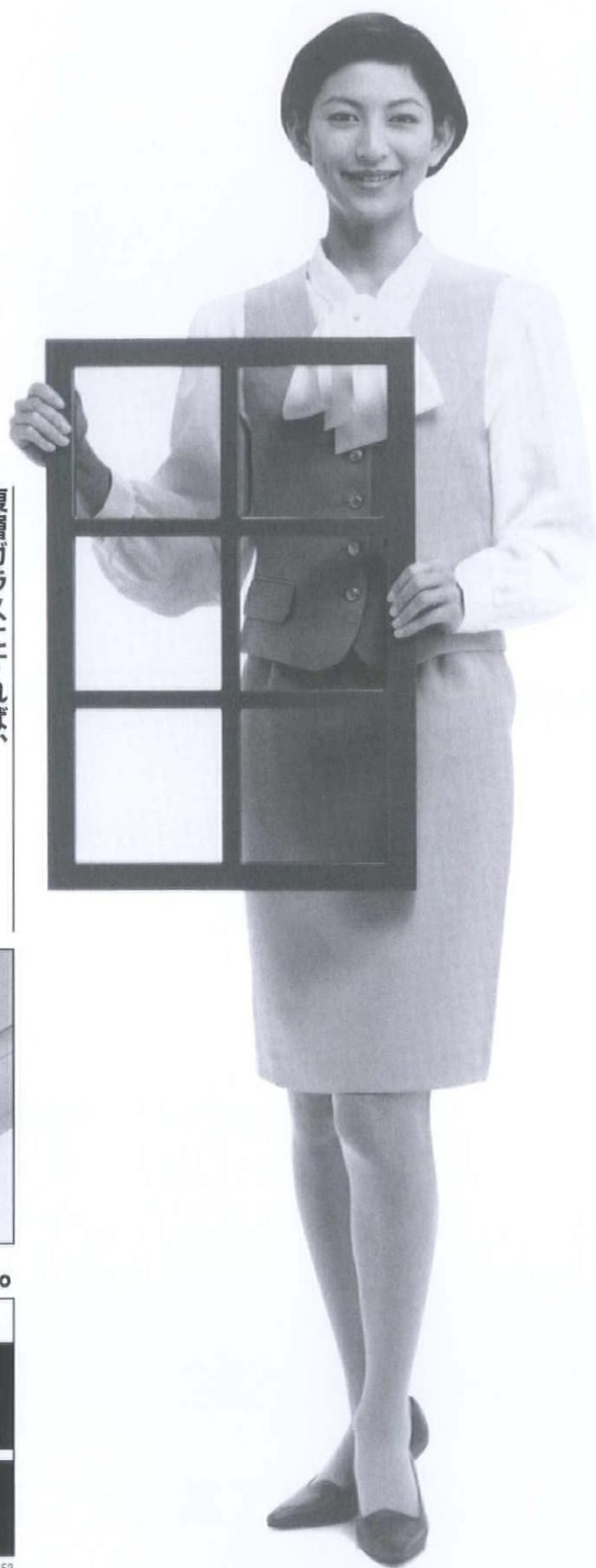
「リュミエール(光)」 ジャン・ヌーヴェル展

ヌーヴェル作品のもっとも重要なテーマである「光」に焦点をあて、彼のプロジェクトを映像を通して「光」を基軸に鮮烈に表現する。

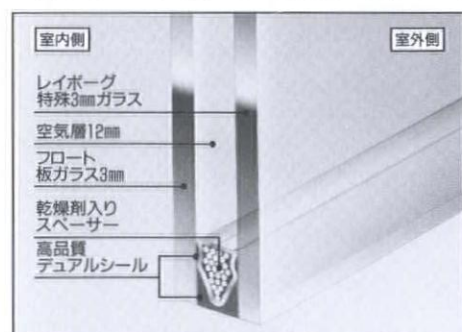
作品展
会期：9月19日(火)～11月2日(木) 11:00～19:00
(日曜・祝日休館)
会場：GALLERY・MA
東京都港区南青山1-24-3 TOTO乃木坂ビル3F
Tel: 03-3402-1010
講演会
講師：ジャン・ヌーベル
日時：東京/9月19日(火)18:30～、福岡/9月20日(水)18:30～
会場：東京/日本教育会館一ツ橋ホール(東京都千代田区一ツ橋2-6-2)
福岡/都久志会館(福岡県福岡市中央区天神4-8-10)
※東京・福岡とも当日会場先着順、入場無料
問い合わせ：GALLERY・MA(担当/飯島) Tel: 03-3402-1010、TOTO九州支社(担当/松本) Tel: 092-713-1011

◎ 日本板硝子

窓ガラスは大切な冷暖房設備です。



複層ガラスにすれば、
冷暖房コストを大きく節約できます。
快適な室内環境を実現するために日本板硝子の複層ガラス「マルチライトシリーズ」をご採用ください。エアコンや床暖房などの冷暖房設備も大切ですが、窓からの日射熱を減らす工夫や、室内の冷気を逃がさないことも重要です。「マルチライト・レイボーグ」は高い断熱性能で冷暖房効果を上げるだけでなく、不快な結露も少なくなります。しかも有害な紫外線の侵入も防いでインテリアの褪色なども軽減。エメラルドグリーンの格調高い色調でさわやかな空間をつくり出します。



日射熱と紫外線を大幅カット。

遮熱複層ガラス

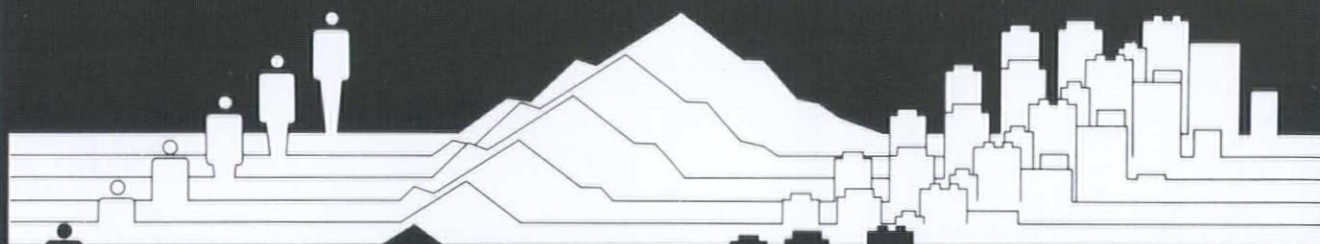
マルチライト

レイボーグ

札幌支店(011)241-7171 仙台支店(022)225-7821 関東支店(03)5443-0153
東京支店(03)5443-0127 名古屋支店(052)582-5454 大阪支店(06) 222-7533
広島支店(082)263-3571 福岡支店(092)451-5594 高松営業所(0878)51-7571
※カタログは、最寄りの各支店までご請求ください。

SANKI

人を育む。自然を守る。産業を支える。
三機のエンジニアリング技術は多彩。



人間活動のすべてを支える社会環境を一体化させ、
そして調和させようとする三機の総合エンジニアリング技術。

快適で機能的な都市生活、
合理的で先進的な産業活動、そして、それをとりまく自然。

三機は、これらを単独ではなく、
総合技術を通して見つめ、有機的なひとつの流れを実現しようとしています。

多彩な技術を結び、
新たなシステムを展開している三機。



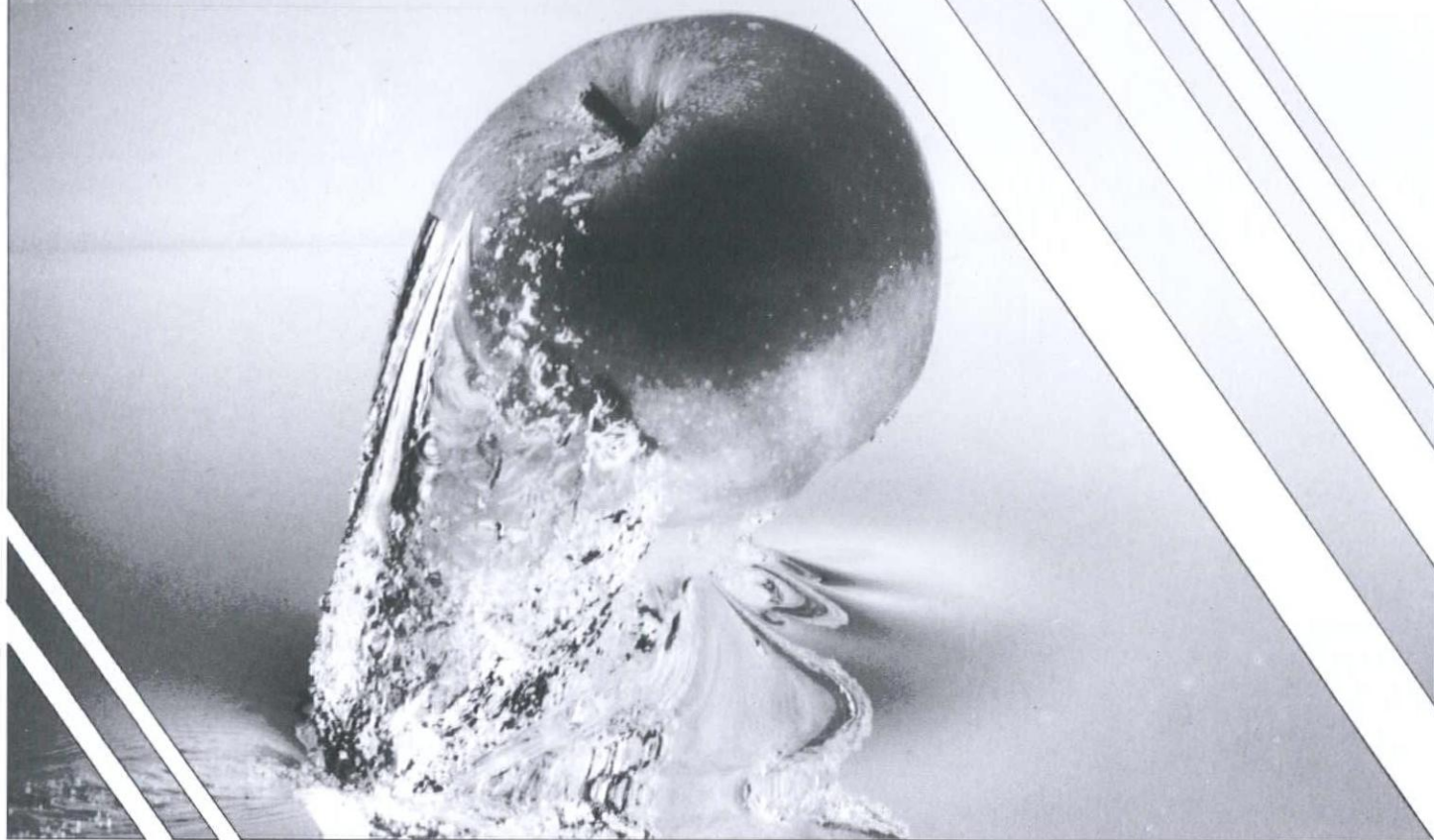
三機工業株式会社

本店 東京・日比谷・三信ビル TEL.(3502)6111

支店 北海道・東北・北関東・東関東・横浜・名古屋・北陸・大阪・
神戸・四国・中国・九州

個性が集まって大きなエネルギー

サッシ・カーテンウォールの総合メーカー



私たちは、今、ひと昔前の科学技術の進歩を強調するだけの時代から
“テクノロジーとヒューマニズムの調和”をめざす新しい時代をつくろうとしています。

とくに人間の生活空間を創造する建築業界においては、
こうした先進性が強く要求されていますが、その中で、生活空間としてのアメニティ(快適さ)や、

建築物内外の両面にわたるデザイン・外観・色彩など
美的付加価値の重要性もますますそのウェートを高めています。

弊社は斬新で、確かな品質の製品を供給することを通して、
社会へ大きく貢献していきたいと考えています。



昭和サッシ

昭和鋼機株式会社

本社 ▶ 〒174 東京都板橋区前野町 6 丁目 1 番 10 号
☎ 東京 (03) 3969-1101 (代表)

所沢工場 ▶ 〒354 埼玉県入間郡三芳町大字上富 1163

明石工場 ▶ 〒673-01 明石市二見町南二見 21 番 3 号

昭和鋼機サービス株式会社 ▶ 〒174 東京都板橋区前野町 6 丁目 1 番 10 号
大阪支店・札幌営業所・仙台営業所・横浜営業所・名古屋営業所・九州営業所

有機的デジタル

——山口英夫展『織の記憶』



からだのしくみは
「骨格と筋肉」だけでは
ありません。

神経もあれば、血管もあり、あらゆるものが総合的に働いてこそ、一個の生体としての機能が発揮できるのではないのでしょうか。

ビルや建造物の場合も、これと全く同じことで、鉄骨やセメント、石材、の組合せだけでは、外見上如何に立派でも、それは単なる物体の集合です。やはり神経や血管と同じく、電気、水道、ガス、空気調和などがその機能を充分発揮できてこそ、素晴らしい居住性が生れると思います。

しかし……

それだけで終わったのでは、まだ多くの欠かんが残っております。ところがこれ等の機能を更に無駄や損失のないよう活用できたとしたら、もっと素晴らしいことではありませんか。

集中管理或は集中制御によって……省力、省エネルギー、省経費をはかることこそ、最も完べきな、からだのしくみ、つまりビル全体の機能をフルに発揮できるのではないのでしょうか。

集中管理装置
NESCA



川崎電気株式会社

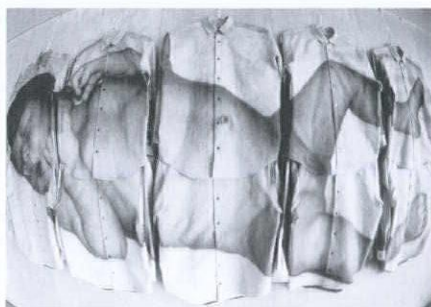
本社 〒999-23 山形県南陽市小岩沢225番地
電話0238(49)2011大代表
営業本部 〒108 東京都港区芝浦3丁目7番4号
電話03(3454)5141大代表

優しい瞳をした馬がこちらを見つめ、巨大な手に促されて見上げると、そこには羊たちの群れが行き過ぎていき、何処からか赤ん坊の泣き声が聞こえてくる。

7月11日から新宿パークタワー1Fアトリウムイベントゾーンで開催された〈山口英夫——織の記憶〉の光景は、ある種異様であった。パークタワーのアトリウムでこれだけの大規模な展示をするのは2度目ということである。まず、その大きさと、すべてが織物で出来ているということに、驚かされる。天井から吊るされている羊の群れの作品は布だけで、幅7.2メートル、重さも100キロ程もあるそうだ。他にもさまざまな作品が、アルミパネルとボールにより組み立てられたパーティション上に展示され、周りの石の空間の中で仮設の要素を強く打ち出した展示となって、異彩を放っている。

作品は、絵画や写真の画像をデジタルで読み込み、印刷で言えば色分解にあたる工程をコンピューター (Macintosh) で処理し、そのデータをもとにコンピューターとインターフェースされた織機によって、赤、青、黄、黒、白の5色の糸で細密なジャガード織りにするという表現によって生み出されている。

タイトルからもわかるように作品のコンセ



『未来』300×120cm コットン

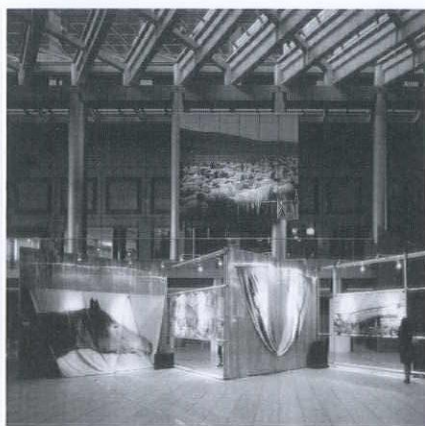


『馬』400×270cm コットン

プトは、記憶である。今回、作品に写し出された記憶は、山口氏の個人的なものであるらしい。旅先で出会った羊の群れ、自分の子供、手、夢など。この私的な記憶 (思い出) がデジタル化されて「0」と「1」の記号となり、そのひとつひとつが2、3メートルの巨大な有機物と化して (しかもデジタルである記号がある意味、崩さないまま)、再構築され、わたしたちの眼前に提示される。個人の夢をかいま見ているような不思議な感覚にとらわれるのがおもしろい。

おばあさんが糸を紡ぎながら昔語りをするのが昔話の定例であるが、糸 (話) を紡ぎ、それを織り込んでいく「織り」という作業は、記憶が少しずつ積み重なってゆく過程のイメージと重なるように思う。そういった意味で、繊維の持つ記憶との独特な関係性をうまく表現した展覧会であった。

用途が限定されがちなテキスタイルだが、山口氏は、今までの活動で、服飾、家具やファブリックなどのインテリアから、自工場の改築時に防護壁がわりに自らの作品を掛けるという大規模なインスタレーションも行っている。その柔軟な姿勢に今後さまざまな分野への活躍が期待される。



山口英夫展『織の記憶』

会期：1995年7月11日—8月6日

会場：新宿パークタワー

1Fアトリウムイベントゾーン

主催：パークタワー・アートプログラム

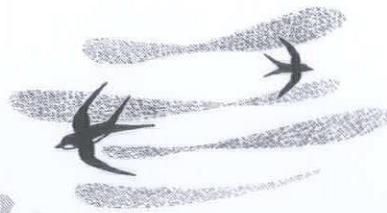
資料提供：アートダイナミクス

写真：SEIZO TERASAKI

Nacása & Partners (会場風景のみ)

空気の歳時記

ツバメが渡ってきたか確かめたくて
入り江に近い河原を歩く。
頬に当たる風は冷たいが、
水面の眩さはもう紛れもなく春だ。



春

目をこらすと
何の稚魚だろうか
スイスイと元気である。
何万年も繰り返されてきた
自然の鼓動を体の奥に
感じる瞬間。
ピュイー、ピュイー。
澄みわたった空気に、
待望の囁りを聞いた。

林道を逸れて、森へ深く入る。
額に汗をにじませながら、
一步一步標高を稼ぐ。

セミの合唱に負けじと
梢で声を

張り上げているのは

クロツグミだろうか。

樹齢は数百年に

及ぶだろう、

ブナの巨木を見上げると、



夏

突然、時間の感覚が薄れていく。
鬱蒼とした空気のなかで
息もつまるような濃緑の季節。

尾根を越えてくる風の冷たさで
季節の深まりを知る。

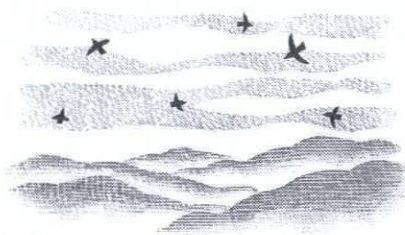
山の秋は短い。

頂から麓へ向かって

早くも赤や黄に色づきはじめた

林の中を歩くと、

よく南へ旅する渡り鳥に出会う。



秋

例えば、エゾビタキ。
ヒラリヒラリと木の葉のように
舞いながら
フライ&キャッチを繰り返す
この鳥が姿を消す頃、
あたりは冬の長い眠りに入るのだ。

休日。ちよつと早起きして
近くの山に足を運んでみた。

枯れ落ちた木の葉を

踏むたびに

ガサッガサッという音が

林全体に響き渡る。

見上げると

餌を探しているのだろうか、

シジュウカラの仲間の群れが

盛んに鳴き交わしながら

枝から枝へ飛び回っている。



冬

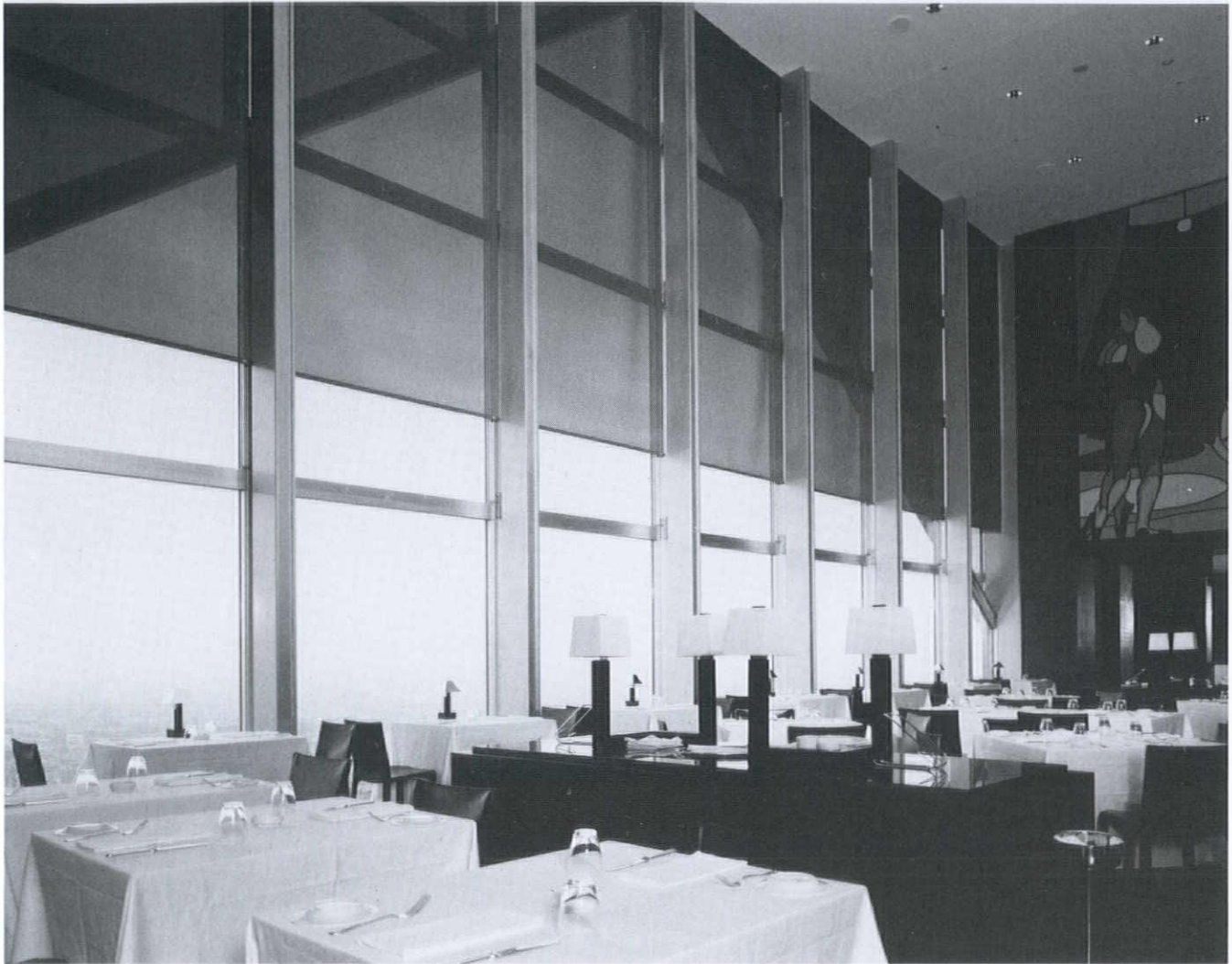
凍てついた空気のなかで
精一杯生きている小さな命。

日本の四季の空気を、ずっと考えてきています。

◆新菱冷熱

SHINRYO CORPORATION

本社：〒160 東京都新宿区四谷2-4 ☎03-3357-2151代 支社：札幌・仙台・千葉・横浜・名古屋・富山・大阪・広島・福岡



大型の窓を美しく 機能的にプロデュース。

面積の広い大型の窓や、高い位置に設置する場合に
機能的な電動仕様。スクリーンの昇降操作がワンタ
ッチで行なえ、フロアごとの集中操作など多彩な設
定も可能です。駆動部はスタイリッシュな内蔵式な
ので、インテリアに美しくなじみます。

大型の窓や高い設置場所に

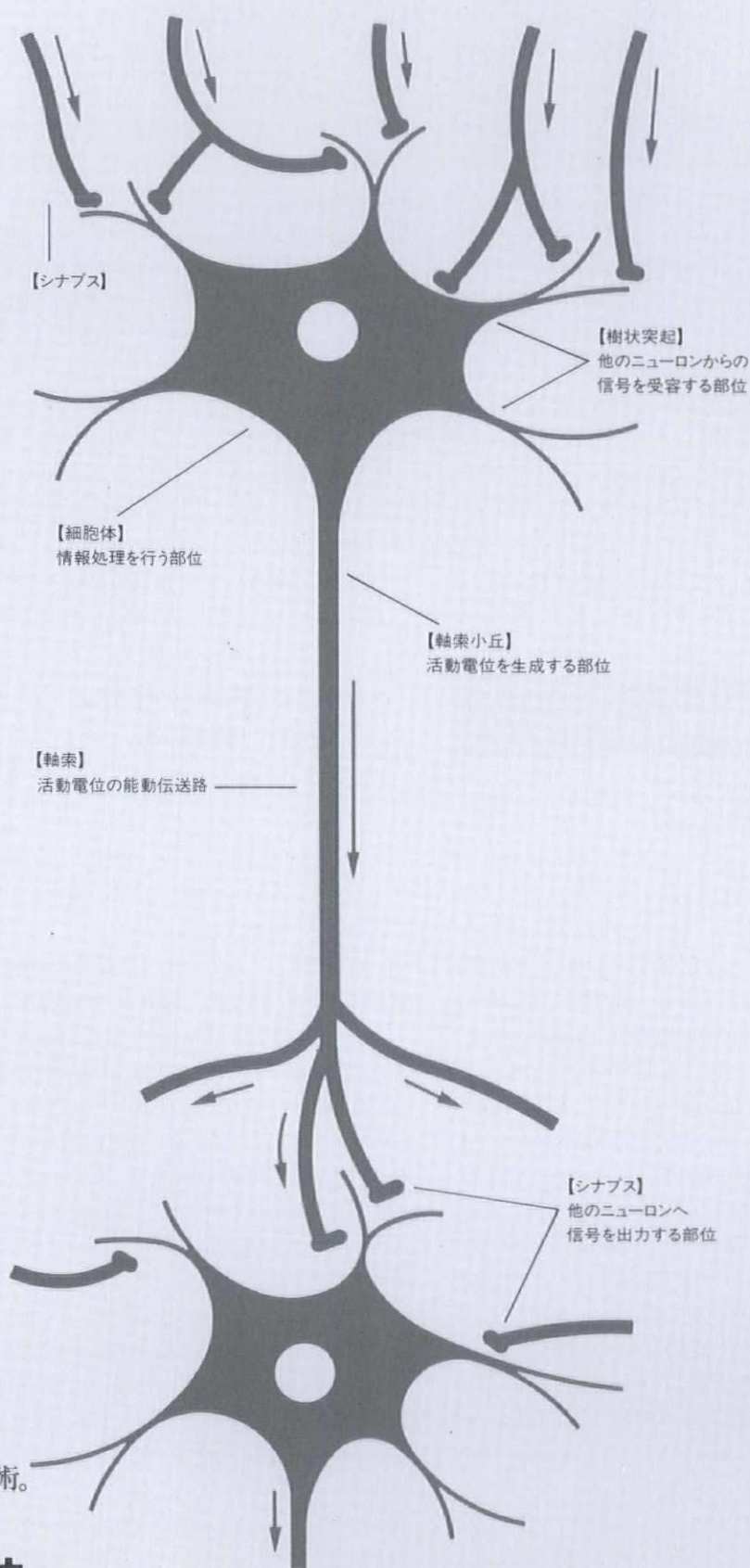
ロールスクリーン電動タイプ

立川ブラインド工業株式会社

本社：〒105 東京都港区海岸1-11-1 ニューピア竹芝ノースタワー……………TEL.03-5404-4500(大代表)
タチカワ銀座ショールーム 〒104 東京都中央区銀座8-8-15……………TEL.03-3571-1373
タチカワ新宿ショールーム 〒163-10 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー6F……………TEL.03-5322-6546

タチカワ大阪ショールーム 〒550 大阪市西区京町堀1-4-16……………TEL.06-443-7761
タチカワ新潟ショールーム 〒951 新潟市下大川前通二ノ町2230-33……………TEL.025-223-5120
タチカワ金沢ショールーム 〒921 金沢市東力4-181……………TEL.0762-91-7880

21世紀の空調は、人間の脳神経がお手本になる。



私たちは「ニューラルネットワーク」理論を応用した、次世代の空調システムの開発に取り組んでいます。誰もが心地よい空気を作り出すことは、本来、極めて微妙なコントロールを必要とします。もっと簡単かつ鋭敏に、人が求める快適さを感じてくれないだろうか。そのテーマに応えるべく、私たちは生体の脳回路に着目。脳の神経細胞が行う高度な学習機能や適応能力を応用することで、エア・デザインング技術の新たな主流となるシステム研究を始めています。

東洋熱工業株式会社 〒104 東京都中央区京橋2-5-12 TEL 03-3562-1351

時代の呼吸に応える技術。



東 熱

岡本美樹
清水裕二
田中久介
丸橋浩
山内彩子



青島幸男による世界都市博の中止によって、一度動き出した公共事業の建設が中止されるといふ、日本の建設業にとっては今までにないことが現実になってしまった。長良川河口堰や原子力発電所、成田空港など、これまでも建設反対の抗議が起きたことはあったが、都市博のようなハレの計画が途中で中止というのは珍らしい。バブル崩壊で仕事が減った話はよく聞いたが、それはオーナーの経済的な問題として割り切ることもできた。その後の内需拡大、公共バブルという状況では、一度走り始めたら後戻りはしないという風潮があるせいか、「公共」という枠組みは建設業にとっての安全ネットのように思われていたのだが……。建設中止とは、いかなる水準での選択なのだろうかと考えてみると、それは経済的な問題では割り切ることのできない複雑さを抱えているように思う。というのも、建設業にとっては安全ネットだと思われてきた「公共」という枠組みが、一方では建物が社会に出現することを審査する根拠を人々に与えているからである。誰でも建物の要・不要を、あれこれ言う権利を持つというのがそこでの筋だから、代表者としてジャーナリズムや

しかし、中には清掃工場のように都市施設として受ける追い風と、近隣住民にとっての迷惑施設として受ける向かい風の両方にさらされるものもある。

こうした追い風や向かい風に例えられる様々な力に対して、建築家は設計を通してどういうスタンスをとるか。建築をつくることは、意識的にであれ無意識的にであれ、こうした力を強めたり（それはサラリーマンがスーツを着ることによって、会社の信用を再生産することに似ている）、弱めたりずらしたりすることではないだろうか。戦後の成長期には、公共建築が欠乏していた単純な理由で、そこに吹くのは追い風ばかりだった。だから、それが吹いていることに対して敏感になる必要もなかった。確かに今でも地方に建てられる建築は、純粋に追い風を受けて出現するような幸せな状況を持っている。地方のまちではひとつの建物の出現が、人々の生活の選択肢をひとつ増やすことができるからである。しかし、東京のように、ほとんど全てのビルディングタイプが揃い、さらに次々と建物が建てられていく飽和状態にあるところでは、そんなに単純ではない。そこでの建築の出現形式を考えるにあたっては、複数の価値体系や情報が交錯する場において建築に働く、複雑な力を捉える必要がある。それはビルディングタイプを建物の単なる機能主義的な

海外建築情報リミックス

政治家が「都庁の知事室が豪華すぎる」とか「都市博中止」を叫ぶことができるのである。また都市博中止に関しては、都民が損をするうぬぬの話よりも、その開発手法がこれからの社会のヴィジョンを示すのに適していないのではないか、というもう少し根本的なことが疑われているように思う。資本のためにのみ捧げられた開発では、新たな感受性や、社会的想像力を組織できないのではないかという疑いである。こうした声や思いや疑いが、「公共」という枠組みでは抑圧されることなく、解放されるべきだという意見には、建築家は反論の余地を持たないだろう。と同時に建築家にしてみれば、それは自分が設計した建物にかかる圧力を引き受けることになるのではあるが。（この圧力を吸収して自分の力にできた建物はど力強いものもない）しかし都市博では、そのことが建設中止という選択肢でしか示されなかったことは、皮肉という他ない。社会への出現形式から建築を捉える眼（ヨーロッパでは当たり前）が、日本にも現われたということなのだろうか。「公共」という枠組みは、建築が社会に出現する際の追い風ばかりでなく、向かい風をも呼び入れるのである。

そこでビルディングタイプとしては少し大雑把ではあるが、「公共建築」が社会に出現する際に受ける様々な力について考えたい。大抵の公共建築は社会的に認識されステータスを与えられているから、基本的には追い風を受けている。例えば、阪神大震災でもその重要性が再確認された市庁舎、学校、病院などや、近年世界各地で建設され始めたメディアテークには追い風が吹いている。

Theme: ビルディングタイプ その3「公共建築」

分類として捉える均質化した眼には見えない力である。この見えない力を見えるようにするには、建築をつくることとこれらの力を分離し、そこに発生する両者の関係に注目するしかないのではないか。ここでいう分離とは、例えば建築をつくるのが、公共建築に当然要求される、威厳や記念性、機能性に事後的に根拠を与えてしまうことを疑ってみることである。そしてこのことは、より根本的には、建築家に要求される公共建築にかかる圧力なり、期待なり、要求なりを表象することの方法論を疑うことにつながっていく。丹下健三の香川県庁舎における日本の伝統と近代建築の統合や、リカルド・ボフィルの低所得者用集合住宅のように、ベルサイユ通りの様式をあてがったコードの攪乱などのように、ものに特定の意味を代表＝表象させて操作することによって得られる視覚的な情報だけではもはや物足りないのである。

建築をつくるのが、公共建築に当然要求される、記念性、威厳、機能性に事後的に根拠を与えてしまうことに対する間と、それらに具体的にどのような表現を与えていくのか、という水準の異なる間をひとつの建物に叩き込まなければならぬところに、現在の公共建築の困難さがある。そして、その方法論的な出口を従来の建築のシンボリズムに求めることが疑われ始めたことも、その困難さを助長している。この重層性を解きほぐし、困難を味方につけられるような展開を各論に期待したい。

アトリエ・ワン

ビルディングタイプという水準において、ひとつの社会の中での文化や価値観の不連続性を具体的に担う建築のテキストが形成されるという仮説のもとに、前2回は「集合／管理建築」「住宅」を取り上げ、そこでの修辭的な操作について議論した。今回は建築が社会へ出現する際に受ける圧力（政治的、文化的、経済的）も、ビルディングタイプによって異なることを前提に、「公共建築」なるものについて議論したい。

コア・スタッフ'95
今井太郎
岩下暢男
アトリエ・ワン
曾我部昌史
山本想太郎

AA: L'architecture d'aujourd'hui
AD: Architecture Design
ar: The Architecture
Review
AMC: Le Moniteur
ARCHITECTURE
IA: techniques & ARCHITECTURE

ライヒスタークはその成立当初から力に翻弄された建築であった。ドイツ帝国議会議場の設計競技で勝利したWallotは、批評家の攻撃や皇帝との意見の相違などから、計画の実施現場から離れることになるが、彼の案をもとに、1916年ライヒスタークは完成に至る。1933年、ナチスが政権を獲得した直後に本会議場を全焼させた火災は、共産党員の放火によるものとされ、ナチスによるその後の共産党弾圧のきっかけとなった。これはナチスの謀略であったとする説もあるが、この事件を境にヒトラーは独裁への道を突き進むのである。第2次世界大戦下では塔が防空拠点として徴用され、1945年のベルリン陥落で廃墟と化す。戦後改修されるが、1961年以来ベルリンの壁を隔てた東西冷戦を見つめ続け、1989年の壁の崩壊を迎える。このように、20世紀の動乱をくぐり抜けたライヒスタークは、国家の恒久栄華の象徴というよりも、はたなくうつろう権力の流動性を体現し続けた建築であった。それは、度重なる破壊と改変によって人々に強く記憶されることになったのである。

そして、東西ドイツの統一。ドイツ議会は、ライヒスタークに再度象徴の衣を着せようと試みる。今回の主題は、民主主義のもとに統一となった「ひとつのドイツ」である。コンペにおけるノーマン・フォスターの第1次案は、ガラスの大屋根で旧議事堂を覆うというものであった。

ボン、ドレスデンなど、近年ドイツ各地で建てら

れた議場は、水平性の強調、大面積のガラス屋根やガラス壁面といった共通の特徴をもっている。これらは、法の下での平等、開かれた政治、といった民主主義の理念と結び付けられた近代建築のヴォキャブラリーであるが、現代ドイツでは、旧議場などの既存の建築物との関係や、環境への配慮といった意味付けも、低く透明な建築を採用する動機になっているようだ。実際、これら地方の議場は、既存の建築と新しい議場をガラス面の多い透明な空間で結び付けるという構成になっており、都市や環境に対して控えめな態度を示している。一方、フォスター案は、既存の建築と環境に対していかにも尊大であった、のかどうか、第1案でカラトラバとピ・デ・ブルアインとともに選出され、第2段階のプロポーザルへと進んだ際に提出された縮小案は、外部からはその改築部分を窺えないような慎ましいものに変わっていた。最終的に選ばれたのはフォスターであり、それは概ねドイツにおける新しい議場の特徴を満たしたものであった。

しかし、ことは簡単にはおさまらない。かつてライヒスタークを帝国の象徴たらしめていたドームが最終案において復活したのである。ドームが民主主義的でないとかそういうことではない。問題なのは、カラトラバ案は第1段階からドーム案であり、当局が第2段階で示した要件をすでに先取りし、審査員の高い評価を得ていたという事実だ。ドーム案であれば、カラトラバ案の方が優れていたというのが、大方の見方の方である。最終案が決定された後で

案が変化することはよくあることであるが、フォスターのドームには、第1段階の大屋根案の理念や、カラトラバ案のおおらかさがない。コンペにつきまとう過程の不透明さ、そこを支配する非決定論的力学だけではなく、ライヒスタークという、いわばドイツ近代史の特異点における特殊な力の存在を、ドームの復活に見てしまうのは少々うがちすぎであろうか。

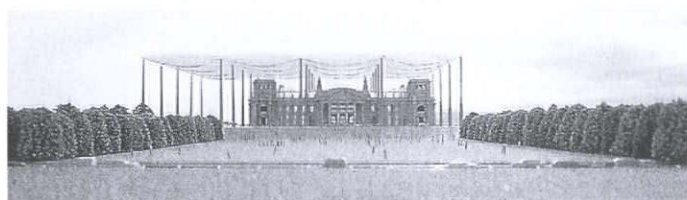
第1段階で落ちたジャン・ヌーベルとエマニュエル・カッター二案は、旧議事堂の抽象的鏡像を造り上げ（これによってライヒスタークは「ひとつ」ではなくなる）、主な機能はその鏡像に担わせて、旧議事堂は記憶の場として保存しようとするものであった。もはや満身創痍のライヒスタークに、これ以上権力の気まぐれな自己顕示の役割を負わせることをやめて、過ちをも含めた過去の時間を凍結しようとするこの案は、記念碑というよりも墓標と呼ぶのがふさわしい。それは、再び国家統一の象徴を作り出そうとするコンペティションへの痛烈な批判にもなっている。この6月に行われたクリストによるライヒスタークの梱包にも、同様な精神を読み取ることが可能であろう。

政治指導者の意向を扱ってフォスターが作った種々のドーム群。その中から、最終選考が議会の投票によって民主的に行われる。

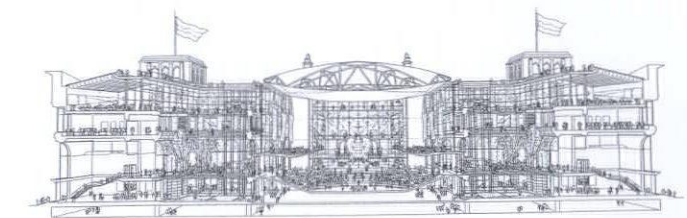
いわゆるひとつのドイツの 国会議事堂のロングストーリー

清水裕二

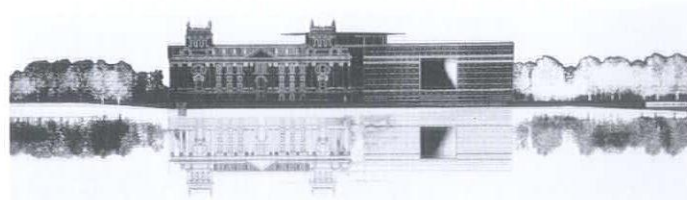
Reichstag Competition
AA9502
AD9504



ノーマン・フォスター案第1段階



ノーマン・フォスター案中間段階



ジャン・ヌーベルとエマニュエル・カッター二案



ドームの数々。これも民主主義の表現

ナショナル高輝度誘導灯。

1/4サイズ、

原寸大
コンパクトスクエア
100×100mmタイプ



スリムさにも「注目」。

効率の良い導光方式だから可能になった、薄さ13mm。
しかも、表示面輝度が高く、視認性も十分に確保し、
洗練された建築空間にスッキリ調和するフォルムです。

① スリム&コンパクト

ランプ直径4mmの小さな冷陰極蛍光灯を採用したため、薄さ
13mmとスリムで有効表示面積も約1/4(従来品比)と小型化。

② 高視認性

高輝度の新光源と効率の良い光学設計で、表示面輝度は
約1.5倍(従来品比)にアップ、誘導効果の高い視認性を確保。

③ 省エネルギー

新光源と新開発AC/DC兼用インバータの組合せで、消費
電力を約1/3(従来品比)に抑え、大幅な省エネが実現しました。

④ 省メンテナンス

ランプ寿命は約20,000時間の長寿命設計でメンテナンスを
省力化。ランプモニター付で交換時期もひと目でわかります。



通産省選定グッドデザイン'94地球にやさしいデザイン賞受賞。
●環境との調和に配慮した商品として評価されました。

写真は 天井埋込型 10形(小形相当) FA11455ENL(片面型) 標準価格30,000円(税別)

ナショナル
(高輝度誘導灯)
コンパクトスクエア

●詳しい資料を差しあげます。……………(〒571)大阪府門真市門真1048
松下電工・電機マーケティング部「コンパクトスクエア」係 ☎(06)908-1131

National 松下電工

広場は、唯一万人を許容できたという意味で、他のいわゆる公共建築よりも公共の空間としての役割は大きかったといえるかもしれない。公共という言葉の定義自体が危うい現代においてさえ、人々の広場に対するあこがれは消えないし、建築家が公共空間をつくる時にもしばしば参照されている。それは、古き良き時代を彷彿させ、あらゆる人間を含みながらもハレやかなものであった。しかし、ハレとケは表裏一体である。現在、こうした広場の多くが民間を基盤にした社会を土台に成立し、都市の歪みを一手に引き受ける緩衝剤としての役割を担うことを余儀なくされる。

1994年2月、ロスアンゼルススのダウンタウンに広場がオープンした。市の中心の最も古い一角にこの広場は忽然と姿を現した。メキシカンカラーの黄、紫、赤……の色をまとった塔や壁やベンチや小建築が配され、まばらに植栽がされている。

この広場は1866年に市議会によって「公共用地」としての指定を受けて公園として開発された。当時のアメリカは、新たな市民階級（労働者など）の急増に伴い、形式主義的な公共領域より成る都市のもつ歪みを緩和するためにセントラルパーク等の公共公園が作られた。これは、かなり後まで民主主義の象徴として市民のための喜ばしき公共空間の理念とされた。ここロスアンゼルスでも、グリッドの中に浮かぶ島のように、この地に市民のユートピアたる森が出現した。古来、森は畏怖の対象であったが、この森は格好の住居居りえたのだらう。資本主義社会からあふれた失業者などのホームレス達も好んでここをすみかとした。20世紀初めには建築家によって改造され、第一次大戦後に着る将軍の名前をとってパーシングスクエアと名づけられた。この時この広場は、国民の記念碑として歴史化された。

都市整備と急増した車への対策として、1951年には豊富な緑を廃し、地下に駐車場を作った地上は広

場として整備された。しかし、徐々に近隣の住人が他へ移住しビジネスの中心が市の西部に移って空洞化し、麻薬密売をはじめとする犯罪の拠点となる。公共の広場が犯罪という畏怖の代名詞になった。この頃、アメリカではベリーの近隣住区理論等による影響で都市をある理念に基づいて計画することに熱心であり、市街地の明確な階級による段階的区分を行い、住宅地域では、公共の広場から他の階級の人間の侵入を柵によって断ち切った例なども見られた。いかにして安全な公共空間を作るか、といった議論と実験的な実践が建築および都市の計画において繰り返された。しかし、合理主義的な理論によると、階級や職種などによって必ず誰かが社会から好ましくないとして排除される。そうした社会の歪みが根底で「安全性」を絶えず蝕んでいる傍らで……。そして、もはやハレやかな公共の空間としての広場は実現不可能であるように思われた。

微かな光が差し込んだかに見えたほんの一瞬があった。1980年代になってこの地域に大規模な再開発の計画が持ち上がり、この広場も公開のコンペが行われ、サイトの案が入賞した。これは「マジック・カーペット」と題されたもので、上空から見たロスアンゼルスが、丘に囲まれた平野から成り、その端部でひだのよった広大なグリッド状のカーペットのように見えるのを凝縮して広場に投影させ、内部には植物によるこの地域のミニ環境をシステムティックな水路整備によって実現するものであった。こうして地盤を形成した上で、グリッド上に、レストラン、売店、葡萄畑のある庭（日除け）、ベンチ、水飲場、公衆トイレなどがあり、夜はグリッドラインが光り、ロスアンゼルス夜景のミニチュアを見せようとするものであった。サイトはこの広場において都市の縮図を写し出そうとした。都市とは、本質的に、あらゆる階級の人間を含むものである。その都市の縮図には、およそ今までの公共建築が排除して

きた、多くのものの全てを「市民和合」として内包する可能性を示唆しているように思われる点で、興味深かった。しかし、建設および管理上の資金不足で却下される。これが実現不可能となって、最後の可能性を秘めた公共のための公共建築は、18～19世紀以来の建築によるあらゆる「排除」をまたしても顕在化するはめとなってしまった。

1994年、地区の再開発に伴って、リゴレッタとオリンによってリニューアルされたのが現在のものである。カフェ（黄色）、芝地（兼野外劇場）、ベンチ、池（円形）、（10階の高さで時刻を告げる）塔（紫色）、列柱、壁……等が、5エーカー（約2万㎡）の広場の中で個々の存在意味をサインのように浮かびあがらせている。安全を記号化したように警察の分署（黄色でくさび型）をポップな形で配し、見通しをよくするために植栽を意図的に少なくした。また、公衆トイレを意図的につぐらないこと、植栽が薄いこと、屋根がないこと、夜は閉まることによって、ホームレスはここをすみかとして機能させることができなくなった。夜の公園や広場は、公共という言葉とは裏腹に、極めて私的な空間である。犯罪しかり、ホームレスしかり、恋人同志しかり……。これらを排除し、広場の徹底的な「公共建築化」が再構築された。これは、あらゆるケの部分プログラムによって徹底的に排したのを最大の特徴とした。実に、サイトの「ロスアンゼルス経験全てを比喩的な「マジック・カーペット」の中に凝縮させる」とは対称的である。今、改めて振り返ってみて、サイトが、広場自体、完結した系としての建築物を形成し、あくまでもハレでありながら、ケを含む万人許容のプログラムを作ろうとした意味は非常に大きかった。これが実現されなかったのは、現代のアメリカの公共の広場の現状を皮肉にも露呈したかのように思えた。

広場が公共であるということ

山内彩子

マジック・カーペット/Pershing Square

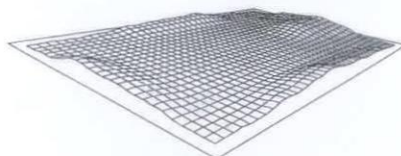
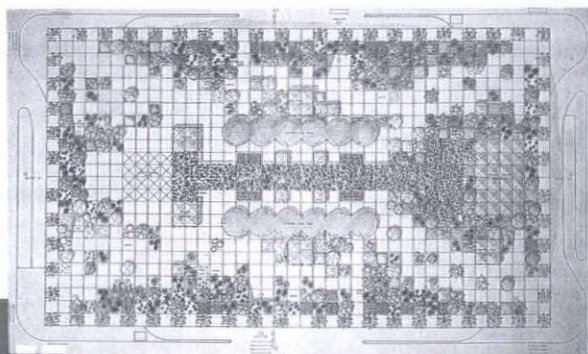
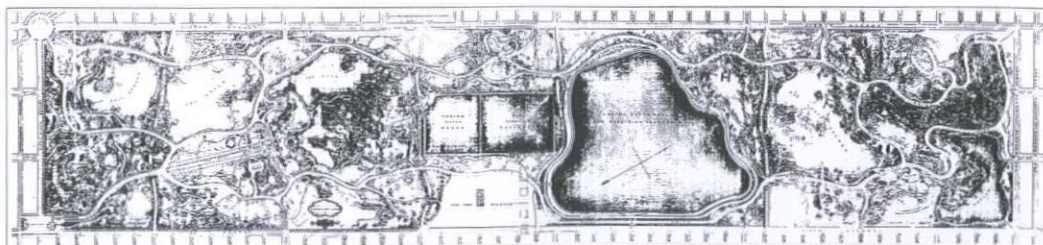
architect:Site

"a+u" 8612

The Pershing Square

architect:Ricardo Legorreta

"ar" 9407



人映す。風と光のメッセージ。

Beautiful

- シャッタービジョン
- アドビジョン
- ステンドビジョン
- グリルシャッター
- コンビネーションシャッター
- アルミ採光シャッター
- アルミファッショニングシャッター
- ジョイルック



Protection

- 無人制御シャッターシステム
- ケムカーテン
- ケムパネル
- 防煙シャッター
- 電動シャッター
- 避難路用防火とびら
- ジョイルックT60



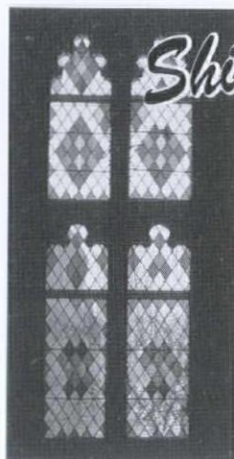
Swing

- オーバードア
- スイングドア
- イージードア
- クリアードア
- 大型シャッター
- 横引きシャッター
- 水平引きシャッター
- ホールディングゲート
- 無線装置
- 水圧解錠装置
- 水圧開放装置
- パニックオープナー



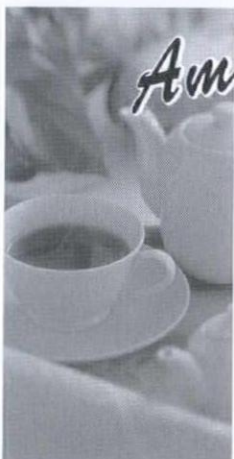
Shining

- 軽量スプリングシャッター
- 軽量電動シャッター
- ワイドスプリングシャッター
- マドンナ
- ホームシャッター
- TOYOシャッターブラインド
- 住宅用雨戸
- トップコート
- ベラホワイト



Amenity

- ラインナップ21
- クレーア
- 扉用ハンドル
- 家具用金物
- キメラ
- クレーアダプリー



Next

- BILLFINE
(省エネ・ビル外装改修システム)
- オフィスドア
- 劇場用扉 (防音ドア)
- 防火扉
- 防水扉
- 宅配受付玄関ドア



光と風を創造しながら、アーバンライフを彩る、新しい環境メッセージ。時にはエグゼクティブに、時にはファンタジックに。その扉を通して、人々との新たな始まりと出会いを発見してくれる。夢があり、潤いがあり、そして安らぎを感性ゆたかに演出してくれます。

TOYO Shutter

東洋シャッター株式会社

本社 大阪市中央区南新町1-2-10(T S ビル) 〒540 TEL 06-943-6571
東京本社 東京都港区六本木6-3-18(第一地所麻布ビル) 〒106 TEL 03-3479-2911

地方自治体のいわゆる「ハコモノ行政」によって、日本中いたるところに美術館が雨後の竹の子のように出現した。ここで美術館は社会的な善＝市民のための施設として無批判に生産され続けたわけであるが、これを可能としたカラクリとは何であろうか。

「公共の美術館という制度も同様で、外部に対して美術館(品)の存在を誇示する点からひたすら組み立てられている」という磯崎新の言葉からもわかるように、この美術館という制度が外部からの枠組みによって組み立てられており、そのかざりにおいて美術館は市民を啓蒙する教育的施設として、その社会性を暗黙のうちに承認されている。つまり、「芸術(品)」が美術館という制度によって枠づけられ、確立した価値を与えられているからこそ、社会的な善として承認され、市民に提供されうるという外的な論理によって組み立てられている。「ハコモノ行政」によって、市民はあくまで啓蒙されるべき対象でしかなかった。美術鑑賞とは本来個別の美学的判断によってなされるべきひとつの体験であるはずだが、そこで提供されるものとは個別の美学的判断による体験ではなく、制度によって確定された美学的価値(外的な価値)の確認作業でしかない。「ハコモノ行政」によって生産されてきたものとは、判で押した美術館という制度であり、美術体験を保証する「ハコ」ではなかったのだ。

このような制度としての美術館が作り出す問題点に対し、それを解きほぐし新たに美術館を組み立て直す可能性について考えてゆきたいのであるが、その足掛かりに磯崎の第三世代美術館という考えにふれてみたい。磯崎は美術館を制度的にみて、3つに分類しており、(詳しくは『GA JAPAN 2号』参照)、そのうち1960年代以降の現代美術の動向であるサイ

ト・スペシフィックな作品を展示？するものを第三世代美術館とし、その典型を自身の奈良町現代美術館に見ている。サイト・スペシフィックな作品とは作品自身が独自にサイトを生成するような作品、あるいは空間的な設置をするようなかたちをとり、ある意味ではそれまでの作品がもっていた可動性を否定する傾向を示す。このような作品を美術館がその内側に取り込もうとしたとき、コレクションをひとつの目標とする美術館は必然的に変質を余儀なくされる。つまり、ここにおいて芸術作品として扱われるのは物体に付着した「芸術作品」という記号情報ではなく、作品自身が独自に生成する可能態としての情報である。この第三世代美術館において私の注目する点とは、磯崎が建築家として行った「日月山水」という仮構によってそれぞれのパビリオンを取り結んだということではなく、サイト・スペシフィックな作品が生成しうる独自の内部的な視点(枠組み)であるといえる。この内部的な視点こそが、美術館としての制度を解体しうるひとつのキーワードであると考えられる。

さて、この内部的な視点を有する具体的な建築を見てみよう。ひとつめはスティープン・ホルのヘルシンキ現代美術館。まず最初にその異様な外観が目を引くが、言わずもがなそれは表現主義的なものではなく、ホール独自の現象学的な建築の組み立てによるものである。この建物はホールによってキアズマと名付けられているが、キアズマとは1.X字形交差または交差(視覚の)、2.切片の融合と交換……染色体交差点である。¹「a+u」のアンドリュウ・マックネアの評論によれば、「ホールはこの生殖過程における生物学的法則を、内部空間が無限に展開し続けるこの建物の原理として用いた」。この建物の内部空間

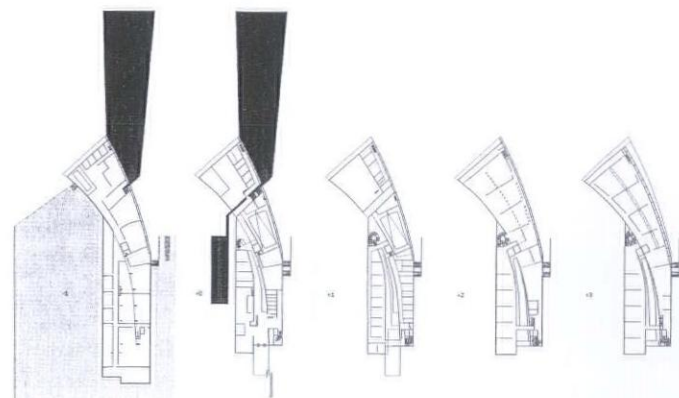
は様々なシークエンスが用意され、それを展開させる経路との組み合わせが多様な空間を形取っている。ヘルシンキという北の緯度の太陽の光を得るための建物のねじれが内部に変化を付け、不規則な内部空間の連なりが多様な内部体験の織り合わせを実現している。このような野心的な試みにも関わらず、その展示空間は微妙な差異を受け入れながら絵画の展示に適した中性的な空間を実現している。ヘルシンキ現代美術館は既存の美術館のビルディングタイプに属しながらも(第二世代美術館)、ホールの内部的な視点による徹底的な設計によって美術館の新たな局面をえぐり出している。

もうひとつはOMAによるクンストハルである。この建物は一見すると第二世代美術館のように見えるが、その特筆すべきは収蔵庫をもたない企画展のみを行う美術館であるということである。これは所有収集をしない新しい形式の美術館であり、いわばこの展示空間はサイト・スペシフィックなもの成立を可能にする開かれた場と見ることができよう。そしてその4つの展示空間は全くのニュートラルな空間というわけではなく、それぞれ特徴が付けられている。またこの建物もキアズマ同様に経路によって、内部的な視点を感じさせるトポロジカルな構造になっており、説明によれば「一連の経験が矛盾しながら、それにもかかわらずひとつの連続した螺旋を想像する」と、シークエンスの織りなしによる内部体験が語られている。クンストハルは収蔵庫をもたないという新しい美術館の形式を全面に打ち出すことによって、「芸術」作品の在り方に対し新たな問題提起を行い、また内部的な視点の導入によってこの新しい美術館の形式の可能性を引き出すことに成功している。

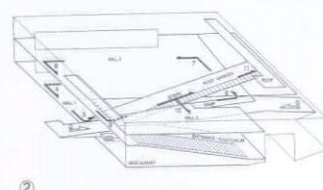
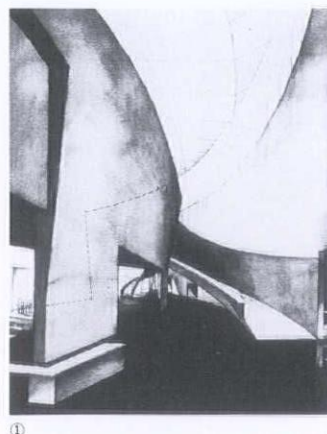
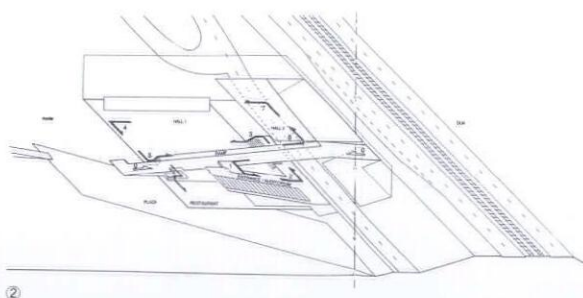
美術館 ハコの内部

丸橋浩

キアズマ/ヘルシンキ現代美術館——①
architect: Steven Holl
a+u 9310
GA Document43
クンストハル——②
architect: Rem Koolhaas, OMA
a+u 9408



①各階平面図(左から地階、1階、2階、3階、4階)



三協アルミ

better to BEST

暮らしにいちばんの快適さをお届けしたい。

住宅用建材からビル用建材まで。

三協アルミの技術です。



三協アルミニウム工業株式会社

本社: 〒933 富山県高岡市早川70 広報室 TEL 0766-20-2332

ALLIED BANK TOWER

1989年7月14日の革命記念日に、ミッテランによってフランス国立国会図書館の新築に関する公式発表がなされ、国際コンペで選ばれたのがドミニク・ペロー氏であった。

なぜグラン・プロジェの建築はいつもこんなに巨大なのだろうか。この施設は、総床面積250,000㎡で、400,000冊の蔵書と5,000種類の雑誌を備え、1,650の個人閲覧席があり、12,000,000世帯の需要と1日に20,000人の利用者に応えることができる。これはワシントンDCの国会図書館に次ぐ世界第2位の規模だという。一見してみると、図書館らしからぬ外観のこの建物は、地下4層、地上のタワーが24階で高さ100mもある。地下部分は380×200mの口の字型平面をしており、広大な中庭を取り囲んで周囲に周廊、読書室、会議室、講義室、オーディトリウム、レストラン、書庫、駐車場等が古典的構成でシメトリーに配されている。

コンコルド広場にも匹敵するほど広大な中庭には、樹木、ヒース、シダ等の植物が植えられており、昔懐かしくなるような自然の光景を作りだしている。周囲を取り巻く空間が、「地下下」であるということから、人々は都会の雑踏から逃れて、しかも閉所恐怖症に侵されずにすみながら、読書室で読書を楽しむことができる。そこには大きな修道院の回廊のように静寂で厳肅な空気があり、この空間の持つ雰囲気はドミニク・ペローが意図し、また建築物を公共建築として成立させているひとつの要素となっている。

公共建築においては、「維持管理」の意味するものがマネージメントとは別の領域にあるため、機能性や合理化の追求のみでは公共性は成立しない。真の意味で人々の「ためになる」空間を、階級差別なしに提供し、その上ある種のシンボリズムとモニュメンタリティを持つことが必要となってくる。この建築の場合、地上の一見平凡な商業建築の外観のように見える4本のタワーには、実は(彼のコンセプトから言うと)「本が開いて立っている様子」という、それ以上ないシンボリズムが秘められている。また、土地に根を据える広大な地下空間のボリュームと、地上空間の巨大なストラクチャーの対比によって明解で堅牢なモニュメンタリティが生み出されていることは言うまでもない。このシンボリックで巨大なボリュームの威厳が、この建築に公共性を与えるふたつめの要素となっている。ドミニク・ペロー氏は大胆にも「図書館」という公共建築を、機能が生々しく立ち上がる、巨大なミニマル・アーキテクチャーにしてしまった。

生々しさ(素材感)といえ、1992年に開催された、ギャラリー・ドノーズ・ルネでの「コンセプト/コンテクスト展」で、彼はこのプロジェクトに関して興味深いプレゼンテーションを行っている。4隅のタワーを木で作し、中庭部分には平らな鏡を置いて、鏡の上に草を載せただけのコンセプトモデルを提示している。それは彫刻作品のようであり、周りの環境に繊細に対応する彼の意識を伺い知ることができる。彼は鉛、真鍮、アルミニウムなどの金属と

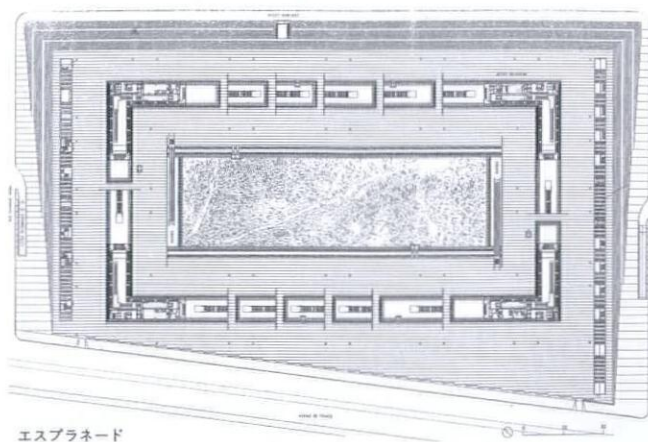
ガラス、木の素材の積層によって織りなされる素材感を生み出し、ボリュームの対比的表現と構成から具体的な建築のコンセプトを導き出していた。彼にとっては、広大な中庭空間の空隙——何もない空間を作り出すこと——と、巨大な4本のタワーが周囲の環境へ溶け込んでゆくことが非常に重要な意味を持っていた。実際に国立国会図書館の4本のタワーの表面は、ガラスの表皮の内側に第2の皮膚としての木製ルーバーがしつらえられ、暖かな皮膜が織りなされ、内部の機能的空間のヴォリュームに透明性を与えている。講義室には赤色の絨毯が敷かれ、ホールには鉄線で織られたタペストリーが張られている。エクステリアとしての建築、主張しない建築、機能とヴォリューム、あるいは空間のヒエラルキーを曖昧にしない建築を、公共施設(公共建築)としてつくり上げる事が彼の姿勢だった。

しかし、彼の意図とは裏腹に社会の「風当たり」は厳しく、タワーのヴォリュームがあまりに大きすぎるためにパリの景観にそぐわず、伝統を破壊しているとか、南洋材を大量に使用しているのは自然破壊であるとか、中庭を作ったのはよいが、せっかくのセーヌ川の景色がまるで見えず、ここはただの「ブラックホールだ」となどという非難が殺到している。彼の建築に対する「思い」とミニマルな思考が、公共建築のフィルターに通されると、図らずしもあらゆる批判を受け、違った思考へと変換されてしまうジレンマを設計者は感じ続けなければいけないのだろうか。

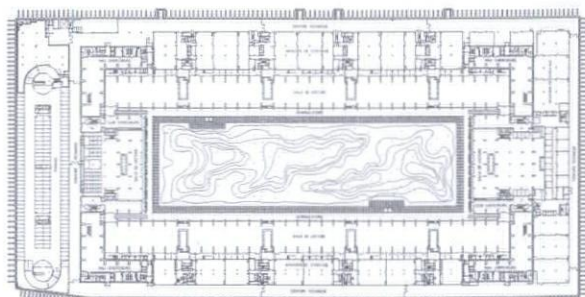
図書館という ミニマル・アーキテクチャー

岡本美樹

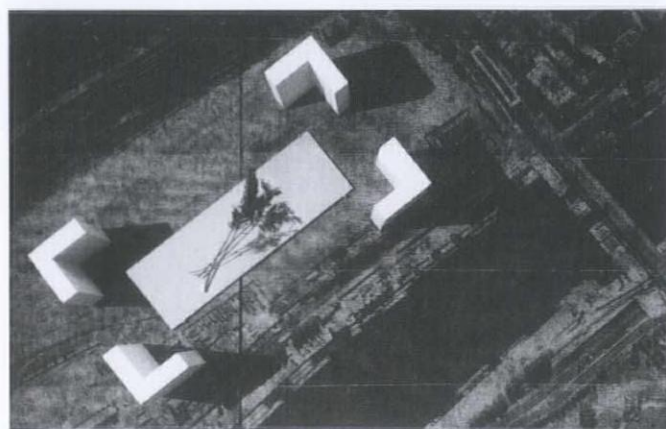
The New National Library in Paris
architect: Dominique Perrault
AMC9504
『デザインの現場』9304号



エスプラノード



庭園下階



〈コンセプト/コンテクスト展〉に出品した作品

間・ゴコロ。

高品質、信頼、今日性……そして何よりも心のふれあい。私たちが創造する空間には、いつの時代にも感動の花を咲かせてきた百貨店の、真心がこめられています。オフィスからリゾートまで、生活に関わるあらゆる環境をそのココロでクリエイトします。三越のインテリア。



MITSUKOSHI

株式会社 三越 建装事業本部

〒103-01 東京都中央区日本橋室町1-4-1 TEL./03-3241-3311(大代表)
大阪・札幌・横浜・仙台・倉敷・広島・高松・松山・新潟・金沢・福岡・鹿児島

最近モダニズムの再考が盛んである。例えば写真におけるモダニズムを考えると、A.スティーグリッツ初期のピクトリアリズム、つまり写真被対象物に写真家の心像を投影するような絵画的な全体的統一性がどんどん解体してゆき、対象は断片的に対象周囲のコンテクストから自立させるような手法が見られるようになる。そして、その断片化した要素は「モノ」のレベルに還元される。以上のことは建築においても非常に示唆深いものと思われる。建築におけるモダニズムも建築言語の全体的な意味体系からの切断および断片化（カットアップ）し、「モノ」のレベルに還元化（デブラスマン）された建築要素による形態アッサンブラージュであった。このことはコルビュジエらの柱・梁への還元、横文彦らのコラージュの手法をみることもによって納得することができる。さらに言うならば、未だにあらゆる建築家はカットアップ／デブラスマン／アッサンブラージュの呪縛から離れることができないように思われる。ここで重要なのはこのカットアップ／デブラスマン／アッサンブラージュを可能にする等質的な空間の存在である。このモダニズムを支える空間は諸エレメントをドミナントに統御するエーテルとして働く。例えば、機能という概念はその例である。平等とか機能というエーテルに浸った自由なエレメントの再構成。そしてカットアップ／デブラスマン／アッサンブラージュの形態アルゴリズムを保証するものとして、エーテルに連動化した垂直／水平のパラメータ。このようなエーテルこそ力であり、とりわけモダニズムが本来内的な統御実体であるエーテルが機能という形を採ったため、外的な資本論理等によって取り込まれ、貝島・塚本両氏の言うような「追い風」をある時期受けたと考える。しかし、モダニ

ズムはそのようなエーテルによってのみ可能だったのであろうか。そこで、この論考では以上の様あらゆる建築家（優劣問わず）に「ほふられ」続けた部分ではなく、モダニズムの「ハードコア」を探究する試みである。

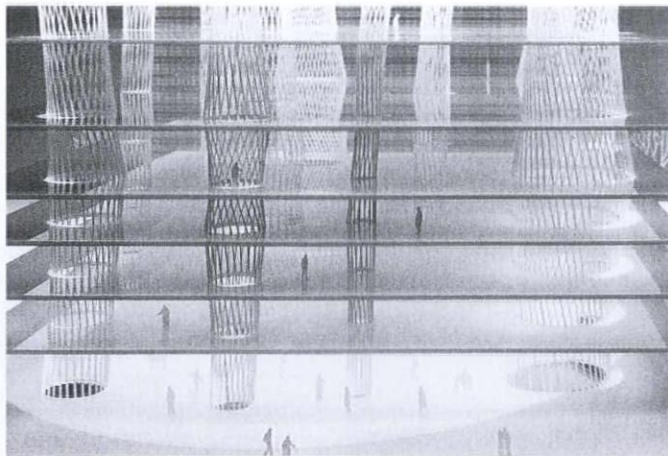
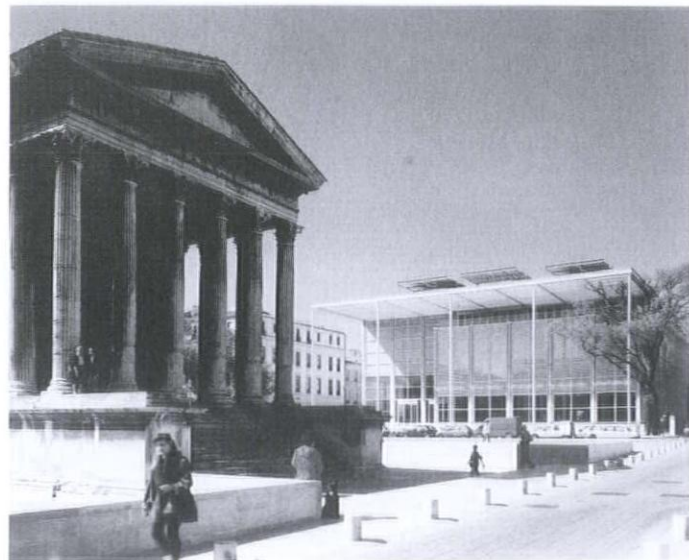
メディアテークとは新しいビルディングタイプに属するものであるが、この「メディア」とは現代においては情報を媒介するという意味で通常使われるであろう。フォスターのメディアテークは活版印刷の出現以来、王侯貴族や聖職者たちだけの「超」特権階級からの知の解放の終末形態とも言える。数学的な規則性を持ったファサードの建築は、広いオープンな広場を介して厳密なオーダーに支配された建築（メゾン・カレ）に向かい合う。知＝情報がより透明性を持ち、あらゆる人種を超えて平等にかつ均等に到達可能であることの、そしてある種の権威に実は密着してこそ合理的な精神の中でその平等性が達せられることの建築的な表象とも言える。フォスターのメディアテークは、平等とか機能というエーテルを予定調和的な力として成立しているものである。それに対して伊東豊雄のメディアテークは以上の平等とか機能というエーテルの予定調和的な力以外のモダニズムのアルゴリズム／構成原理を再発見しているように思う。そのアルゴリズムとはハイパーウェーブな躍動力に基づくものであり、つまりモダニズムの「ハードコア」の部分である。現代のハイパーテキストを先取りする試みであるJ.ジョイスの「フィネガンズ・ウェイク」はモダニズムの「ハードコア」を探究している例と言えよう。現代においてメディアとは、まさしく次元を拡張するという意味でのハイパーメディアであり、フォスターが目指すような予定調和的なメディア観とは程遠いと思

うのだ。伊東豊雄のメディアテークはスラブ類同物である「プレート」、構造体類同物である「チューブ」とインターフェース類同物である「スキン」からなっている。この建築に注目したいのは「チューブ」が従来の柱の構造的な等価物ではなく、スキンでもあり、プレートでもあるということの可能性である。たまたまこの当選案は美学的に3つの構成要素の差異をあからさまにしているが、このチューブがより肥大化してゆき、そのチューブの中でまたチューブが発生するというように3つの境界を曖昧にした時、いわゆる「静的なメディア」を支える垂直／水平のパラメータが解体し、ハイパーメディアが建築において表象されだすと言える。確かにこの建築においては、「プレート」は物理的に成立しうる最低の厚みになっており、物理的な水平面が重なるというより、互換可能な場がハイパーウェーブな「チューブ」の周りに仮想平面として取り巻いているぐらいのものだと考えることもできよう。そういう意味において、垂直性と水平性はそれぞれ独立なパラメータとはなっていない。公共性はハイパーメディアが登場する以前、ある特定のつまり王であり、宗教の領域に体现された。が、この電子情報社会においては公共性がある特定の領域に集中するような静的な空間は存在しない（はずだ）。それ故、もはや「静的なメディア」を支える垂直／水平のパラメータ内で還元された諸要素のアッサンブラージュではない、「一＝多」元論的に建築を構成していくアルゴリズムがメディアテークという新しいビルディングタイプにおける力であれば、これからますます加速化するサイバークapitalism／電脳資本主義による「追い風」を受けるのではないか。

メディアテークは何を表徴するか

田中大介

Un Carré d'art à Nîmes
architect: Norman Foster
"tA9309"
せんだいメディアテーク
設計：伊東豊雄



小松ウォール

間仕切の総合メーカー

感

動

大

空

間

東京国際展示場

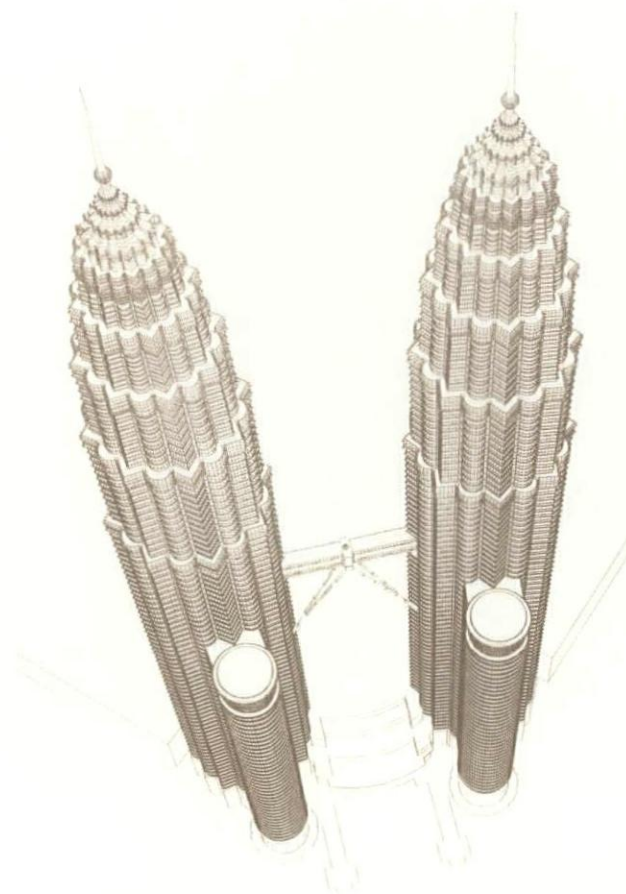
大/型/移/動/壁
小松ランニング

操作性・耐久性・安全性、そして遮音性に抜群のクオリティを誇る「小松ランニング」は、従来までの移動間仕切の常識をはるかに超越した大型移動壁です。超大型壁面であってもわずか2人でスムーズに可動させることが出来、短時間で思いのままの空間創りを可能としました。豊かな装飾性も合わせもち、ホテル、美術館、結婚式場、学校、文化施設等の空間の自由設計に多大のユーティリティを発揮しています。

小松ウォール工業株式会社

本社/〒923 石川県小松市工業団地1-72 ☎0761-21-3131代

支店・営業所 札幌・函館・仙台・福島・宇都宮・水戸・大宮・前橋・多摩・東京・新宿・横浜・千葉・新潟・富山・金沢・福井・長野・松本・静岡・名古屋・京都・大阪・和歌山・神戸・岡山・広島・高松・松山・福岡・熊本・佐賀・鹿児島



クアラルンプール・ペトロナスタワー

9510

特集1

ペリinアジア——シーザー・ペリの新作

福岡のシーホークホテル、新宿のNTT本社ビルとたて続けに日本での作品が完成し、コンペで勝ち取ったクアラルンプールの超高層ビルは現在工事中と、近年、ペリのアジアでの仕事が注目されている。本特集では、新作を紹介しながら、ペリのアジアの都市への視線を探ろうとするものである。

[作品]

シーホークホテル&リゾート、NTT新宿ビル、クアラルンプール・ペトロナスタワー、他。

[論文] シーザー・ペリ、横文彦、片岡博之

特集2

タワーアート・プロジェクト

大阪らしさの一端を担う新世界周辺と通天閣。新世界の「場所性」と通天閣の「塔の意味」を再考しつつ、次世紀への新たな塔の提案を、関西在住の彫刻家、造形作家、建築家、デザイナーが造形によって試みる。通天閣で開かれる展覧会のレポート

[出展作家] 遠藤秀平、太田直樹、長坂大、橋本満、新田正樹、他全44名

[対談] 東孝光×橋爪紳也 [文] 飯島洋一 [写真] 堀内広治

新連載

apple tomology / トムの時空形象学

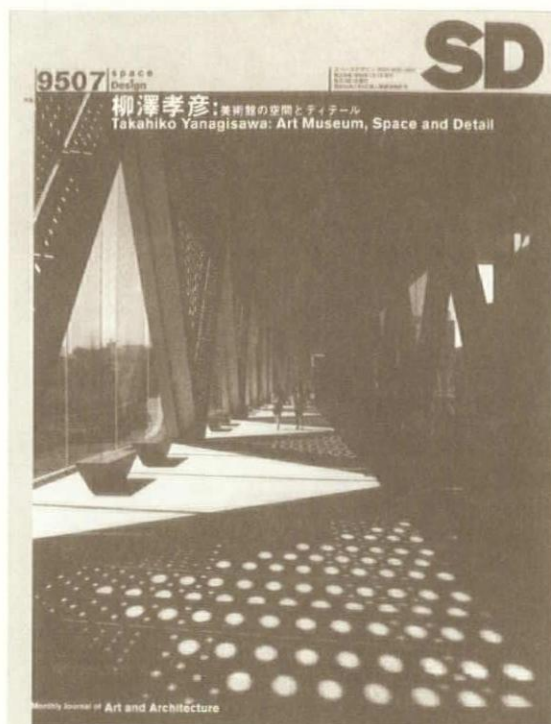
人類が自然の原理を詮索し始めた頃から、近代のトポロジー、量子力学へと、今日のハイテクの基となった科学思想の元に、数理的造形の不思議で楽しい世界について紹介する。

第1回：たためる多面体 92面体の照明器具

[文] 戸村浩

SD

バックナンバー



9507

特集

柳澤孝彦

——美術館の空間とディテール

第二国立劇場、東京都現代美術館などの公共建築を手掛け、一連の美術館建築で1994年度日本芸術院賞を受賞した柳澤孝彦の5つの美術館を紹介する。4つのキーワード（光、素材、地勢、シルエット）をもとに、端正な空間とディテールを写真、図面で追う。

〔作品〕

窪田空穂記念館、東京都現代美術館、真鶴町立中川一政美術館、郡山市立美術館、富岡市立美術館・福沢一郎記念美術館

〔論文〕

内藤廣、青木淳、大野秀敏、鈴木博之、柳澤孝彦

〔鼎談〕

宇佐美圭司・柏木博・柳澤孝彦

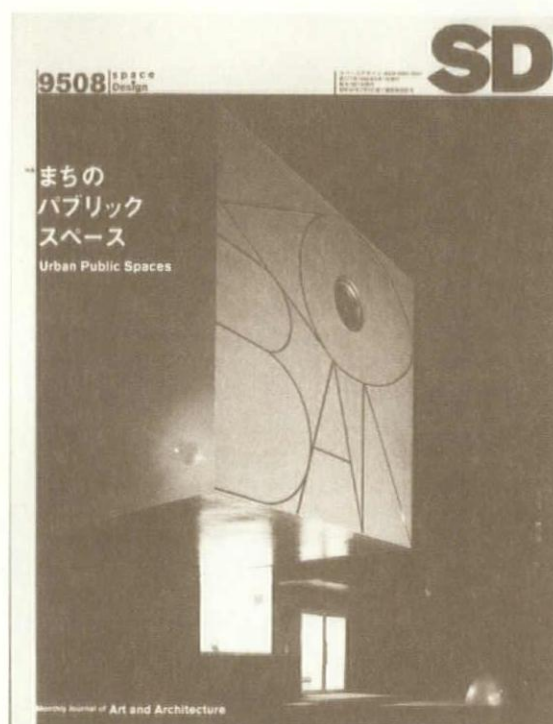
連載：時分の花／ディテール写真館10——ヴァヴアン街のアパート、芸術家のアトリエ

写真十文＝下村純一

連載：建築における美学の応用6（最終回）——即興と建築、漢字と日本建築

文＝エメリッヒ・シモンチッチ

特別定価＝2,700円／本体2,621円



9508

特集

まちのパブリックスペース

——小さな公共施設たち

派出所、公衆トイレ、橋、公園などの公共的・日常的な施設が、近年、アトリエ系の建築家によって手掛けられてきている。これまで彼等があまり扱ってこなかった、これらの社会的あるいは現実的と言える領域での、デザインの展開を紹介する。

〔作品〕

桜田門の交番、調布駅北口交番、KANBAN KOBAN、Cycle Station 米原、つくば南駐車場、ゆうステーション屋外トイレ、中村冒険パーク、白川橋景観整備プロジェクト、他。

〔文〕

中川 理、仙田 満

〔座談会〕

青木 淳・中川 理・花田佳明

〔アンケート〕

伊東豊雄、岸 和郎、北川原 温、黒川哲郎、妹島和世、長島孝一、平倉直子、藤江和子、藤木隆男、葉 祥栄、横河 健、六角鬼丈、若林広幸、他。

デジタル・アーバンデザイン

コンピュータによる景観シミュレーションから都市デザインへの可能性を探る。

〔文〕

石塚雅明・柳田良造

連載：時分の花／ディテール写真館11——シュレーダー邸、バルセロナ・パビリオン

写真十文＝下村純一

定価＝1,950円／本体1,893円

新宿西口に完成した「新宿アイランド」は、超高層ビルを中心に、幾つかの棟が寄り集まった複合建築群を形成している。その足元の公共空間に、現代抽象美術の重要なムーブメントを代表する国内外の10人のアーティストによる、空間に呼応して制作された作品が、覇を競うように設置されている。本別冊では、建築設計者とアートコンサルタントによる緊密な共同作業や、彼らとアーティストとの綿密なコラボレーションの過程を追い、制作から設置までの作業を記録し、完成した作品と建築空間、都市空間との関わりを多くの写真で伝え、この類まれなプロジェクトの全貌を伝えようとするものである。

SD誌では、美術評論家南條史生をゲスト・エディターに、「現代美術のための空間——1991年3月号」、「アートがつくる公共空間——1992年11月号」、「アートがつくるワークプレイス——1994年6月号」の3号の、現代アートと建築空間のかかわりに焦点をあてた特集号を発行してきたが、本号はその続編にあたる。

[アーティスト]

ダニエル・ビュラン、ルチアーノ・ファブロ、ロバート・インディアナ、ソル・ルウィット、ロイ・リキテンスタイン、長沢英俊、西川勝人、ジュリオ・パオリーニ、ジュゼッペ・ペノーネ、ジルベルト・ゾリオ

[解説・批評]

六鹿正治、南條史生、児島やよい
柏木博、松葉一清、酒井忠康、峯村敏明、
国吉直行、松岡拓公雄

[写真]

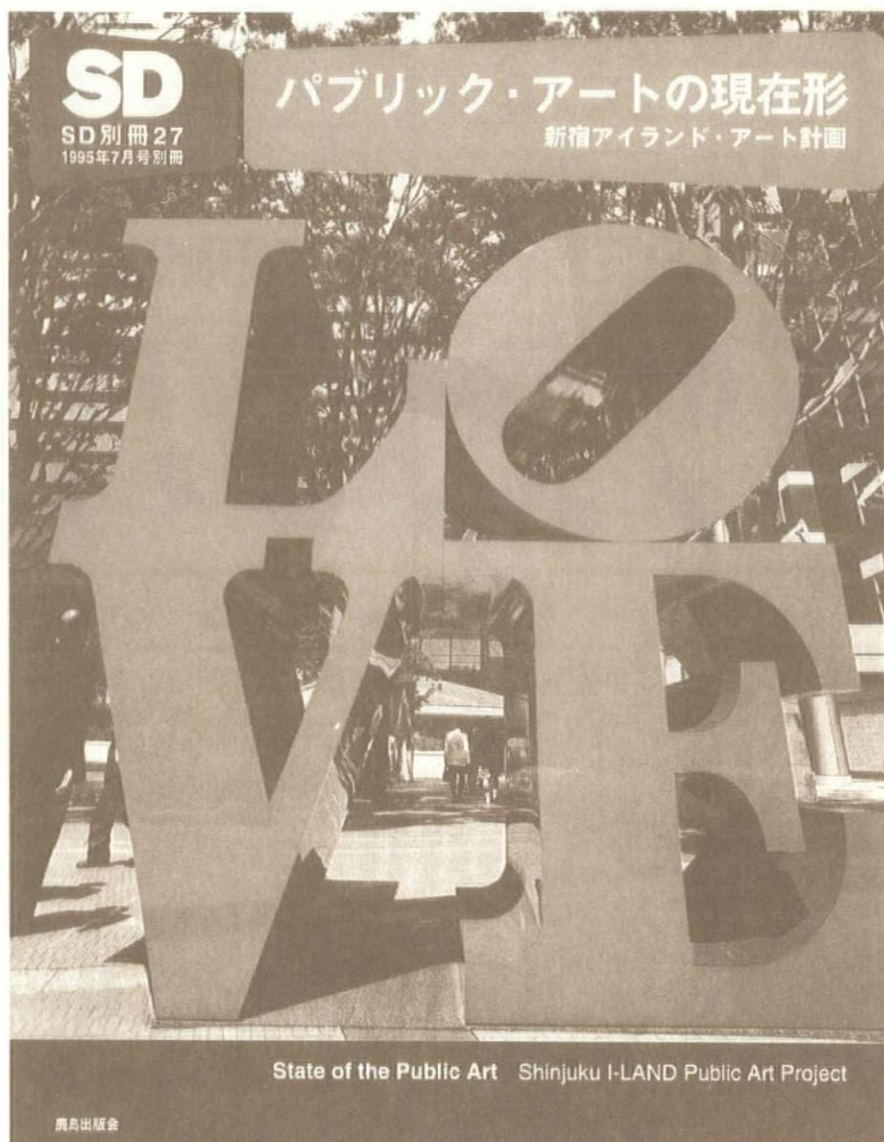
村井修

総頁：130頁

判型：A4判変形

定価：4050円

好評発売中



SD別冊27号

パブリック・アートの 現在形

新宿アイランド・アート計画

SD

建築関連雑誌

ARCHITECTURAL MAGAZINES' BACK NUMBER FAIR

バックナンバーフェア

'95.10/1(日) ~ 10/31(火)

建築関連雑誌出版社 8 社の協賛により、バックナンバー
17誌を一堂に出品。全国主要都市の31書店で同時開催。

■出品出版社・出品予定誌

(株)エー・アンド・ユー [a+u]

(株)鹿島出版会 [SD]

(株)建築技術 [建築技術]

(株)建築資料研究社 [住宅建築・CONFORT]

(株)建築知識 [建築知識・建築知識スーパーブック]

(株)彰国社 [建築文化・施工・ディテール]

(株)商店建築社 [商店建築・別冊・増刊・Wind]

(株)新建築社 [新建築・住宅特集・JA]

全国31書店
同時開催

北海道

■札幌 丸善 札幌南一条店 4階
TEL.011-241-7251
東京旭屋書店 札幌店 B1階
TEL.011-241-3007

東北地方

■仙台 丸善 仙台一番町店
TEL.022-224-8018

中部地方

■静岡 静岡谷島屋本店 1階 TEL.054-254-1301
■長野 平安堂 長野店 2階 TEL.0262-26-4545
■松本 平安堂 南松本店 1階 TEL.0263-86-8585
■名古屋 丸善 名古屋栄店 2階 TEL.052-261-2251
■新潟 紀伊國屋書店 新潟店 2階 TEL.025-241-5281
■富山 BOOKSなかだ 本店 1階 TEL.0764-92-1192
(9/15~10/31)
■金沢 うつのみや本店 3階 TEL.0762-34-8111

関東地方

■宇都宮 宇都宮ブックセンター 2階
TEL.0286-27-7700
■千葉 千葉そごうブックセンター 8階
TEL.043-245-8331
■東京 八重洲ブックセンター 本店 3階
(10/2~10/31) TEL.03-3281-1811
紀伊國屋書店 新宿本店 4階
TEL.03-3354-0144
三省堂 神田本店 5階
TEL.03-3233-3312
大盛堂書店 5階
TEL.03-3463-0511
■横浜 有隣堂 本店 3階
TEL.045-261-1231
■藤沢 有隣堂 藤沢店 4階
TEL.0466-26-1411

中国地方

■岡山 丸善 岡山シンフォニービル店 B1階
(10/7~11/5) TEL.086-233-4640
■広島 丸善 広島本通店 3階
TEL.082-245-1869

近畿地方

■京都 丸善 京都河原町店 3階 (11/1~11/30)
TEL.075-241-2168
■大阪 旭屋書店 本店 4階
TEL.06-313-1191
紀伊國屋書店 梅田店 1階 (10/4~10/24)
TEL.06-372-5821
■神戸 ジュンク堂書店ブックセンター 3階
TEL.078-252-0777
■姫路 ジュンク堂書店 姫路店 7階
TEL.0792-21-3167

四国地方

■高松 宮脇書店 本店 2階 TEL.0878-51-3733
■松山 紀伊國屋書店 松山店 3階 TEL.0899-32-0005

九州地方

■福岡 紀伊國屋書店 福岡店 6階 TEL.092-721-7755
■北九州 黒崎井筒屋ブックセンター 2階 TEL.093-643-5520
■熊本 紀伊國屋書店 熊本店 2階 TEL.096-322-5531 (10/5~11/5)
■大分 本町晃星堂書店 2階 (10/1~12/30) TEL.0975-33-0231

※一部の書店では開催期間が異なります。

テクノスケープ 都市基盤の技術とデザイン

片木篤著

四六判・248頁 定価2,987円

鉄道、水路、上下水道、ガス等近代都市基盤を構成する要素を、移動する物、経路、起点・終点の3点に着目して、その技術とデザインを分析する。近代技術が生み出した新たな都市空間の特性を概観し、近代の枠組を問う試み。

庭園の詩学

C.W.ムーア、W.J.ミッチェル、
W.ターンブルJr共著 有岡孝訳
A5判・304頁 定価4,841円

主に中国、日本、イスラムの庭園を取り上げ、庭園の空間を構成する基本的な手法を解明する。目次：①場所の精神、②デザイナーによってつくられる場所、③過去の場所(しつらい・収集・巡礼・パターン)、④私たちの場所

ビルディング・エンベロプ 建物の外装のデザインと技術

アランJ・ブルックス、クリス・クレグ共著
難波和彦・佐々木睦朗監訳
B5判・148頁 定価4,635円

本書は、建築デザインの今日的潮流と、先進的工法を新しい技術とともに紹介し、ここ10年の技術的な発展に関する総合的な最新情報を提供している。話題の33事例のデザインとディテールを豊富に写真・図面と簡潔な説明で概観する。

超級アジア・モダン 同時代としてのアジア建築

村松伸著
四六判・272頁 定価2,575円

本書はアジア各都市で活躍するアジアの若手建築家達の紹介を通して、急激に変貌を遂げつつある隣国の都市、建築界の状況を述べるもの。筆者は数年をかけて現地取材し、足で歩いたアジア現代都市論にもなっている。

[SDライブラリー]⑩

圏外からの建築 映画・写真・鏡・身体

ダイアナ・アグレスト著 大島哲蔵訳
A5判・260頁 定価3,708円

著者アグレストは、本書の9つの章を通して、映画、写真、鏡、身体を参照しながら、機能主義に代表される硬直化したモダニズム都市イデオロギーを批判する。現代の問題の根幹をなす論点が縦横に展開される。

架空旅行記

池内 紀著
四六判・200頁 定価2,575円

海の彼方の世界がまだ想像の域を出なかった時代、人々は様々な書物や事物から未知の世界を想像した。やがて交通の発達により「彼方の幻想の土地」に出かけて行く。幅広い知識に裏打ちされた著者の、「空想の旅」のエッセイ集。

建築語源考 技術はコトバなり

飯塚五郎蔵著
四六判・168頁 定価2,163円

建築のコトバは豊かで美しい。しかしそれは建築に携わる者にとってさえ耳なれぬものも多い。日本に伝わるその美しきコトバが著者の永年の経験から読み解かれていく。教養人の知的興味を誘うこと請合ひのエッセイ集。図版多数。

都市と建築の パブリックスペース ヘルツベルハーの建築講義録

ヘルマン・ヘルツベルハー著 森島清太訳
B5判・272頁 定価6,901円

オランダを代表する現代建築の旗手ヘルツベルハーが、古今東西の名建築や自身の作品を例にあげ、魅力的な建築や活気あるスペースの設計法を講義する、まさに学生や建築設計者にとって格好なバイブルとなる必携の書！

人気急上昇

予約申込殺到!!

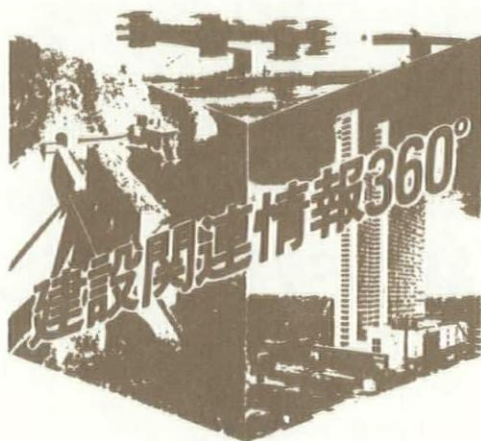
年間予約購読、郵送制

書店ではお求めになれません

月刊

ダルトンレポート

DALTON REPORT



9508号 目次

●特集●建設産業は「顔の見える援助」の担い手

- わいどあぐる ●新トレンド・外食産業が「健康メニュー」で売上げ増/円高メリット・パソコンは2年で4分の1の価格へ
 - 霞が関ホットライン ●景気足踏み、デフレ色強まる/「無保証」に慎重な取扱いを要請
 - 阪神復興 ●神戸市に経済特区/神戸市が地域別復興計画案
 - 列島を拓く ●「東京湾口道路」、トンネル案も本格検討
 - ただいま研究中 ●骨材吸着力向上を図る改質アスファルト乳剤研究/写真廃液からブロック骨材
 - 学会・協会・業界 ●ISO14000、自治体の3割が入札審査で考慮/中小建設業者が海外資材を共同購入
 - こんなモノつくりました ●墨だし作業が容易ーレーザー受光器を開発
 - こんな方法考えました ●新視点・外壁タイルがはく離しても落下しない工法を開発/型枠支保工を各階で再利用
 - コンピュータ ●建築指導要綱をCD-ROM化/品質保証業務を支援ーISO9000シリーズに対応
 - ハウジング ●建築確認不要ートレーラハウス発売/契約段階で住宅引渡日特定
- ▶ 今月の「拾出し」 ◀ 円高受け、輸入住宅急拡大
- 用語・語録 ●社内預金金利

建設マンのための気楽に読めるユニークな建設情報誌です。

- 忙しいあなたに代って必要な情報を収集・整理してお届けします。
- これさえ読んでいれば高度情報化社会で遅れをとることはありません。

購読のお申し込みは今すぐに!
大変割安な定期購読料金です。

ただいま定期購読のお申込みを受付けています。
申込書用紙をきりとり、もれなくご記入のうえ、ハガキに
全面のり付け貼付し、下記までお送りください。
※お申込みは個人名でおねがいします。

購読申込書の送り先

〒107 東京都港区赤坂6-5-13

㈱鹿島出版会 情報システム事業部

ダルトンレポート読者係 ☎(03)5561-2553

- 定期購読料 1年購読(12冊) 4,900円(税込)
- (送料共) 3年購読(36冊) 9,800円(税込)

※購読料金のお支払いは、ダルトンレポート本誌に添付の
郵便振替用紙でお近くの郵便局からお払込みください。

□新規購読申込

SD

フリガナ
お名前

ご自宅 〒
住所

お勤め先
(職種)

該当の
ものに
○印を

ご専門
ご担当

建築 土木 機械 電気 事務 ほか
設計 施工 管理 営業 経理 ほか

購読期間(☑印をつけてください)

☐ 1年

☐ 3年



9405 Modern Architecture of Eastern Germany: Focus on Expressionist architecture: H. Poelzig; Talsperre, E. Mendelsohn; Hutkabrik, Einsteinurm, B. Taut; Grabmal Wissinger, Schulkomplex am Nordnerplatz, W. Gropius; Bauhaus, J. Giesing; August-Bebel Realshule, etc. ¥ 1,950



9406 Art in the Workplace: Observes and verifies 'Space for Contemporary Art' SD9103 and 'Art and public Space' SD9211, this is the third in the series investigating relationships between art and space. Text: Fumio Nanjo, Dana Friis-Hansen. Interview: Marjory Jacobson. ¥ 2,500



9407 The Works of Peter Walker: Minimalism and Landscape Architecture; Introduces Peter Walker William Johnson and Partners' main works and future projects: Tokio Marin Oyama Training Center, Center for the Advanced Science and Technology, Marugame Station Plaza, IBM Japan Makuhari, Solana, Hotel Kempinsky, Europa-Haus, Longacres Park, etc. ¥ 2,200



9408 Massimiliano Fuksas: His recent works; School Saint-Exupery, Graffiti's Museum of Niaux's Cave, Brest City Center university, Sports Complex, Housing, Parking, etc. Text: Doriana O. Mandrelli, Otto Steidle, Hideto Horiike. **Rumanian Orthodox Churches in Mordovia:** Four churches built 16th century. Photos; Takeshi Taira. Text: Yoshi Yamazaki, Riichi Miyake. ¥ 1,950



9409 Ideas and Approaches to Architecture and the City: A New U.S. East Coast Movement; Introduces 11 architects. B. Shirdel / J. Kipnis, Michael Sorkin Studio, S. de Martino, A. Wall, RAAUm, W. Jones, A. Zago, Pollari X Somol, G. Rynn, D. Garofalo, M. Rakatansky. Texts; Tsuyoshi Matsuhata. **Recent Work by TAO ARCHITECTS / Shuntaro Noda:** Photos; Kouji Horiuchi, Text; Youichi Iijima. ¥ 1,950



9410 Torroja's Legacy of Structure and Space: The contemporary meaning of Eduardo Torroja. Works; Madrid Racecourse at Zarzuela, Market at Algeciras, Pont de Suert Church, etc. Discussion; Norihide Imagawa, Keiichi Irie. **Rebirth As a City of the Arts: Gibellina Nuova, Italy:** Urban development and architecture in Italy. Photos, Texts and Interviews; Masaru Miyawaki. ¥ 1,950



9411 Airport Architecture as the Nexus of the City: Featuring Kansai International Airport Passenger Terminal Bldg. And 21 airport terminal buildings in the world; Stansted, Denver, Chicago O'Hare, Stuttgart, San Pablo, King Abdul Aziz in Jeddah, New Seoul Metropolitan, Chek Lap Kok in Hong Kong, etc. Texts; Deyan Sudjic, Paul Andreu, Hiroyoshi Yamada, Noriaki Okabe, etc. ¥ 3,500



9412 SD Review 1994: Featureing SD Review 1994: The 13th Exhibition of Winning Architectural Models and Drawings. Text: Naoyuki Takashima, etc. **International Collaboration Project: The Children's Village in Oswiecim:** Architect: Mario Botta, Fumio Maki, etc. **Projet pour La Chapelle de St. Viogor de Mieux par Takubo 2.** ¥ 1,950



9501 Riken Yamamoto: Introducing his works for last 5 years. Ryokuentoshi=Inter-Junction City, Takashimacho Gate of the Yokohama Expo'89, Day Care Center for the Geriatric Patients, Junior High School in Iwadeyama, House in Kamakura, House in Okayama, etc. Text by Riken Yamamoto, tom Heneghan, Motomu Uno. ¥ 3,000



9502 Baroque Architecture in Sicily and Lecce: Features the distinctive Baroque style resulting from the mingling of Roman Baroque and the indigenous ancient Grecian and Hellenistic cultures. Introduces Palazzo Spadaro, etc. Photos: Ichiro Ono. Text: Hirohide Yakeyama, Masanobu Hasegawa, Satoshi Okada. ¥ 1,950



9503 Multi-unit Housing Today: Introduce architects who have made many multi-unit housing recently and their works. Masahiko Araki: Living Alley, Takao Endo: Higashi-Osaka Yoshita Public Housing Complex, Hidetoshi Ohno: YKK Namerikawa Dormitory, Yuzuru Tominaga: Shinchu Housing-C, Yasumitsu Matsunaga: Project 951, Makoto Motokura: Seikousou. ¥ 1,950



9504 Scenes from the Technoscape: Focus some scenes or landscape constructed by industrial facilities, civil engineering structures, etc. Introduce Wind Firm, The Thames Barrier, The Arecibo Observatory, The Kurobe Dam, Shiobara Hydro-Electric Power Station, Kasai Sewage Processing Plant, Trans-Tokyo Bay Highway, Drilling Platform, Japan Microgravity Center, Circular Farm, etc. ¥ 3,000



9405 Mega Architecture: Recent Works of Paul Andreu: Introduces some of Andreu's many monumentalscale buildings, railway stations, sports stadiums, and other works. Feature on **The Creation of the Foreign Settlement in Kobe and Its Development.** ¥ 1,950



9506 The Potential for Using Computers in Architecture: Examines how architecture is being influenced by the use of computers. Architects: Neil Denari, Peter Eisenman, Keiichi Irie, Toyo Ito, Hani Rashid, ARX, Kengo Kuma, Makoto Sei Watanabe, etc.. **Mysterious Design Drawing Exhibition:** T.Ara, F.Enomoto, S.Hisada, N. Iijima, E. Sottsass, S.uchida, etc.. ¥ 1,950



9507 Takahiko Yanagisawa: Art Museum Space and Detail: Features five museums by Takahiko Yanagisawa, who won the competition for the Second National Theater in 1986. Museums introduced: Utsubo Kubota Memorial Museum; Museum of Contemporary Art, Tokyo; Kazumasa Nakagawa Art Museum, Manazuru; Kiriyama City Museum of Art; etc.. ¥ 2,700



9508 Urban Public Spaces: Features small public facilities designed by architects. Architects: Atsushi Kitagawara, Naoko Hirakura, Shuichi Kitamura, Toyo Ito, Waro Kishi, Kazuko Fujie, Atelier Zo, Koichi Nagashima, Mitsuru Senda, etc. **Digital Urban Design: The New Language for Design Cities:** Introduces new methods by Yanagida Ishizuka & Associates. ¥ 1,950



Space Design
Hardcover Edition
and Order Form

Space Design published its first issue in 1965 as a monthly journal for a general readership introducing noteworthy achievements and leading works in the fields of architecture, urban problems, design, and the fine arts. The journal has established a solid reputation over the years in the fields of architecture and design. It enjoys the support of a broad readership in an age when up-to-date information on contemporary design, urban planning, and architecture is in heavy demand. SD endeavors to make its features and articles ever richer in content, focusing attention on the methodological, and aesthetic themes of modern architecture, the city, design, and the arts. The text of SD is mainly in Japanese, but in certain cases English translations or summaries are provided for feature articles.

Send your order for subscriptions to Space Design and/or for back issues or hardcover editions by:

Filling in the order card below and faxing it to:
Space Design: 81-3-5561-2560

Or mail the card to:

Subscriptions Department
Kajima Institute Publishing Co., Ltd.
6-5-13 Akasaka, Minato-ku,
Tokyo 107, Japan
tel: 81-3-5561-2550

An invoice will be sent immediately. Upon receipt of the invoice, you may pay by check or international money order or bank check.

Order Card

Name (in block letters please):

Address:

Fax number (if available):

Occupation:

Please check one of the options below:

☐ Please enter my SUBSCRIPTION to
Space Design,
starting in _____, 1994

	sea mail	air mail
12 issues	¥30,000	¥55,000
24 issues	¥50,000	¥80,000

Price includes postage and bank charges.

☐ Please process my order for the following BACK ISSUES and/or HARDCOVER EDITIONS of SD:

The invoice includes:

1. Price of the publication
2. Bank charges(¥1,500 per order)
3. Postage(determined upon receipt of order)

Alvar Aalto

A special comprehensive architect Alvar Aalto Vocabulary, by Review of A. Aalto's Distribution of Alvar

Tadao Ando 2

His 21 works since Light are classified introduced at one drawing of Nakano feel his vigorous ap

Arata Isozaki 2

Introduces whole 1976-1984, especially kuba Center Building Saudi Arabia, M Okanoyama Graph

Kiyonori Kikutake

Collection of Metal from the early year Third Generation, C Phase of Methodo of Works ¥3,090

Kisho Kurokawa 2

13 major works Hiroshima City M which won 1990 Institute of Japan introduced. ¥4,300

Seiichi Shirai

Introduces a collection of the gem-like works by Seiichi Shirai, an architect of proud loneliness. Kaisetsu-kan, Noa Building, Sei-Akira-kan, Sasetsuken, Kohakuan, etc. Essays by Arata Isozaki, Ichiro Haryuu, Ikuma Shirai ¥ 3,605

Atelier Zo

Presents the first collection of the works by Atelier Zo who has continuously brought forth fresh works by their original formative ideas. Nago City Hall, Shinsyukan Community Center, etc. Essay by Hiroshi Aramata ¥4,000

Kenzo Tange 3

29 projects are introduced at a stroke so that his footwork in 1980's can be seen. Also, the noticeable new Tokyo City Hall is introduced through many drawings and photographs of new model. Full English text. ¥4,100

Fumihiko Maki 2

Presents the second collection of Maki's works which show his activities in 1980s. Spiral, Keio University Hiyoshi Library, Fujisawa Municipal Gymnasium, Hillside Plaza, Tokyo Metropolitan Gymnasium, etc. ¥4,326

Toyo Ito

9 projects of his semi-permeable architectures such as restaurant NOMAD and Silver Hut and 11 projects of Transformations by Light are introduced. The Shinorama Space by Kishin Shinoyama shows White U. ¥3,900

鹿島出版会発行図書・雑誌 注文書 (SDご購入者用)

	書名	定価	冊	計
1				
2				
3				
4				
5				

図書目録(要・不要)

合計 ¥

住所

電話

ご注文者
氏名

印

ご注文方法

- 書店遠隔の方は、このはがきでご注文ください。
- 現品と同時に請求書・払込通知書をお送り致しますので、到着後ただちにご送金ください。
- 必ずご注文者名を明記してご捺印ください。
- 発送費は小社が負担いたします。

明日を築く知性と技術

鹿島出版会

〒107・東京都港区赤坂六丁目5番13号
電話03(5561)2551代・振替00160-2-180883

Bruno Taut

Introduces his activities mostly while staying in Japan 1933-36. Features in memory of Taut in 40th year of his death. Architect's Own House Istanbul, Housing on Erich-Weinert Strasse, etc. Taut's Handicraft and Books ¥2,575

Ecole des Beaux-Arts and its Glorious Tradition

Updated: Essays: History and Credo, Thought Backbone/ On the Grand Prix: List of Recipients and their Presentations/ Genealogy of its Ateliers/ Collections: Notre-Dame at Lorette, Opera Theater, Paris, etc. ¥2,575

Details by Maki & Associates

Shows detail at Forum TEPIA, a showcase of high technology using a variety of new materials. The work features studies in surface, point, and line and develops numerous types of detail. ¥6,800

Kim, Swoo Geun

Introduces his 30 projects, mainly in Korea. Masan Cathedral, Korean Overseas Development Corporation Building, Art center of Korean Cultural and Arts Foundation, Seoul Sports Complex, Nam Dae Mun Market Redevelopment Plan, etc. ¥3,090

Architects Own Houses of the World

Introduces famous architects' own houses of the World. Architects: Richard Foster, Frank Gehry, Don Hisaka, Wilhelm Holzbauer, Michael Hopkins, Barton Myers, Christopher Owen, Arthur Erickson, Ulrick Franzen, Paul Gray, etc. ¥4,944

●

住宅

NISSO ゲーテハウス
レジデンスシリーズ

●

日綜産業株式会社



日綜産業株式会社では、ヨーロッパスタイルの軽量鉄骨軸組み二階建て住宅、「NISSOゲーテハウス」にレジデンスシリーズを追加して、新発売した。同社のゲーテハウスは、「耐久性のあるいい住宅・やすらぎの住文化を創造する」をテーマに、自然の材料と匠の技術を加味したヨーロッパの建築文化を研究し、'94年11月に発売を開始した。欧州の有力企業40社と技術・業務提携し、90%以上の部材を輸入し、同社の岩間・石岡工場での日本の住文化に合わせ加工・製造している。ゲーテハウスには、今回発売した、一般および専門住宅用の「レジデンスシリーズ」、コーヒーストップやペンション、ホテルなどの業務用の「モジュールシリーズ」、建設現場などに便利の「バードシリーズ」がある。なかでも、レジデンス・モジュールシリーズの断熱材は従来の2~3倍で断熱性・遮音性に優れている。窓は二層ガラス、湿式工法で手造り、工場での完成率は95%である。また、ボックスユニットで自由な設計が可能で、受注から引き渡しまで約6カ月である。

価格

標準タイプ 388,000円/3.3㎡

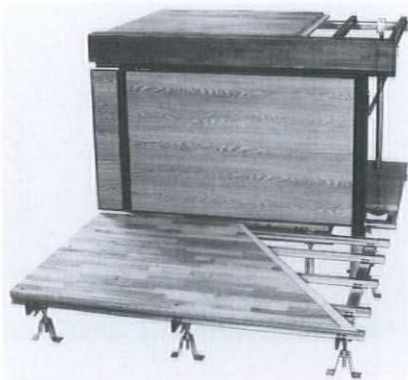
●

体育館用ステージユニット

スリーステージ

●

三洋工業株式会社



三洋工業株式会社では、業界初の框部とフロントパネル型収納部を含めたステージ用トータルユニットを開発し、体育館用ステージユニット、スリーステージを新発売した。

特長

- ①ステージ部は立ち上げコンクリート打設なしでステージ施工が行える。独自のステージ床構造（三重床構造）はアリーナと同じスラブ面から収納部床組みを可能にした為、今までコンクリート立ち上げに掛かっていたコストを低減する。
- ②スリーステージ独自の規格化された框取付け用部材が簡単な設置を可能にした。
- ③ステージ内部には収納スペースが確保できる。ステージの床下を活かした、スリーステージならではの便利な機能。
- ④アリーナとステージ部は支持脚・大引・根太の3つの部材で構成されている。施工は容易に行え、アリーナ・ステージともに同じスラブ上で床組みされることから大幅な工期の短縮が図れる。

●

カーテン

FREE '95~'97

●

東リ株式会社



東リ株式会社では、'95年9月1日よりカーテンの新柄新色174柄264アイテムを新発売する。これらの新柄新色を収録した東リカーテン、「FREE'95~'97」のサンプル帳には、継続商品も合わせて計383柄546アイテムを収録した。市場的には、一般住宅のレジデンシャル市場を中心とし、一部、ホテル、集会場などのコミュニティ市場も意識した構成になっている。価格的には、前回のシリーズ同様㎡当たり2,500円~3,500円の生地が中心になっている。また、色柄は従来よりも全体的に軽快で明るくソフトなイメージになり、特に、メインカラーは売れ筋のブルーが基調となっている。また、イメージ区分は、ベーシック、エレガンス、トラッド、マイルドモダン、ジャパン、メルヘン&カジュアル他。

商品構成

全アイテム数：383柄546アイテム

防炎品：178柄280アイテム

ウォッシュブル：168柄246アイテム

輸入品：ドレープ(プリント)10柄12アイテム
トランスベアレンス4柄5アイテム

日綜産業株式会社 広報室

千葉県千葉市美浜区中瀬1-3 B-12

〒261-01 Tel 043-296-2700

三洋工業株式会社

東京都江東区亀戸6丁目20番7号

〒136 Tel 03-3685-3452

東リ株式会社 営業企画部

兵庫県伊丹市東有岡5番125号

〒664 Tel 06-494-6605

●

テラス

サマンテラス

●

トステム株式会社



トステム㈱では、高級感のあるアクリル製テラスでありながら7万円台（間口1,850mm×出幅885mmの場合）からという低価格設定のサマンテラスを新発売した。

特長

- ①従来のアクリル製屋根のテラスに比べ、約3割安い価格設定である。
- ②屋根の形状は、シンプルな平屋根形状。どんな住宅外観にも調和する。
- ③カラーは、ブロンズ・ホワイト・ブラックの3色。
- ④敷地により、特殊な納まりができる設計。出隅納まり、入隅納まり、屋根を台形にする納まり、出幅違いのテラスを並べる納まりが可能で、敷地を有効活用。
- ⑤柱は、間口方向内側へ150mm、奥行き方向内側へ300mmの移動が可能。軒を出したり、障害物を避けて設置できる。
- ⑥テラスまわりを、波板で前面または三方囲いが可能。
- ⑦バルコニーの屋根としても取付け可能。造り付けのバルコニーにもすっきり納まる。
- ⑧ぬれ縁との組み合わせが可能。床ができることで、テラスを居室の続きとして有効利用できる。
- ⑨物干し竿たけをオプションで用意。

トステム株式会社 広報部
東京都江東区大島2丁目1番1号
〒136 Tel 03-3638-8115

●

内装建材

ホームテリア

●

新日軽株式会社



新日軽㈱では、オリジナル商品として、内装建材、ホームテリアを新発売した。造作材、内装ドア、内装引戸、クローゼット、玄関収納、トイレ収納など豊富な品揃えである。

特長

- ①施工の手間を簡素化した。造作材・室内ドア・室内引戸はスッキリとしたケーシング付きで、片側端部が45°留め加工済みである。面倒な加工を最小限に抑えている。
- ②内装ドアには、別売りで表示錠（緊急解錠機構付）・シリンダー錠を用意している。ハンドルは耐久性に優れたアルミ製のレバーハンドルで、アールラインの美しい意匠である。空錠が標準装備となる。
- ③内装引戸は走行性・耐久性を考慮し、アルミレール付きの鴨居を採用。本体の戸首加工の要らないドブ溝仕様である。
- ④落ちつきのあるオーク色、ダークオーク、ミディアムオーク、ライトオークの3色を用意している。

価格

玄関収納施工例：205,000円（写真タイプ）

内装ドア施工例：69,400円

新日軽株式会社 商品開発本部商品企画課
東京都江東区木場2丁目7番23号
〒135 Tel 03-3820-2159

●

カーテンレール

ニューウッディ 22・28・35

●

トーソー株式会社



トーソー㈱では、「95TOSO」カーテンレールの新製品として、ニューウッディ22・28・35、レガート、ニューバランス他を新発売した。

ニューウッディ

ニューウッディ22・28・35が加わり、木製装飾カーテンレールのベストセラー、ニューウッディの品揃えがより一層充実した。28・35にニューカラー、ナチュラルオーク・チーク・グレーオークの3色が加わった。ニューウッディキャップA・B・Cタイプから選択できる。ニューカラーに合わせたふさかけ2色を追加。また、コーナーブラケット・壁面ブラケットの使用により、コーナー部分のスキ間の光モレを解消できる。28・35にダブルブラケットでダブル付きができるなど便利な部品が揃い、用途に合わせて使用できる。

価格（ニューウッディ28A・Bシングルセット）

2.10m 11,400円 3.10m 17,000円

レガート

装飾性と機能性を兼ね備えた木質調カーテンレールで、車式ランナーなのでカーテンの開閉はとてもスムーズ。

ニューバランス

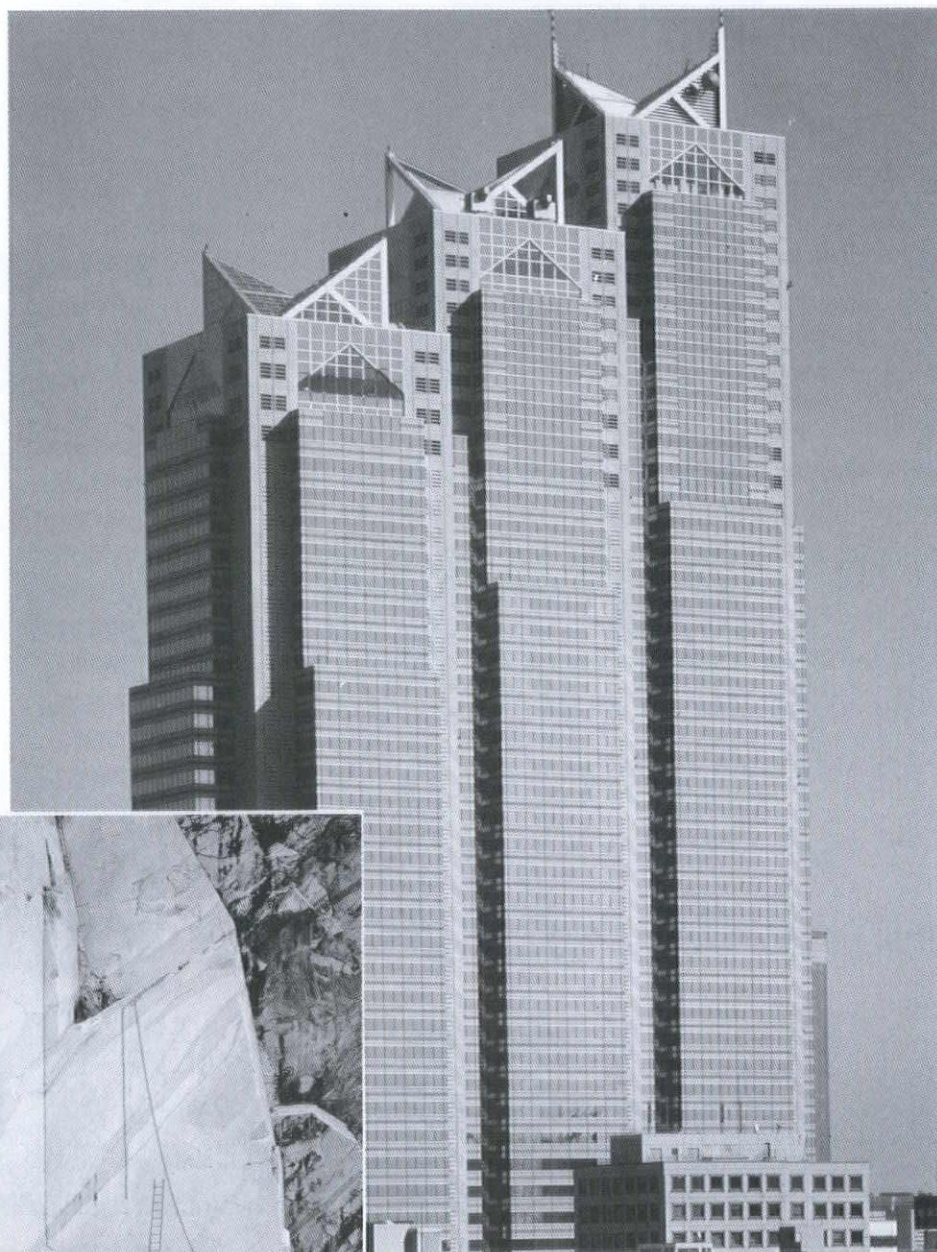
マジックテープで、バランスを簡単に固定でき、同社一般レールとの組み合わせができる。

トーソー株式会社
東京都中央区新川1丁目4番9号
〒104 Tel 03-3552-2961

地球浪漫

The Roman of The Earth

刻み込まれた歴史が
現代に輝く



この大地に生まれ、遙か、永い年月に育まれてきた「石」は、まさに地球そのものといえる素材です。

アンドウマープルは、高い感性と確かな技術力で、その魅力を現代に蘇えらせています。



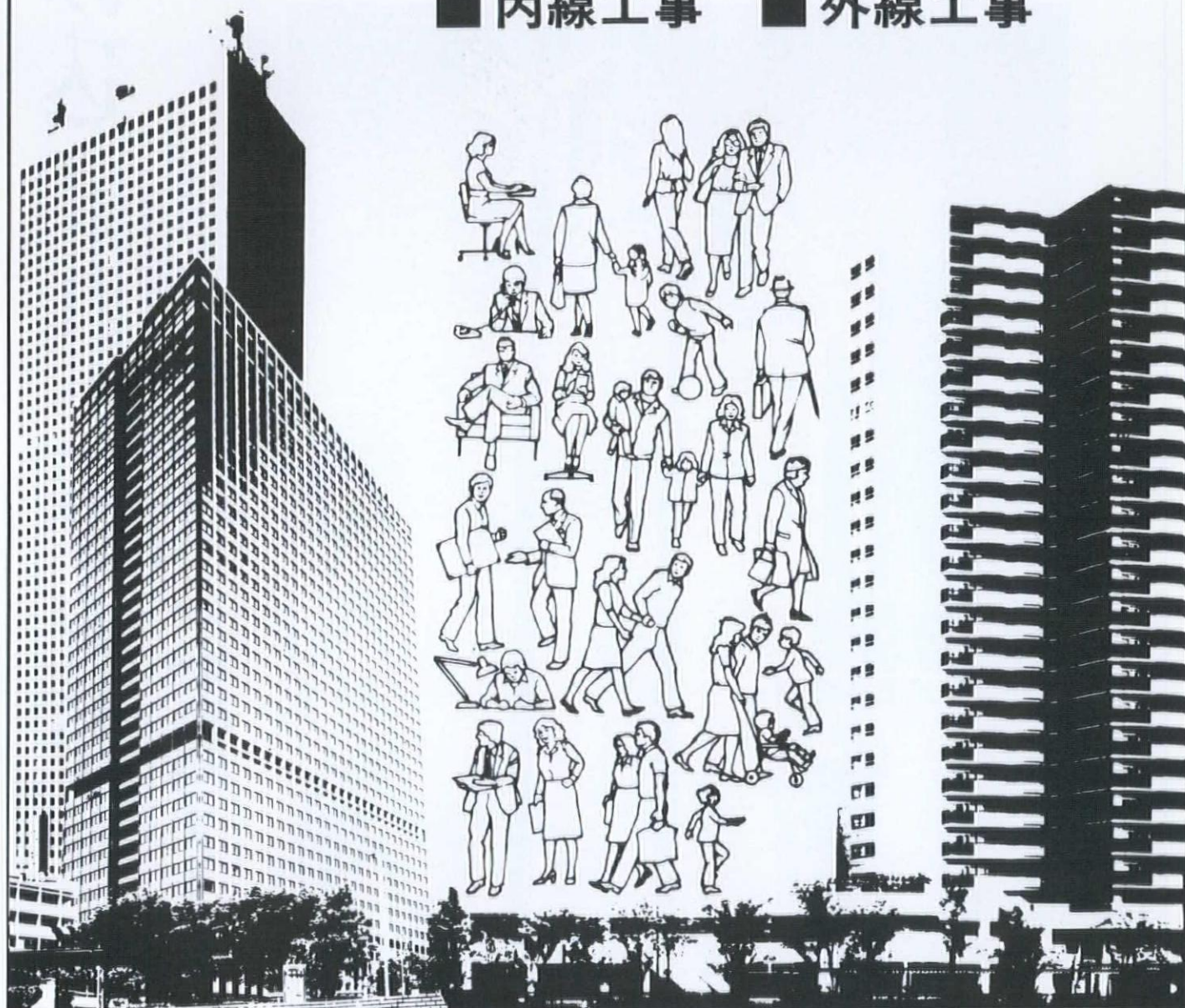
- 各種大理石・花崗岩 直輸入販売
- 国内及海外工事施工

株式会社 アンドウマープル

本社及ショールーム 〒104 東京都中央区八丁堀2-3-2 ☎03-3553-2100(代)・FAX.03-3553-2179
・大垣工場・イタリー事務所

技術と伝統の…

■ 内線工事 ■ 外線工事



 **東光電気工事株式会社**

取締役社長 江 原 景

東京都千代田区西神田 1-4-5 千101 電話／東京 3292-2111

支社所在地／札幌・仙台・千葉・丸の内(東京)・新宿(東京)・横浜・名古屋・大阪・福岡

個性の表現は……

ビル外装の最も大切な要素です。

SCHOK BETON SHOCK

PC部材こそ多様なニーズに
お応えできる理想のものです。

ショックベトン・ジャパンが、新素材を活かして
著名なビルを数多く手掛けて、後世への遺産と
出来たことは限らない誇りに思っています。

株式会社 ショックベトン・ジャパン

本社・工場 埼玉県川越市南台1-10-4 TEL(0492)42-8170 〒350-11
東京事務所 東京都豊島区東池袋1-21-11 オーク池袋ビル TEL(03)5396-9550 〒170
大阪事務所 大阪府中央区谷町3-2-12 谷町JONビル TEL(06) 943-1052 〒540

N 日章工業株式会社

- 本社 〒101 東京都千代田区内神田3-11-7(日立神田別館) ☎03-3254-3000
- 大阪支店 〒541 大阪府中央区高麗橋2-4-6(大正不動産ビル6階) ☎06-201-5704
- 仙台営業所 〒980 仙台市青葉区中央3-2-27(日産生命ビル) ☎0222-21-6989

日立製作所エレベーター・機電特約店
日立製作所OAシステム特約店
日立金属フリーアクセス、ハイペース特約店
旭化成建材パイル・ヘーベル代理店
大和ハウス工業代理店

施設商品

エレベーター・エスカレーター
立体駐車場設備(新明和工業)
バスユニット(日立化成工業)
住宅機器類
集中浄化槽
受水槽
ソーラー
受変電設備

自家発電設備
無停電定電圧定周波電源装置
ビル監視制御装置
冷暖房空調設備
通信設備
ターボ冷凍機・吸収式冷凍機
各種ポンプ設備・換気設備

OAシステム機器

パーソナルコンピューター
ワードプロセッサ
ファクシミリ
オフィスコンピューター

建材商品

AHSパイル
ヘーベル
フリーアクセスフロア

ハイスプリット・ハイペース
鉄骨
大昭和ユニボード

建設商品

クローラクレーン
ショベル
軽量鉄骨プレハブ規格建築物
軽量鉄骨系プレハブ住宅



大規模建物・広域管理統合化B/Aシステム

savic-net 80

山武ハネウエルは、空調・衛生・電気設備から
防災・セキュリティまでの制御・管理を、
高度なビルディング・オートメーションにより統合化。

THE B/A 時代は、統合化へ。

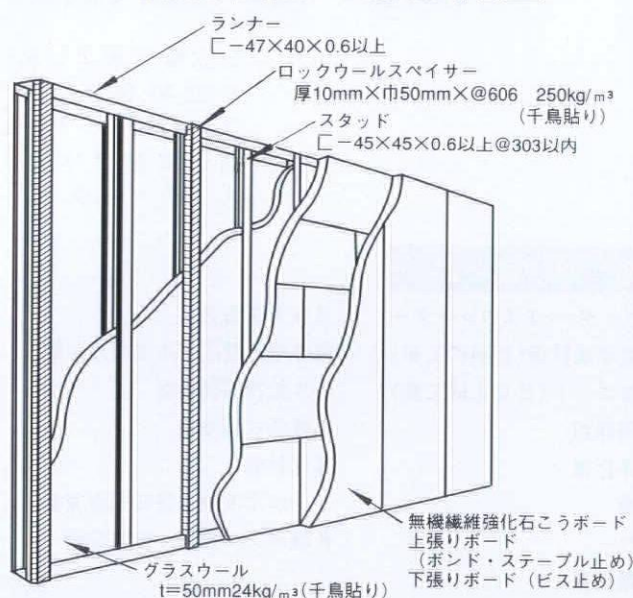
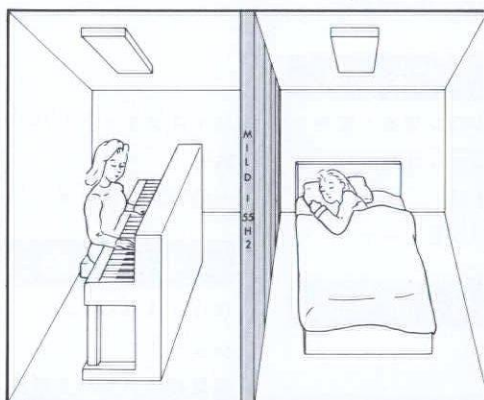
便利で快適なビル環境の創造をはじめ、安全性の向上、
ライフサイクルコストの低減など、オーナーにも
利用者にもさまざまな「創・快・環」をお届けしています。

山武ハネウエル株式会社

ビルシステム事業部 本社/〒150 東京都渋谷区渋谷2-12-19 ☎(03)3486-2344

遮音等級 D-55 耐火構造 2時間 合格！ マンテン®のハイグレード間仕切壁 MILD-55H2

ホテル・共同住宅・オフィス等において
益々要求される高性能化に应运、JIS
規格1号特級仕様の高遮音間仕切壁
「MILD-55H2」を開発。 遮音(個)第234号
耐火 W2285



考 誠意・熱意・創意で生きる
株式会社 マンテン®

本社 〒556 大阪市浪速区日本橋東1-10-6 TEL (06) 644-2151(代) FAX(06) 644-2166
東京 〒136 東京都江東区亀戸2-3-17 TEL (03) 3683-6151(代) FAX(03) 3685-8706
札幌 TEL(011)783-8661(代) FAX(011)783-8669 横浜 TEL(045)451-6245(代) FAX(045)451-6248
名古屋 TEL(052)661-9511(代) FAX(052)654-0048 福岡 TEL(092)611-2180(代) FAX(092)622-2278
高岡 TEL(0766)24-5506(代) FAX(0766)21-3941 台北 TEL(001886)2-562-3574 FAX(001886)2-511-5646

FUJITEC

快適な都市空間の

都市空間の高層化・巨大化に伴い、安全に、快適に、そして効率的に人々の移動を実現するアクセスとして、エレベータ、エスカレータが重要な役割を担っています。



アクセスを考えます。

フジテックは、エレベータ、エスカレータ、動く歩道、そして立体駐車設備の専門メーカーとして、輻輳化する都市空間において、いかにスムーズに移動するかを提案しています。

フジテック株式会社

本社/〒567 大阪府茨木市庄1-28-10 TEL(0726)22-8151代

札幌/(011)281-1070

東北/(022)222-0271

横浜/(045)314-5231

東京/(03)3443-5231代

名古屋/(052)261-6851

大阪/(06)441-8521代

北陸/(0762)61-5108

京都/(075)231-7144

神戸/(078)391-4795

広島/(082)223-6733

四国/(0878)31-0015

福岡/(092)281-0045

人とエネルギーの間に私たちの技術があります。

TOENEK

21世紀をリードする総合設備企業

私たちトーエネックは、先進の総合設備企業として、電気工事・情報通信・冷暖房空調事業の分野を通じて豊かな環境づくりの提案をしております。

株式会社 トーエネック

(旧東海電気工事株式会社)

本店/名古屋市中区栄1-20-31 〒460 ☎052-221-1111

支店/東京・大阪・名古屋・岡崎・静岡・三重・岐阜・長野・飯田

都市アート計画。



ビルの表情を個性ゆたかに彩る、三和のステンレス建材です。どこまで個性を主張できるか。どれだけ都市に美しく調和できるか。それが、これからの建築に求められる大きなテーマです。三和のステンレス建材なら、建物のイメージにあわせてデザインは自由自在。その高級感あふれる質感と、耐蝕性にすぐれた特性を活かし、ビルのフロントはもちろん、インテリアからエクステリアまでを個性ゆたかに彩ります。ビルに、都市に、アート感覚をプラスする、先進のマテリアルです。

STAINLESS CONSTRUCTION MATERIAL

三和シャッター工業株式会社

本社 〒163-04 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル44階 ☎03(3346)3011
関西ビル建材事業部 〒532 大阪市淀川区宮原4-4・50 真和ビル ☎06(396)6811

広告目次

SD誌に広告をお申込みの際は下記広告代理店にご用命ください(五十音順)

●共栄通信社

東京—東京都中央区銀座8-2-1

新田ビル(3572) 3381

FAX(3572) 3590

大阪—大阪市北区西天満3-6-8

笹屋ビル06(362) 6515

FAX06(365) 6052

●建報社

東京—東京都文京区湯島2-30-8

(3818) 1961

FAX03(3818)1968

大阪—大阪市中央区淡路町1-4-9

昭栄ビル06(231) 4548

FAX06(227) 0268

●新建社

東京都中央区八丁堀2-1-10

ハヤシビル(3552) 8247(代)

FAX(3552) 8249

●中外

大阪—大阪市北区浪花町14-25

日本生命天六ビル06(379) 1791

東京—東京都千代田区岩本町2-5-12

神田ポンビアンビル(3863) 6011(代)

名古屋—名古屋市中区錦2-2-13

名古屋センタービル052(221) 7641(代)

ア	旭硝子(株)	195	ホ	ホテルイースト21	A8
	(株)アンドウマープル	A19	マ	松下電器産業(株)	A2
イ	(株)INAX	177		松下電工(株)	216
オ	(株)岡村製作所	184		(株)マンテン	A24
カ	(株)関電工	表2	ミ	三菱バーリントン(株)	A13
	鹿島	A4・A5		(株)三越	222
	軽井沢ホテル鹿島ノ森	A6	ヤ	山武ハネウエル(株)	A24
	川崎電気(株)	210		山田照明(株)	A28
キ	(株)きんでん	A16	ロ	ロンシール工業(株)	180
コ	コクヨ(株)	表3			
	小松ウォール工業(株)	224			
サ	三建設備工業(株)	203			
	三機工業(株)	208			
	三協アルミニウム工業(株)	220			
	(株)サンゲツ	A22			
	三和シャッター工業(株)	A26			
シ	新日軽(株)	202			
	昭和銅機(株)	209			
	新菱冷熱工業(株)	211			
	(株)シヨックベトンジャパン	A23			
ス	住江織物(株)	A10			
セ	セントラル硝子(株)	201			
タ	大興物産(株)	A7			
	(株)田島順三製作所	A9			
	大成温調(株)	A13			
	ダイダン(株)	A15			
	大栄電気(株)	A15			
	立川ブラインド工業(株)	212			
チ	(財)彫刻の森美術館	197・198・199・200			
ト	東陶機器(株)	A1			
	東リ(株)	A3			
	トステム(株)	190			
	東洋熱工業(株)	214			
	東洋シャッター(株)	218			
	東光電気工事(株)	A20			
	(株)トーエネック	A25			
ナ	中立電気(株)	A21			
ニ	日新工業(株)	A11			
	(株)ニチベイ	A14			
	西松建設(株)	183			
	日本板硝子(株)	207			
	日章工業(株)	A23			
ハ	(株)博報堂	189			
ヒ	(株)日立製作所	表4			
	ビーエス(株)	A14			
	日立電線(株)	206			
フ	文化シャッター(株)	A12			
	不二サッシ(株)	196			
	フジテック(株)	A25			

表情多彩



照明は空間づくりの重要なポイント。
人々に、常に気持ちよく空間を利用してもらいたい・・・。
山田照明ではさまざまな条件やニーズを満たすために、
多種多様な照明器具を用意。ベストなあかりで、
ひとつひとつの空間を、個性的・機能的に演出し、
表情多彩な空間創造を力強くバックアップしています。

紀尾井ホール（東京）
設計監理：新日鐵・山下設計設計共同企業体
照明造形デザイン／設計：多田美波研究所

山田照明株式会社 本社／ショールーム 〒101 東京都千代田区外神田 3-16-12 TEL.03-3253-5161 横浜支社／ショールーム 〒220 横浜市西区南幸 2-20-1 TEL.045-311-1731
仙台支社／ショールーム 〒980 仙台市青葉区二日町 11-11 (ANDOBIL) TEL.022-267-1630 大阪支社／ショールーム 〒542 大阪市中央区日本橋 1-21-23 TEL.06-643-3421
福岡支社 〒810 福岡市博多区店屋町 8-30 TEL.092-282-7635 名古屋支社 〒460 名古屋市中区 5-16-14 (新東陽ビル) TEL.052-252-5161 札幌営業所 〒003 札幌市白石区菊水三条 4-2-3 TEL.011-811-2215
北関東営業所 〒370 高崎市緑町 3-14-8 TEL.0273-63-1442 千葉営業所 〒260 千葉市稲毛区緑町 1-25-14 TEL.043-244-2540 静岡営業所 〒422 静岡市福川 3-12-4 (山中ビル) TEL.054-283-9788
広島営業所 〒730 広島市中区十日市町 2-2-34 TEL.082-293-6119 鹿児島営業所 〒890 鹿児島市上之園町 4-14 (漢和ビル) TEL.0992-58-0031 秋田出張所 〒010 秋田市山王 6-8-6 (ナカムラビル) TEL.0188-65-2550
宇都宮出張所 〒380 宇都宮市海通町 818-2-1002 TEL.0286-60-1381 長野出張所 〒380 長野市三輪 2-9-27 TEL.0262-43-8420